

飯 塚 病 院 年 報

Annual Report of ASO IIZUKA HOSPITAL
2 0 2 3

第36号 (令和5年)

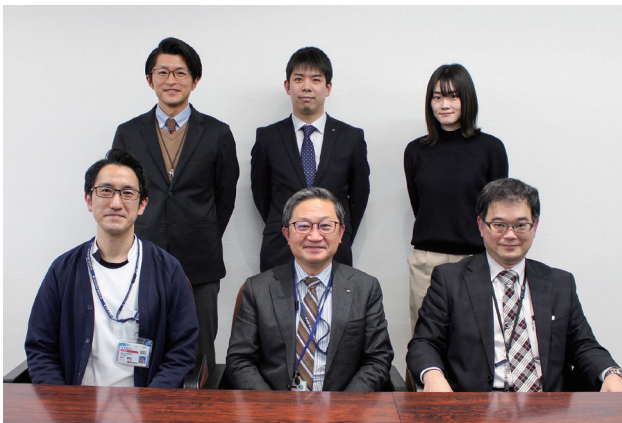
WE DELIVER THE BEST

～まごころ医療、まごころサービス

それが私たちの目標です～



飯塚病院



DX 推進室メンバー



労務管理部会 定例会議（医師の働き方改革）



Rapid Response System 病棟対応の様子



e-nurse の取組み

序

飯塚病院院長 増本陽秀



飯塚病院の2023年の活動を記録した飯塚病院年報第36号をお届けします。

この年も国内外で日本の若者が活躍しました。米大リーグ・エンゼルスの大谷翔平選手は日本選手初の本塁打王となり、さらに2度目のア・リーグMVPに選ばれました。WBCでは「侍ジャパン」が3回目の優勝を果たし、ここでも大谷翔平選手が胴上げ投手となりました。車いすテニス男子シングルスでは、17歳の小田凱人選手が全仏オープンで4大会史上最年少制覇を果たし、続けてウィンブルドンでも大会最年少で優勝しました。将棋界では藤井聡太棋士が史上初の八大タイトル独占を達成しました。また当院からも、中央材料室の香月李央さんが、英国リバプールでの世界バトントワーリング選手権大会に出場し、ツアーバトンの種目で世界10位となりました。

当院では、2024年4月開始の「医師の働き方改革」に備え、「働き方改革の実現」を2023年度事業計画の重点課題とし、「医師の働き方改革推進チーム」を設置して医師の負担軽減と労務管理対策に取り組みました（前頁中段右の写真）。時間外労働の上限規制、連続勤務時間制限、勤務間インターバル規制、宿日直許可基準等に適合する体制を整えるため、全ての職種における働き方改革を通じてタスクシェア、タスクシフトを推進するとともに、DX推進による業務の効率化を目指しました。

その中で、当院情報システム室が支えてきたIT活用をさらに促進するため、新たにDX推進室を設置しました（前頁中段左の写真）。地域医療連携システムや、院内スマートフォンによるチャットツールの開発活用、RPAの構築と活用、およびAIの活用等により、業務の効率化、医療の質と医療安全の向上、病床有効利用と在院日数短縮を図ることが期待されます。

一方、看護補助者の確保は、看護業務のタスクシフト、看護の質と患者サービスの向上、および診療報酬獲得のための重要課題です。当院における必要数の充足困難な状況が続く中、打開策として新たに「e-nurse」制度を導入しました。定年退職前後の看護職員を「プラチナナース」と位置づけ、看護師のキャリアを活かしながら、体力、健康状態、個々の背景や要望に応じて、看護補助者としてやりがいを持って働くことのできる新しい勤務形態です（前頁下段右の写真）。この制度が定着して「e-nurse」の活躍の場が広がり、看護補助者の安定確保が実現することを期待しています。

2014年より院長職を務めて参りました私は、2024年6月末をもって退任いたします。浅学非才の私を見守っていただいた皆様に心から感謝申し上げます、飯塚病院を引き続きご支援くださいますようお願いいたします。

最後に、本誌の編纂にあたり多大な労力を惜しまず、飯塚病院の歩みを記録に残していただいた広報課の皆さんに満腔の謝意を表します。

目 次

〔I〕 院内の動き

2023年 この1年の歩み	1
DX推進室のご紹介	2
医師の働き方改革への取組	3
院内迅速対応システム Rapid Response System の構築	4
e-nurse 制度の導入について ～看護補助者の確保×プラチナナースの活躍～	5
副院長兼医療技術部門長就任にあたって	6
循環器内科部長 兼 心不全ケア科部長就任にあたって	7
泌尿器科部長就任にあたって	8
漢方診療科部長就任にあたって	9
感染症科部長就任にあたって	10

〔II〕 各部門業績

1. 肝臓内科	11
2. 呼吸器病センター呼吸器内科	12
3. 呼吸器病センター呼吸器外科	14
4. 心療内科	15
5. 内分泌・糖尿病内科	16
6. 消化器内科	17
7. 血液内科	19
8. 総合診療科	20
9. 膠原病・リウマチ内科	21
10. 連携医療・緩和ケア科	22
11. 放射線科	24
12. 画像診療科	25
13. 放射線治療科	26
14. リエゾン精神科	27
15. 小児科	29
16. 腎臓内科	30
17. 循環器内科	32
18. 心不全ケア科	34
19. 外科	35
20. 消化管・内視鏡外科	41
21. 乳腺外科	43
22. 小児外科	44
23. 整形外科	45
24. 皮膚科	46
25. 泌尿器科	47
26. 産婦人科	48
27. 眼科	50
28. 耳鼻咽喉科	51

29. 脳神経外科	52
30. 歯科口腔外科	53
31. 心臓血管外科	54
32. 血管外科	55
33. 脳神経内科	56
34. 漢方診療科	57
35. 救急科	58
36. 集中治療科	59
37. 形成外科	60
38. リハビリテーション科	61
39. 麻酔科	62
40. 病理科	64
41. 感染症科	65
42. 予防医学センター	66
43. 看護部門	67
44. 医療技術部門	69
45. 経営管理部門	71

〔III〕 診療統計

1. 退院患者統計	73
2. 科別統計表	74
3. 最近5年間の患者数推移	75
4. 最近5年間の救命救急センター利用状況の推移	75
5. 最近5年間の年間手術件数の推移	75
6. 科別・年齢別・性別 退院患者数	76
7. 地域別・年齢別・性別 退院患者数	78
8. 市町村別診療科別紹介件数	80
9. 病理解剖件数内訳	81
10. 手術に関する施設基準および手術件数	82

〔IV〕 学術業績

1. 発表論文・著書	83
2. 学会発表	94
3. 講演	120

〔V〕 院内研修会・勉強会

1. 院内臨床病理検討会（CPC）記録	141
2. 看護部	142
3. 医療安全研修	145
4. 改善勉強会	146
5. 学会を除く学術研修会・勉強会	147

〔VI〕 委員会活動報告	
業務安全ブロック	
1. 医療ガス安全管理委員会……………	153
2. 放射線安全委員会・特定放射性同位元素防護委員会 ……	154
3. 感染管理委員会……………	155
4. 労働安全衛生委員会……………	157
5. 医師の負担軽減・処遇改善委員会……………	158
物品購入ブロック	
6. 薬事委員会……………	159
7. 資材委員会……………	160
医療の質のモニターブロック	
8. ISO 委員会……………	161
9. TQM 活動推進委員会 ……	162
10. クリニカルパス委員会 ……	163
11. QI 委員会 ……	164
12. 患者経験価値向上委員会 ……	165
医療の安全管理ブロック	
13. 急変対応委員会 ……	166
14. MRM 委員会……………	167
15. 透析機器安全管理委員会 ……	168
16. 病院食サービス委員会 ……	169
情報管理ブロック	
17. 情報システム委員会 ……	170
18. 診療情報管理委員会 ……	171
教育・研修ブロック	
19. 研修管理委員会 ……	172
20. 図書委員会 ……	173
21. クレデンシャル委員会 ……	174
22. 手術室業務改善委員会 ……	175
23. 地域医療支援病院研修委員会 ……	176
倫理ブロック	
24. 倫理委員会 ……	177
25. 臨床研究管理委員会 ……	178
26. 治験審査委員会 ……	179
27. 脳死判定委員会 ……	180
28. 小児虐待防止委員会 ……	181
29. 患者行動制限最小化委員会 ……	182
30. 個人情報保護委員会 ……	183
診療の適正化ブロック	
31. 呼吸管理委員会 ……	184
32. 褥瘡管理委員会 ……	185
33. 栄養管理委員会 ……	186
34. 輸血療法委員会 ……	187
35. 診療報酬適正管理委員会 ……	188
36. 臨床検査適正化委員会 ……	189
37. がん診療連携委員会 ……	190
38. がん集学治療委員会 ……	191
39. 緩和ケア委員会 ……	192
〔VII〕 院内報告	
1. 飯塚病院住民医療協議会活動報告……………	193
2. 飯塚病院地域医療支援病院運営委員会活動報告 ……	194
3. VHJ (Voluntary Hospitals of Japan) 活動報告 ……	195
4. 改善活動報告……………	196
5. ISO9001 品質マネジメントシステム (QMS) 活動報告 ……	198
6. イノベーション活動報告……………	199
7. 地域包括ケア推進本部活動報告……………	201
8. 医学研究推進本部活動報告……………	203
9. 治験推進本部活動報告……………	205
10. 当院における分離菌と薬剤感受性 ……	208
11. 研修スケジュール ……	213
12. 研修医募集の記録 ……	214
13. ファシリティ本部活動報告 ……	216
〔VIII〕 医師部門および主要職員名簿	
1. 医師名簿……………	217
2. 看護師長・主任名簿……………	230
3. 医療技術部門役職者名簿……………	231
4. 経営管理部門等役職者名簿……………	232
5. 主要委員会……………	233
①常設委員会……………	233
②看護部常設委員会……………	234
〔IX〕 飯塚病院概況 他	
1. 飯塚病院組織図……………	235
2. 概要……………	240
3. 各学会の認定状況一覧……………	244
4. 私たちの理念・方針……………	245
編集後記	
※2023年年報に掲載中の組織・役職名等については、 2023年12月31日時点のものです。	

〔 I 〕 院 内 の 動 き

2023年 この1年の歩み

- 1月10日 院内成人式
- 2月 山下洋市外科統括部長 文科省科学研究費採択
- 3月1日 2022年度医師評価・ベスト指導医表彰式
- 3月11日 日本医療マネジメント学会（第21回福岡支部学術集会）飯塚病院開催
- 3月16日 2022年度初期研修修了式
- 3月17日 2022年度専門研修修了式
- 3月23日 看護師特定行為研修第一期生修了式
- 4月3日 麻生グループ入社式
部長就任：西 淳一郎（循環器内科）
部長就任：入江慎一郎（泌尿器科）
- 4月10日 第31回TQM活動キックオフ大会
看護師特定行為研修第二期生開始
- 5月10日 Nurse of the Year 2022表彰式
- 5月22日 整形外科膝専門外来 開始
- 6月1日 麻生グループ社員表彰式
e-nurse 採用開始
- 6月29日 学術奨励賞授賞式
- 7月1日 副院長兼医療技術部門長就任：井本俊之
- 7月12日 第35回住民医療協議会
- 8月7日 外来化学療法室（増床と移転）リニューアル稼働開始
- 8月9日 中央材料室 香月李央 世界バトントワーリング選手権大会10位入賞（～13日）
- 9月11日 RRS（Rapid Response system）全診療科へ向けて運用開始
- 10月1日 部長就任：井上博喜（漢方診療科）
- 10月7日 第31回飯塚病院TQM発表大会
- 10月14日 大規模災害訓練セカンドステージ
- 10月20日 第5回 セル看護推進研究会（～21日）
- 10月21日 大規模災害訓練ファーストステージ
- 10月31日 児童虐待防止へ情報をデジタル化し共有する協定締結（福岡県、飯塚市、飯塚病院、麻生情報システム）
- 11月1日 部長就任：沖中友秀（感染症科）
- 11月9日 西病棟避難訓練
- 11月11日 第32回飯塚病院慰霊祭
- 11月21日 第17回 地域医療支援病院報告会
- 12月1日 第10回 Conference for Health Care 開催（～2日）
- 12月2日 大規模災害訓練サードステージ
- 12月13日 第36回住民医療協議会

DX 推進室のご紹介

経営管理部 企画管理課 DX 推進室 室長 倉 重 貴 彰

2023年4月、医療業界にも押し寄せるDX化の波に応えるべく飯塚病院としてDX推進室設立に伴い室長として着任致しました。

当院ではこれまでも情報システム室を中心として積極的なIT活用・DX化に取り組んでおりますので近年の事例を少し紹介致しますと、2017年からスマホを導入してチャットツールの活用を進めています。また、AIについては、蓄積された診療データやDPCデータを用いた入院患者の退院日予測を病床管理への活用に進めております。2019年には定型業務削減を目指してRPA推進プロジェクトを発足し、現在までに140体を超えるロボットを作成、定型事務作業を約12,500時間/年の削減を実現しており、現在も拡大中です。さらには地域との連携に焦点を向け、医療機関同士での情報共有を効率的に行うために地域医療情報連携システム『こまめる』の開発を行いました。この『こまめる』では、医療機関同士での情報共有を目指した転院調整、転院患者情報共有、医療コンサルトを行うことができるため、AI退院予測日を参考に転院候補者情報をWeb経由で提供し、手上げ方式で転院先医療機関が受け入れるという仕組みになっております。さらに病診連携として開業医と病院専門医のネットワーク構築に向けて、電話連絡の気遣いを解消すべく同システムを使ったチャットシステムを開発し、気軽に医療相談ができる環境の提供も開始しました。

このような状況で当院でのDX対応としては、安全で安定した環境を提供し続けることがミッションであるシステム管理を守りの業務と考え、DX推進室は看護部で一足先に組織化された看護部DX推進担当とともに、攻めの業務としてデジタル技術を活用しながらこれまでの業務スタイルを変えることを提案することをテーマとしてします。

当院が理念として目指しているのはまごころ医療、まごころサービスを提供する『日本一のまごころ病院』です。これを実現するためには、医療従事者としての想いを表現するゆとりと選択肢が必要です。しかし、医療現場を取り巻く環境は非常に厳しく、多様な疾患構成の患者さんに対して多忙な業務の中で必要な情報を臨機応変にかき集めながらやり繰り返す、という状態が続いています。そこでDX推進の視点として、医療スタッフにとっても充実感を実感できる厚みあるチーム医療を実現する環境作りを目指しています。

まずはアナログ管理の解消および情報の重複管理解消をめざし、単純または繰り返す業務や間接業務による負担解消を進めて参ります。

医師の働き方改革への取組

医師の働き方改革推進チーム事務局 松岡英道

飯塚病院は、働き方改革関連法における特定労務管理対象機関として、福岡県より「特定地域医療提供機関（B水準）」及び「技能向上集中研修期間（C-1水準:専攻医）」の指定を受けました。指定期間は2024年4月1日より3年間です。

医師の働き方改革は、医師が健康に働き続けることのできる環境を整備することで、医師の長時間労働に支えられてきた日本の医療の質と安全の確保を図り、持続可能な医療提供体制を維持していくことを目指しています。2024年度からは医師の法定時間外労働の上限が年間960時間（2035年度までは条件付で年間1860時間）に制限され、一定の条件を満たせない場合には、連続勤務時間制限及び勤務間インターバルの確保、代償休息の付与や面接指導などの健康確保措置が必要となります。

筑豊地域の高度急性期医療を担う飯塚病院では、年間の時間外労働時間が960時間を超える医師が多数在籍していました。そこで、2021年1月に増本院長直下で福村特任副院長をチームリーダーとする「医師の働き方改革推進チーム」を発足させ、「医師の負担軽減推進部会」部会リーダーの本村副院長や部会の先生方と共に、医師出退勤記録システムの導入や「医師の時間外業務取扱ガイドライン」の策定等を行いました。これらの活動をもとに、「医師労働時間短縮計画」を策定し、2023年8月に医療機関勤務環境評価センターより、『医師の労働時間短縮に向けた医療機関内の取組に改善の必要があるが、医師労働時間短縮計画案から今後の取組の改善が見込まれる』との評価を受けることができました。

日常のカイゼン活動が根付いている飯塚病院では、チーム発足以前より診療科間及び看護部、医療技術部門、DSやクラーク等によるタスクシフト/シェアの積極的な取組が行われております。加えて、特定行為看護師の院内養成や様々な医療DXにも取り組んでいますが、現状では一部の診療科の医師を、当面の間、年間時間外労働時間が960時間を超える「B水準」とせざるを得ない状況にあります。

病院としての時間外労働時間短縮の取組は今後も継続していくこととなりますが、厚生労働省の「上手な医療のかかり方」キャンペーンで提唱されているように、地域の住民の方々にも自己都合による時間外受診を避けたり、平日の時間内に病状説明を受けたりと従来の行動を変容することを受け入れてもらう必要もあります。

筑豊地域における医療提供体制を維持するためにも、地域の先生方のご理解をお願い申し上げます。

医師の時間外労働時間各水準の詳細（厚生労働省の資料に加筆）

水準	長時間労働が必要な理由	年の上限時間	飯塚病院の対象医師
A水準	(原則)	960時間	医師（B/C-1/C-2対象医師を除く） 初期研修医
B水準	地域医療の確保のため	1860時間	一部診療科の医師
C-1水準	専攻医の研修のため	1860時間	内科、外科、産婦人科プログラムの専攻医
C-2水準	長期間修練が必要な技能の修得のため	1860時間	高度な技能修練を行う6年目以降の医師 (医師個人で技能研修計画を作成)

院内迅速対応システム Rapid Response System の構築

急変対応委員会 RRS ワーキンググループ 吉野俊平

院内迅速対応システム Rapid Response System（以下 RRS）は、入院患者の病状変化を早期にとらえ、適切な対応ができるチームを派遣し、患者を安定化させるためのシステムである。入院患者の院内急変は決してまれなものではない。急変対応委員会が集計するデータベースによると当院では2023年1月1日～12月31日の1年間の入院患者数は20,769名で、死亡総数は934名、そのうちDNARが取得されていないものは76名であった。この76名は予期せぬ死亡の可能性があると見える。またハリーコール（心肺停止で蘇生を要した件数も含む）は65件であった。こうした致死的な有害事象が月5.4～6.3件生じていることとなる。一般的には予期せぬ心停止の6～8時間前にはバイタルサインなどに異変をきたしていることが多いとされており、言い方を変えると悪化から心停止に至るまでに6～8時間の猶予があるとも見える。この間に適切に気づき、対応することで、患者の病状悪化を最小限にとどめ、心停止を防げる可能性がある。これがまさに RRS の目的である。当院では2014年度から RRS 起動基準ならびに専用 PHS 番号を決め、平日日勤帯で診療科および対応部署を限定した体制から開始した。しかし起動件数は増えず、RRS が定着していたとは言えなかった。2022年度からは急変対応委員会のもと RRS ワーキンググループが発足し、運用体制の構築を進め、院内急変フローと RRS 起動基準を定め、医療安全ハンドブックへの掲載など啓蒙に努めてきた。2024年2月1日からは24時間365日での運用拡大を予定している。先のハリーコールの解析では8割弱が夜間休日帯であった。RRSは2023年9月から45件稼働し、うち重症度の高い13件は一般病床から HCU および ICU への移動だった。稼働前後でハリーコールの件数の減少はなかったが、RRS が普及し全病棟、24時間365日運用拡大することでハリーコール並びに予期せぬ CPA の減少が期待できる。

e-nurse 制度の導入について

～看護補助者の確保×プラチナナースの活躍～

看護管理師長 久保佳子

看護部は、2023年度重点課題として看護補助者との協働推進に取り組んできました。医療ニーズが多様化・複雑化する中、看護職員が専門性を発揮し、安全で質の高い看護を提供するには、看護チームにおいて看護職と看護補助者がそれぞれの役割を果たし、効果的・効率的に協働できる体制整備が必要です。現在、国を挙げて進められている「タスク・シフト/シェア」においても看護補助者との協働は重要性を増しています。

看護補助者数は、2013年の24万人をピークに2020年には19万人まで減少しています(厚生労働省「医療施設動態調査」2008～2016年、「医療施設静態調査」2017～2020)。就業年齢層は50歳代が最も多く、現場ではその確保が困難な状況が続いています。一方、60歳以上の看護職の就業者数は年々増加しており、今や現役看護職員の9人に1人を占めています。定年退職前後の就業している看護職員(以下、プラチナナース)が自己のキャリアを活かし、体力・健康状態、経済的ニーズに応じた働き方を選択できるような職場環境の整備も求められています。

そこで、看護部では看護補助業務を行うプラチナナースを新たな職種に位置づけ、その名称を「e-nurse」としました。このことによって看護の質の向上及びプラチナナースの活躍促進にも貢献できると考えました。「e-nurse(いいナース)」は、次の3つの頭文字を用いて考えたものです。
excellent：非常に優れた、優秀な、すばらしい、秀でた、卓越した／**experience**：経験、体験
／**education**：教育。業務内容は、食事や清潔、排泄介助等の直接ケア、ベッド作成や物品管理、環境整備等の周辺業務といった看護補助業務です。しかし看護補助者が行う業務と違って、患者さんの状態を含め、それぞれの患者さんに合った手順や注意点を看護の視点で判断しながらケアを実施できることが最大のメリットです。

2023年3月、1人目のe-nurseが誕生し、7名が4つの病棟で活躍しています(2024年3月現在)。勤務形態や配置は本人のキャリアやニーズを尊重して対応しています。e-nurseからは「業務に関して精神的な負担は少なくなった上に患者さんに直接接することができ、とてもやりがいを感じています。」「エイド(ナースエイド)と看護師両方の業務が分かるので、それぞれの要望を聴きながら自分のできることをやっていきたい。」といった声が聞かれています。

e-nurse制度は、「看護補助者の確保」×「プラチナナースの活躍促進」という目的で導入されましたが、看護師や看護補助者と協働し、看護の質の向上に大きく貢献していることを実感しています。今後はe-nurseの方々に仲間が増え、よりいっそう活躍できることを期待しています。

副院長兼医療技術部門長就任にあたって

副院長 兼 医療技術部門長 井 本 俊 之

この度、2023年7月1日付で金澤康範副院長の後任として、副院長兼医療技術部門長を拝命いたしました。これまで、私は所属していたリハビリテーション部や他部署の方々に支えられ、多くの皆様と交流することができ、成長させて頂いたことに深く感謝しております。

私は1988年4月、飯塚病院のリハビリテーション部に理学療法士として配属され、その頃は10名程度の少ないスタッフで業務を行っていました。その後、患者さんのニーズに合わせて、患者経験価値を高めるため、365日急性期リハビリテーションの提供を目指し、段階的にスタッフを増員し、2023年には約150名体制となりました。私自身、2008年に副技師長、2014年には技師長となり管理業務の道に進み、人材育成の整備・働きやすい環境整備のため、新人から指導者に至るまでの研修やRPA（Robotic Process Automation）の導入、改善活動などの取り組みを行い、急性期リハビリテーション拡大の一途を経験させて頂きました。

さて、医療技術部門は、薬剤部・中央放射線部・中央検査部・リハビリテーション部・栄養部・臨床工学部・医療福祉室・歯科衛生室・臨床心理室・救急救命室の10部署で構成され、総勢600名以上のスタッフが在籍しています。2020年に新型コロナウイルス感染症の感染拡大により医療現場は大混乱を来し、私たち医療技術部門は、未知のウイルスへの対応に苦慮しながら診療支援を行ってきました。また、この期間は患者さんの受診控えにより、病気の早期発見のための検査の遅延にも繋がりました。2023年5月に5類感染症へと移行し日常生活は徐々に落ち着きを取り戻してきましたが、医療現場ではまだまだ感染症の再拡大の不安と闘いながら、最適な医療を提供する必要があります。さらに、人口減少のあおりを受けた労働人口の減少、医師の働き方改革など多くの課題に直面しており、医療現場で医療技術部門の果たす役割は益々大きくなっています。医療技術部門内でも医療DXを積極的に推し進め、スタッフの働きやすい環境を整備し、広く学び成長できる組織を構成し、やりがいを感じ多職種の業務を理解し、質の高いチーム医療の提供のため効果的で効率性を高めたタスクシフトを実現していきたいと考えています。

今後もさらに厳しさを増す医療界において、選ばれる高度急性期・急性期病院を目指し、地域貢献の責務を果たせるように、各部門の所属長と協力しながら医療技術部門の進化に尽力いたす所存です。皆様方には、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

循環器内科部長 兼 心不全ケア科部長就任にあたって

循環器内科部長 兼 心不全ケア科部長 西 淳一郎

2023年度より循環器内科に着任致しました西 淳一郎です。

2000年に九州大学を卒業し、これまで、九州大学病院循環器内科および救命救急センターで勤務したのち、福岡県済生会二日市病院や聖マリア病院といった福岡県南部地域において循環器診療・救急医療に携わって参りました。

今回、広域医療圏である筑豊地域の最後の砦である飯塚病院へ赴任させて頂くこととなり重責を感じております。

筑豊地域の基幹病院として、広大な医療圏から、毎年200例前後の緊急カテーテル治療を要する急性心筋梗塞症の症例が搬送され、また当院を頼りに数多くの緊急度や重症度の高い症例も日々搬送されてきますので、高度急性期病院としての役割を24時間365日途切れなく果たすべく日夜カテーテル治療を行っています。

また急性期循環器救急疾患以外にも、既存のお薬では効果の乏しかった心臓病・血管病に対する最新の薬物治療(*1)や、最新の医療機器を搭載した血管内カテーテル治療器具を使用して、冠動脈疾患や下肢動脈疾患および心臓弁膜症への治療(*2)など、最先端の医療を提供しています(*1 心アミロイドーシスに対するタファミジス初回導入認定施設など, *2 僧帽弁閉鎖不全症に対する経皮的僧帽弁接合不全修復術 MitraClip 認定施設など)

近年は、心不全パンデミックとも呼ばれ増加の一途をたどる心不全疾患に対応すべく、併設する「心不全ケア科」が主体となり多職種チーム医療を展開しています。なかでもトータルケアを要する重症末期心不全においては、同科での基礎的心不全緩和ケアの導入から、連携する「連携医療・緩和ケア科」による専門的緩和ケアへのシームレスな移行を通じて、より充実した全人的医療の提供を行っています。

当院を頼りにお越しになる難病や重症の心血管病を患った患者さんに対して、最新の医療のみならず、病の苦しみの中、少しでも希望にかなう生き方を手にして頂けるテーラーメイドの治療選択肢をご提供できるよう、患者さんに寄り添った視点で常に考えていくよう努力していきますので、どうぞよろしく申し上げます。

泌尿器科部長就任にあたって

泌尿器科部長 入 江 慎一郎

2023年4月に泌尿器科部長を拝命した入江慎一郎です。

1994年に福岡大学医学部卒業後、福岡大学筑紫病院泌尿器科に入局し、泌尿器科医としての研鑽を積んできました。2003年から福岡大学医学部泌尿器科学教室（現腎泌尿器外科学講座）勤務となり、泌尿器悪性腫瘍に対する治療を中心に診療を行って参りました。この間、前立腺癌に対する腹腔鏡手術導入、ロボット支援手術の習得などスキルアップを図ることができました。2021年4月に診療部長として当院に着任後、泌尿器悪性腫瘍（前立腺癌、腎細胞癌）に対する低侵襲治療の導入に注力してきました。2021年5月に開始したロボット支援手術は、前立腺癌と腎細胞癌に対する標準治療として日常的に行うことが可能となりました。

近年、泌尿器悪性腫瘍に対する治療薬は新しい薬剤が次々と上市され、その使用法や副作用対策の習熟は必須のスキルとなっています。当院の泌尿器科医師全員が安全に標準治療を提供できる体制構築を目指したいと考えています。また2008年より皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程の講師を担当してきた経験を生かし、外来・病棟の排泄ケアや尿路カテーテル管理に関する教育・指導にも注力いたします。

2021年に飯塚病院へ着任後、当病院の筑豊地域における役割がとて大きなものであることを実感しています。泌尿器科疾患に対する標準治療はもちろんのこと、先進的な治療にも対応できる体制を構築すべく日々努力したいと思います。

漢方診療科部長就任にあたって

漢方診療科部長 井上博喜

2023年10月1日付で飯塚病院漢方診療科部長を拝命いたしました井上博喜と申します。私は宗像市の出身で、鹿児島県の私立ラ・サール高等学校を卒業しました。2001年に鹿児島大学医学部を卒業後、富山医科薬科大学和漢診療部(現 富山大学和漢診療科)に入局しました。静岡県の沼津市立病院と茨城県の鹿島労災病院で計4年間の内科研修を行った後は、富山大学に戻り漢方医として研鑽を積み、2013年から飯塚病院漢方診療科に勤務しております。

飯塚病院漢方診療科は、1992年に開設され今年で32年目を迎えました。当科は漢方エキス製剤だけでなく煎じ薬も用いて、外来から入院まで診ている日本でも稀な診療部門です。これまでに経験した漢方の有効性や有用性を全国に発信し、医学部、薬学部、看護学部などで教育、実習を担当するとともに、研修医や他科の医師への教育も行っています。また多くの漢方専門医、指導医を育成し全国各地に送り出しています。今後はこの経験を他科連携においてさらに活かして、患者さんの治療促進、QOL向上のお役に立ちたいと考えています。

しかし漢方治療がどのような時に適応になるのか分からない、と思う方もいらっしゃるでしょう。

西洋医学はどちらかというと分析的で「余分なものを取り去る」医療と感じられる一方、漢方医学は病的状態の人のバランスを整えて健康な方にシフトさせたり、自然治癒力や気力など「不足するものを補ったり」する医療と考えています。また心の問題と身体の問題を分けて考えず、心身一如つまり全人的な医療を体現していると思います。そのため漢方治療の適応は、①原因・病態が不明な場合、②原因が明らかでも治療が確立していない場合、③標準的な治療で効果が不十分な場合、④副作用などで標準的な治療が困難な場合、⑤冷え性・虚弱など自然治癒力が低下している場合などが挙げられると思います。しかし、あまり難しく考えずに、冷え、倦怠感、食欲不振、加齢に伴う症状、起立性調節障害、COVID-19罹患後症状、月経痛、更年期障害、腰痛、関節痛、神経痛、頭痛など検査で異常がなくても症状がある方をご紹介します。

今後5人→3人と当科定員の削減に伴い、勤務する医師の負担はいつそう増加すると思いますが、地域の先生方や院内の先生方のご協力を得ながら、なんとか役目を果たしていく所存です。ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

感染症科部長就任にあたって

感染症科部長 沖 中 友 秀

2023年11月1日より、飯塚病院感染症科部長（代行）に就任しました沖中友秀（おきなか ともひで）と申します。この貴重な機会を賜り、心から感謝の意を表します。鹿児島県薩摩川内市で育ち、2015年に熊本大学医学部を卒業して以来、医療の道を歩んで参りました。私のキャリアは、地元鹿児島での研修から始まり、佐賀大学医学部附属病院での感染症専門研修を経て、2021年4月より飯塚病院感染症科の一員として勤務しています。

飯塚病院感染症科は2019年4月の新設以来、感染症コンサルテーション、血液培養陽性患者のフォローアップ、抗菌薬適正使用支援などに取り組んできました。また、外来診療では、ワクチン・トラベル外来や抗酸菌、HIV診療を行っています。特に新型コロナウイルス感染症が流行した2020年以降は、院内の診療・感染対策に注力し、筑豊地域を含む県内の医療機関や介護・福祉施設への支援も積極的に行いました。

前任の野先生が築き上げた基盤を受け継ぎ、抗菌薬の適正使用を推進し、薬剤耐性菌の制御に取り組んでいきます。抗菌薬の効果が減少することは、治療可能だった感染症が重篤化し、時に命に関わるリスクを高めることを意味します。安全な手術を提供するためにも、抗菌薬の有効性の維持は不可欠です。なかなか目に見えにくい成果かもしれませんが、耐性菌を減らし、患者さん、そして我々医療者にとっての脅威を減らすため、抗菌薬適正使用に是非ご協力ください。

また、我々の部署では、感染症診療における包括的な支援を提供しています。これには感染臓器の特定、適切な抗菌薬選択、そして治療期間の決定などが含まれます。患者さんの状況に合わせた治療計画を立て、効果的な治療成果を目指しますので、何か感染症診療でお困りの際は、お気軽にご連絡をいただくと幸いです。

現在、我々の部署は人員不足という課題に直面していますが、感染管理認定看護師、専従薬剤師、微生物検査技師と協力して診療にあたっており、より効果的な業務運営の実現にも取り組んでいます。協力的な姿勢で部署を率い、チーム一人ひとりの専門知識と経験を最大限に活用し、共に成長していきたいと考えています。

最後に、感染症科の一員として、そして部署を代表する部長（代行）として、皆さまと共に歩んでいけることを心から誇りに思います。まだまだ未熟者ですが、今後ともご指導・ご支援の程どうぞよろしく願い申し上げます。

〔Ⅱ〕各 部 門 業 績

1. 肝臓内科

肝臓内科部長 本村健太

2023年は、2022年と同様に、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた1年となりました。外来では再来の診療は維持できていましたが、紹介受診の制限や入院を制限した期間の影響があり年間の入院患者数は減少したままでした。そのような中で、肝細胞癌の治療のための入院人数自体には大きな変化はありませんでした。

新しい放射線治療装置であるサイバーナイフ（呼吸性移動がある肝臓の中にある腫瘍を追尾しながら精密照射する放射線治療機）による肝細胞癌治療が可能になりました。飯塚病院肝臓内科では、局所療法が適応である限局性の肝細胞癌に対して、従来からCTが撮影できるIVR-CT室で経皮的ラジオ波焼灼療法を施行し確実に治療するようにしていますが、腫瘍のサイズや存在部位、あるいは患者さんの年齢などの全身状態によっては、この方法でも治療困難な場合があります。そのような場合にサイバーナイフによる治療は極めて有効です。

また、進行肝細胞癌に対する新しい一次治療薬としてデュルバルマブ・トレメリムマブ併用療法が登場し、標準治療であるアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法と異なる選択肢ができました。日々のカンファレンスで意見交換を行いつつ、患者さんの状況に応じて最適の治療法を提供できるようにしています。

1) 疾患別内訳（重複あり）

病名	件数	男	女	平均年齢
肝細胞癌	299	231	68	74.1
肝硬変	306	211	95	70.8
アルコール性肝障害	15	10	5	60.0
胆管癌	42	28	14	76.5
胆嚢癌	25	10	15	74.0
膵臓癌	1	1		68.0
胆管細胞癌（肝内胆管癌）	37	19	18	77.3
十二指腸乳頭部癌	6	3	3	66.0
急性胆嚢炎・胆管炎	112	74	38	72.6
肝膿瘍	11	9	2	70.5
消化管出血	8	6	2	69.4

2) 検査・治療件数

処置	患者数
経皮的ラジオ波焼灼療法	78
肝動注塞栓術	77
進行肝癌に対する全身薬物療法新規導入	57
インターフェロンフリー治療新規導入	58
PTGBD、PTCD	30
腹水濃縮再静注法（CART）	26
ERCP・IDUS・胆道内視鏡	50
放射線治療	34

3) 死亡例内訳

死因	患者数
原発性肝癌 （肝細胞癌 17） （肝内胆管癌 2）	19
肝硬変	13
その他	8
計	40

その他の内訳：肺炎（2）、急性肝不全非昏睡型、サルコイドーシス、誤嚥、肺高血圧症、COVID-19、重症アルコール性肝炎

総退院患者数	691 人
男	449 人
女	242 人
緊急入院患者数 （内救急車数）	247 人 109 人
予約入院	444 人
平均在科日数	14.3 日
平均年齢	71.8 歳

2. 呼吸器病センター 呼吸器内科

呼吸器内科部長 飛野和則

2023年は、14名のスタッフと4名の専攻医で診療にあたりました。入院を要した疾患で最も多かったものは2022年と変わらず肺癌で、2番目は感染症、そして3番目が間質性肺疾患でした。

肺癌については、今年度も新薬や新たな治療レジメンが使用可能となりました。特に周術期(術前、術後)の治療レジメンに大きな進歩があり、我々も速やかに導入しております。治療方針の決定は年々難しくなっており、呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科・呼吸器外科・呼吸器腫瘍外科・放射線治療科・画像診療科とともに週に2回カンファレンスを行い、個々の患者さんにとって最適な方針を協議しております。

間質性肺疾患については、新薬の治験を行いました。福岡県内でも数施設しか行われていない治験であり、来年度はさらにもう一つの新薬の治験施設として選定されました。筑豊地区の患者さんに日本でもいち早く新薬をお届けできることが非常に嬉しく、皆様のご協力のおかげと感謝しております。

喘息については慢性呼吸器疾患看護認定看護師とともに生物学的製剤導入を積極的に進めております。現在5種類の生物学的製剤があり、いずれも当科で使用可能となっております。自己注射を指導し3か月の長期処方とすることで患者さんの医療費負担を軽減することもできますので、管理に難渋されている患者さんがいらっしゃいましたら、いつでもご紹介ください。

これからも我々は知識と技術のアップデートを日々行い、最新の診療を提供できるよう努力してまいり所存です。学会発表、論文発表のアクティビティも保っており、2023年も当科のメンバーがかかわった英語論文を8本publishすることができました。また、2024年は「筑豊呼吸器RENKEIの会」を再開いたします。是非現地でお会いできましたら幸いです。

今後もこれらの活動を通じ、診療の質の向上、地域医療の発展、飯塚発のエビデンス構築につなげてまいります。

1) 入院患者疾患別内訳 (2023年)

疾患	延べ症例数	疾患	延べ症例数
総数	1,727	間質性肺疾患	213
腫瘍性疾患 (内訳)	358	(内訳) 特発性・膠原病関連・薬剤性	202
		放射線肺炎	0
		その他	11
		肺癌	340
		転移性肺腫瘍	2
胸腺悪性腫瘍	14	気道疾患 (内訳)	185
胸膜中皮腫	20		
感染症 (内訳)	288	喘息	79
		COPD	88
		気管支拡張症	18
		気胸	44
		胸水	59
		喀血・血痰	38
		睡眠時無呼吸	23
COVID-19	6	その他	519
その他の感染症	50		

内視鏡検査（気管支鏡、胸腔鏡）実績表				
	2020年	2021年	2022年	2023年
総件数	334	366	368	456
観察、痰吸引、気管洗浄	321	350	351	433
直視下生検	17	7	17	25
末梢擦過及び生検	219	183	142	157
BAL	46	53	81	105
胸腔鏡	9	40	10	15
EBUS-TBNA	31	24	40	59
EBUS-GS	45	53	58	93
EWS 充鎮	2	17	3	5
マイクロ波凝固術	0	0	0	0
サーモプラスティ	0	0	0	0
クライオバイオプシー	24	36	51	55
バルーン拡張術/ ステント留置	1	0	0	0
悪性腫瘍に対する 気管支鏡での診断率	85.6% (185/216)	87.8% (195/222)	92.0% (207/225)	89.0% (242/272)

3. 呼吸器病センター 呼吸器外科

呼吸器外科部長 安田 学

「呼吸器外科この一年」

2023年は安田 学、篠原伸二および呼吸器腫瘍外科の近石泰弘の3名のスタッフで診療を開始しました。産業医科大学外科専門研修プログラム武 伸行先生が3月に退職（北九州総合病院へ）、また4月から9月まで藤田康博先生（中部ろうさい病院より、産業医科大学病院へ）、10月から田中完治先生（産業医科大学病院より）、さらに九州大学外科専門研修プログラム 南 祐先生（2月）、飯塚病院外科専門研修プログラム 中江信明先生（5月）が加わり診療を行いました。2023年の外来新患総数は313例（過去最多）、入院患者総数は297例、手術数は307例（過去最多）、うちロボット支援手術86例、肺癌手術159例でした。研究業績は学会・研究会発表11題でした。

本年は新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う制約から緩和への1年でしたが、呼吸器内科先生方をはじめ各科先生方や各部署の皆さんに支えて頂き診療を行うことができました。皆さん有り難うございました。2024年も手術患者さん全員が元気で退院できるようにスタッフ一同頑張っていきたいと思っております。

手術数（2023年1-12月）

疾患名		術式（カッコ内は胸腔鏡手術件数）	
原発性肺癌	159	肺部分切除術	31 (29)
		肺区域切除術	26 (25)
		肺葉切除術（二葉切除も含む）	92 (83)
		気管支形成を伴う肺葉切除	3 (0)
		肺全摘術	0
		審査開胸など	7 (6)
転移性肺腫瘍	17		
縦隔腫瘍	26		
気胸	26		
膿胸	30		
その他	49		
総数	307		

ロボット支援手術件数（2023年1-12月）

疾患名		術式	
原発性肺癌	65	肺区域切除術	13
		肺葉切除術（二葉切除も含む）	52
転移性肺腫瘍	1	肺区域切除術	1
		肺葉切除術（二葉切除も含む）	0
縦隔腫瘍	20	腫瘍摘出	18
		拡大胸腺摘出	2
総数	86		

4. 心療内科

心療内科部長 木附 康

2023年も常勤医は1名体制のままでしたが、橋口医師には非常勤医師として引き続き週2回の外来をご担当いただき、大学医局から須藤教授と吉原医師（中途より乙成医師）にも引き続き月1回ずつ来ていただきました。新患数は、2022年が162名でしたが、2023年は178名と増加しました。新型コロナウイルス感染症に伴う診療制限がなかったためと思われます。疾患（第一病名のみ）の内訳は、狭義の心身症の割合が13%とここ数年は低めで推移しています。心身症であっても有効な薬が開発され、専門科において各々心身症を診る傾向があるためと思われます。うつ病・うつ状態の割合が38%とここ数年は高めで推移しています。不安に伴う疾患の割合は11%と、2021年の20%をピークに2022年の15%からさらに減少しています。新型コロナウイルス感染症収束によるものと思われます。今後も引き続きチーム医療・最適医療を推進し、診療の質の向上に努めたいと思います。

外来新患内訳 (2023年1月～2023年12月)

病 名	計	男性	女性
心身症	24	5	19
循環器心身症	0	0	0
呼吸器心身症	3	0	3
消化器心身症	3	1	2
内分泌系心身症	0	0	0
その他心身症	18	4	14
自律神経失調症	9	3	6
摂食障害	2	0	2
頭痛	3	0	3
その他	4	1	3
うつ病・うつ状態	67	25	42
不安に伴う疾患	19	1	18
パニック障害	2	0	2
不安障害	15	1	14
社交不安障害	1	0	1
強迫性障害	1	0	1
疼痛性障害	1	1	0
不眠症	8	6	2
その他	59	14	45
更年期症候群	1	0	1
適応障害	16	2	14
身体表現性障害	12	2	10
その他の精神疾患	25	9	16
その他の身体疾患	5	1	4
総計	178	52	126

5. 内分泌・糖尿病内科

内分泌・糖尿病内科部長 井上智彰

2023年は、2022年度に引き続き常勤医師5名、非常勤医師1名の6人体制で糖尿病及び内分泌疾患の診療をあたりました。

新規糖尿病治療薬である持続性GIP/GLP-1受容体作動薬が登場し、非常に高い体重減少効果作用を持ち、肥満を合併する2型糖尿病患者において有効な治療選択の一手になると期待されております。一方で、GLP-1受容体作動薬のダイエット目的の適用外処方が社会問題となっており、供給不足から糖尿病患者への治療にも影響を与えております。当科ではGLP-1受容体作動薬の適正使用に心がけております。

今後も医師、看護師、管理栄養士、薬剤師によるチーム医療を充実させ、総合病院の特性を活かした他科との連携を継続し、筑豊の地域医療に貢献してまいりたいと思っております。

入院患者疾患別内訳（2023年）

病名	総計	急患	性別		年齢 (平均値)	在科日数 (平均値)
			男	女		
糖尿病	241	23	153	88	65.7	10.4
2型糖尿病	203	12	130	73	67.3	10.4
1型糖尿病	30	7	16	14	54.8	9.7
膵性糖尿病	7	4	6	1	64.4	11.0
その他の糖尿病	1	0	1	0	67.0	13.0
内分泌疾患	44	0	20	24	58.4	5.5
原発性アルドステロン症	6	0	3	3	52.1	4.3
褐色細胞腫	2	0	1	1	57.5	3.0
クッシング症候群	2	0	0	2	53.5	4.5
副腎不全	3	0	2	1	52.7	4.0
副腎腫瘍	1	0	0	1	59.0	5.0
下垂体腺腫	3	0	1	2	37.0	9.3
下垂体機能低下症	7	0	4	3	55.4	5.9
中枢性尿崩症	1	0	1	0	22.0	11.0
クッシング病	1	0	0	1	55.0	5.0
TSH産生腫瘍	1	0	0	1	87.0	4.0
バセドウ病	3	0	2	1	67.0	7.7
甲状腺腫瘍	1	0	1	0	61.0	5.0
副甲状腺機能亢進症	13	0	5	8	68.6	5.0
その他	19	12	11	8	63.4	5.5
低ナトリウム血症	2	1	0	2	66.5	9.0
高カルシウム血症	2	0	1	1	65.5	4.5
低カルシウム血症	1	1	1	0	32.0	5.0
その他	14	10	9	5	64.9	5.2
総計	304	35	184	120	64.5	9.3

6. 消化器内科

消化器内科部長 久保川 賢

2019年より断続的に続いていたコロナ禍の状況もようやく落ち着きを取り戻しましたが、外来・病棟・内視鏡センターいずれにおいても、引き続き感染対策を取りながら、診療を行ってまいりました。

感染対策などの影響で、内視鏡検査時には待ち時間が発生することも多々あり、ご迷惑をおかけしておりますが、より安全で確実な検査のためということをご了承いただければ幸いです。

早期消化管癌に対する内視鏡手術（切開剥離術：ESD）、高度な手技を要する胆膵内視鏡治療、専門医による静脈瘤治療といった各種内視鏡治療に加え、近年増加傾向にある潰瘍性大腸炎やクローン病といった炎症性腸疾患の診療では、新規治験にも参加しながら、日々診療を行っています。

引き続き安全でより充実した消化器診療を患者さんに提供できるよう消化器内科・内視鏡センターのスタッフ全員で尽力してまいります。

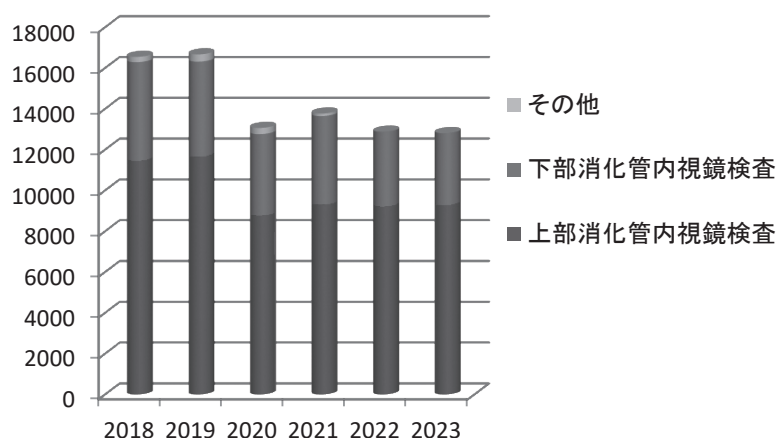
入院患者疾患別内訳（2023年）

病名	計	病名	計
悪性腫瘍	457	良性腫瘍（ポリープ含む）	433
肝・胆・膵悪性腫瘍	216	大腸良性腫瘍	398
大腸悪性腫瘍	106	胃良性腫瘍	20
胃悪性腫瘍	91	小腸良性腫瘍	10
食道悪性腫瘍	24	その他の部位	5
悪性リンパ腫	12	その他	506
その他の部位	5	胆嚢・胆管結石	199
小腸悪性腫瘍	3	腸の憩室性疾患	85
静脈瘤	61	胆嚢・胆管炎	65
食道静脈瘤	42	その他	35
胃静脈瘤	17	膵炎	29
その他	2	腸のその他の疾患	27
腸炎	37	毛細血管拡張	16
潰瘍性大腸炎	19	消化器系その他の疾患	12
クローン病	11	胃・十二指腸その他の疾患	11
感染性腸炎	7	貧血	10
潰瘍	70	炎症性肝疾患	4
胃潰瘍	40	肝・胆・膵その他の疾患	4
十二指腸潰瘍	17	逆流性食道炎	3
腸のその他の疾患	10	痔核	3
その他の部位	3	食道のその他の疾患	3
良悪不詳の腫瘍	15	総計	1,579
胃腫瘍	9		
肝・胆・膵腫瘍	3		
大腸腫瘍	1		
小腸腫瘍	2		

最近5年間の消化器内視鏡検査件数

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
上部消化管内視鏡検査	11458	11658	8780	9312	9223	9286
下部消化管内視鏡検査	4831	4656	3983	4335	3656	3522
その他	262	358	304	122	1	1
総件数	16658	16767	13140	13672	12655	12809

最近5年間の内視鏡検査件数の推移



2023年消化器内視鏡検査数(内訳)

診療内容	件数
総数	12,809
上部内視鏡検査(総数)	9,286
下部内視鏡検査(総数)	3,522
EUS(上部)	1,127
EUS(下部)	236
EUS-FNA	142
EMR(上部)	9
EMR(下部)	423
ESD(上部)	102
ESD(下部)	33
ポリペクトミー(上部)	1
ポリペクトミー(下部)	443
緊急内視鏡検査	348
内視鏡的静脈瘤治療	143
内視鏡的止血術	249
内視鏡的異物摘出術	46
内視鏡的消化管狭窄拡張術	109
経皮内視鏡的胃瘻造設術	9
経皮内視鏡的胃瘻交換(抜去)	28
ERCP・EST	628
小腸内視鏡	33
カプセル内視鏡	30
経鼻内視鏡検査	298
その他の内視鏡	1

7. 血液内科

血液内科部長 白土基明

2023年もコロナクラスターによる制約の中での診療となりましたが、オミクロン株が主流になり重症化しにくくなったこと、5類に移行したこと、コロナ治療の経験が増えたことにより以前より対応しやすくなっております。4月から九大病院より津田医師がスタッフとして加わり、常勤医7名体制（時短勤務、専攻医含む）となりました。

まだまだ新規治療薬の登場は続いており、他施設とも連携をはかりながら最新の知識を得て診療レベルを向上するよう努めて参ります。

総退院患者数：551 件

外来新患数：725 件

診 断 名	新患 入院数	退院 患者数	平均 在院 日数	平均 年齢	男	女
急性骨髄性白血病	21	96	25.0	68.8	63	33
急性リンパ性白血病	5	31	28.9	56.7	18	13
骨髄異形成症候群（経過中に化学療法あり）	6	28	16.7	76.3	21	7
骨髄異形成症候群（経過中に化学療法なし）	5	8	25.1	84.3	5	3
慢性骨髄性白血病	5	10	14.9	63.9	7	3
その他の骨髄増殖性疾患	3	6	24.3	80.5	4	2
非ホジキンリンパ腫	74	205	22.7	70.5	101	104
ホジキンリンパ腫	5	14	22.9	67.3	4	10
多発性骨髄腫	27	77	25.8	72.9	39	38
成人T細胞性白血病・リンパ腫	5	16	24.7	69.6	7	9
その他のリンパ増殖性疾患（CLL など）	1	5	30.6	64.6	1	4
再生不良性貧血	3	9	26.6	65.0	5	4
溶血性貧血	3	6	13.3	55.0	5	1
特発性血小板減少性紫斑病	14	27	26.4	75.2	16	11
その他	11	13	10.5	58.4	6	7
合 計	188	551	23.5	69.8	302	249

骨髄穿刺件数（2023年）：638 件

8. 総合診療科

総合診療科部長 井村 洋

1. 新入患者数は3,339名であった。入院患者数は平均で138名／日（昨年は107人）に増加した。
2. 病院総合医コースに8名、家庭医コースに5名の新規専攻医・後期研修医が加わった。
3. 連携医療・緩和ケア科との連携の結果、平均在院日数は、17.6日（昨年は18.5日）に減少した。
4. レクチャーなどの教育的取り組みをリモートにて移行し、継続している。
5. 2024年3月に日本病院総合診療医学会学術総会を主催する

2023年1月～12月

外来初診における頻度の高い主訴

順位	コード	件数	
1	A03	発熱	559
2	A04	全身脱力 / 倦怠感	271
3	T03	食欲不振	267
4	L14	下腿 / 大腿部の症状 / 愁訴	231
5	N01	頭痛	188
6	A29	全身症状 / 愁訴、その他	184
7	D06	その他の限局性腹痛	181
8	N17	めまい / めまい感	178
9	D09	嘔気	162
10	R05	咳	150
11	B04	血液の症状 / 愁訴	142
11	B29	血液と免疫機能の症状 / 愁訴	142
13	D01	腹部全体の疼痛 / 激痛	131
13	D10	嘔吐	131
15	L02	背部の症状 / 愁訴	120
15	R02	息切れ / 呼吸困難	120
17	L03	腰部の症状 / 愁訴	115
18	A08	腫脹	112
19	D02	心窩部痛	93
20	T08	体重減少	91

外来初診患者数 延べ人数 3,262人

入院・最終診断名

順位	疾患名	合計
1	インスリン非依存型糖尿病 (合併症を伴わない)	438
2	本態性高血圧症	350
3	誤嚥性肺炎	257
4	腎障害, 詳細不明	233
4	COVID-19	233
6	尿路感染症, 部位不明	220
7	慢性心不全・詳細不明	199
8	慢性腎不全 (透析状態)	158
9	心房細動	150
10	慢性腎不全 (非透析状態)	148
11	低ナトリウム血症	130
11	低カリウム血症	125
13	詳細不明の認知症	120
14	脳梗塞後遺症・陳旧性脳梗塞	118
15	食思不振・食欲不振	114
16	敗血症性ショック	112
17	細菌性肺炎, 詳細不明 (他に分類されてない)	111
18	肺炎, 病原体不明, 詳細不明	110
18	意識消失発作	110
20	大腿骨頸部骨折 (閉鎖性)	96

入院患者 延べ患者数 3,339人

9. 膠原病・リウマチ内科

膠原病・リウマチ内科部長 内野愛弓

筑豊地域では、膠原病リウマチ診療可能な施設の減少が続きますが、連携診療や逆紹介患者の受入れなど、地域の先生方の多大なお力添えをもって、現在の診療を維持できておりますこと、この場を借りて御礼申し上げます。少しでも御不安や御懸念なく診療いただけるよう、今後も、勉強会などの機会を通じた顔の見える連携に取り組む所存です。お気軽にお声かけ下さい。

近年膠原病リウマチ領域では、特に膠原病および膠原病類縁疾患において、新たな免疫調製剤・免疫抑制剤・生物学的製剤の承認が進んでいます。関節リウマチ治療と並び、都市部と同様の専門的治療を当地でも提供できるよう、引き続き研鑽に努めて参ります。

患者疾患別内訳（2023年）

疾患名	外来	
	総数	うち新患
関節リウマチ	1157	109
結節性多発性動脈炎	6	2
成人発症スチル病	18	1
リウマチ性多発筋痛症	62	9
全身性エリテマトーデス	148	6
全身性強皮症	109	7
多発血管炎性肉芽腫症	10	1
ベーチェット病	33	2
関節炎	15	5
多発性筋炎 / 皮膚筋炎	56	5
ANCA関連血管炎	52	9
巨細胞性動脈炎	33	8
シェーグレン症候群	226	30
混合性結合組織病	26	2
その他	516	190
総計	2467	386

入院				
疾患名	総数	急患	性別	
			男	女
関節リウマチ	43	4	11	32
結節性多発性動脈炎	20	2	11	9
多発性筋炎 / 皮膚筋炎	18	0	3	15
全身性強皮症	11	2	2	9
全身性エリテマトーデス	9	3	1	8
多発血管炎性肉芽腫症	7	0	0	7
巨細胞性動脈炎	6	0	2	4
ANCA関連血管炎	4	0	0	4
成人発症スチル病	2	0	0	2
ベーチェット病	2	1	2	0
強直性脊椎炎	1	0	0	1
その他	42	27	17	25
総計	165	39	49	116

10. 連携医療・緩和ケア科

連携医療・緩和ケア科部長 柏木秀行

2023年度も新たなメンバーを迎え、これまで以上に多様な疾患を有する患者さんの移行期ケア、そして終末期ケアに取り組みました。事業規模の拡大に伴い、院内外から期待される役割も変化しています。今後も「病気になっても過ごしたい過ごし方を、過ごしたい場所でできる地域づくりに貢献する」というミッションを常に忘れず、院内外の関係各所と連携して取り組んでまいります。

< 2023年1月～12月 依頼状況 >

診療科	疾患	症例数	診療科	疾患	症例数	
総合診療科	胃癌	22	救急外来	大腸癌	20	
	大腸癌	18		肺癌	11	
	悪性リンパ腫	11		膵癌	10	
	肺癌	11		胃癌	9	
	心不全	8		心不全	9	
	原発不明癌	7		悪性リンパ腫	5	
	腎癌	7		胆管癌	5	
	前立腺癌	7		肝癌	3	
	乳癌	7		食道癌	3	
	膀胱癌	7		腎癌	3	
	膵癌	7		下咽頭癌	2	
	胆管癌	5		甲状腺癌	2	
	骨髄異形成症候群	5		前立腺癌	2	
	肝癌	3		乳癌	2	
	甲状腺癌	3		平滑筋肉腫	2	
	食道癌	3		膀胱癌	2	
	後腹膜腫瘍	2		下唇癌	1	
	子宮頸癌	2		回盲部癌	1	
	胆のう癌	2		原発不明癌	1	
	卵巣癌	2		骨髄異形成症候群	1	
	癌性胸膜炎	1		子宮頸癌	1	
	白血病	1		縦隔腫瘍	1	
	下咽頭癌	1		多発性骨髄腫	1	
	骨腫瘍	1		胆のう癌	1	
	子宮体癌	1		中咽頭癌	1	
	多発性骨髄腫	1		白血病	1	
	中咽頭癌	1		有棘細胞癌	1	
	鼻腔内悪性腫瘍	1		卵巣癌	1	
	膠芽腫	1		肛門管癌	1	
	非がん疾患	31			合計	103
	合計			179	呼吸器内科	肺癌
消化器内科	膵癌	48		悪性中皮腫	2	
	胆管癌	12		胃癌	1	
	大腸癌	9		骨髄異形成症候群	1	
	胃癌	5		前立腺癌	1	
	十二指腸癌	2		尿管癌	1	
	胆のう癌	2		非がん疾患	1	
	乳癌	1		合計	36	
	非がん疾患	2		呼吸器外科	肺癌	3
合計		81		非がん疾患	2	
循環器内科	心不全	26		合計	5	
	非がん疾患	9	腎臓内科	卵巣腫瘍	1	
合計		35		大腸癌	1	
形成外科	非がん疾患	1		多発性骨髄腫	1	
	合計		1	非がん疾患	2	
婦人科	卵巣癌	16		合計	5	
	子宮体癌	13	皮膚科	有棘細胞癌	1	
	子宮頸癌	11		非がん疾患	1	
	子宮癌肉腫	6		合計	2	
	乳癌	3	歯科口腔外科	乳癌	1	
	腹膜癌	3		舌癌	1	
	卵管癌	2		合計	2	
合計		54				

< 2023年1月～12月 依頼状況 >

診療科	疾患	症例数	診療科	疾患	症例数		
外科	大腸癌	60	肝臓内科	胆管癌	10		
	胃癌	34		肝癌	6		
	食道癌	15		膵癌	2		
	胆管癌	8		大腸癌	2		
	乳癌	7		胃癌	1		
	盲腸癌	4		胆のう癌	1		
	膵癌	4		非がん疾患	3		
	食道胃接合部癌	2		合計	25		
	虫垂癌	2		心臓血管外科	肺癌	1	
	十二指腸癌	1			非がん疾患	4	
	肛門腫瘍	1		合計	5		
	非がん疾患	2		膠原病・ リウマチ内科	大腸癌	1	
	合計	140			非がん疾患	2	
	血液内科	悪性リンパ腫		47	合計	3	
		急性骨髄性白血病		46	集中治療科	白血病	1
		骨髄異形成症候群		9		肺癌	1
多発性骨髄腫		9	合計	2			
急性リンパ性白血病		8	リエゾン精神科	膀胱癌	1		
骨髄線維症		2		非がん疾患	1		
白血病		2	合計	2			
慢性リンパ性白血病		2	内分泌・糖尿病内科	膵癌	2		
肺癌		1		非がん疾患	1		
非がん疾患		7	合計	3			
合計		133	連携医療・緩和ケア科	膵癌	26		
脳神経内科	胃癌	4		大腸癌	25		
	前立腺癌	2		乳癌	14		
	悪性リンパ腫	1		胃癌	13		
	卵巣癌	1		肺癌	9		
	膀胱癌	1		子宮体癌	6		
	膵癌	1		食道癌	6		
	非がん疾患	4		前立腺癌	6		
合計	14	悪性リンパ腫		4			
脳神経外科	腎癌	1		腎癌	4		
	外陰癌	1		舌癌	4		
	脳腫瘍	1		下咽頭癌	3		
	非がん疾患	6		胆管癌	3		
合計	9	卵巣癌		3			
泌尿器科	前立腺癌	14	肝癌	2			
	膀胱癌	8	骨髄異形成症候群	2			
	腎癌	7	歯肉癌	2			
	大腸癌	3	十二指腸乳頭部癌	2			
	子宮頸癌	3	上顎洞癌	2			
	脂肪肉腫	1	胆のう癌	2			
	合計	36	腹膜癌	2			
耳鼻科	下咽頭癌	8	濾胞樹状細胞腫瘍	2			
	上咽頭癌	1	外陰癌	1			
	中咽頭癌	1	食道胃接合部癌	1			
	梨状陥凹癌	1	心不全	1			
	非がん疾患	1	脊索腫	1			
	合計	12	盲腸癌	1			
整形外科	肛門管癌	1	膀胱癌	1			
	合計	1	合計	148			

★病棟

入棟患者数 323人 (新規: 296人)

< 平均在院日数 >

死亡	全体
11.3	13.5

< 転帰 >

死亡	在宅	転院	継続
142	123	48	10

< 在宅後転帰 >

死亡	再入院	療養中
48	47	28

★チーム

介入患者数 1015人 (新規: 704人)

< 平均在院日数 >

死亡	全体
18.2	16.8

< 転帰 >

死亡	自宅退院	継続	転院	緩和ケア病棟	施設入所	介入終了
146	540	40	105	135	48	1

< 在宅診療導入数 >

111

11. 放射線科

放射線科統括部長 佐々木智成

令和4年度より飯塚病院における放射線診療（画像診断・IVR・放射線治療）は画像診療科と放射線治療科が一体となって担っています。迅速かつ的確な画像診断とIVR/放射線治療を提供するために10以上の診療科の先生方と定期的にカンファランスを実施しています。これによりIVRや放射線治療の適応に関する検討を行い、必要十分な診療を患者さんに提供できています。

また、カンファランスでは診断や治療の結果について可能な限り各科からフィードバックを受けることで、診断・治療のレベルの向上につなげています。

12. 画像診療科

画像診療科部長 三浦亘智

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、社会が平常を取り戻してきています。病院全体として外来患者数がコロナ以前に戻ってはいませんが、画像検査の件数はコロナ以前にまで回復しています。

CT、MR、RI、PET-CTと必要な機器は所有できていますが、古い機器も多くなっています。地域の医療機関に最新の検査を提供する事も飯塚病院の使命でありその更新が課題となっています。また医療全体の非侵襲化に伴い、IVR等の放射線透視化での治療が増加しています。ハイブリット手術室やIVR-CT検査室の更新や増設も必要と考えています。

筑豊地域40万人医療圏の中心に位置する飯塚病院において画像診断の果たすべき役割は大きいです。検査機器、スタッフのいずれもが最高の技術を提供できるよう今後も努力していきたいと考えています。

2023年診療実績

1) 診療実績（画像診療科で検査、報告書作成、及び治療を施行した件数・症例数）

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
CT	43,932	40,744	41,151	38,811	41,813
MR	10,907	9,835	10,690	10,656	11,324
マンモグラフィ総検査件数	3,811	3,353	3,731	3,617	4,113
マンモグラフィ検査件数(ドック以外)	1,443	1,300	1,225	1,118	1,410
当科医師によるマンモグラフィ読影件数	37	10	0	0	0
尿路造影検査	172	178	151	159	144
PET-CT	1,054	980	953	804	899
核医学検査(PET-CT以外)	1,387	1,188	1,142	935	732
IVR・血管造影	487	402	374	339	355

2) IVR・血管造影の内訳

	2023年
肝細胞癌の肝動脈化学塞栓術	73
出血性病変の止血術	52
気管支動脈塞栓術(BAE)	7
リンパ管造影	1
CTガイド下生検・ドレナージ ^{※1}	6
頭部血管造影 ^{※2}	119
肝ラジオ波焼灼術(RFA) ^{※3}	75
その他	22
合計	355
緊急血管造影 ^{※4}	61(17.2%)

※1 当科施行分

※2 脳神経外科施行

※3 肝臓内科施行

※4 当科施行分

13. 放射線治療科

放射線治療科主任部長 佐々木智成

診療体制として現在放射線治療医は1名のみですが、診療放射線技師・看護師の協力のもと年間450人以上の症例に対応しています。それでも院内からの紹介については依頼から1週間以内の初診を目標としており、高精度な治療をより短期間に提供できるよう努めています。他院からの紹介については原則該当診療科をご紹介いただいておりますが、乳房術後照射については可能な限り直接受け付けています。

令和4年に定位放射線治療専用装置“サイバーナイフ”が稼働開始しました。現在では頭部・頭頸部および体幹部に対する定位放射線治療を年間100件程度行っています。当初は脳転移、原発性肺癌が主な対象でしたが、その後順次対象を拡大し前立腺癌、肝臓癌なども対象としています。

診療実績

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
放射線治療件数(照射件数)	8,801	9,697	7,908	8,330	8,499
放射線治療					
新規患者数(新患実人数)	329	350	295	359	390
患者実人数(新患+再患)	361	375	336	408	450
高精度放射線治療					
定位放射線治療患者数(頭頸部に対する)	0	0	0	16	33
(体幹部に対する)	0	2	2	20	54
原発巣別新規患者数(新患実人数)					
脳・脊髄	4	5	11	4	9
頭頸部(甲状腺を含む)	21	26	27	28	21
食道	15	12	20	19	21
肺・気管・縦隔	72	88	74	92	91
(うち肺)	72	81	74	91	89
乳腺	57	76	43	55	87
肝・胆・膵	32	31	28	31	38
胃・小腸・結腸・大腸	31	32	14	30	27
婦人科	33	24	22	32	21
泌尿器系	42	33	36	37	49
(うち前立腺)	27	24	21	17	32
造血器リンパ系	12	16	15	22	17
皮膚・骨・軟骨	1	0	2	0	1
その他(悪性)	3	1	3	4	1
良性	6	4	0	5	6
(15歳以下の小児例)	0	0	0	0	0

14. リエゾン精神科

リエゾン精神科部長 猪狩圭介

精神科リエゾンチームは、せん妄、認知症（BPSD）、うつ、不眠、精神病症状、自殺未遂などの患者さんや、身体疾患治療で入院された精神疾患を有する患者さんへの精神科的介入をしております。火曜日と木曜日の午後にリエゾンチームカンファレンスと回診を実施しています。

外来診療：新患は院内他科からの紹介（予約制）で診療しています。

入院診療：精神科閉鎖病棟（西1階）の入院診療は、当科外来の患者さんのみならず、リエゾンで対応している患者さんを受け入れています。

デイケア・センター「エスポワール」では、午前のみでデイケアを継続しています。

引き続き、2024年度も精神疾患を有する患者さんの診療に取り組んでいきたいと存じます。

（1）2023年1月～12月のリエゾン紹介新患数

1) 精神医学的診断別

ICD Fコード	件数
F 0 器質性	297
F 1 精神作用物質	10
F 2 統合失調症	35
F 3 気分障害	46
F 4 神経症性障害	53
F 5 生理的障害	29
F 6 パーソナリティ障害	3
F 7 知的障害	13
F 8 心理的発達の障害	3
F 9 注意欠陥多動障害	2
G 2 アカシジア、レストレスレッグス症候群	0
G 3 レビー小体型認知症	0
G 4 睡眠障害	2
R 4 意識障害、精神運動興奮、昏迷状態	0
なし	1
総計	494

2) 依頼診療科別

診療科	件数
総合診療科	197
整形外科	25
外科	37
呼吸器内科	28
循環器内科	23
腎臓内科	10
連携医療・緩和ケア科	43
脳神経内科	14
呼吸器外科	10
脳神経外科	17
消化器内科	3
血液内科	12
心臓血管外科	14
皮膚科	2
内分泌・糖尿病内科	8
産科	2
肝臓内科	15
膠原病・リウマチ内科	8
婦人科	1
集中治療科	15
泌尿器科	2
小児科	0
眼科	1
漢方診療科	0
歯科口腔外科	3
耳鼻咽喉科	2
形成外科	1
感染症科	0
救急科	1
総計	494

（2）2023年1月～12月外来新患数内訳

ICD Fコード	件数
F0 器質性	6
F1 精神作用物質	0
F2 統合失調症	8
F3 気分障害	9
F4 神経症性障害	21
F5 生理的傷害	2
F6 パーソナリティ障害	0
F7 知的障害	7
F8 心理的発達の障害	2
F9 注意欠陥多動障害	3
G4 睡眠障害	0
F99 他に特定できないもの	1
総計	59

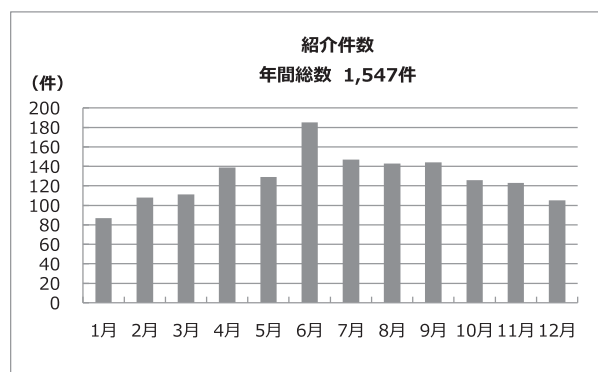
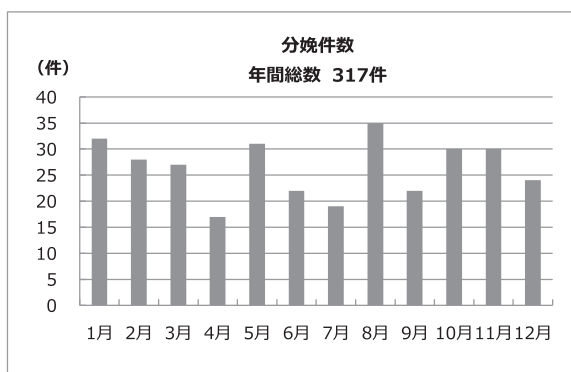
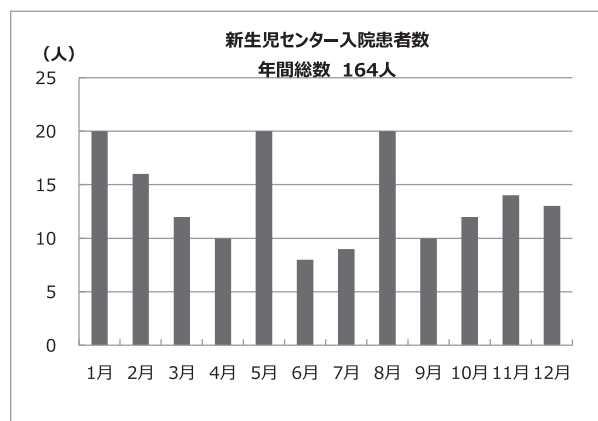
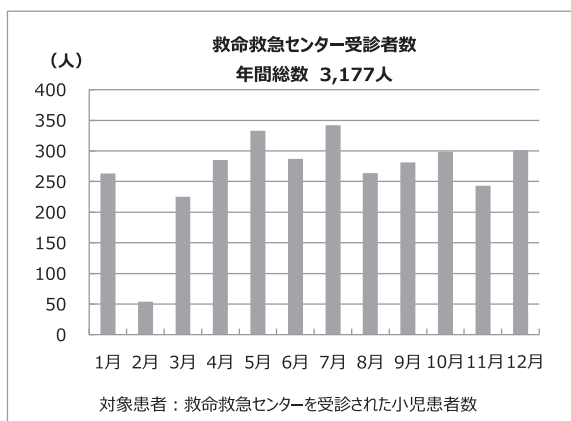
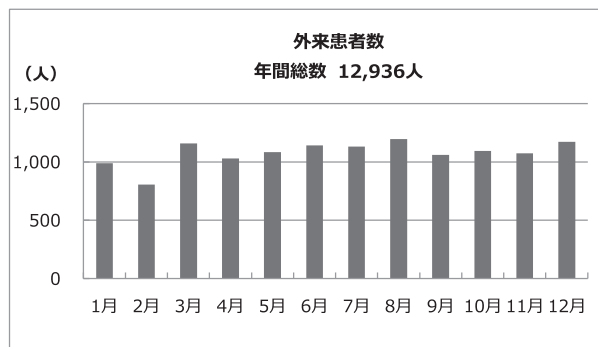
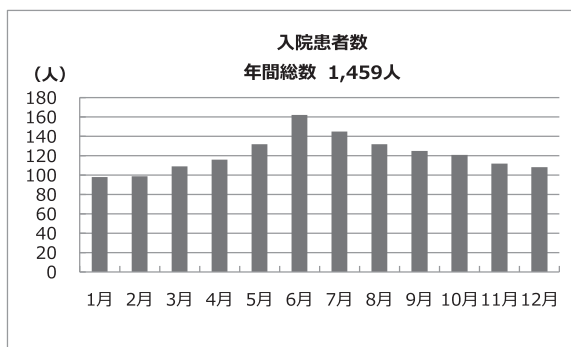
(3) 西 1 階病棟入院患者疾患別内訳 (2023 年 1 月～12 月)

病名	統計	急患	性別		年齢	在科日数
			男	女	(平均)	(平均)
F0 症状性を含む器質性精神障害	10	4	3	7	75.0	60.3
アルツハイマー病の認知症	4	2	0	4	84.5	87.3
ピック病の認知症	1	0	1	0	73.0	48.0
器質性気分障害 (感情障害)	1	0	1	0	30.0	15.0
血管性認知症	1	1	1	0	81.0	97.0
詳細不明の認知症	3	1	0	3	76.0	31.3
F1 精神作用物質使用による精神および行動の障害	4	2	3	1	64.0	38.3
アルコール依存, 神経症	1	0	1	0	46.0	27.0
アルコール離脱せん妄	1	1	1	0	56.0	38.0
ステロイド精神病	2	1	1	1	77.0	44.0
F2 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	18	9	1	17	63.1	572.0
統合失調感情障害	4	0	0	4	80.5	224.3
統合失調症, 詳細不明	11	7	1	10	53.7	839.5
妄想性障害	3	2	0	3	74.0	55.0
F3 気分障害	26	11	6	20	69.4	46.0
うつ病エピソード, 詳細不明	16	6	3	13	72.6	50.3
双極性感状障害・躁うつ病・詳細不明	10	5	3	7	64.2	39.2
F4 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	19	10	12	7	52.5	31.1
身体表現障害, 詳細不明	2	2	1	1	67.5	39.5
適応障害	15	6	11	4	46.5	26.3
不安障害, 詳細不明	2	2	0	2	82.0	58.5
F7 知的障害 (精神遅滞)	4	1	3	1	52.5	49.8
軽度精神遅滞	3	1	2	1	44.7	45.0
精神遅滞, 詳細不明 (行動面の機能障害不明)	1	0	1	0	76.0	64.0
F9 心的発達の障害	1	1	1	0	62.0	92.0
詳細不明の心理的発達障害	1	1	1	0	62.0	92.0
総計	82	38	29	53	63.6	160.1

15. 小児科

小児科部長 岡松由記

小児混合病床と母子総合医療センターの新生児部門を、北第五病棟ワンフロアに併設しています。病棟には保育士を配置し入院生活のサポート向上を図っております。小児科・小児外科外来を統合した小児センターでは、一般診療とともに、神経、内分泌、アレルギー、循環器、腎臓、新生児の専門外来を設置しております。出生時から成人するまで、切れ目のない医療を提供いたします。小児医療の課題である在宅医療、虐待予防のために、拠点病院として多職種・多機関と連携して取り組んでおります。これからも筑豊地域のすべての子どもたちと、かかりつけ医療機関のご要望に応じていきます。



16. 腎臓内科

腎臓内科部長 藤崎毅一郎

近年、当科への新患紹介患者数が漸増しておりましたが、本年もその傾向は持続しております。しかしながら、2023年始めに院内外での新型コロナウイルス感染症によるクラスター発生等で入院制限を余儀なくされ、入院患者数、手術件数、透析導入数、腎生検件数は軒並み減少しました。しかしながら、最終的には2023年のPTA件数は過去最高数となっており、筑豊地域からのシャントトラブルのご紹介が増加していることが要因の一つと考えております。今後も近隣施設との連携をより一層深める診療を進める方針です。日本全体に言えることではありますが、透析導入原疾患は糖尿病性腎症が依然として4割を超える状況です。このことは当院含め筑豊地域も同様であります。これまで通り糖尿病からの透析導入を抑止することが喫緊の課題と考えております。新型コロナウイルス感染症の蔓延で中断しておりましたCKD患者紹介の地域連携システムの整備・拡充を2023年から再開しております。行政機関・地域医療施設の皆様と協力して、慢性腎臓病増悪、末期腎不全を抑制すべく、日々の診療連携に力を注ぐ所存です。

◆腎臓内科 診療実績データ（2023年1～12月）

項 目	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1 外来実患者数	12,806	13,149	12,842	12,580	13,058	11,316	10,941	10,794	10,947
2 入院患者数	555	565	600	639	609	713	826	815	878
3 新患紹介数	185	231	200	249	262	220	237	253	261
4 入院透析実患者数（腎臓内科）	182	180	165	219	195	229	250	228	208
”（他科依頼）	242	253	288	318	314	335	377	360	372
5 入院透析延べ件数（腎臓内科）	2,090	1,594	1,257	1,672	2,227	2,227	2,460	2,096	2,267
”（他科依頼）	2,339	2,564	3,189	3,284	3,278	3,787	3,919	3,397	3,954
6 院内新患紹介数（紹介状があるもの）	335	250	255	263	273	280	292	254	217
7 内シャント術、PDカテーテル留置術	93	111	123	175	142	125	152	120	120
8 PTA（血管内形成術）	123	106	109	159	191	233	368	418	472
9 年間死亡患者数	17	18	6	15	12	23	15	10	14
10 腎生検	34	34	50	43	39	41	49	33	38

◆新規透析導入患者数推移

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
腹膜透析	8	7	6	7	12	14	12	9	10	7	11	9	12
血液透析	77	70	75	62	65	58	67	98	85	102	106	79	74
合 計	85	77	81	69	77	72	79	107	95	109	117	88	86

◆専門医、認定の修得件数

1 日本内科学会認定内科医	4
2 日本内科学会総合内科専門医	2
3 内科専門医	3
4 日本透析医学会専門医	3
5 日本透析医学会指導医	1
6 日本腎臓学会腎臓専門医	3
7 日本腎臓学会指導医	1

◆新規透析導入患者 原疾患、平均年齢推移

		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
導入患者 主要 原疾患	糖尿病性腎症	47.7%	41.1%	47.7%	55.6%	46.5%	48.8%
	慢性糸球体腎炎	14.7%	26.3%	21.1%	13.7%	22.7%	19.8%
	腎硬化症	11.0%	24.2%	21.1%	14.5%	21.5%	20.9%
	多発性嚢胞腎	0.9%	1.1%	0.9%	1.7%	0.1%	2.3%
	慢性腎盂腎炎・間質性腎炎	0.0%	2.1%	0.0%	1.7%	0.2%	1.2%
	急速進行性糸球体腎炎	1.8%	1.1%	3.7%	3.4%	0.3%	2.3%
	自己免疫性疾患に伴う腎炎	0.0%	0.0%	0.9%	1.7%	0.0%	0.0%
	不明	15.6%	3.2%	1.8%	0.9%	0.2%	4.7%
全体	導入時年齢平均値	70.8	69.8	72.9	70.3	70.4	72.5
	最高齢（歳）	91	93	94	93	92	93
	最年少（歳）	39	35	34	41	20	33
男性	年間導入患者数	67	58	68	75	53	55
	導入時年齢平均値	69.4	69.1	72.9	68.7	69.4	71.6
	最高齢（歳）	91	92	94	93	92	93
	最年少（歳）	39	35	34	41	38	33
女性	年間導入患者数	40	37	41	42	35	31
	導入時年齢平均値	73.2	71	73	73	71.8	74
	最高齢（歳）	90	93	91	92	90	90
	最年少（歳）	45	39	37	50	20	49

◆腎生検症例の診断疾患

	原疾患名	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1	IgA 腎症	9	11	13	10	16
2	ANCA 関連血管炎					
	MPO-ANCA 型	3	9	7	5	3
	PR3-ANCA 型	0	0	0	2	0
3	抗 GBM 型糸球体腎炎	0	1	1	0	0
4	微小変化型ネフローゼ症候群（MCNS）	7	9	7	2	4
5	特発性膜性腎症（MN）	6	5	7	5	3
6	巣状分節性糸球硬化症（FSGS）	6	0	2	0	3
7	膜性増殖性糸球体腎炎（MPGN）（C3 腎症含む）	1	0	1	0	0
8	紫斑病性腎炎	1	0	0	1	0
9	その他					
	糖尿病性腎症	2	1	4	1	1
	腎硬化症	0	0	2	2	1
	尿細管間質性腎炎	1	1	3	3	1
	ループス腎炎	1	2	1	0	1
	アミロイドーシス	0	1	1	1	0
	非ネフローゼの一次性 MPGN（C3 腎症含む）	0	0	0	0	0
	非 IgA, メサングウム増殖性腎炎	0	0	0	0	1
	IgG4 関連腎臓病	0	0	0	0	1
	妊娠性高血圧腎症	0	0	0	0	1
	その他	2	4	1	1	2
	腎生検合計数	39	44	50	33	38

17. 循環器内科

循環器内科部長 西 淳一郎

コロナ禍でも、循環器疾患急性期診療の間口を狭めることなく、毎年200例以上の急性心筋梗塞を診療チームとコメディカルスタッフの尽力により診療の最前線で受け入れることができ、筑豊地域の循環器診療を支えることができました。コロナ禍明けとなった2023年の疾患内訳は、ほぼ例年並の疾患構成となっています。治療に関しては、もともと腎・尿路結石の治療に用いられていた体外衝撃波を、冠動脈血管内から照射して石灰化を破碎し狭小病変を開大できるようにする血管内破碎バルーン(Shockwave)を導入し、従来であれば石灰化で硬くて治療できなかった冠動脈病変に対しても治療介入できるようになりました。また外科的手術には不向きで治療の手を差し伸べることができなかった僧帽弁膜症にも、福岡県内では5番目となる2022年末よりカテーテル治療(Mitracrip)を開始し、これまで10人の心不全症例に施術することができました。2024年もより高い目標を持ちこの地域のために当センターの発展に努めたいと思います。

2023年入院主病名(循環器主要疾患)

総入院患者数:1,656人 急患数:774人(46%) 死亡:29人(2.0%) 平均在院日数:9.6日

2023年疾患名リスト 1,687名

<疾患内訳(重複なし)>

心不全・肺水腫:402

心房細動:229

急性心筋梗塞:223

無症候性心筋虚血:134

労作性狭心症:90

房室ブロック:61

心臓弁膜症:61

下肢閉塞性動脈硬化症:52

冠攣縮性狭心症:37

不安定狭心症:32

洞不全症候群:27

急性大動脈・動脈解離:21

肺塞栓症:20

心室頻拍・心室細動:17

発作性上室性頻拍症:16

心房細動および粗動:16

陳旧性心筋梗塞:15

睡眠時無呼吸症候群:15

蘇生に成功した心停止:13

たこつぼ心筋症:12

虚血性心疾患:10

肥大型心筋症:10

上室性頻拍:10

心房粗動:10

安静時狭心症:9

冠動脈硬化症:7

虚血性心筋症:6

深部静脈血栓症:5

梗塞後狭心症:4

動脈瘤・大動脈瘤:4

心アミロイドーシス:4

肺炎・気管支炎:4

心膜浸出液・心嚢液貯留:4

胸痛症候群:4

慢性腎不全:3

頻脈・徐脈症候群:3

肺高血圧症:3

失神発作:3

心室中隔欠損:3

心原性ショック:3

敗血症・敗血症性ショック:2

心室性期外収縮:2

房室結節回帰性頻拍症:2

急性心膜炎:2

心房瘤:2

左室肥大・拡大:2

アダムス・ストークス症候群:1

動脈管開存:1

急性感染性心内膜炎:1

ファブリ病:1

本態性高血圧症:1

冠状動脈瘤:1

鎖骨下動脈閉塞及び狭窄:1

サルコイドーシス:1

産褥における心筋症:1

先天性・二尖性大動脈弁:1

シェーグレン症候群:1

冠動脈解離:1

心サルコイドーシス:1

造影剤によるアナフィラキシーショック:1

多発性嚢胞腎(病型不明):1

心タンポナーデ:1

WPW症候群:1

その他

総計 1687

心臓カテーテル検査・治療、デバイス治療総数：1903

- 冠動脈インターベンション (PCI) :449
(緊急 PCI：221 (49.2%))
ステント：375 ダイヤモンドバック：15 ロータブレータ：21
血管内超音波 (IVUS)：459、OCT：22
- 末梢血管インターベンション (EVT)：78
- カテーテルアブレーション：331
心室頻拍 6
心室期外収縮 5
心房細動 249 (クライオバルーン 54,Ensite168, CARTO57,)
発作性上室性頻拍 23
心房粗動・心房頻拍 44
- デバイス埋め込み術
永久ペースメーカー埋め込み術：106
埋め込み型除細動器埋め込み術：12
両心室ペースメーカー埋め込み術：6
除細動機能付き両親室ペースメーカー埋め込み術：14
- 構造的疾患インターベンション
経皮的中隔心筋焼灼術 (PTSMA)：0
経皮的経静脈的僧帽弁交連裂開術 (PTMC)：3
経皮的大動脈弁形成術 (PTAV)：1
経カテーテル的大動脈弁置換術 (TAVI)：22 (*循環器病センター成績)
経皮的僧帽弁接合不全修復術 (MitraClip)：10 (*循環器病センター成績)
- 心筋生検：62
- その他
下大静脈フィルター：12

18. 心不全ケア科

心不全ケア科部長 西 淳一郎

毎年のべ500人ほどの心不全患者さんが入退院を繰り返されています。心不全パンデミックとも近年呼ばれ増加の一途をたどる心不全患者数ですが、高齢多疾患併存心不全や侵襲的治療を希望されない心不全など、心不全病態の一部の入院治療は、院内心不全連携により総合診療科や連携医療・緩和ケア科にもご協力を頂きながら、地域心不全診療を支えています。

心不全患者さんは、身体的・精神心理的・社会的およびスピリチュアルな苦痛からなる「全人的苦痛」(Total pain)を感じておられます。心不全緩和ケア医療の提供には、単独の医療職だけでは対応できず、多職種での介入が必要です。急性期病院として疾患急性期の管理を行った後は、今後の再入院予防のための治療の最適化、教育、環境調整、アドバンストケアプランニング(ACP)など多面的なアプローチが必要になります。

当科では、心不全緩和ケア研修(HEPT)修了医師と、慢性心不全認定看護師を中心に多職種チーム医療を展開しています。なかでもトータルケアを要する重症末期心不全においては、当科での基礎的心不全緩和ケアの導入から、連携する「緩和ケア科」による専門的緩和ケアへのシームレスな移行を通じて、より充実した全人的医療の提供を行っています。

自宅（または転院）へのスムーズな退院支援ができるよう、トランジションチームメンバーと連携して急性期治療を終えるタイミングで円滑に最適な療養の場に移行出来る体制づくりを進めています。院外地域連携病院の在宅医療システムと協力して、強心薬の持続投与サポートが必要な末期心不全症例の在宅医療への移行に一部地域では成功体験を得ることができました。まだ手探りの段階ではありますが、「心不全を地域で診る、地域で看取る」という体制の構築に向けて、多方面の部門の方々のアドバイス・ご支援を頂ければ幸いです。

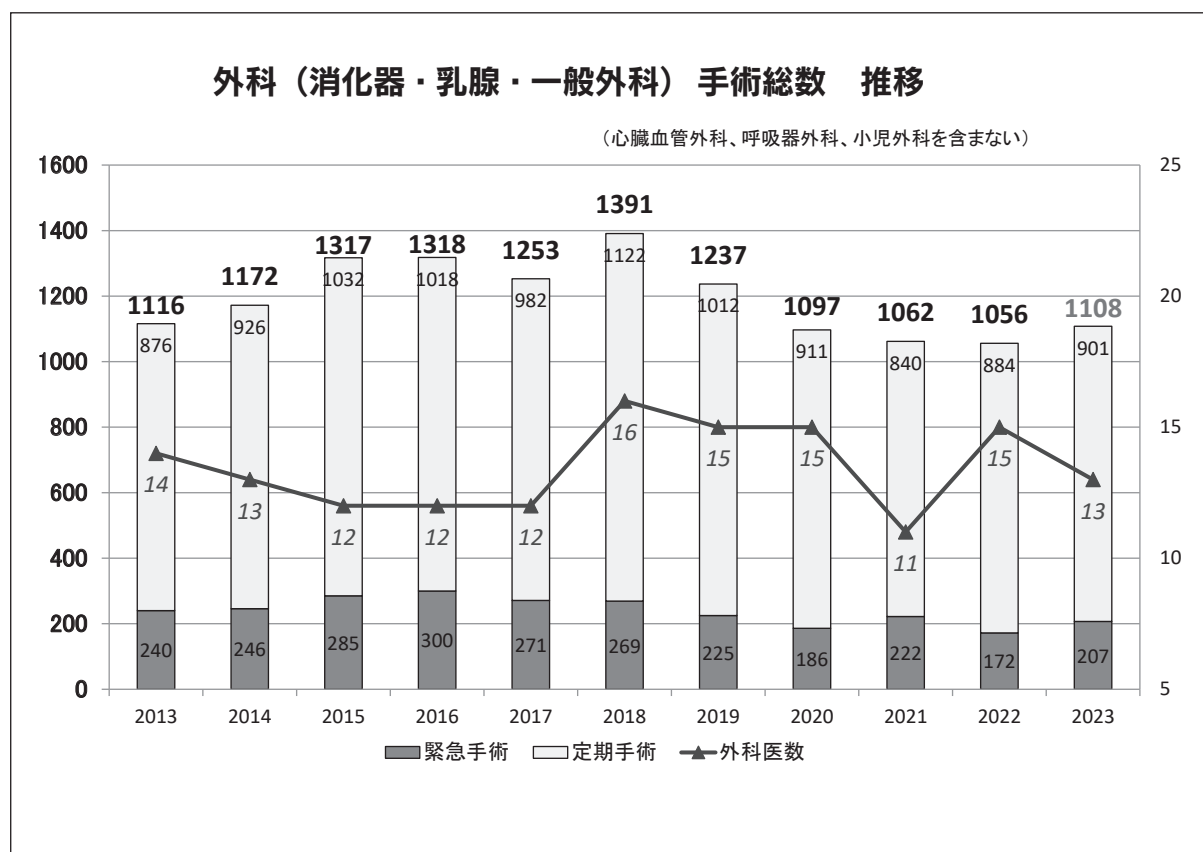
19. 外科

外科統括部長 山下洋市

2023年度もコロナ禍による診療・手術制限はありましたが、少しずつ日常が回復し、外科の年間手術数も1,108例と定期手術・緊急手術ともに持ち直しました。外科の弱点であった学術面においても、現スタッフの頑張りもあり、全国学会発表34件、英文論文10件（過去最高）と増加しました。

新しく難易度の高い腹腔鏡下膵頭十二指腸切除を導入して約10例を安全に提供しました。ロボット手術も胃だけでなく、肝臓・膵臓・直腸などへ適応を拡大し、更に食道ロボット手術を開始予定です。患者さんに優しい低侵襲手術を安全・確実に届けて行きたいと思えます。

皆様には、温かいご声援とご協力をよろしくお願いいたします。



2023年 消化器・乳腺・一般外科 手術内容 (抜粋)

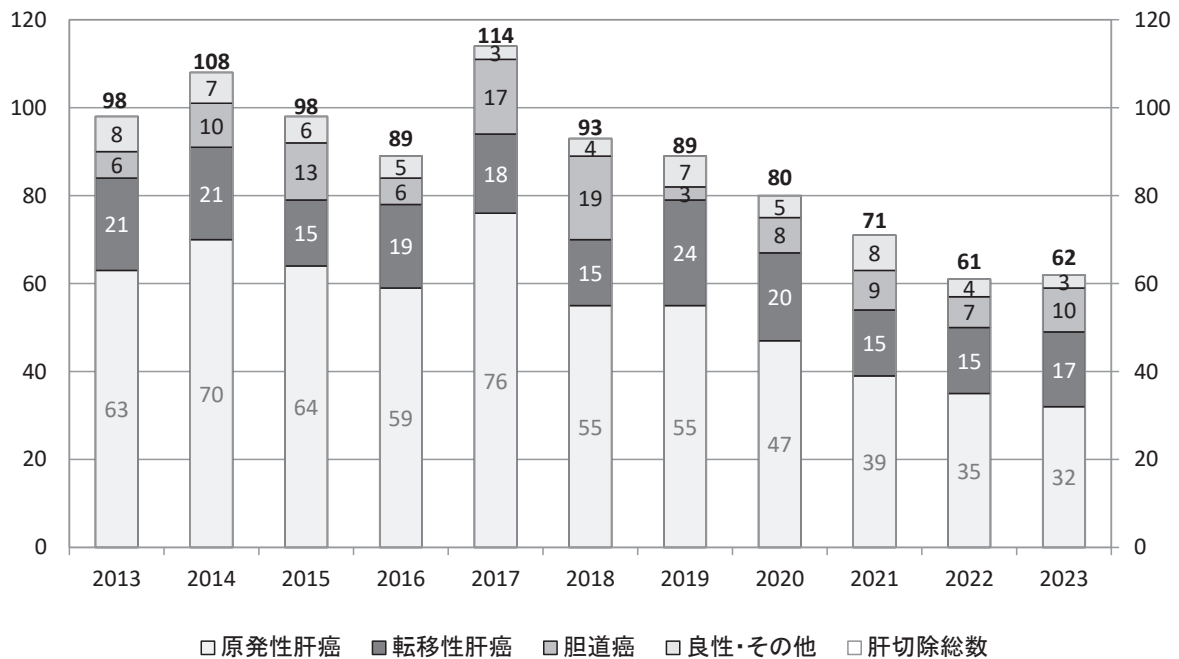
(呼吸器外科、小児外科、心臓血管外科症例は含まない)

総手術数(手術室内施行) 1108例 ↑ うち急患手術 207例 ↑

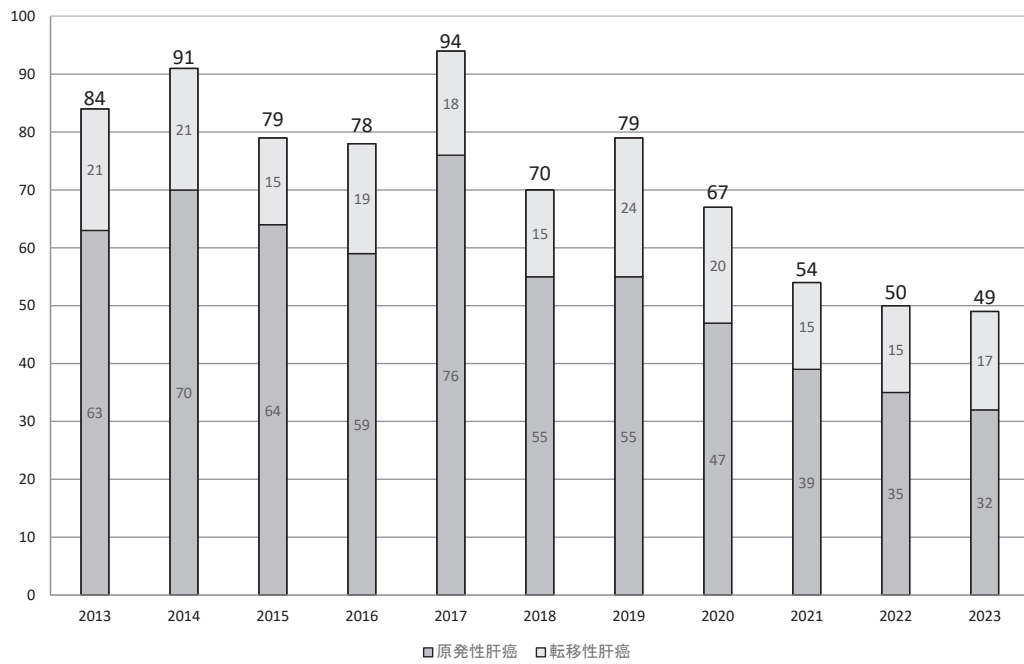
手術術式	症例数	疾患	症例数	術式	症例数	[鏡視下]
乳腺手術	149	乳がん	137	乳房切除	133	
食道手術	18	食道がん	15	食道切除	11	[11]
胃十二指腸手術	126	胃がん	100	胃全摘	37	[33]
				胃部分切除	62	[61]
				その他	27	
小腸・大腸・直腸手術	348	結腸がん	149	結腸切除術	141	[116]
		直腸がん	38	直腸切除術	39	[38]
				腹会陰式切断術	11	[11]
				虫垂切除術	35	[33]
肝臓手術	61	原発性肝がん	34	肝切除術	63	[28]
		転移性肝がん	17	拡大胆嚢摘出術	1	
胆道手術	155	胆道腫瘍	29	膵切除	46	[12]
		胆嚢結石症	124	PD	31	[4]
膵切除	46	膵がん	39	体尾部切除	15	[8]
				胆嚢摘出術	134	[120]
脾	1			脾臓摘出術	1	[1]
ヘルニア手術	101	鼠径ヘルニア	70	鼠径ヘルニア根治術	70	[22]

(疾患数、手術術式数に重複あり)

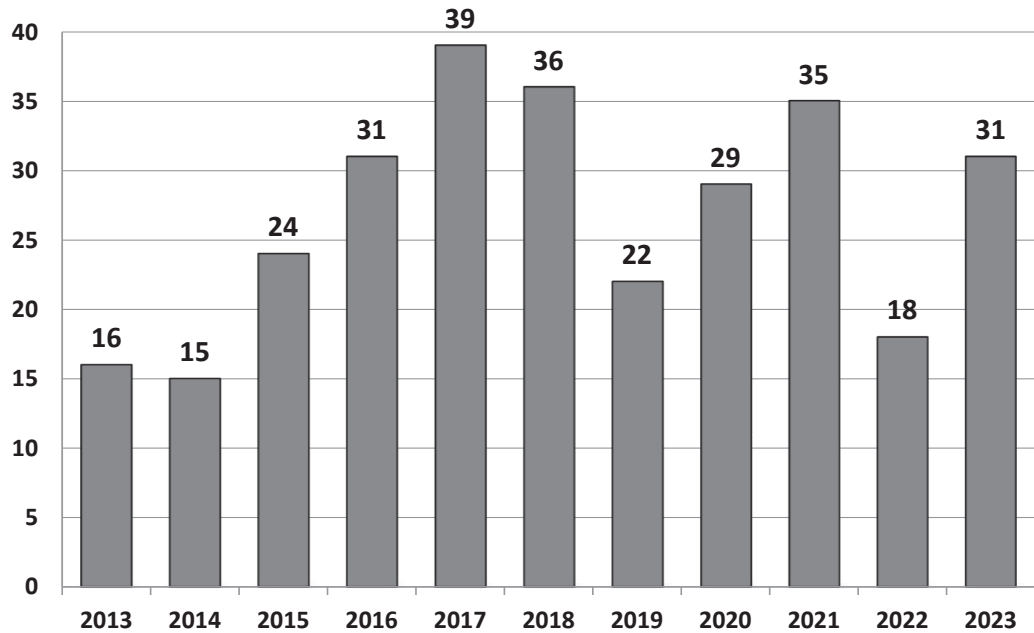
肝切除術数 推移 (疾患別)



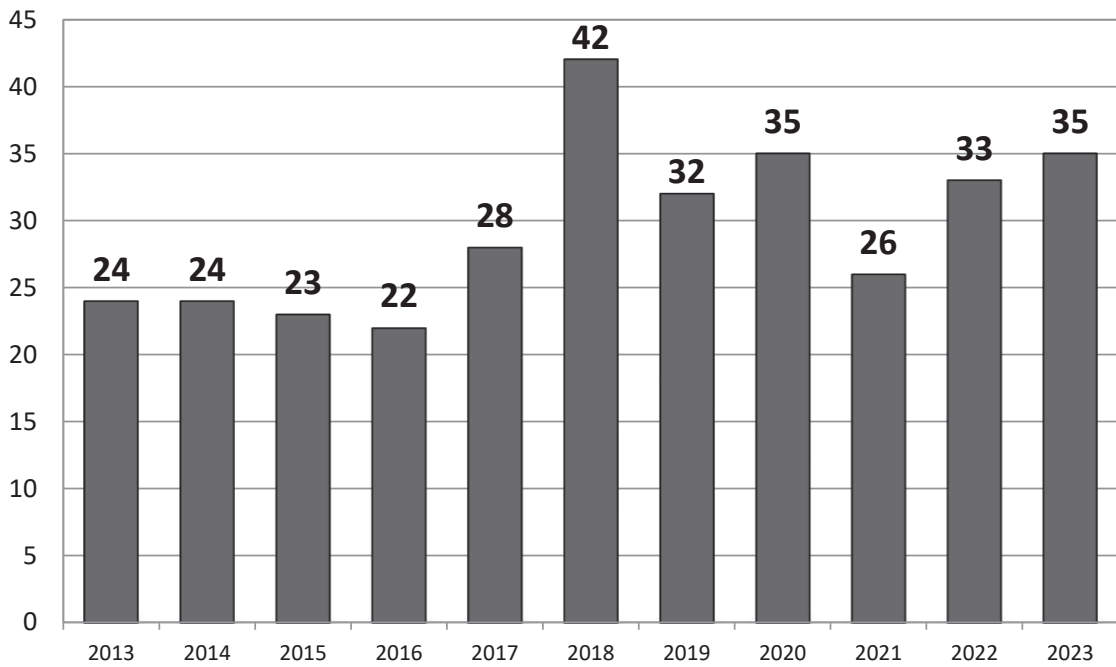
肝がん切除数 推移



胆道腫瘍手術 推移

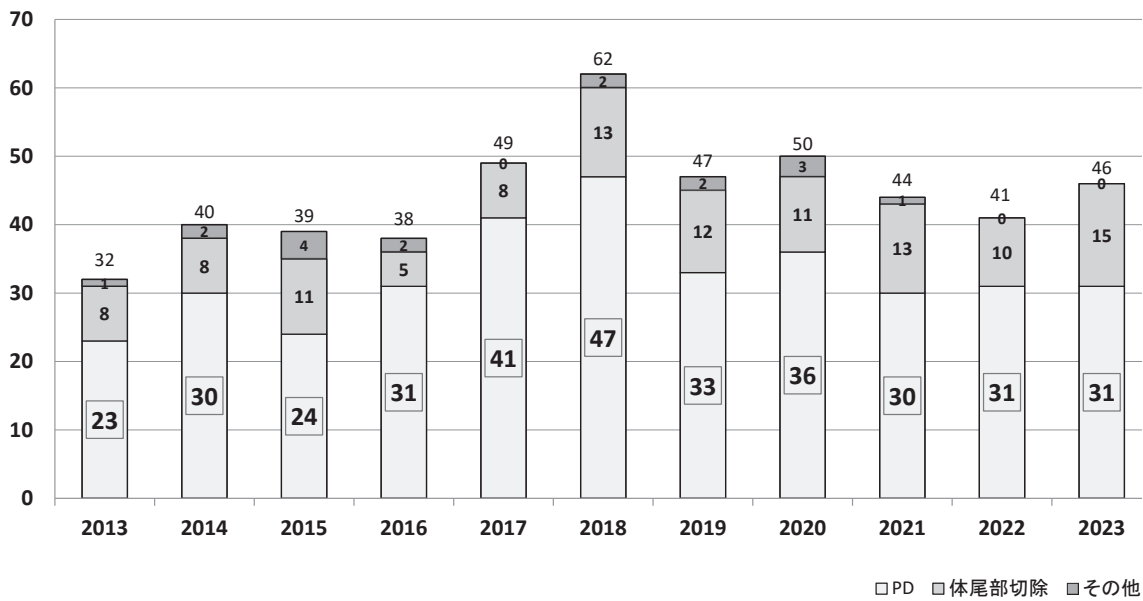


膵臓がん切除症例数 推移

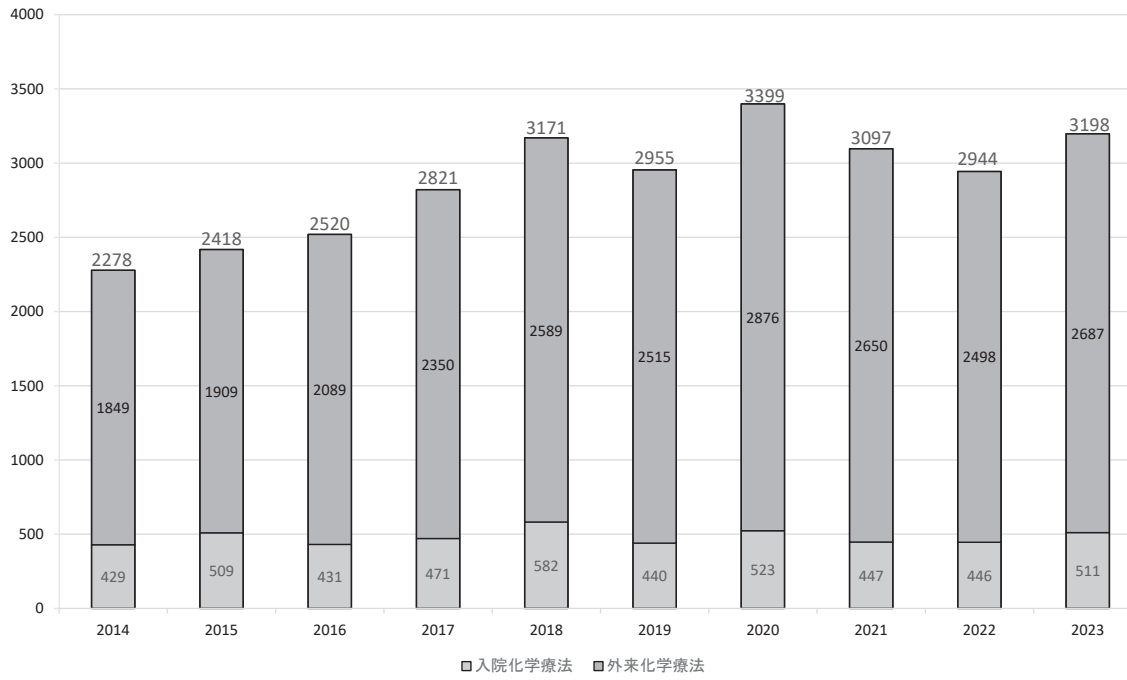


膵切除症例 推移 (術式別)

(膵腫瘍、胆道腫瘍などが対象)

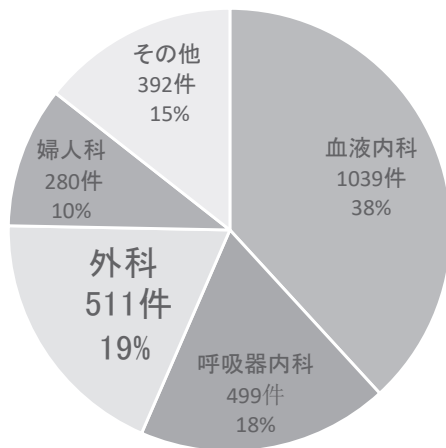


化学療法件数 推移

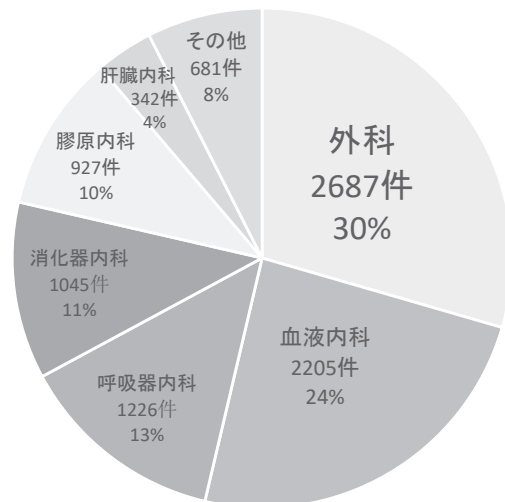


2023年 化学療法 (院内比率)

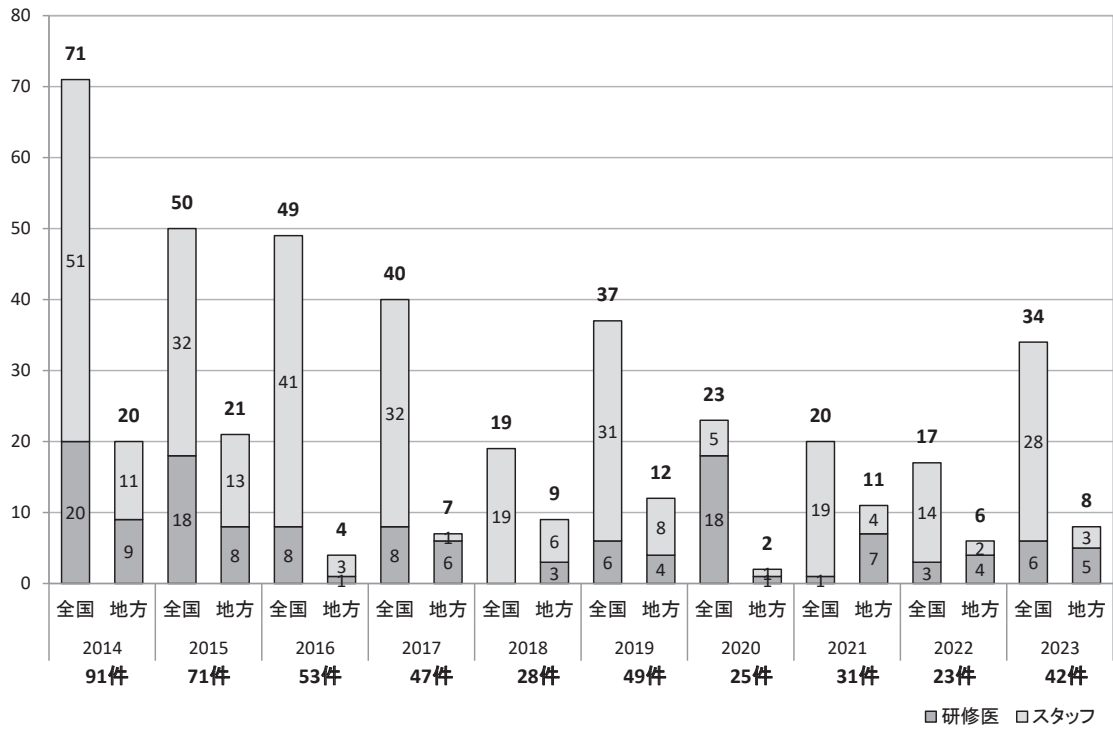
入院 (外科 511件)



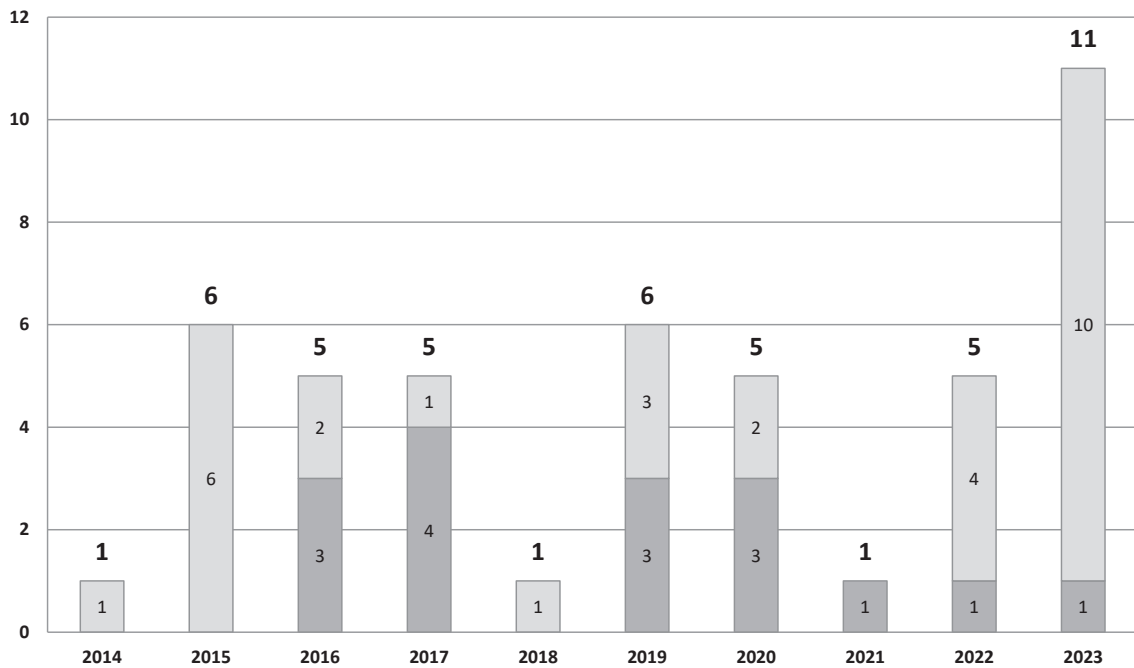
外来 (外科 2687件)



学会発表



論文

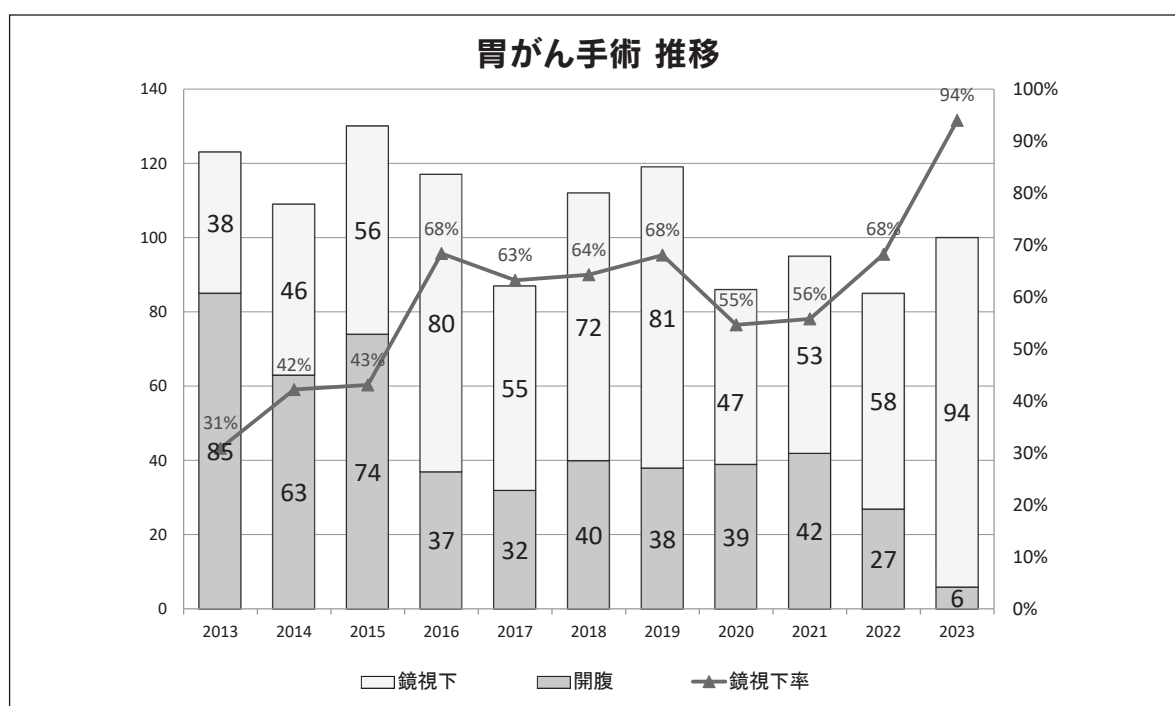
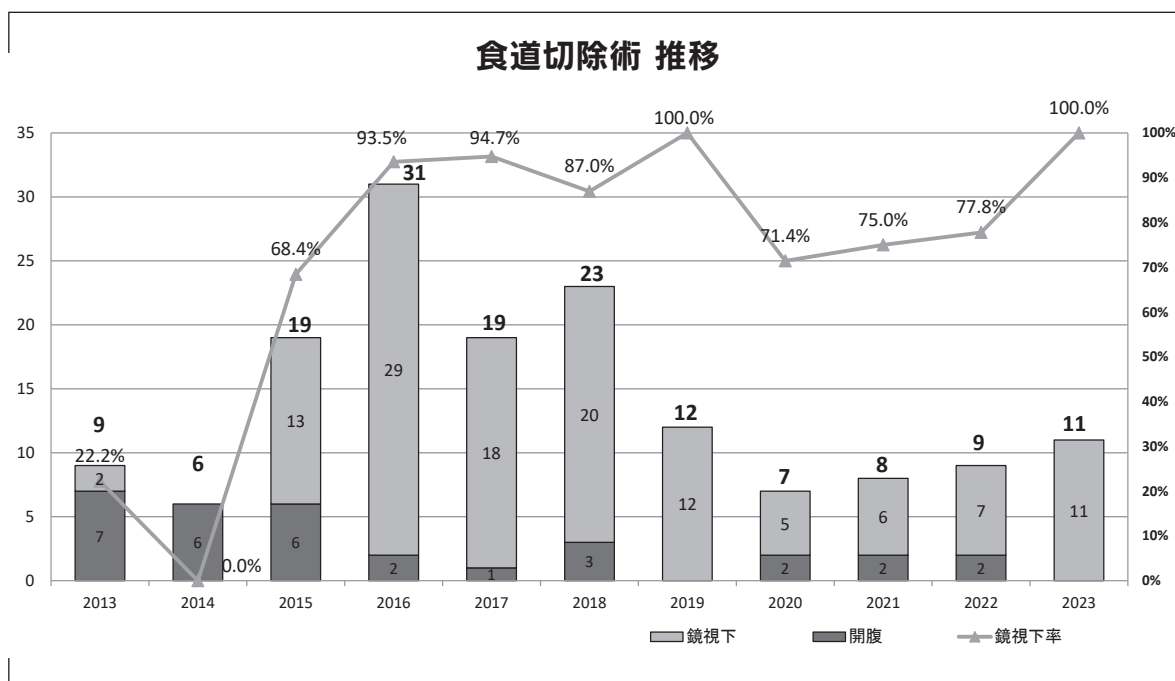


20. 消化管・内視鏡外科

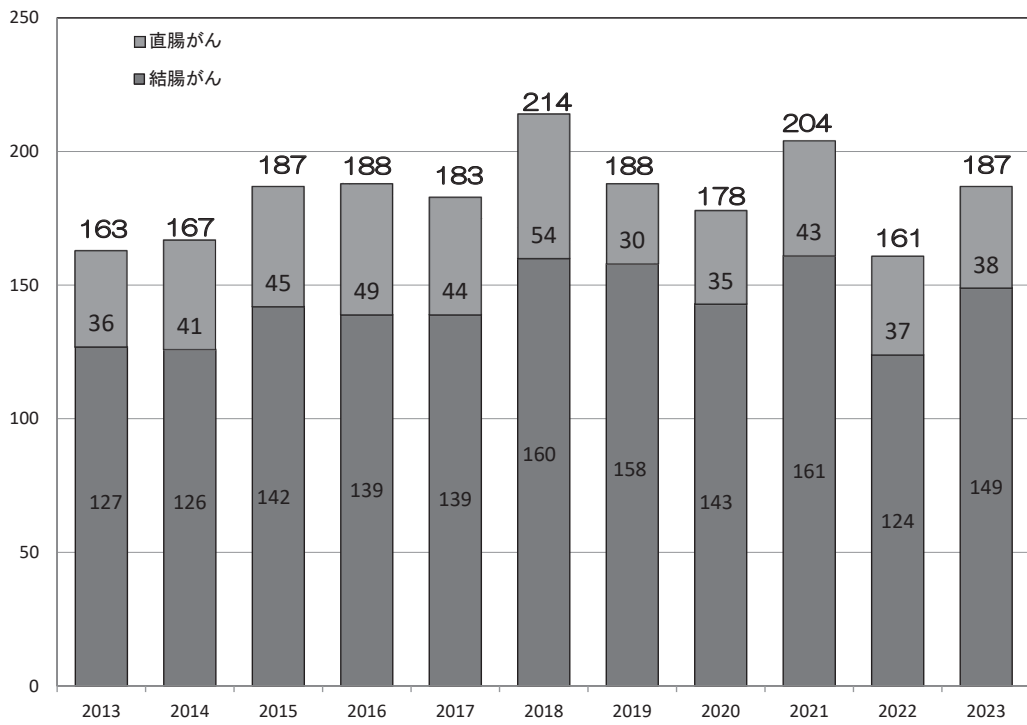
消化管・内視鏡外科部長 古賀 聡

今年は人事の減少はなく、コロナ禍の影響も減少してきたのか、症例数がかなり回復しました。さて、食道手術は今年度当科に赴任した医師が専門医取得できた（食道科専門医）こともあり11例と増加し今後も増加が見込まれます。また、胃がん手術数は100例で15例の増加、結腸/直腸手術は187例と26例の増加でした。昨年導入したロボット支援下の胃癌手術および今年度導入した直腸癌手術は、すでに46例および4例を行いました。今後も安定した技術で患者さんへのより高度な医療提供を実現し続けていきたいと存じます。

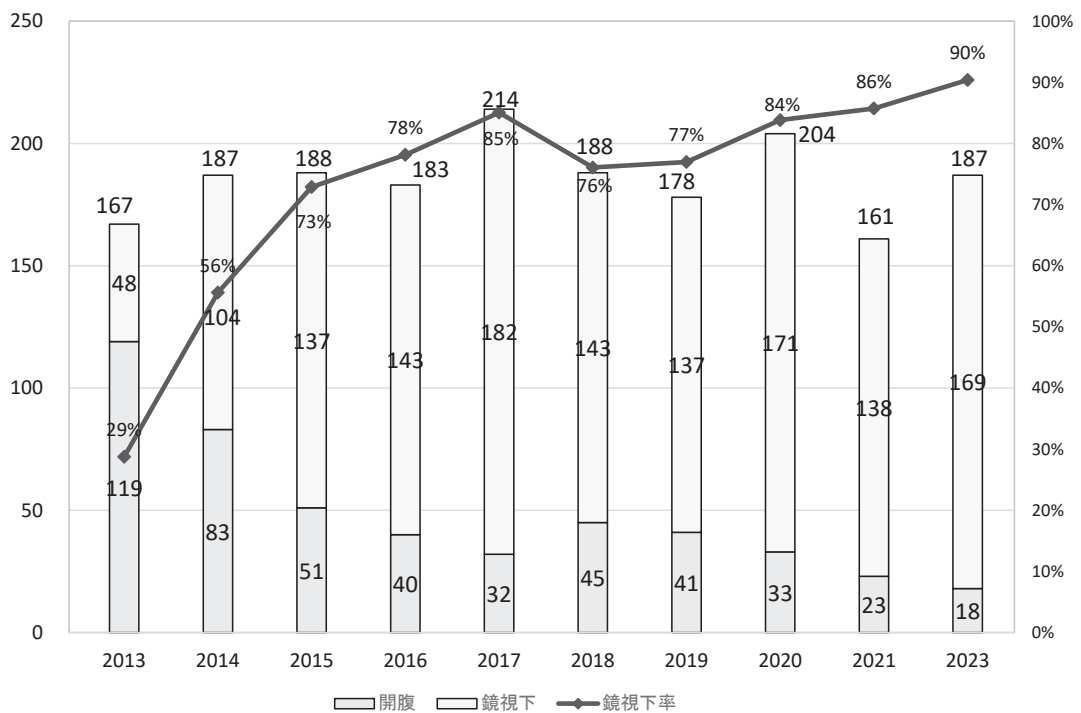
今後とも関係各機関の皆様には、温かいご声援とご協力をよろしくお願いいたします。



大腸がん切除数 推移



直腸・結腸がん切除 推移



21. 乳腺外科

乳腺外科部長 岡本正博

長年に渡り筑豊地方の乳腺医療を牽引頂いた崔 哲洵先生のご逝去により、さい医院が閉院となり、医療環境の変化で混乱が予測されました。乳腺外科では医療事務補助員を活用した外来業務の効率化、新患受け入れの柔軟な対応、地域の先生方との乳癌術後連携パスの推進をおこなってまいりました。その甲斐もあり、前年と比較して新患数、手術数とも増加傾向となっています。

乳癌領域のトピックとして、トリプルネガティブ乳癌に対する免疫チェックポイント阻害剤を用いた周術期治療や、ホルモン受容体陽性・HER2陰性乳癌の術後再発リスク判定のための多遺伝子解析も導入しました。リスクに応じた適切な治療を提供できるように努めています。



22. 小児外科

小児外科部長 竜田恭介

2023年の手術数、入院数はほぼ前年と同様でした。以前に比較すると手術数は100例に届いておらず、日本小児外科学会認定の教育関連施設を維持するためには手術症例が100例（3年平均）必要であるため、症例数増加に努めたいと思います。医師の働き方改革に伴い飯塚市の小児救急の体制が変わるかもしれませんが、これに積極的に参加し、筑豊地域の小児医療に貢献していきたいと思います。

入院・手術症例の年齢・性別内訳

		男			女			計		
		入院	手術	(緊急)	入院	手術	(緊急)	入院	手術	(緊急)
新生児	(0-30 生日)	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)
乳児	(1-11 生月)	9	7	(2)	2	3	(0)	11	10	(2)
幼児	(1-5 歳)	26	24	(2)	13	13	(1)	39	37	(3)
学童	(6-12 歳)	23	22	(6)	14	11	(3)	37	33	(9)
思春期	(13-15 歳)	1	1	(1)	3	4	(1)	4	5	(2)
成人	(16 歳-)	1	1	(1)	2	2	(0)	3	3	(1)
計		60	55	(12)	34	33	(5)	94	88	(17)

主要手術症例

症例	疾患	手術
1 1 生日 男児	肥厚性幽門狭窄症	Ramstedt手術
2 5 生月 男児	腸重積 回腸穿孔	観血的腸重積整復 穿孔部修復
3 6 生月 女児	低位鎖肛	会陰式肛門形成術
4 7 生月 女児	経口摂取困難	腹腔鏡下胃瘻造設術
5 2 歳 男児	腸重積	観血的腸重積整復
6 3 歳 男児	梨状窩瘻	内視鏡下瘻孔焼灼術
7 4 歳 男児	梨状窩瘻	内視鏡下瘻孔焼灼術
8 8 歳 女児	卵巣成熟奇形腫	腫瘍核出術
9 9 歳 女児	頸部血管瘤	血管瘤摘出術
10 12 歳 男児	胆嚢捻転	腹腔鏡下胆嚢摘出術
11 16 歳 男児	癒着性イレウス	癒着剥離術

23. 整形外科

整形外科部長 原 俊彦

2020年から続いた新型コロナウイルス感染症流行も2023年3月の病棟クラスター発生を最後に、落ち着きを取り戻しました。6月頃より徐々に症例数は回復し、10月頃からは急患に追われる日々が続いております。当院整形外科では2023年度1,154件の手術が行われ、その内342件が急患手術でした。2020年夏から始まった大腿骨近位部骨折症例への総合診療科の介入も軌道に乗り、2022年からは整形外科病棟に専属勤務することになりました。内科的管理から解放された時間を手術計画の時間に当てることが出来る様になり症例毎に吟味を尽くした介入が可能となりました。

2023年度のトピックスは人工膝関節術の際に用いるロボットの導入です。術前に実施する綿密な計画に対し、忠実な手術を行えるようになりました。侵襲も最小限で行えるため、術後の患者さんの回復も以前より早い様です。今後更に症例数を増やしていきたいと考えております。手外科疾患は以前と同様に福岡市の溝口外科整形外科病院と提携して専門的な治療を行っております。股関節疾患は、人工股関節に加え関節温存術を積極的に行っており、全国の先生方が見学される様になりました。教育活動にも積極的に取り組んでおります。脊椎疾患は、全国的に有名な総合せき損センターと提携して脊椎外来をはじめ手術も行っております。今後も筑豊地域唯一の三次救急病院として全ての整形外科疾患に対応すべくシステム構築をしていこうと考えております。

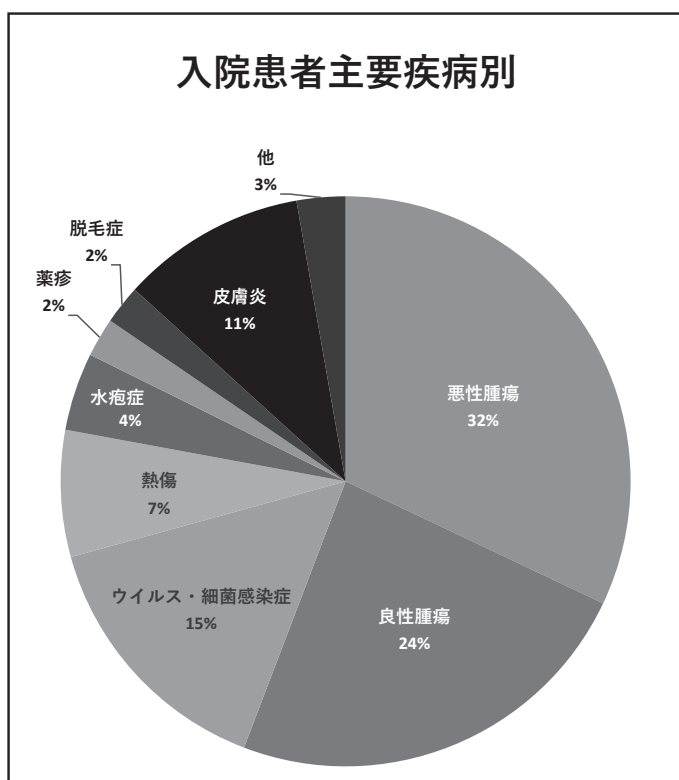
【手術実績】

	当科分類	2023年	2022年	2021年	2020年
1	頸部骨折 - 骨接合	119	99	137	131
2	人工骨頭	38	35	57	52
3	人工膝関節置換術	87	69	69	47
4	人工股関節 / その他の人工関節	153	134	152	138
5	関節鏡視下手術	37	33	34	43
6	脊椎手術	16	6	2	11
7	手の外科（顎部以下の骨折含む）	365	313	381	446
8	骨折・脱臼	140	139	157	162
9	抜釘	49	73	77	70
10	関節形成術（骨切り他）	36	33	26	25
11	切断	12	12	9	10
12	骨・軟部腫瘍	13	6	11	13
13	外傷（その他）アキレス腱含む	16	7	6	30
14	関節外科（その他）	35	20	21	10
15	神経・骨軟部組織	0	0	0	2
16	その他	38	30	27	28
	合計	1154	1009	1166	1218
	内急患手術	342	255	320	341

24. 皮膚科

皮膚科部長 井手豪俊

2023年度も1人減の4人体制で頑張りました。若手の先生を教育して診療水準を底上げしつつ、過去と比較し勝るとも劣らない診療実績を維持するという目標は達成できたのではないかと思います。これは塩道・永井両名の大きい成長によるところが大きく、それに引っ張られるように田中も急成長を遂げたからです。来年度は久々にスタッフが増員し、本来の5人体制に復帰する予定です。当科の規模は現在よりやや大きくなりますが、一方でその責任の大きさを既に実感しております。しかし基幹病院皮膚科としての当科の役割を果たすという信念はぶれずに来年度も精進してまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。



外来手術件数

1月	49	7月	87
2月	55	8月	102
3月	74	9月	86
4月	84	10月	86
5月	77	11月	77
6月	81	12月	75

計 933 件

うち、バイオブシー件数

1月	24	7月	42
2月	26	8月	43
3月	44	9月	43
4月	53	10月	41
5月	38	11月	37
6月	40	12月	35

計 466 件

手術室手術件数

1月	10	7月	20
2月	12	8月	25
3月	17	9月	19
4月	11	10月	19
5月	15	11月	22
6月	19	12月	18

計 207 件

うち

日帰り手術	71
入院	136

うち、悪性腫瘍手術

基底細胞癌	31
有棘細胞癌	25
ボーエン病	11
日光角化症	7
脂腺癌	2
メルケル細胞癌	1
エクリン汗孔癌	1
乳房外 Paget 病	1
悪性腫瘍	3

計 82 件

25. 泌尿器科

泌尿器科部長 入江慎一郎

2023年は2022年に引き続き5名体制でしたが、9月より産休者1名あり後半4ヶ月は4人での外来・入院診療となりました。非常勤医師は火曜・木曜に各1名（結石破碎・透視下処置）、金曜に排尿障害外来1名のままでした。

ロボット手術は週1回の手術枠で実施している関係で症例数は増えていませんが、2022年より腎部分切除術の割合が増加しました。これは2023年1月より開始した前立腺癌放射線定位照射（サイバーナイフ）希望者が増えた影響もあります。2024年度は前立腺癌診断におけるフュージョンバイオプシーの開始と前立腺癌骨転移治療薬のゾーフィゴ（Ra-223）導入が予定されています。筑豊地域の中核病院としての役割を全うすべく地域医療機関との連携を深め、適切な標準治療が提供できる体制を整えていきたいと考えています。

	2021年	2022年	2023年
手術総実施件数	374	328	333
腹腔鏡下腎摘除術	21	15	16
後腹膜鏡下腎尿管全摘除術	8	11	10
ロボット腎部分切除術	6	16	19
ロボット前立腺全摘除術	20	27	21
腹腔鏡下副腎摘除術	5	4	2
TURBT	110	106	104
TUL	77	57	71
SpaceOAR*			12
その他検査・治療			
ESWL（のべ件数）	107	66	68
前立腺生検	138	113	103
透視室処置件数（のべ件数）	517	424	406
尿管ステント挿入・交換	400	308	304
腎瘻挿入・交換	117	116	102

*サイバーナイフ施工前の全マーカーと SpaceOAR 挿入

26. 産婦人科

産婦人科部長 辻岡 寛

少子化は予測を大きく上回る速度で悪化しています。分娩数はもちろん、周産期領域の症例数は減少しているものの、周産期を取り扱う以上は24時間体制での対応が必要となるため、病院経営の視点からは存続が難しい部門です。筑豊地域の周産期センターである当院も分娩数の減少は顕著です。地域の分娩取り扱い施設の集約化は真剣に議論すべき時期に来ているのかもしれませんが。

少子化対策の一環として、産後ケア・子育て支援は重要な国の方策であり、当科としても責任を果たす必要があります。助産師が主体となって産後ケア事業の導入を勧めており、ショートステイ、デイケアはすでに多くの育児支援を必要とする母子に利用していただいています。次年度はアウトリーチ事業にも対応を検討しています。

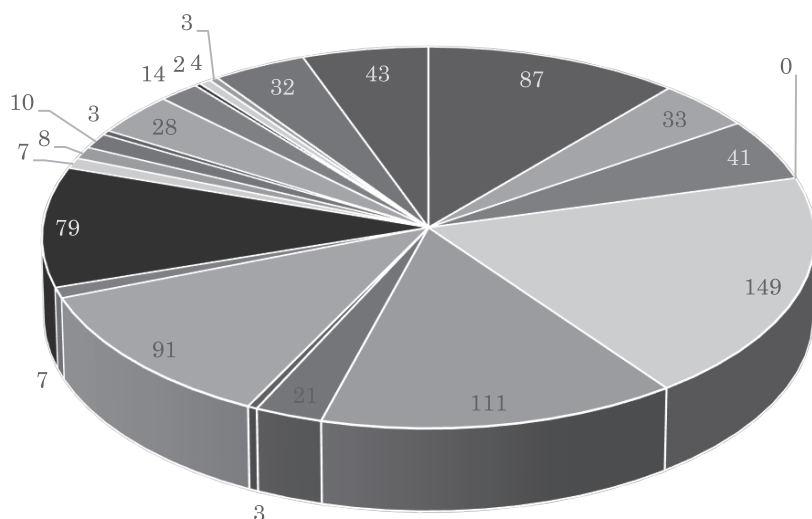
一方で婦人科領域の症例数は堅調に推移しています。特に腹腔鏡手術症例数が多くなり、婦人科悪性腫瘍症例も多い一年でした。手術待機時間が長くなっており、悪性腫瘍症例であっても待ち時間が発生する状況となっており、手術枠の確保が今後の課題と考えています。

婦人科入院統計

疾患	数
子宮頸癌	87
子宮頸部中等度異形成 (CIN2)	33
子宮頸部高度異形成 (CIN3、CIS)	41
子宮頸部上皮内腺癌 (AIS)	0
子宮体癌	149
卵巣癌	111
その他の癌	21
絨毛性疾患	3
子宮筋腫	91
子宮腺筋症	7
卵巣腫瘍	79
子宮内膜症のう胞	7
骨盤内臓器脱	8
異所性妊娠	10
子宮頸管ポリープ	3
子宮内膜ポリープ	28
子宮内膜増殖症	14
月経異常	2
PID	4
STD	3
流産・中絶(妊娠12周末満)	32
その他	43
計	776

- 子宮頸癌
- 子宮頸部中等度異形成 (CIN2)
- 子宮頸部高度異形成 (CIN3、CIS)
- 子宮頸部上皮内腺癌 (AIS)
- 子宮体癌
- 卵巣癌
- その他の癌
- 絨毛性疾患
- 子宮筋腫
- 子宮腺筋症
- 卵巣腫瘍
- 子宮内膜症のう胞
- 骨盤内臓器脱
- 異所性妊娠
- 子宮頸管ポリープ
- 子宮内膜ポリープ
- 子宮内膜増殖症
- 月経異常
- PID
- STD
- 流産・中絶(妊娠12周末満)
- その他

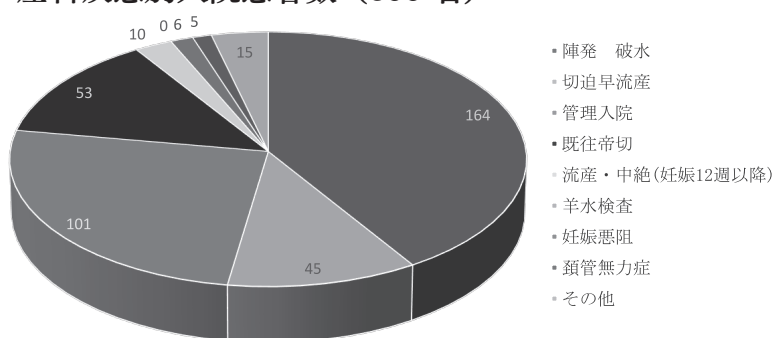
婦人科疾患別入院患者数 (776名)



産科入院統計

疾患	数
陣痛発来 破水	164
切迫流早産	45
管理入院	101
既往帝切後妊娠	53
流産・中絶(妊娠12週以降)	10
羊水検査	0
妊娠悪阻	6
頸管無力症	5
その他	15
計	399

産科疾患別入院患者数 (399名)



産科統計

疾患	数
総分娩数	317
経膈分娩	175
帝王切開	133
多胎妊娠	11
中期分娩	9
早産症例	37
NICU入院	101
母体搬送受け入れ	90
母体搬送依頼	3

産婦人科手術統計

疾患	数
子宮頸癌(広汎子宮全摘術)	8
子宮体癌根治術(開腹)	27
子宮体癌根治術(腹腔鏡)	4
卵巢癌根治術	16
試験開腹	0
腹式単純子宮全摘術(ATH)	51
全腹腔鏡下子宮全摘術(TLH)	52
腔式子宮全摘術(VTH)	4
腹腔鏡補助下腔式子宮全摘術(LAVH)	5
腹式子宮筋腫核出術	6
腹腔鏡下子宮筋腫核出術(LM)	3
腹式付属器手術(付切、核出術含む)	17
腹腔鏡下付属器手術(付切、核出術含む)	61
腔閉鎖術	1
異所性妊娠(開腹)	0
異所性妊娠(腹腔鏡)	9
帝王切開術	133
子宮鏡下切除(子宮筋腫)	8
子宮鏡下切除(子宮内膜ポリープ)	32
子宮鏡下切除(子宮頸管ポリープ)	1
子宮鏡下子宮内膜焼灼術	0
子宮鏡検査	22
LASER蒸散術	13
子宮頸部円錐切除術	62
子宮内容除去術	37
子宮頸管縫縮術	4
その他	21
計	597

婦人科悪性腫瘍統計

疾患	数
子宮頸癌	17
子宮頸部上皮内腫瘍(CIN3・CIS)	48
子宮頸部上皮内腺癌(AIS)	1
子宮体癌(子宮癌肉腫含む)	40
子宮内膜異型増殖症	4
子宮肉腫	1
卵巢癌・腹膜癌・卵管癌	11
卵巢境界悪性腫瘍	3
腹膜癌肉腫	0
腔癌	1
高度腔上皮内腫瘍	0
外陰癌	0
胞状奇胎	2
臨床的侵入奇胎	0
原発不明癌	0
転移性子宮体癌	0
転移性子宮卵巢癌	0
計	128

27. 眼科

眼科部長 中間崇仁

2023年は新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、眼科としては、ある程度コロナ禍以前に近い状況下での診療となりました。引き続き常勤医5名体制で診療しており、年間手術件数は昨年以上となりました。網膜剥離などの眼科救急疾患に関しては、昨年同様迅速な対応が継続出来ている一方で、待機可能手術に関しては、待機期間がさらに長期化しており大きな課題と考えております。

2024年は日帰り白内障手術枠を増やす予定ですので、手術までの待機期間の短縮が徐々に来れると思います。筑豊地区の眼科診療レベルを高めるために、各課題に対する対策を継続していく所存です。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

入院患者疾患別内訳（2023年）

病名	総数	急患	性別		年齢 (平均)	在科日数 (平均)
			男	女		
白内障	314	1	135	179	75.9	3.2
網脈絡膜疾患	134	36	79	55	63.7	6.8
緑内障疾患	123	9	61	62	73.7	6.9
硝子体疾患	30	6	20	10	63.8	7.2
眼内レンズトラブル	22	4	16	6	75	5.4
水晶体疾患	10	2	3	7	73.1	5.4
外傷性疾患	11	0	10	1	57.2	5.4
翼状片	5	0	2	3	82.6	2
角膜疾患	3	2	2	1	73.3	15.7
視神経炎	2	0	1	1	41	13.5
その他	16	0	6	10	53.9	6.1
総計	670	60	335	335	71.5	5.1

手術室での総手術件数 [1122件]

手術（内訳）	件数
水晶体再建術	730
緑内障手術	132
硝子体手術（網膜剥離）	222（49）
その他	38

（重複を含む）

28. 耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科部長 深堀光緒子

2023年度は新型コロナウイルス感染症が落ち着き院内の規制が緩和されたこともあり、通常とほぼ変わらない運営ができました。入院患者数、手術件数ともに昨年より増加し、耳鼻咽喉科領域の入院および手術を担う施設としての働きが出来たのではと感じています。

本年度の特徴は、頭頸部領域の急性感染症で広域抗菌薬やドレナージを要する患者さんが増加したことです。コロナに対する危機感が薄れ基本的な感染予防策の取り組みが低下し、また行動範囲が拡大し他者と接する機会が増加したことも影響したのではと推察します。

当科の新たな取り組みとしては、声帯麻痺や声帯萎縮に対する日帰り手術を開始しました。患者さんの機能改善、QOL改善に努めて参りたいと思います。ただ入院や手術前PCR検査は継続しておりますので、無症状でも直前にコロナ陽性が判明し直前で治療がキャンセルとなることも多く、また手術枠の問題もあり患者さんに対しご迷惑をおかけしたこともあったと思います。引き続き最善の医療が提供できるようスタッフ一同精進して参りたいと思います。

入院患者疾患別内訳（2023年）

病名	総数	急患	手術件数	性別	
				男	女
悪性腫瘍	87	5	53	60	27
悪性リンパ腫	19	0	19	9	10
下咽頭	19	3	6	19	0
中咽頭	14	1	4	10	4
甲状腺	12	0	11	4	8
喉頭	10	1	2	10	0
舌	5	0	3	4	1
唾液腺	3	0	3	2	1
転移性リンパ節	2	0	2	1	1
鼻腔、副鼻腔	2	0	2	1	1
悪性軟部腫瘍	1	0	1	0	1
咽頭・扁桃・喉頭疾患	127	47	76	69	58
慢性扁桃炎	41	0	41	17	24
扁桃周囲膿瘍	30	27	2	18	12
扁桃肥大	28	0	26	19	9
急性扁桃炎	7	7	0	3	4
急性喉頭蓋炎	5	5	0	1	4
扁桃周囲炎	4	4	0	2	2
慢性咽喉頭炎	2	2	0	1	1
その他	10	2	7	8	2
外耳・中耳・内耳疾患	41	1	39	25	16
中耳炎	24	0	24	12	12
中耳真珠腫	13	0	13	10	3
外耳炎	3	1	2	3	0
その他	1	0	0	0	1
口腔・唾液腺・顎	11	3	9	7	4
唾石症	7	0	7	5	2
顎下腺炎	2	2	0	1	1
その他	2	1	2	1	1
神経麻痺	8	2	1	5	3
顔面神経麻痺	8	2	1	5	3
鼻・副鼻腔疾患	50	0	50	35	15
慢性副鼻腔炎	27	0	27	20	7
鼻中隔彎曲症	10	0	10	7	3
副鼻腔真菌症	4	0	4	2	2
嚢胞	4	0	4	2	2
急性副鼻腔炎	3	0	3	2	1
その他	2	0	2	2	0
良性腫瘍	26	0	26	14	12
唾液腺	9	0	9	7	2
咽頭・喉頭	5	0	5	1	4
甲状腺	5	0	5	1	4
鼻腔・副鼻腔	5	0	5	3	2
その他	2	0	2	2	0
その他	57	23	31	31	26
突発性難聴	14	11	0	9	5
皮膚膿瘍	3	2	3	1	2
その他	40	10	28	21	19
総計	407	81	285	246	161

30. 歯科口腔外科

歯科口腔外科部長 石井広太郎

一昨年より注力してきた顎関節治療について、自施設医療圏内の患者を着実に治癒に導きつつ、九州における専門医療機関としての存在を周知すべく、学会や研究会での対外的な活動を活発に行った。特に九州地区病院歯科口腔外科懇話会において当院の顎関節症治療の取り組みを発表し、さらに日本口腔外科学会総会においては、九州の顎関節外科の現状をシンポジウムで発表する機会を得て、全国的に当院の存在をアピールすることができた。治療実績としては、目標とした顎関節内視鏡手術件数に及ばなかったものの、全国で20例目となる人工顎関節全置換術を施行することができ、念願の一貫した顎関節外科手術を達成した年となった。小手術の分野では、2023年3月に導入した顕微鏡を用いて精密に行う歯根端切除手術を全スタッフが習得し、患者および連携歯科のニーズに応えることが可能となった。

2023年 診療実績

手術症例	件数
抜歯（正中埋伏過剰歯、埋伏智歯等）	160
嚢胞（含歯性嚢胞、歯根嚢胞等）	29
外傷	10
良性腫瘍	17
悪性腫瘍	8
炎症（顎骨周囲炎、下顎骨骨髓炎等）	20
骨整形・サイナスリフト	13
インプラント埋入	12
全麻 / 静脈鎮静下歯科治療	16
唾液腺	4
顎関節疾患	6
その他	16
計	311

31. 心臓血管外科

心臓血管外科部長 内田孝之

2023年はコロナ禍からも落ち着きを取り戻しつつある一年でした。当科スタッフは大学からの人員派遣の影響で一減の4人でしたが、手術件数は、経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）22件を含め人工心肺、心臓手術が169件、非開心術、大動脈ステントグラフトまで含めた心臓大血管手術が260件とコロナ以前をも上回る過去最多の症例をご紹介いただき、忙しいながらも充実した日々であったことを感謝しております。

しかしながら一方、当科マンパワー、更にそれ以上に麻酔医不足などの当院の諸問題からお断り、移送せざるを得なかった超緊急大動脈疾患は増加しており、搬送中の状態悪化のリスクを考えると今後に向けた大きな課題を感じた一年でもありました。

2024年からはさらに働き方改革の影響により、超緊急救命治療を要する患者さんへの治療困難ケースは増大する可能性が高いと思われれます。高度急性期病院の使命の一つが高度専門医療による緊急治療体制の充実であることを考えると、今後当科としても、『筑豊の三次救急最後の砦』の一翼を担い続けることが重要です。この点に関しては病院全体に働きかけ最優先で取り組むべき事案とは考えております。

さらに当科での取り組みとして手術技能については、昨年取得した低侵襲心臓術（MICS）実施施設認定を更にレベルアップした指導医取得が目標です。その為に、MICS僧帽弁形成術/置換術、大動脈弁置換術へ積極的に取り組み、更に今年は抗凝固療法抗血小板剤使用困難心房細動症例への脳梗塞予防としての低侵襲胸腔鏡下左心耳閉鎖術も開始しております。

昔も今も、我々の常に変わらぬ大きな目標は、患者さん一人一人に応じたよりよい手術、治療の提供、質の向上です。今年も『選ばれる高度急性期病院』の『選ばれる心臓血管外科』を目指して精進を続ける覚悟です。

2024年も、どうぞ宜しくお願いいたします。

2023年 診療実績

手術症例数

- CABG：45（OPCAB:3）
 - VHD：82（+CABG:16、MICS:10、TAVI:22）
 - TAA：62（+VHD:2、+CABG:3、TEVAR:28）
 - その他の開心術：8
- 心臓＋胸部大動脈手術：197
-
- AAA：63（EVAR:54）、追加治療：8
 - ペースメーカー 新規：108、交換：47、リード：7
 - ICD 新規：12（s-ICD 8例含む）交換：8
 - CRTD 新規：14、CRTP 新規：6、CRT 交換：8
 - その他：82

※下肢血管手術は血管外科に記載

32. 血管外科

血管外科部長 松元 崇

2023年の血管外科では、新型コロナウイルスによる大きな診療制限等なく、手術も例年並みの症例数を維持することができました。

末梢動脈疾患においては、包括的下肢慢性虚血や間欠性跛行の患者さんに対する血行再建（バイパス手術・EVT・ハイブリッド治療）を中心に診療を行っております。

下肢静脈瘤については、血管内レーザー焼灼術を中心として治療を行わせて頂いております。従来のような小切開での瘤切除を行わない瘤焼灼術も導入し、抗凝固療法を受けておられる方でも安全に治療可能となっております。

また、腹部大動脈瘤や末梢動脈瘤の患者さんに対しても診療をさせて頂いております。

外来予約などお待たせすることもありご迷惑をお掛けすることも多いかと思いますが、今後も一層のご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

2023 年診療実績

手術症例数

末梢動脈疾患

バイパス移植術：18、 EVT：14（含むハイブリッド手術3）

動脈血栓内膜摘出術：9、 動脈塞栓除去：7

末梢動脈瘤手術：7、 血管吻合術（ECMO/Impella 抜去含む）：31

静脈疾患

下肢静脈瘤血管内焼灼術：79

腹部大動脈瘤・腸骨動脈瘤（心臓血管外科と重複あり）

人工血管置換：8、 EVAR：54

その他：14

総手術数 241 例

33. 脳神経内科

脳神経内科部長 高瀬敬一郎

飯塚病院脳神経内科は例年脳神経救急疾患が診療の主軸であり、この1年もその傾向は同様です。脳神経内科では入院患者の8割が急患入院です。なかでも最も多いのが脳梗塞で、2023年は約430人が脳梗塞で入院されました。2023年は2022年に比べ60人程度増加に転じました。コロナ過による受診控えの影響が徐々に薄れてきたものと考えています。超急性期血栓溶解療法(t-PA療法)も積極的に行っています。2023年には計14人に行い、患者数はやや少なめでした。また脳神経外科の協力の下、カテーテルを用いた超急性期血栓回収療法も計33人に行い、こちらは増加しています。また脳梗塞、てんかん重積状態、髄膜炎・脳炎などの救急神経疾患以外にも、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、パーキンソン病などの神経変性疾患や、多発性硬化症、重症筋無力症などの神経免疫疾患なども、筑豊地域唯一の神経難病専門病院として、引き続き数多く診療しております。認知症は外来で「物忘れ外来」として診断を中心とした診療をしています。てんかん専門外来や片側顔面けいれん等へのボトックス治療も行っております。

2023年 入院患者内訳

総退院患者数	647 件
急患数	545 件
死亡数	28 件
剖検数	0 件

疾患名	件数	疾患名	件数
脳血管障害	431	多発性硬化症／急性散在性脳脊髄炎	4
脳梗塞	407	重症筋無力症	24
脳出血	1	筋疾患	6
TIA	23	脊髄疾患	6
意識障害	0	脊髄炎	4
脳症	2	頸椎症・腰椎症	2
感染症・炎症	15	脊髄血管障害	0
髄膜炎	12	痙性脊髄麻痺	0
脳炎	3	その他の脊髄症	0
クロイツフェルト・ヤコブ病	0	末梢神経障害	13
神経梅毒	0	てんかん／けいれん	77
変性疾患	36	認知症／健忘症	6
パーキンソン病	14	中毒	1
パーキンソン症候群	3	代謝性疾患	0
脊髄小脳変性症	7	腫瘍性疾患	1
筋萎縮性側索硬化症	8	心因性疾患	1
その他の変性疾患	4	その他	24

34. 漢方診療科

漢方診療科部長 井上博喜

2023年の漢方診療科は、COVID-19の影響による受診患者数の減少が続いていますが、初診患者数は増加してきており回復の兆しが見えてきたと思います。外来では小児の起立性調節障害の患者さんが増えてきました。漢方医学的には、水毒、気逆、血虚、冷えなどに相当し、外来での漢方治療により回復する例も多いですが、難治例では入院による加療も行っています。学生および研修医等の実習も回復してきたため、今後は実習内容の見直しを行っていく予定です。対外的に行ってきた様々な勉強会、研究会はWeb開催に切り替えて継続しているため、これまで近隣地域の先生方が対象であったものが全国から多数のアクセスをいただいております。

2023年診療実績

入院患者疾患別内訳

病名	総数	急患	性別		年齢 (中央値)	在科日数 (中央値)
			男	女		
循環器疾患	6	0	0	6	14	13
起立性調節障害	6	0	0	6	14	13
精神疾患	4	2	2	2	42.5	21
疲労症候群	4	2	2	2	42.5	21
消化器疾患	2	0	1	1	18	24
過敏性腸症候群	2	0	1	1	18	24
神経系疾患	2	1	1	1	47.5	13.5
自律神経系の多系統変性症	1	0	0	1	49	13
疲労症候群（ウイルス感染後）	1	1	1	0	46	14
内分泌・栄養・代謝疾患	1	1	1	0	32	35
副腎皮質不全	1	1	1	0	32	35
皮膚疾患	1	0	0	1	37	20
アトピー性皮膚炎，詳細不明	1	0	0	1	37	20
筋骨格・結合組織疾患	1	1	1	0	36	12
線維筋痛症（部位不明）	1	1	1	0	36	12
その他	3	0	1	2	13	19
COVID-19 後遺症	1	0	0	1	10	18
先天性非新生物性母斑	1	0	0	1	49	19
頭痛	1	0	1	0	13	31
総計	20	5	7	13	20.5	18

35. 救急科

救急科部長 山田哲久

当院は、人口およそ40万人の筑豊地域唯一の三次救急施設です。筑豊地域最後の砦としての役割を担うために、救急科医師（スタッフ・後期研修医・専攻医）が365日24時間救急患者に対応しています。従って、一次二次症例は積極的に受け入れをお断りしています。一次二次医療機関からの紹介や救急隊からの受け入れも、三次症例でなければ基本にお断りしています。当院でなければ受け入れが困難な症例を厳選して受け入れることを目指しています。

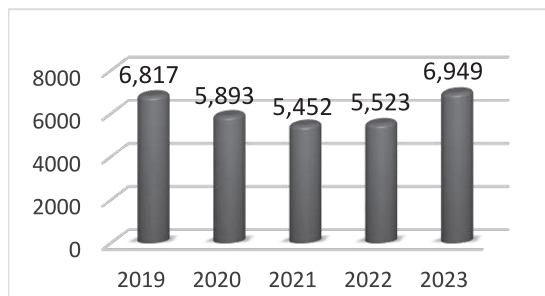
救急科医師は搬送患者の状態を迅速に安定化させ、各専門科医師に引き継ぐ役割を担っております。当科の特色の一つに、病院車運用方式でラピッドレスポンスカーによるドクターカーの運用があります。現場から傷病者に対する診断、処置を開始します。本事業は筑豊地域の救命体制の中心的役割を果たしていると考えています。

教育面では、当院は臨床研修指定病院であり、初期研修医および院外からの後期研修医・専攻医は救急科をローテーションすることを必須としています。救命救急センターでは、救急科医師（スタッフ・後期研修医・専攻医）のバックアップのもと、研修医が初期診療を行います。当院の救命救急センターは、症例数が豊富であり、研修医にとって修練の場として最適な環境となっています。従って初期診療は専門科ではなく研修医が行います。

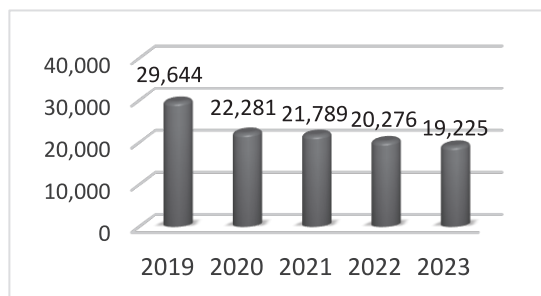
以上、今後も筑豊地域の救急医療に貢献させていただくことが出来たら幸いです。

1) 救命救急センター統計

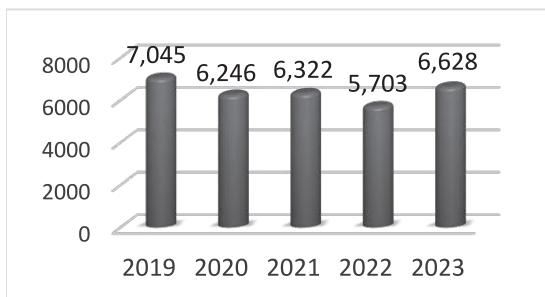
①救急車受入件数推移



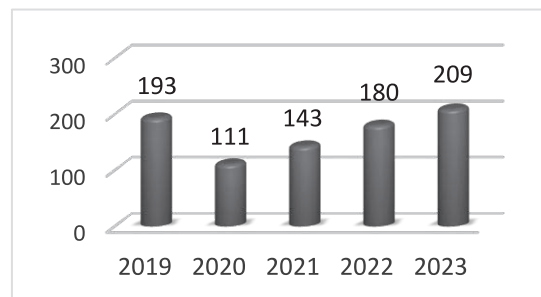
②センター受診患者数推移



③センター経由入院患者数推移（全診療科）



④ドクターカー出動件数



2) 主な症例別件数

・外傷	286例	・脳卒中	484例
AIS ≥ 3	219例	脳梗塞	284例
ISS ≥ 16	103例	くも膜下出血	46例
・CPA	353例	脳出血	154例
救外死亡	282例	・急性冠症候群	265例
入院	69例	心筋梗塞	208例
転医	2例	狭心症	57例
帰宅	0例	・急性大動脈解離	67例
（入院後転帰）		・敗血症	167例
死亡	45例		
帰宅	11例		
転医	11例		
入院中	2例		

36. 集中治療科

集中治療科部長 吉野俊平

12床で構成される集中治療室（以下、ICU）は、集中治療を専門とするスタッフにより院内急変や救急搬送された重症患者に対する集中治療管理、および外科系患者の周術期管理などを行っています。現在、集中治療専門医3名と集中ケア認定看護師1名を含む多職種が、主科と密に連携を取りながらhigh intensity ICU model(すべてのICU患者に対して集中治療医が診療に携わり、他の主治医がいたとしてもその主治医とともに患者さんに対しての責任を共有しているICU)として運営しています。

2023年の入院患者数は653名、疾患別順位は心血管疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、代謝性疾患で、同年の生命維持装置の装着患者は人工呼吸器451名、血液浄化療法156名、経皮的心補助装置67名でした。人事関連では専攻医13名、初期研修医9名がローテイトしてくれました。今後とも診療の質や安全性の更なる向上を目指して努力して参ります。

2023年 ICU入室患者

全入室患者数	653名
平均年齢	71.6 (1～98) 歳

入院経路	
緊急	479名 (73.4%)
予定	174名 (26.6%)

性別	
男性	420名 (64.3%)
女性	233名 (35.7%)

平均在室日数	4.6日
ICU内死亡	42名 (6.4%)

疾患別		
心血管	計	349
	手術後	209
	心停止	56
	心不全	32
	その他	52
呼吸器	計	102
	肺炎	39
	誤嚥性肺炎	24
	手術後	6
	その他	33
消化器	計	78
	手術後	38
	消化管出血	16
	消化器の炎症 / 感染	11
	その他	13
代謝性	計	56
	電解質異常	18
	糖尿病性ケトアシドーシス	12
	薬物中毒	11
	その他	15
敗血症	計	20
	尿路感染症による敗血症性ショック	12
	敗血症性ショック *臓器分類不明	8

外傷	計	17
	手術後	5
	頭部を含まない外傷	4
	頭部を含む外傷	4
神経系	熱傷	4
	計	13
	てんかん / 痙攣	8
泌尿生殖器	その他	5
	計	3
	手術後	1
産婦人科	その他	2
	計	1
筋骨皮膚	妊娠関連疾患	1
	計	13
	蜂窩織炎 / 軟部組織感染症	4
	手術後	3
血液疾患	その他	6
	計	1
	血液関連疾患	1

37. 形成外科

形成外科部長 井野 康

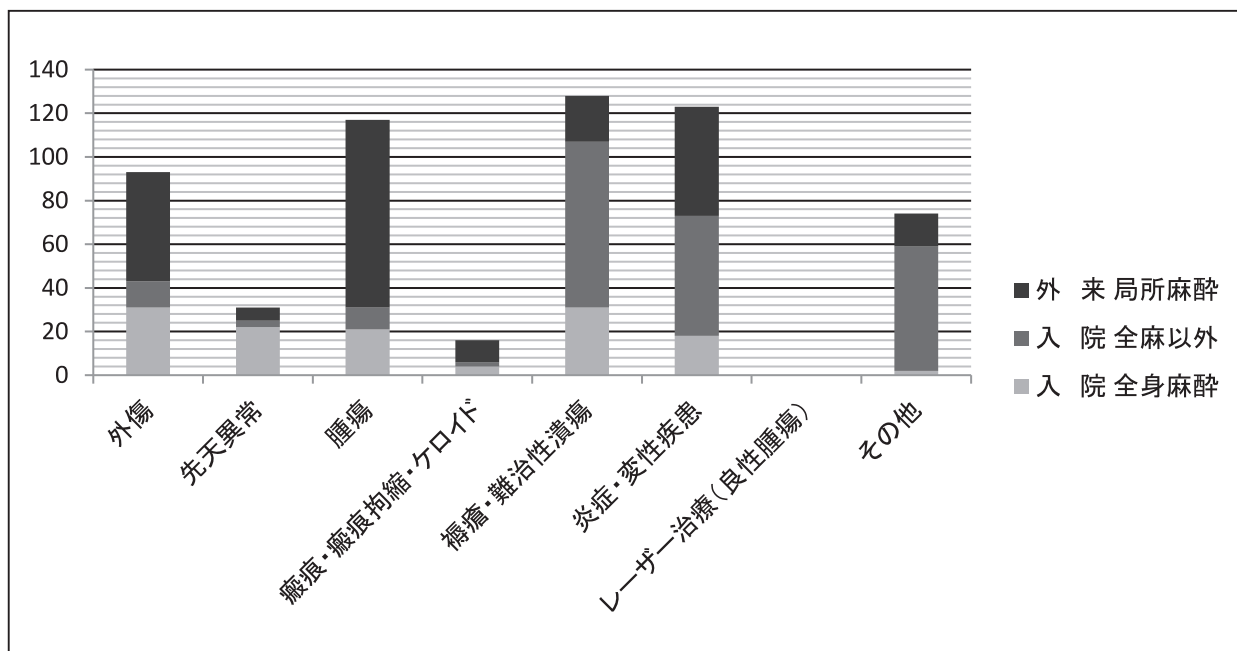
現在、飯塚病院形成外科は井野康、中村薫乃の常勤2名で診療を行っております。

顔面骨骨折などの外傷や皮膚腫瘍、難治性潰瘍などを主体に診療を行っております。また、きず・きずあとの治療を担う診療科としての活動を促進しております。また、眼瞼下垂症の患者さんなどの日帰り手術や、糖尿病足病変を始めとして、重症下肢虚血に対しては、総合診療科、血管外科や循環器内科、内分泌・糖尿病内科、腎臓内科、リハビリテーション科と連携した診療を行い、頭頸部腫瘍では、耳鼻咽喉科と連携した頭頸部再建手術などのチーム医療を積極的に行っております。

今後も筑豊地区の基幹病院に所属する一員として、より一層充実した医療を地域の皆様に、ご提供できればと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

2023年 手術件数内訳（2023年1月1日～2023年12月31日）

区 分	入院		外来		計
	全身麻酔	全麻以外	全身麻酔	局所麻酔	
外傷	31	12		50	93
先天異常	22	3		6	31
腫瘍	21	10		86	117
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	4	2		10	16
褥瘡・難治性潰瘍	31	76		21	128
炎症・変性疾患	18	55		50	123
レーザー治療（良性腫瘍）					0
その他	2	57		15	74
合計	129	215	0	238	582



38. リハビリテーション科

リハビリテーション科部長 山下智弘

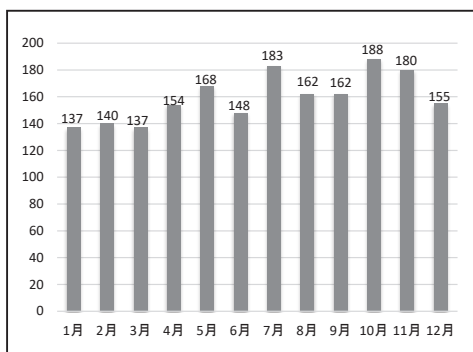
2023年は、脳卒中後遺症による上下肢痙縮患者に対するボツリヌス療法+集中的リハビリテーション治療の治療効果、患者満足度を上げることができました。

従来から取り組んでいる呼吸器外科、乳腺外科、肝臓外科の周術期リハビリテーションは継続して行う事ができました。特に乳腺外科では、続発性リンパ浮腫に対し早期発見・早期ドレナージ指導・治療により、患者さんの仕事復帰の一助となりました。また、呼吸器外科ではロボット支援手術が導入され、患者さんへの手術侵襲の低減により術後の早期離床が全ての患者さんで均一となりました。侵襲の低減によりリハビリテーションも順調に進み、入院期間の短縮に繋がっています。

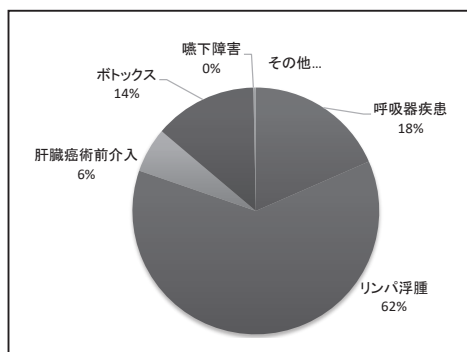
2024年もこれまでの取り組みの継続、コロナ禍で希薄化した地域連携を強化することに重点を置くこととします。

診療実績（2023年1月～12月）

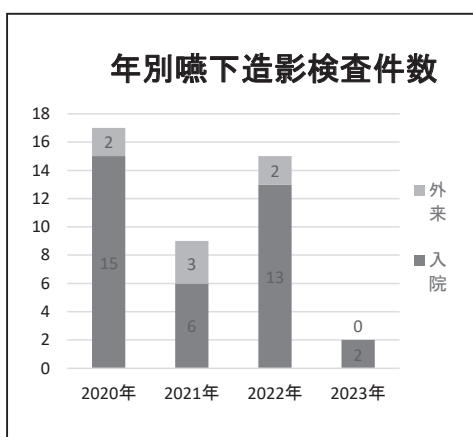
1) 月別延べ患者数



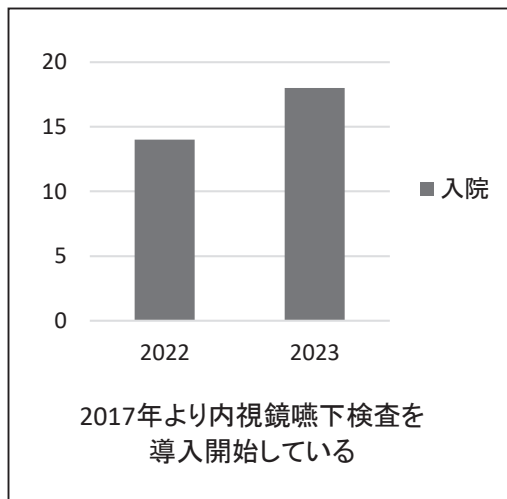
2) 年間外来患者疾患別内訳



3) VF 実施件数（リハ医担当分のみ）



4) 嚥下内視鏡検査数



39. 麻酔科

麻酔科部長 尾崎実展

2023年度、麻酔科常勤医は麻酔科専門医4名と麻酔科専攻医2名、歯科麻酔専門医1名の7人体制でのスタートとなりました。コロナ禍の嵐が終息に向かうにつれて手術症例数も戻りつつあり、スタッフの献身的な働きと、非常勤応援医師・集中治療部応援医師や研修医の力を借りて、日勤帯予定麻酔業務にはかろうじて対応出来ていますが、急患（特に準夜帯）への対応や院内待機業務は限界を超えており、急患受け入れをお断りせざるを得ない場面が幾度となく見られ、常勤麻酔科医および手術室スタッフの確保が最重要課題であることに変わりありません。マンパワー不足が常態化している中、緩和ケア科医師の協力をいただき、術後疼痛管理チームによる術後回診を拡充しました。術前診察業務の効率化を目指し、麻酔の説明動画を作成し麻酔科外来診療に導入中で、今後、病棟を含む全症例に展開する予定です。

1) 麻酔方法

2023年度の麻酔科管理症例数は4,412例で、2022年の4,035例と比べ377例の増加となりました。日本麻酔科学会の分類法に基づく麻酔方法の内訳は次の通りです。

麻酔法	2023年	2022年	2021年
全身麻酔（吸入麻酔）	2,557例（57.9%）	（46.8%）	（42.2%）
全身麻酔（静脈麻酔）	563例（12.8%）	（9.9%）	（9%）
全身麻酔（吸入＋硬膜・脊椎・伝達）	763例（17.3%）	（27.6%）	（32.2%）
全身麻酔（静脈＋硬膜・脊椎・伝達）	72例（1.6%）	（1.9%）	（2.1%）
脊椎＋硬膜外	335例（7.6%）	（10.7%）	（10.6%）
硬膜外麻酔	4例（0.09%）	（0.05%）	（0.1%）
脊椎麻酔	86例（1.9%）	（1.8%）	（2.1%）
伝達麻酔	11例（0.2%）	（0.3%）	（0.5%）
その他	21例（0.5%）	（0.8%）	（0.9%）

2023年の例数と（ ）内に比率を示します。2022、2021年分は比率だけ示します。昨年同様、全身麻酔単独での麻酔管理が増加しています。腹腔鏡や胸腔鏡を用いた手術の低侵襲化の進行と周術期抗凝固療法の普及に伴うものと思われまます。

2) 手術症例の年齢分布

年齢分布（学会による分類法に基づく）は次のようになっています。

年齢区分	2023年	2022年	2021年
～1ヶ月	0例（0%）	（0.02%）	（0.02%）
～12ヶ月	12例（0.27%）	（0.39%）	（0.49%）
～5歳	92例（2.0%）	（2.0%）	（2.5%）
～18歳	229例（5.2%）	（5.6%）	（5.2%）
～65歳	1,711例（38.8%）	（39.8%）	（40.7%）
～85歳	2,095例（47.5%）	（45.3%）	（44.3%）
86歳以上	273例（6.2%）	（6.8%）	（6.9%）

2020年度に65歳以上の高齢患者さんが全体の50%を超えましたが、この傾向はさらに進行し2023年度はおおよそ54%となりました

3) 偶発症

麻酔学会の定義する偶発症とは、原因（麻酔、手術、患者さんの病態による理由）の如何を問わず、手術中に起きた危機的状態とされます。偶発症は1. 危機的偶発症 2. 神経系偶発症 3. その他の神経系偶発症 4. その他と4つに分類されています。

2023年に当院で報告した偶発症は3例です。その内訳は

分類	2023年	2022年	2021年
1. 危機的偶発症			
心停止	2例 (0.05)	(7.4)	(0)
高度低血圧	1例 (0.02)	(7.4)	(2.2)
高度低酸素血症	0例 (0)	(2.4)	(6.7)
高度不整脈	0例 (0)	(0)	(2.2)
その他	0例 (0)	(0)	(0)
2. 神経学的偶発症	0例 (0)	(2.4)	(2.2)
3. その他の神経学的偶発症	0例 (0)	(4.9)	(0)
4. その他	0例 (0)	(0)	(0)
合計	3例 (0.07)	(24.5)	(13.3)

() は1万人当たりの発生人数を示しています。つまり、偶発症発合計は1万人あたり0.07人となります。

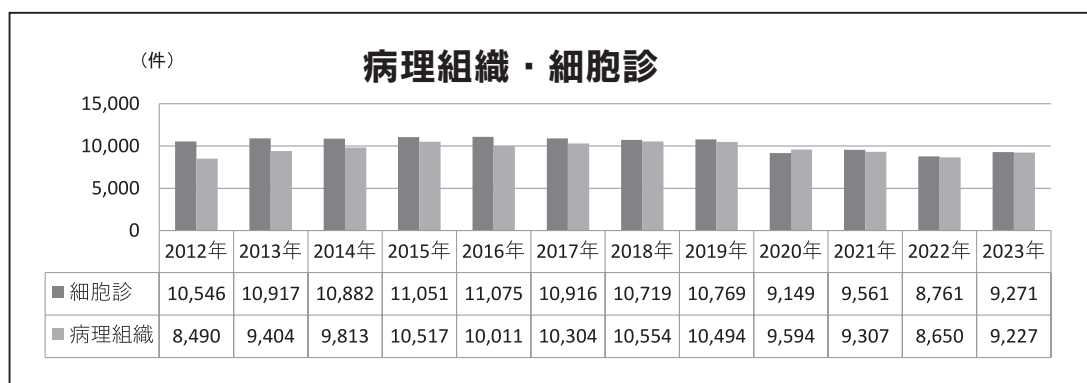
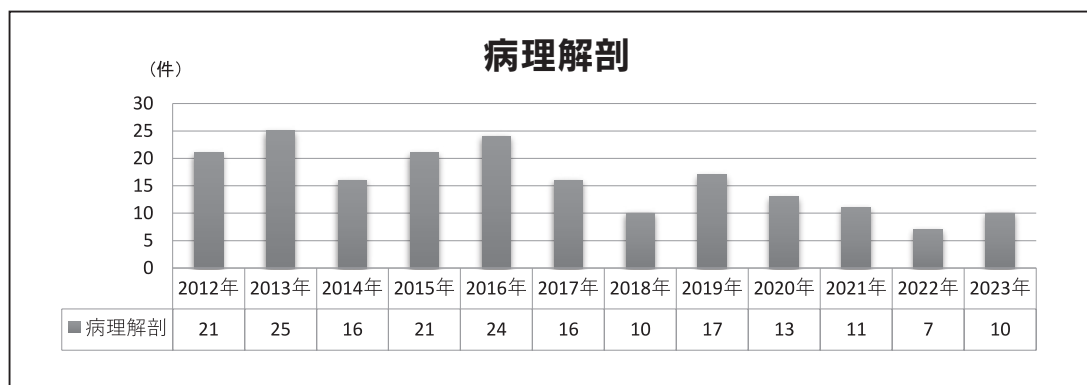
40. 病理科

病理科部長 大石善丈

大石善丈、平木由佳医師、宮崎佳子医師、増本陽介医師の4人体制で生検、組織診、術中迅速診断、細胞診、病理解剖、CPC等のカンファランスに対応した。10月からは久保山雄介医師が加わった。九州大学病理学教室員や、福岡山王病院の大屋前部長に週1回ずつ診断応援をいただいた。血液疾患はこれまで同様、久留米大学病理学教室の大島教授に御高診いただいた。病理組織診、細胞診の総数はそれぞれ約9,200件に達した。

< 2023年中央検査部病理 診療業績 >

1. 病理組織診断 9,227件 (特染 2,341件、免疫染色 1,795件)
(癌 1,985件 悪性疑い 888件 肉腫 5件
リンパ腫 174件 黒色腫 5件)
2. 術中迅速診断 459件
3. 細胞診 9,271件
4. 遺伝子診断 18件
ISH法によるEBER-1の解析
(検体は胃切除標本など)
5. 血球細胞機能検査 580件
(フローサイトメリーによる造血器腫瘍の診断など)
検体は末梢血、骨髄、リンパ節等の新鮮材料
6. 腎生検 37件
7. 蛍光抗体検査 74件
8. 剖検 10件



41. 感染症科

感染症科部長 沖中友秀

2019年4月に開設された感染症科は、病棟業務において、①感染症コンサルテーション、②血液培養陽性患者のフォローアップ、③抗菌薬適正使用支援を重点的に行っています。2019年7月には、ワクチン・トラベル外来を開設しました。この完全予約制の専門外来では、海外渡航前の予防接種や感染症予防のアドバイスを提供しており、地域社会の健康維持に貢献しています。2023年も引き続き新型コロナウイルス変異株の監視と公衆衛生対策強化に重点を置き、新型コロナウイルス感染症に関する院内の診療・感染対策を行うとともに、筑豊地域を含む県内の医療機関や介護・福祉施設への支援を行いました。また、専門家としての役割を果たし、治験にも積極的に取り組んでいます。

外来延べ患者数：2,007名

自由診療	1,638	保険診療	346	針刺し	15
新規	680	新規	102	新規	8
再診	958	再診	244	再診	7

治験	8
新規	2
再診	6

抗菌薬適正使用支援	235	血液培養	1,099
-----------	-----	------	-------

1) 入院患者疾患別内訳

病名	計
総計	0

※ 2023年入院患者は0名

2) 新規外来患者（保険診療）疾患別内訳

病名	計
ワクチン接種（保険適応）	27
性感染症	19
その他（非感染症）	16
その他感染症	11
呼吸器感染症	10
骨関節感染症	8
腸管感染症	4
皮膚軟部組織感染症	4
耳鼻科感染症	2
抗酸菌感染症	1
総計	102

3) 感染症コンサルト疾患別内訳

病名	計
呼吸器感染症	182
敗血症	76
骨・関節感染症	51
皮膚軟部組織感染症	41
尿路感染症	38
腸管感染症	35
その他（非感染症）	35
腹腔内感染症	30
感染性心内膜炎	26
肝・胆道系感染症	22
中枢神経系感染症	15
その他感染症	13
耳鼻科感染症	8
性器・性感染症	3
眼感染症	1
総計	576

42. 予防医学センター

予防医学センター長 矢野博美

2023年は、予防医学本部長 本村健太医師（副院長、肝臓内科部長）、予防医学センター長 矢野博美（漢方診療科診療部長）、保健師3名、看護師6名、事務4名、パート事務1名、DS 1名に2023年5月よりマネージャーが1名就任しました。他に看護師1名が育休を取得しています。

5月より新型コロナウイルス感染症が5類感染症となり、内視鏡検査では鎮静なしの鼻腔からの検査を再開しました。また消化器内科医のマンパワー不足を連携医療・緩和ケア科の先生方にご協力いただき、内視鏡検査数維持に努めました。受診環境の確保に努め、運用した結果、受診者数（前年より116人増）、売上（前年より530万円増）となり、ともに前年より微増しました。関係診療科、部署より多大なるご協力をいただいた結果です。大変感謝しております。

2021年よりメニューに追加した膵臓がんドックは、2023年は75件でした。前年と比較すると10件程度増加しています。受診者のニーズはあるものの内視鏡検査枠が減少したため、膵臓がんドック実施件数に制限をかけていることが、伸びない理由と考えています。

今後も受診者からの声に耳を傾けながら、地域の皆様や受診者の方々の健康管理の一翼を担えますよう、スタッフ一同これからも努力して参ります。

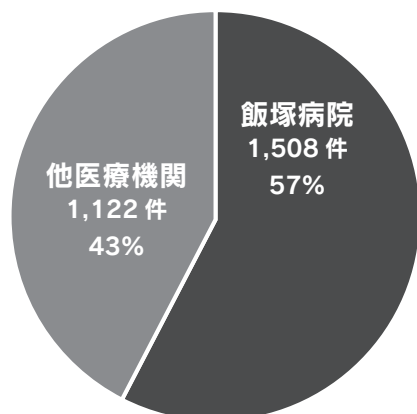
1) 受診者数（人）

健診区分	受診者数
日帰りドック	2,785
全国健康保険協会	1,452
健診（企業）	1,649
特定健診	462
レディースドック	475
乳がんドック	450
脳ドック	242
婦人検診	244
健診（個人）	96
消化器がんドック	72
膵臓がんドック	75
がんPET 検診	53
婦人検診（協会けんぽ）	42
心臓・肺がんドック	17
大腸がんドック	13
漢方いきいきドック	2
被爆検診	8
胃検診	7
計	8,144

2) 紹介状発行件数（件）

紹介目的	総件数
上部消化管内視鏡	562
眼科疾患	259
婦人科	207
上部消化管 X 線	182
便検査	175
心電図	168
乳腺	158
腹部超音波検査	128
肝機能異常	124
脂質異常	82
診察異常所見	81
胸部 X 線	79
糖尿病	71
高血圧	66
貧血	52
尿検査	48
腫瘍マーカー	21
高尿酸血症	11
腎機能異常	10
耳鼻咽喉疾患	9
睡眠時無呼吸	7
MR 検査（脳ドック）	5
PET-CT 検査	5
漢方適応症状	5
下部内視鏡	3
ピロリ・除菌治療	2
動脈硬化	1
その他	107
計	2,628

3) 紹介状依頼先



43. 看護部門

看護部門長 森山由香

日本での新型コロナウイルス感染症の発生から約3年が経過しました。2023年の5月より感染法上5類へ移行し、各方面では平常の生活が戻りつつありますが、看護職をはじめ医療従事者の皆さまは、立ち止まる間もなく感染者の対応等にご尽力いただきました。心からの敬意と感謝を申し上げます。

この3年余り、看護職の大きな変化のうねりに対応していくことは非常にストレス負荷が高く大変ですが、それと同時にこれまでの『知』を残していくことが大切だと考えています。このコロナ禍で培った『知』のひとつに、どこまで自分たちで頑張っただけで対応し、どこから助けてもらうのか、という意思決定の基準を平時から決めておくということがあります。看護管理者にとって、自分たちだけで頑張ろうとしない、というメッセージを発信することも大切な役割だとコロナ禍を通じて感じています。

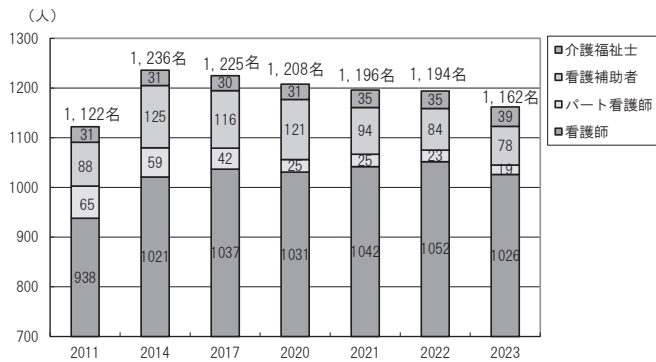
さて、そのような大きな変化を迎えた年ですが、看護部内でも新たな動きがみられました。看護部は、DX推進担当を1名配置（2022年7月より）し、現場の革新に向けて大きな一歩を踏み出しました。

この一年間、DX推進担当の活動は、現場業務のサポートと新たな取り組みの模索を目指しました。主な取り組みとして、AI（Artificial Intelligence）を用いた看護支援ツールの開発に着手しました。このツールは、看護師の担当患者決定を支援し、患者ケアの質向上と看護師の業務負担軽減を目的としており、現在も開発が進行中です。他に、VR（Virtual Reality）やメタバースの採用を検討し、新しい技術を活用した看護教育や案内サービスへの応用の可能性を探りました。現場業務のサポートにおいては、日常のパソコン操作のサポートを支援し、業務の効率化を図りました。さらに、配布物や掲示物、動画製作はアウトソースから内製化にシフトし、情報共有を効果的に行い、コスト削減を実現しました。DX推進は進行中であり、医療現場でのデジタル技術の更なる活用を目指しています。

また、2023年3月に飯塚病院特定行為研修第1期生を無事輩出、翌4月には第2期生を迎え、現在、順調に履修が進んでいます。今年一番のトピックスは特定行為研修中を含め、3つの委員会を設立し、無事この4月より稼働開始したことです。3つの委員会は業務を開始するにあたって、特定行為活動の場をいかに整備するかという課題と対峙する為のものです。中でも特定行為業務部会では、この一年で手順書の標準化、特定行為看護師対象の指示出し・受けならびに電子カルテのシステム化を構築中です。加えて某大学研究室との協同で特定行為看護師の力量管理にも着手しています。試用までにはまだ時間がかかると思いますが、その後も精査を続けて特定行為看護師の皆様が自信をもって活動できるような環境の提供に尽力していく所存です。「特定行為研修に終わらず、履修後の教育も含めた活動環境が重要である」と言い続けてきましたが、この一年間を振り返り、まさにその熱い思いが形になっていく様子を再考する時、改めて関係諸氏の皆様方のご理解・ご尽力への感謝の一言に尽きます。今後も邁進あるのみです。

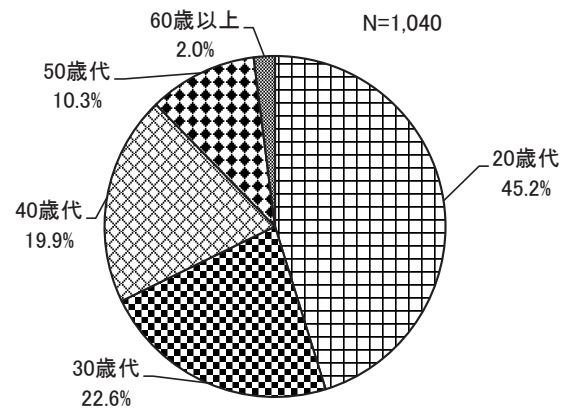
アフターコロナ下の日本は、これまでとは違う価値観で働き方や生き方を変える時代となるのかもしれない。さらに、DXが推進され、医療サービスの提供のカタチも変化していきます。看護職が働く環境も大きく変化（新化）していく節目となりそうです。これからも、セル看護提供方式[®]や看護ナビコンテンツなどを更にブラッシュアップさせ、看護の現場で、一日の終わりに「今日も、やりたい看護ができてよかった、まごころケアが提供できてよかった」と感じてもらえる環境をつくっていきたいと思います。

看護スタッフ数 (2023年4月30日現在)



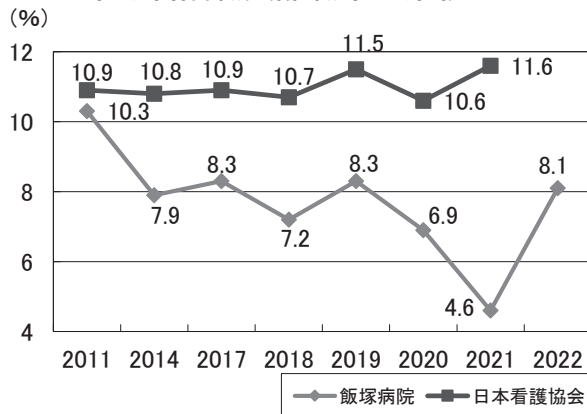
* データ：看護部長室「月間看護職員動向」より
産休育休者含む、退職者・出向者除く
2021年より中央材料室除く

看護師の年齢構成 (2023年4月30日現在)



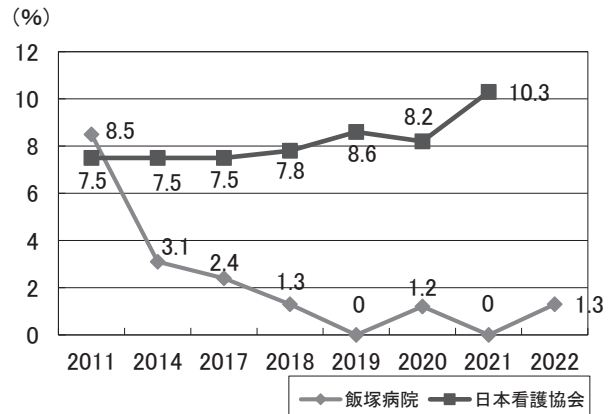
* 産休・育休：常に60名前後
* 看護師平均年齢：34.2才
* 勤続年数：10.3年

常勤看護職員離職率の推移



※定年退職含む (パートを除く)

新人看護職員離職率の推移



専門・特定認定・認定・特定行為看護師 資格取得者数 (2023年12月31日現在)

【認定看護管理者】 4名

専門分野	人数
認定看護管理者	4

【専門看護師】 4名

専門分野	人数
慢性疾患看護専門看護師	1
精神看護専門看護師	2
急性・重症患者看護専門看護師	1

【特定認定看護師】 2名

専門分野	人数
脳卒中看護特定認定看護師	1
感染管理特定認定看護師	1

【特定行為看護師】 7名

特定行為区分	人数
術中麻酔管理領域 (6区分8行為)	5
集中治療領域 (5区分14行為)	1
救急領域 (5区分9行為)	1

【認定看護師】 23名

専門分野	人数
集中ケア認定看護師	2
感染管理認定看護師	2
皮膚・排泄ケア認定看護師	3
糖尿病看護認定看護師	1
救急看護認定看護師	1
乳がん看護認定看護師	1
摂食・嚥下障害看護認定看護師	1
緩和ケア認定看護師	4
慢性呼吸器疾患看護認定看護師	1
小児救急看護認定看護師	1
がん化学療法看護認定看護師	2
慢性心不全看護認定看護師	1
認知症看護認定看護師	1
透析看護認定看護師	1
手術看護認定看護師	1

【WOCN】 1名 (海外で取得)

専門分野	人数
WOCN	1

44. 医療技術部門

医療技術部門長 井本俊之

医療技術部門は、2023年度 救急救命室が加わり、薬剤部、中央放射線部、臨床工学部、リハビリテーション部、栄養部、中央検査部、医療福祉室、歯科衛生室、臨床心理室の10部署で構成され、所属するスタッフ数は600名以上となった。

事業目標としては、①働き方改革の実現の為、他職種からのタスクシフトを中心に検討・実施、②専門医療・質と安全・地域連携・人材力・健全経営の視点を中心とした、中長期計画達成のための取り組み実施、③EK活動の推進の3項目について取り組んだ。

2023年度は医療技術部門の新しい取り組みとして各部署より代表者を選出し、医療DXの視点で課題を抽出した。その中で物品管理業務を一部デジタル化することにまず取り組んだ。新型コロナウイルス感染症は5月に5類感染症へと移行したが、業務中のマスクの着用、手指消毒、病院内での食事の感染対策は継続して実施した。

なお、各部署の活動については概略を下記に示す。

【中央放射線部】2023年は放射線治療に関してタスクシフトの推進を行った。医師の治療計画業務の一部を診療放射線技師が担うことで、医師の労働時間の短縮や、負担軽減につながり、結果として放射線治療の待ち日数の短縮や、多くの新規患者への放射線治療に貢献できたと考える。現在、全治療計画に対して技師が放射線治療計画を作成している割合は17%程である。今後も技師が作成可能な対象となる治療計画の拡充、治療スタッフの人材教育を継続して行いタスクシフトを推進していく予定である。放射線機器に関しては3月にX線骨密度測定装置を更新、検査枠を増加し診療科へのニーズに応えた。11月には泌尿器・婦人科用X線透視診断装置を更新、透視画像の視認性が向上、加えて検査・治療による患者・術者の被ばく線量も50%程低減した。また、知識・技術向上を目指し以下6名が認定資格を取得し実業務へと反映した。第1種放射線取扱主任者（稲栴大樹）・放射線治療品質管理士（若杉拓矢）・日本乳がん検診精度管理中央機構技術試験認定合格4名（魚本葵・栗田美波・原比奈子・大神雛子）

【臨床工学部】2023年は昨年に続き「医師の働き方改革の実現」を事業目標に挙げ、医師の業務負担軽減に取り組んだ。腎臓内科医が行っている「PTA前シャント血流量測定」を一部技師で実施した。技師による実施件数は全測定件数470件中256件（54.4%）であった。昨年の実績（412件中147件35.6%）から件数、割合ともに大幅に増加し医師の負担軽減に繋がった。さらに消化器内科・循環器内科・心臓血管外科においても医師のタスクシフトを推進していくため「消化器カプセル内視鏡一次読影業務」や「ペースメーカー遠隔モニタリング解析業務」に対応できる技師の育成に注力した。また臨床工学部主催での院外向け講演会を2件開催した。人工呼吸器の安全使用を目的に「第3回医療機器安全管理勉強会」、高気圧酸素治療の有効性を近隣医師に広く発信することを目的に「第6回高気圧素治療講演会in筑豊」をそれぞれ開催した。

【リハビリテーション部】2023年は食道癌の患者に対して他職種（外科・リハビリ部・栄養部・薬剤部・歯科口腔外科等）で化学療法前より介入し、入院中・退院後1年間フォローする診療体制の構築を行った。理学療法士は身体機能や呼吸機能の評価・訓練、言語聴覚士は嚥下機能評価を行い、術前術後のリハ介入効果の確認を行い、退院後は術前までの体力・ADLの向上・維持目的にフォロー体制を整えた。その他の取り組みとして、認定理学療法士臨床認定カリキュラムの養成機関の登録を呼吸分野に加えて、循環器、運動器の分野でも、施設認定を受けた。2023年12月までに、全国より73名の研修受け入れを行い、受講者より好評を得た。現在、作業療法分野では、1名の作業療法士が認定を受けた。

【栄養部】2023年は食材の値上がりに対し流動食の適正使用や、単価の高い食材、使用頻度の高い食材をピックアップし、食材費が削減できる献立の立案を行い、2024年より変更後の献立で食事の提供を予定している。給食部門では、人員不足が深刻化しているため、管理栄養士も加わり作業工程の見直し（別調理の中止や各担当業務の整理など）を行い、業務はもちろん教育もスムーズに進むよう業務の標準化を行っている。また、2022年からの継続事案である栄養スクリーニングの自動化については、稼働している一部の病棟で、その内容が一覧表で閲覧でき、カンファレンス等で活用している。今後は全病棟に水平展開を予定している。更にその一覧表に医師が必要な情報を追加し、医師が効率良く診療できる仕組みの構築にも取り組んでいる。

【薬剤部】 医師の働き方改革を念頭に、医師からのタスクシフトや本来の業務の維持、向上のための体制改革を目標として取り組んだ。タスクシフトについては薬剤師の職能を活かし、医師の負担軽減に繋がるよう事前合意のプロトコル等を提案していく予定である。部内の体制改革として、病棟の薬剤師の配置等を見直すなど診療報酬の算定件数を維持、向上させるための仕組み作りを進めた。一方で、2023年は医薬品の供給不安が非常に顕著となり、日本の医薬品の安定供給『神話』は完全に崩壊した年であった。鎮咳薬や抗菌薬等の処方が危機的状況に陥り、採用薬のうち供給に問題が発生した医薬品は200品目を超えていた。製薬メーカーや卸業者を交え医薬品確保に奔走する日々を過ごし強い疲弊感を感じる年となった。

【中央検査部】 5月より技師長・副技師長の管理職2人が新任となり、新体制でのスタートを切った。同時に、5月からは新型コロナウイルス感染症が5類へと移行したことで、検査体制も大きく変化し、PCR検査件数は激減することとなった。今後、PCR検査装置を有効に活用すべく、新たな感染症系の遺伝子検査項目を導入し、更に現在はがん遺伝子検査の新規導入を視野に活動中であるが、波及効果として専門資格である遺伝子分析科学認定士を1名取得することができた。また、生理検査においては技師が積極的に病棟へ出向くポータブル検査を推進し、ベッド搬送における病棟のタスクを軽減させる活動に取り組んだ。今後も検査技師にタスクシフトできる業務を引き続き検討していきたい。その他、学生実習の教育はもちろん、他病院からの実習も積極的に受け入れ、筑豊地域における検査業務の技術・知識のベースアップに大いに貢献することができた1年であった。

【医療福祉室】 2023年は事業目標として、急性期治療が終了した患者が速やかに紹介元へ退院できる仕組み作り、ICTを活用した地域連携の促進(「こまめる」導入施設の拡大)、身寄りが無い患者の治療同意・金銭管理・死亡時の支援体制整備の3項目に取り組んだ。院内連携ではDr2goを退院支援で導入し、コミュニケーションを円滑にする仕組み作りを行った。院外連携では、転院相談で「こまめる」を新たに5施設に導入し、全14施設まで拡充した。約6割は「こまめる」で転院相談を行っている。年々増加する身寄りが無い患者への対応を進めるため、当院の現状把握やガイドラインとの照合など対策を講じた。また、医療福祉室のICTへの取り組みを積極的に発表した。

【歯科衛生室】 2023年は認定歯科衛生士の専門性を活かし新たな取り組みを実施した。日本歯科衛生士会認定歯科衛生士「糖尿病予防指導歯科衛生士」を輩出し、歯科衛生士が担当する糖尿病教室の患者満足度を調査し内容の再検討、歯周病管理の必要性を早い段階で(教育入院前)提供する仕組み作りを行いその取り組みを学術報告した。また歯科口腔外科にて手術を受けた舌がん患者の早期経口摂取再開に向けリハビリを導入するため摂食嚥下リハビリテーション認定歯科衛生士が中心となりプロセスの標準化、スタッフ教育を行い歯科衛生士による摂食機能訓練を開始した。

【臨床心理室】 2023年は臨床心理室スタッフルーム及び面接室の移転に始まり、新しい環境での業務となった。精神科リエゾンチームでの活動を再開し、従来行っていた新患の情報収集に加え、診察や回診への同行、チームカンファレンスの記録等タスクシフトを進め、チームの診療や活動が円滑に行われるように努めた。さらに、小児科との症例カンファレンスや部署内ケースカンファレンスの再開、リエゾン精神科や連携・緩和科との合同カンファレンスの実施など、各診療科との症例検討や対話を丁寧に行った1年であった。また、超高齢化社会に向け認知機能検査の需要増に備え、リハビリテーション部・中央検査部と共に検査結果を有効活用できるよう、情報システム室と検査結果データベースのシステム整備を進めた。

【救急救命室】 救急救命室は2023年4月に、10番目の医療技術部門として開設した。前身は2010年9月に救急外来に配属された1名のER-Aideからであった。2016年には最も多い28名のER-Aideが勤務していたが、2022年の救急救命士法改正に合わせて、既存のER-Aideを救急救命士のための18名構成とした。2022年の法改正では従来認められていなかった、医療機関内での入院前医療行為の一部を救急救命士が実施できるようになり、救急外来の医師・看護師とのタスクシフトも実施するようになった。特に今年度は、救急患者のスムーズな受け入れのため、ホールディングルームでの患者観察を担当することで、大きな貢献をあげている。他にもドクターカーでの出動、救急搬送、物品管理などの業務を行っている。また、医療機関間連携に必要な患者搬送業務については、次年度の診療報酬改定の話題にもなっており、今後も救急救命室が当院の運営に貢献できるように研鑽して行きたい。

45. 経営管理部門

経営管理部門 特任副院長 岩佐紀輝

2024年4月1日から、医師について、労働基準法による時間外労働の上限規制の適用が開始されます。2023年はその対策最終年となりました。「医師の働き方改革推進チーム」を中心に、事業計画の重点課題として、病院全体での取り組みが進む中、事務局として、必要な対策、手続きに遺漏なきよう努めました。福岡県においては、医師が、年960時間を超える時間外労働・休日労働に従事する場合、医療機関は、「医療機関勤務評価センター」の評価を受け、「特定労務管理対象機関」に指定される必要があります。飯塚病院にも12月22日付で県の指定通知が届きました。

医師の働き方改革に並行して、経営管理部事務系職員の働き方の改革にも力を入れています。事務系職員の多くが定型業務に追われ、部全体としての生産性が上がっているとは言い難い現状があります。定型業務を効率化し、病院全体の働き方改革や、付加価値を生む活動に取り組んでいきたいという思いがあります。毎日の業務を作業化せず、「自分がやっている仕事を自律的に改善すること」を日常の中で行うため、EK活動（Every Day Kaizen）として取り組みました。

その武器のひとつとなるのがDXの推進です。中でも、2023年は、生成AIが、社会のあらゆる分野で、飛躍的な進歩を遂げたエポックメイキングな一年となりました。医療の分野でも、この生成AIが大きな力を発揮するようになるまで、さほど時間はかからないと思われれます。生成AIを含む医療DXを進めていきたいと考え、経営管理部内にDX推進室を設置しました。

エネルギーを含む円安による輸入品価格の上昇を前提に、価格転嫁と賃上げによる経済の好循環が政策目標となっています。国内900万人が従事する医療業界も賃上げと無縁であることはできません。労働組合と協議を重ね、例年の定期昇給のほかに、処遇改善手当の支給という形で、賃上げ（ベースアップ）を実施しました。

5月8日をもって、新型コロナウイルス感染症は、感染法上、2類相当から5類に移行され、2020年から足かけ4年に及ぶ行政による緊急的な対応に、ひとまず終止符がうたれました。この間、飯塚病院の経営を間接的に支えてきた国による病床確保料の制度も、移行期間を経て終了し、飯塚病院のポストコロナにおける経営の自立が強く求められています。

「新棟に向けたアフターコロナの経営戦略第2版」（2022年12月経営会議承認）に掲げた8つの重点項目に取り組みしましたが、進捗がはかばかしくない項目があります。「健全経営」を取り戻すべく「健全経営」に重点を絞って、2024年はさらに取り組みを強化する方針です。

〔Ⅲ〕 診 療 統 計

1. 退院患者統計

退院患者数	性別		入院年齢(平均値)			在科日数(平均値)		入院手順		入院経路			搬送数		(患者数)		主病名転帰						死亡状況		紹介救外患者数			
	男	女	全体	男	女	全体	男	女	急患	予約	外来	救命	転科	緊急送車	患者数	手術数	軽快	検査終了	死亡	治癒	増悪	中止	不変	術後30日以内の死亡:A	術後46日以内の死亡:B	AかつB	紹介患者数	救外CPA患者数
22,474	11,748	10,726	65.7	65.3	66.1	13.6	13.6	10,606	11,868	13,259	6,903	2,312	4,724	5,477	15,505	982	1,257	281	740	281	24	3,685	23	461	4	8,628	284	
691	449	242	71.8	71.1	72.9	14.3	14.3	247	444	500	162	29	109	1	424	57	40	5	13	0	152	0	2	0	0	175	0	
1,567	1,008	559	72.6	72.1	73.4	17.0	17.0	681	886	1,176	349	42	229	27	622	225	153	41	3	505	2	11	0	0	0	453	1	
304	184	120	64.5	64.7	64.2	9.3	9.3	36	268	259	20	25	13	0	198	18	0	1	0	0	0	0	0	0	0	154	0	
1,579	898	681	71.9	69.7	74.6	7.2	7.2	542	1,037	1,143	398	38	231	21	1,113	120	4	108	9	3	222	0	0	0	0	679	0	
551	302	249	69.8	69.6	70.0	23.5	23.5	150	401	472	55	24	20	6	348	2	21	0	14	5	161	0	0	0	0	129	0	
3,340	1,675	1,665	73.6	71.6	75.6	14.8	14.8	2,806	534	713	2,164	463	1,446	114	2,403	3	135	310	70	1	418	3	16	0	0	1,168	0	
165	49	116	66.2	69.8	64.7	17.8	17.8	39	126	131	12	22	5	2	97	0	2	5	4	0	0	0	0	0	0	17	0	
1,729	895	834	78.6	76.3	81.2	21.1	21.1	491	1,238	330	301	1,098	237	23	690	0	480	70	77	0	412	2	116	1	138	1		
82	29	53	63.6	56.6	67.4	160.1	160.1	38	44	36	2	44	2	0	54	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	8	0	
1,227	691	536	4.0	4.2	3.8	7.9	7.9	1,025	202	661	564	2	242	4	988	124	4	16	5	1	89	0	4	0	0	530	4	
842	486	356	72.5	71.7	73.7	12.5	12.5	598	244	753	58	31	35	119	615	33	14	13	4	0	163	1	1	0	0	515	0	
1,687	1,024	663	73.6	71.7	76.6	9.9	9.9	787	900	1,031	609	47	489	153	1,367	199	19	1	0	0	101	2	2	0	0	802	0	
1,709	832	877	68.9	69.6	68.2	10.8	10.8	384	1,325	1,378	226	105	136	966	1,071	6	10	38	3	5	576	4	1	1	1	569	0	
871	337	534	62.9	52.4	69.5	16.1	16.1	385	486	645	190	36	97	798	827	1	0	1	0	1	41	0	0	0	0	456	0	
192	95	97	62.7	64.2	61.2	13.4	13.4	38	154	176	6	10	2	120	164	0	0	13	3	0	12	0	0	0	0	120	0	
536	428	108	69.9	69.1	73.1	7.8	7.8	45	491	502	15	19	10	311	310	98	0	16	9	0	103	0	0	0	0	255	0	
793	0	793	53.3	0.0	53.3	6.6	6.6	117	676	717	61	15	27	443	478	5	3	47	5	1	264	0	1	0	0	325	0	
397	0	397	31.9	0.0	31.9	10.7	10.7	289	108	187	210	0	85	147	318	0	0	53	0	2	24	0	0	0	0	272	0	
670	335	335	71.5	69.1	74.0	5.1	5.1	69	601	656	7	7	2	651	647	0	0	1	0	0	22	0	0	0	0	483	0	
407	246	161	47.2	49.4	43.8	11.1	11.1	81	326	380	20	7	3	285	337	15	0	3	0	1	51	0	0	0	0	280	0	
94	59	35	6.0	5.2	7.5	4.4	4.4	11	83	80	5	9	1	80	85	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	60	0	
649	351	298	70.0	67.9	72.4	22.4	22.4	504	145	183	446	20	411	239	509	56	34	0	6	0	44	2	17	1	1	213	0	
225	110	115	41.2	39.4	43.0	4.9	4.9	15	210	222	3	0	0	197	221	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	181	0	
301	200	101	69.6	68.9	71.2	10.4	10.4	39	262	246	19	36	14	249	258	7	0	0	0	0	36	0	0	0	0	110	0	
487	292	195	74.8	72.6	78.0	18.9	18.9	103	384	355	57	75	52	426	451	7	10	2	0	1	16	7	0	1	170	0		
648	357	291	73.0	70.7	75.7	23.5	23.5	511	137	173	430	45	333	1	520	4	28	12	17	0	67	0	3	0	0	161	0	
20	7	13	27.2	29.6	25.8	18.9	18.9	5	15	19	0	1	0	0	15	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	16	0	
2	2	0	47.0	47.0	0.0	19.5	19.5	1	1	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
303	170	133	76.0	72.5	80.5	1.6	1.6	303	0	0	303	0	300	4	22	0	278	0	0	0	3	0	278	0	0	13	278	
139	63	76	50.9	46.0	54.9	8.9	8.9	10	129	134	2	3	2	73	129	2	0	2	1	0	5	0	0	0	0	92	0	
267	174	93	68.8	67.6	71.0	5.0	5.0	256	11	1	208	58	190	17	223	0	22	1	0	0	21	0	9	0	0	83	0	

2. 科別統計表

2023年1月～12月

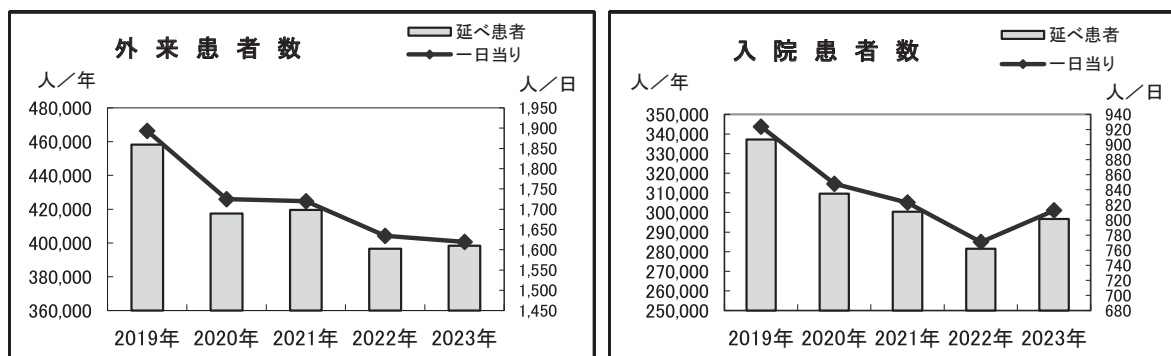
診療科	外来患者		入院患者		新入患者数（入院経路別）				手術件数 (件/年) ※2	紹介率	平均在院日数 (日) ※3
	延べ患者数※1	実患者数	延べ患者数※1	実患者数	予約	救急外来	外来緊急	合計			
肝臓内科	17,182 69.8	4,291	9,726 26.6	447	366	164	135	665	/	96.1%	14.7
呼吸器内科	22,952 93.3	4,414	26,487 72.6	1,012	741	356	433	1,530	/	95.5%	17.3
心療内科	6,655 27.1	767	/	/	/	/	/	/	/	98.6%	/
内分泌・糖尿病内科	18,402 74.8	3,439	2,747 7.5	284	225	19	34	278	/	97.3%	11.0
消化器内科	19,756 80.3	5,363	11,075 30.3	1,339	913	393	228	1,534	22	94.6%	7.3
血液内科	12,544 51.0	1,974	12,740 34.9	313	335	56	135	526	/	97.7%	24.5
総合診療科	13,344 54.2	4,344	48,321 132.4	3,012	82	2,208	587	2,877	/	82.4%	18.9
膠原病・リウマチ内科	16,027 65.2	2,300	2,990 8.2	103	95	11	36	142	/	97.3%	20.0
連携医療・緩和ケア科	3,106 12.6	621	35,050 96.0	1,589	86	312	240	638	24	75.1%	29.9
救急科	16 0.1	14	495 1.4	307	0	307	0	307	/	0	1.6
循環器内科	16,705 67.9	5,548	16,459 45.1	1,461	829	618	190	1,637	5	93.4%	10.3
脳神経内科	9,564 38.9	2,333	15,874 43.5	619	80	424	89	593	/	92.3%	26.3
腎臓内科	25,537 103.8	2,433	10,753 29.5	474	544	64	206	814	136	92.7%	13.1
漢方診療科	16,768 68.2	1,906	378 1.0	20	13	0	6	19	/	55.0%	19.4
画像診療科	1,384 5.6	1,161	/	/	/	/	/	/	3	99.3%	/
放射線治療科	7,881 32.0	499	/	/	/	/	/	/	/	72.7%	/
小児科	16,368 66.5	5,064	9,598 26.3	1,036	190	567	470	1,227	/	79.6%	7.9
リエゾン精神科	6,341 25.8	782	7,681 21.0	85	0	2	35	37	/	25.7%	140.9
外科	20,700 84.1	4,554	18,790 51.5	1,244	1,208	236	161	1,605	1,062	92.1%	11.7
呼吸器外科	4,572 18.6	1,180	3,076 8.4	280	220	16	25	261	289	93.1%	11.2
小児外科	1,315 5.3	459	396 1.1	87	72	5	8	85	86	99.4%	4.5
産婦人科	19,225 78.2	4,638	9,412 25.8	892	721	267	187	1,175	597	68.7%	8.0
整形外科	20,327 82.6	4,730	13,627 37.3	851	418	214	216	848	1,055	89.4%	17.8
リハビリテーション科	1,717 7.0	478	/	/	/	/	/	/	/	27.3%	/
脳神経外科	5,593 22.7	2,070	14,624 40.1	623	129	442	53	624	290	81.3%	24.4
心臓血管外科	5,466 22.2	2,854	8,787 24.1	463	312	60	45	417	659	89.0%	20.4
皮膚科	15,433 62.7	3,671	2,466 6.8	179	131	8	43	182	207	89.2%	13.5
形成外科	4,583 18.6	894	1,224 3.4	128	124	2	10	136	91	93.7%	9.2
泌尿器科	15,438 62.8	3,528	4,099 11.2	432	463	17	39	519	332	97.2%	7.9
眼科	14,435 58.7	3,504	3,391 9.3	583	575	7	81	663	919	95.4%	5.1
耳鼻咽喉科	11,220 45.6	2,866	4,154 11.4	375	299	25	71	395	326	95.9%	10.4
集中治療科	6 0.0	6	1,113 3.0	259	0	215	1	216	/	/	9.3
救急外来	9,441 38.4	8,127	/	/	/	/	/	/	/	27.4%	/
感染症科	3,404 13.8	1,871	22 0.1	2	0	1	0	1	/	0.4%	14.7
歯科口腔外科	14,952 60.8	4,033	1,084 3.0	216	197	5	21	223	249	43.9%	4.8
診療科合計	398,359 1,619.3	96,716	296,639 812.7	18,715	9,368	7,021	3,785	20,174	6,352	76.9%	14.7

予防医学センター	8,516
従業員健診	35
	3,605

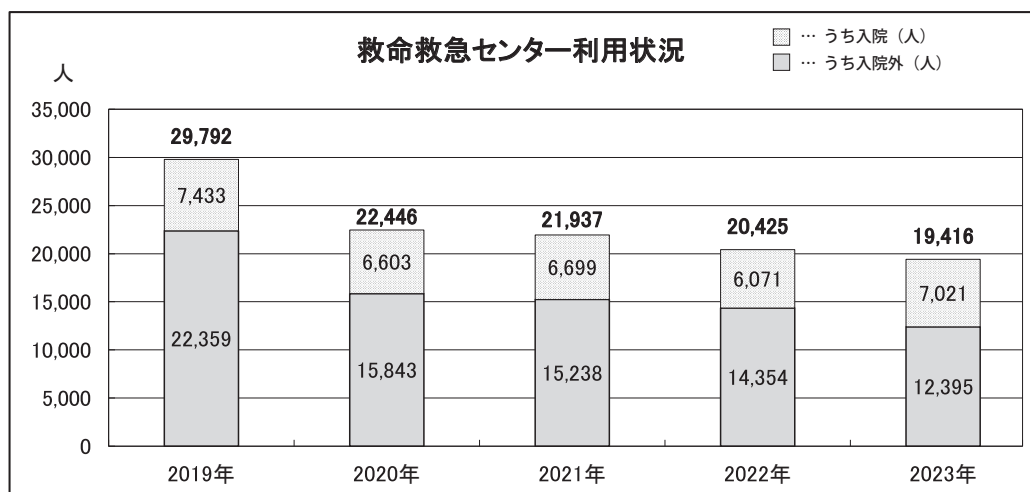
病床稼働率	全体	2023年
	精神科除く	82.4%
		84.3%

※1 患者数：上段は年間延べ患者数、下段は1日当たり患者数。 ※2 手術件数：手術室で行われた件数。
 ※3 平均在院日数＝延べ患者数/(新規入院患者数+退院患者数)/2

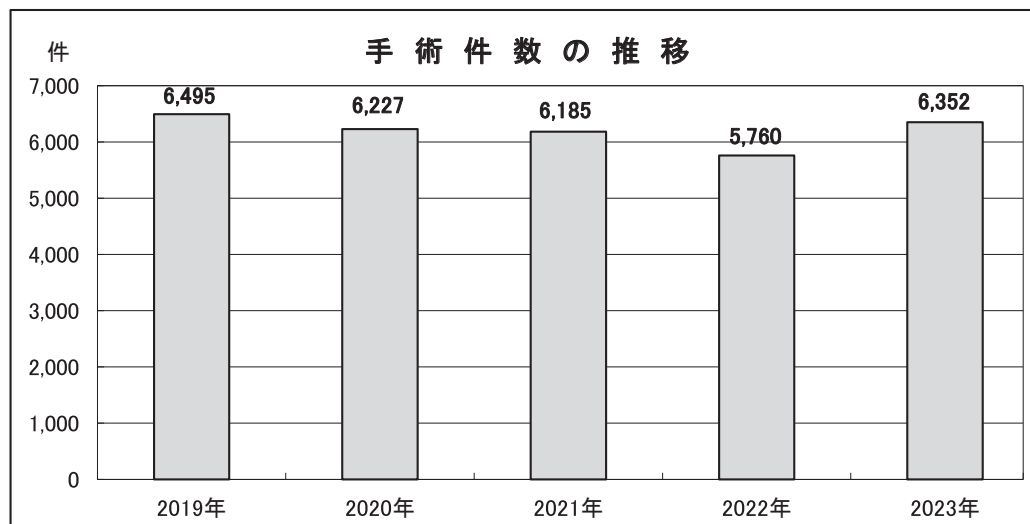
3. 最近5年間の患者数推移



4. 最近5年間の救命救急センター利用状況の推移



5. 最近5年間の年間手術件数の推移



6. 科別・年齢別・性別 退院患者数

退院科	性別	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90歳	合計	75歳以上 (再掲)
		～9	～19	～29	～39	～49	～59	～69	～79	～89	～		
		1,256	445	531	734	1,141	1,620	3,607	6,833	4,917	1,390	22,474	9,593
肝臓内科	男	0	0	0	6	19	47	107	162	96	12	449	173
	女	0	1	7	2	4	16	38	96	59	19	242	139
呼吸器内科	男	0	2	9	10	15	60	232	436	219	25	1,008	437
	女	0	0	3	7	20	27	104	217	152	29	559	307
内分泌・ 糖尿病内科	男	0	1	3	10	18	21	50	55	24	2	184	53
	女	0	2	7	4	7	22	23	37	16	2	120	34
消化器内科	男	0	7	3	13	44	96	187	370	153	25	898	343
	女	0	0	2	5	22	45	102	258	197	50	681	371
血液内科	男	0	0	11	4	10	20	53	155	45	4	302	120
	女	0	1	5	10	2	20	50	106	49	6	249	108
総合診療科	男	0	12	31	48	104	126	242	529	428	155	1,675	854
	女	0	27	50	30	69	69	173	348	585	314	1,665	1084
膠原病・ リウマチ内科	男	0	0	0	0	3	6	18	9	12	1	49	15
	女	0	7	1	6	9	8	27	36	20	2	116	43
連携医療・ 緩和ケア科	男	0	1	3	6	13	39	135	340	270	88	895	531
	女	0	0	2	6	13	25	84	172	322	210	834	620
リエゾン精神科	男	0	0	2	3	6	5	2	9	2	0	29	7
	女	0	0	2	2	7	5	7	10	17	3	53	27
小児科	男	584	106	1	0	0	0	0	0	0	0	691	0
	女	457	79	0	0	0	0	0	0	0	0	536	0
腎臓内科	男	0	0	6	9	21	44	95	154	134	23	486	216
	女	0	0	3	4	13	23	47	146	110	10	356	178
循環器内科	男	0	1	5	10	28	74	241	425	214	26	1,024	440
	女	0	1	0	8	18	24	92	210	260	50	663	429
外科	男	0	4	9	11	43	64	190	364	132	15	832	293
	女	0	1	11	18	66	85	233	297	154	12	877	301
整形外科	男	23	33	16	29	32	46	55	57	35	11	337	69
	女	3	9	8	6	35	58	105	144	127	39	534	230
皮膚科	男	3	3	2	2	6	8	25	29	15	2	95	34
	女	6	4	2	9	8	8	12	22	19	7	97	35
泌尿器科	男	2	10	7	5	11	30	89	189	81	4	428	161
	女	0	1	1	0	3	6	20	40	32	5	108	47
婦人科	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	0	13	44	106	181	166	141	120	22	0	793	86
産科	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	0	8	136	206	47	0	0	0	0	0	397	0

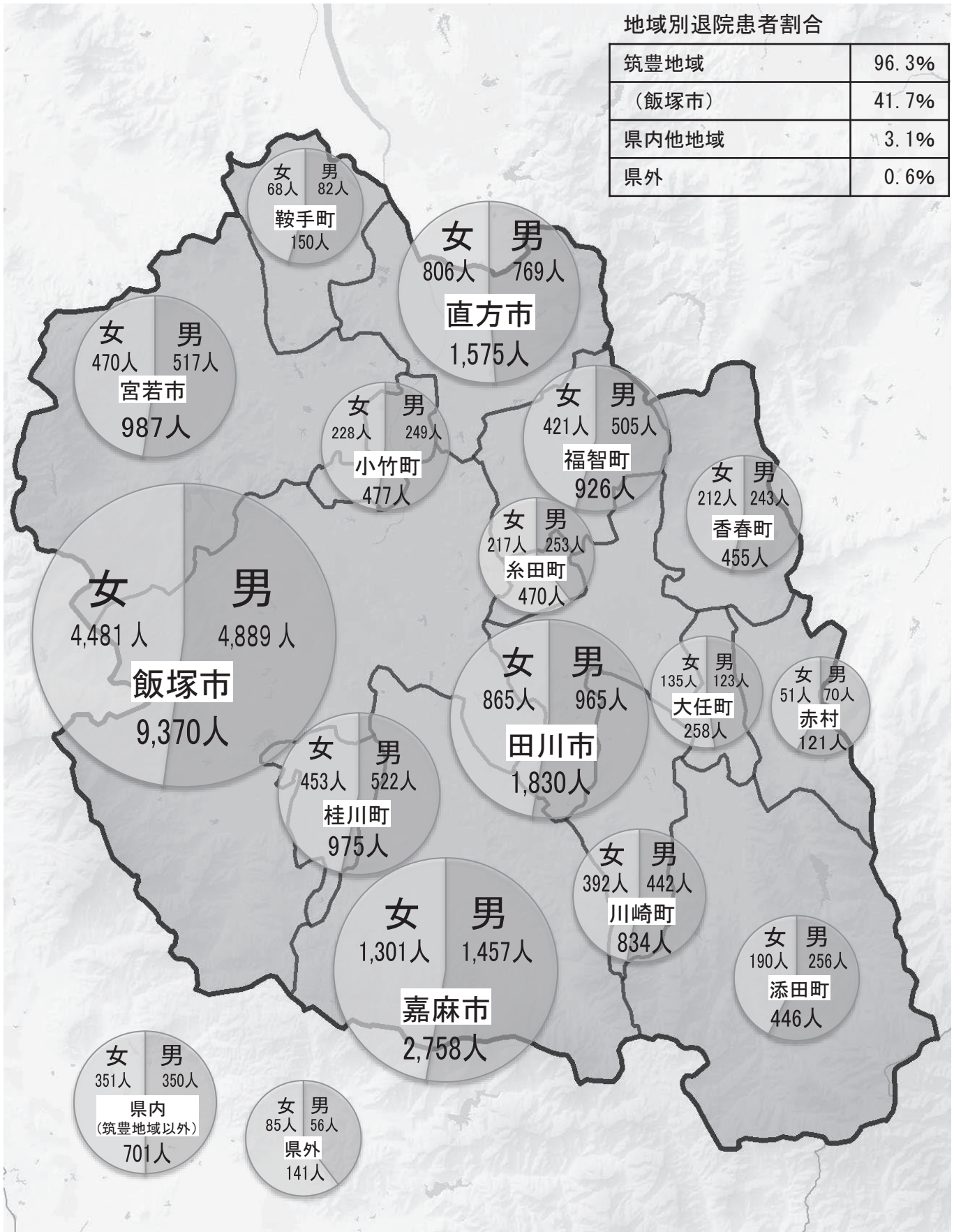
退院科	性別	0 ~ 9	10 ~ 19	20 ~ 29	30 ~ 39	40 ~ 49	50 ~ 59	60 ~ 69	70 ~ 79	80 ~ 89	90歳 ~	合計	75歳以上 (再掲)
眼科	男	1	4	2	5	19	35	66	129	66	8	335	131
	女	2	0	3	1	5	25	50	129	103	17	335	179
耳鼻咽喉科	男	25	14	22	26	29	21	43	44	20	2	246	38
	女	15	16	26	16	22	14	19	22	10	1	161	23
小児外科	男	48	11	0	0	0	0	0	0	0	0	59	0
	女	26	7	2	0	0	0	0	0	0	0	35	0
脳神経外科	男	4	5	7	11	25	31	58	123	73	14	351	144
	女	0	3	3	8	17	32	42	80	83	30	298	158
歯科口腔外科	男	20	5	17	16	16	12	7	10	6	1	110	13
	女	13	12	21	14	10	10	8	13	12	2	115	19
呼吸器外科	男	0	1	6	5	7	9	50	91	30	1	200	73
	女	0	1	0	2	4	9	20	40	21	4	101	50
心臓血管外科	男	0	0	0	4	5	25	53	128	73	4	292	141
	女	0	0	0	2	1	2	29	70	72	19	195	131
脳神経内科	男	0	1	10	5	25	25	65	115	90	21	357	175
	女	0	4	3	8	12	14	19	90	96	45	291	192
漢方診療科	男	0	3	0	2	2	0	0	0	0	0	7	0
	女	0	7	1	1	4	0	0	0	0	0	13	0
感染症科	男	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急科	男	1	3	1	3	9	14	22	53	45	19	170	94
	女	0	3	2	0	4	0	10	29	43	42	133	99
形成外科	男	11	4	4	5	7	4	12	11	5	0	63	11
	女	12	5	4	1	5	8	5	16	17	3	76	31
集中治療科	男	0	1	5	2	12	25	31	69	25	4	174	62
	女	0	1	0	2	3	11	19	29	26	2	93	44

7. 地域別・年齢別・性別 退院患者数

住 所	性別	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90歳	合計	75歳以上 (再掲)
		～9	～19	～29	～39	～49	～59	～69	～79	～89	～		
		1,256	445	531	734	1,141	1,620	3,607	6,833	4,917	1,390	22,474	9,593
飯塚市	男	325	101	90	85	234	337	825	1,642	1,006	244	4,889	1,968
	女	242	84	141	240	258	293	566	1,095	1,106	456	4,481	2,106
嘉麻市	男	62	24	13	38	48	145	266	532	285	44	1,457	593
	女	36	24	24	57	68	81	201	341	361	108	1,301	641
田川郡 福智町	男	38	8	3	5	22	51	87	169	113	9	505	193
	女	17	9	15	10	24	28	65	125	99	29	421	202
川崎町	男	22	10	7	10	15	26	122	136	77	17	442	164
	女	13	8	14	8	32	12	86	105	88	26	392	169
糸田町	男	15	2	1	9	4	20	52	99	43	8	253	91
	女	10	3	3	5	8	26	15	63	68	16	217	123
香春町	男	14	2	2	5	14	10	54	86	46	10	243	110
	女	11	5	4	2	6	7	32	66	58	21	212	109
添田町	男	12	2	6	1	3	12	59	120	27	14	256	95
	女	4	1	1	4	5	9	37	74	37	18	190	91
大任町	男	11	3	0	0	4	0	38	39	25	3	123	45
	女	7	4	4	6	7	0	21	37	42	7	135	67
赤村	男	3	1	1	0	1	8	14	32	10	0	70	20
	女	1	1	1	0	2	3	9	16	11	7	51	19
田川市	男	76	20	9	20	64	62	177	326	188	23	965	378
	女	69	20	27	24	54	69	111	223	204	64	865	389
直方市	男	31	15	16	20	22	59	141	289	143	33	769	322
	女	33	17	28	27	42	72	122	217	188	60	806	393
宮若市	男	33	6	8	11	27	46	88	174	104	20	517	189
	女	32	6	15	13	29	35	69	107	124	40	470	202
嘉穂郡 桂川町	男	29	11	3	10	24	27	88	212	99	19	522	234
	女	23	13	12	25	27	35	51	128	107	32	453	202
鞍手郡 小竹町	男	8	8	1	3	11	25	26	86	70	11	249	120
	女	3	3	10	5	10	18	25	93	48	13	228	94
鞍手町	男	2	2	1	2	2	4	21	34	14	0	82	21
	女	1	2	1	6	2	5	20	23	6	2	68	23
福岡県 (筑豊以外)	男	36	15	16	23	26	49	64	68	41	12	350	80
	女	23	10	33	42	27	31	37	60	68	20	351	120
福岡県外	男	5	2	5	8	9	7	6	12	2	0	56	5
	女	9	3	16	10	10	8	12	4	9	4	85	15

地域別退院患者割合

筑豊地域	96.3%
(飯塚市)	41.7%
県内他地域	3.1%
県外	0.6%



8. 市町村別診療科別紹介件数

市町村名	合計	肝臓内	呼吸内	心臓内	内分泌	消化器	血液内	総合診	膠原内	連携・緩和	循環器	腎内科	脳内科	漢方科	画像診	小児科	外科	小外科	呼吸科	産婦人科	整形外科	少小科	脳外科	心外科	皮膚科	形成	泌尿科	眼科	耳鼻科	少精神	歯科	救急科	救急科	放治療	感染症		
飯塚市	12,693	313	502	29	256	710	136	1084	152	58	595	683	298	42	912	728	408	51	28	541	184	116	541	238	338	599	510	13	914	1067	1	2					
藤原市	2,143	67	90	2	42	112	28	242	11	5	173	40	45	6	58	159	68	21	5	104	110	1	23	54	28	43	72	43	1	191	276						
桂川町	578	37	20	1	10	56	3	72	2	46	96	12	1	37	10	13	13				3	18	6	2	6	4	15	8	5	46							
(医療医療圏小計)	15,414	417	612	32	308	878	167	1398	163	65	814	819	355	49	1007	897	489	72	33	648	768	5	213	141	601	270	396	679	558	14	1151	1392	1	2			
吾妻町	916	32	47	9	14	56	15	73	1	3	88	23	26	3	2	26	31	3	2	16	28	2	22	18	36	9	24	6	78	80							
野田町	264	5	8	1	11	10	6	23	2	20	9	10	1	1	16	15	15				4	34	6	5	15	2	5	5	18								
手取町	90	2	5		3	3	4		3	11	3				1	3	3				3	1	3	4	3	11											
(飯手郡小計)	1,270	39	60	10	25	69	21	100	4	5	111	43	39	4	2	43	49	3	6	21	65	9	37	6	83	6	83	6	83	107							
鷹方市	2,100	67	95	7	44	144	47	200	8	12	101	40	43	4	20	81	68	25	7	135	50	35	65	39	57	194	132	1	99	1	242	2					
(直岐医療圏小計)	3,370	106	155	17	69	213	68	300	12	17	212	83	82	8	22	124	117	28	13	156	115	63	62	119	48	94	200	215	1	206	1	442	2				
田川町	3,084	71	186	12	86	206	125	248	46	12	198	113	77	8	12	290	99	52	15	70	126	37	68	124	19	86	160	121	2	61	348	7	1				
(診療圏小計)	23,314	661	1048	66	484	1399	398	2093	238	96	1358	1044	552	70	1057	1406	751	168	82	889	1109	5	325	310	871	348	603	1078	920	17	1471	2	2380	10	5		
北九州市	498	26	28	3	7	25	14	30	11	5	22	11	16	20	3	22	48	6	60	46	1	9	5	12	7	13	6	6	6	17							
福岡市	1,123	50	60	6	59	69	42	122	23	34	50	28	38	42	4	28	120	1	2	117	36	10	4	17	10	44	21	19	1	38							
久留米市	346	13	35	1	10	41	2	19	3	1	14	18	2	1	1	21	88	1	2	26	10	2	2	2	1	22	2	6	1	2	2	2	2	2	2		
柳川市	2															1																					
八女市	3																																				
筑後市	1																																				
大川市	1																																				
行橋市	63	5	9	1	3	5	7	1	1	2	2	1	1	1	2	1	2	2	2	2	6	1	2	3	5	4	1										
豊前市	5	1																																			
中間市	29	1																																			
小郡市	5																																				
筑紫野市	25	1																																			
春日市	18	1																																			
大野城市	6																																				
宮崎市	45	2	4																																		
大宰府市	12	1																																			
福津市	35	1																																			
うきは市	1																																				
柳井市	6																																				
糸島市	4																																				
宇美町	12	1																																			
篠栗町	74																																				
志免町	15	2	1																																		
須恵町	9	1																																			
新宮町	4																																				
古賀市	21																																				
久山町	6																																				
粕屋町	23	1	1																																		
基山町	4																																				
水巻町	32	1	3	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	2	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
阿垣町	3																																				
速賀町	7																																				
埴田町	30	2	1																																		
吉富町	1																																				
東峰村	1																																				
みやこ町	19	3																																			
(その他県内小計)	2,494	112	149	13	92	158	63	226	43	40	111	66	70	85	9	117	287	7	10	238	137	2	36	16	43	23	95	40	54	2	71	67	10	2			
(福岡県小計)	25,808	773	1197	79	576	1557	461	2319	281	136	1469	1110	622	155	1066	1523	1038	175	92	1127	1246	7	361	326	914	371	698	1118	974	19	1542	2	2447	20	7		
(県外)	309	7	11	5	23	23	3	23	6		18	6	9	9	5	11	15	1	7	43	24	4	24	7	6	9	9	8	1	9	5	5	2				
合計																																					

9. 病理解剖件数内訳

	死亡数	解剖数	剖検率
肝 臓 内 科	40	0	0,0%
呼 吸 器 内 科	154	3	1,9%
消 化 器 内 科	5	0	0,0%
血 液 内 科	22	0	0,0%
総 合 診 療 科	137	2	1,5%
膠原病・リウマチ内科	2	0	0,0%
緩 和 ケ ア 科	478	2	0,4%
腎 臓 内 科	14	0	0,0%
循 環 器 内 科	19	2	10,5%
小 児 科	4	0	0,0%
外 科	10	0	0,0%
婦 人 科	3	0	0,0%
脳 神 経 外 科	34	0	0,0%
脳 神 経 内 科	28	0	0,0%
心 臓 血 管 外 科	10	0	0,0%
救 急 部	277	0	0,0%
集 中 治 療 部	22	1	4,5%
合 計	1259	10	0,8%
院 外	0	0	0,0%

※合計の剖検率には院外症例および死後の針組織検査症例は含まれていません。

10. 手術に関する施設基準および手術件数

医科点数表第2章第10部手術通則5号及び6号並びに歯科点数表第2章第9部通則第4号に掲げる手術の術式別手術件数（2023年1月～12月）

区分・手術名称	手術件数
(1) 区分1に分類される手術	
ア 頭蓋内腫瘍摘出術等	23
イ 黄斑下手術等	175
ウ 鼓室形成手術等	10
エ 肺悪性腫瘍手術等	130
オ 経皮的カテーテル心筋焼灼術	295
(2) 区分2に分類される手術	
ア 靭帯断裂形成手術等	9
イ 水頭症手術等	68
ウ 鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	1
エ 尿道形成手術等	2
オ 角膜移植術	0
カ 肝切除術等	65
キ 子宮附属器悪性腫瘍手術等	19
(3) 区分3に分類される手術	
ア 上顎骨形成術等	1
イ 上顎骨悪性腫瘍手術等	6
ウ バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）	1
エ 母指化手術等	1
オ 内反足等	0
カ 食道切除再建術等	3
キ 同種腎移植術等	0
(4) 区分4に分類される手術	819
(5) その他の区分	
ア 人工関節置換術に関する手術	233
イ 乳児外科施設基準対象手術	0
ウ ペースメーカー移植術およびペースメーカー交換術に関する手術	145
エ 冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないものを含む） および体外循環を要する手術	212
オ 経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈粥腫切除術 および経皮的冠動脈ステント留置術	393

〔Ⅳ〕学 術 業 績

【学術業績掲載ルール】

1. 対象期間は1月1日～12月31日とする。
 2. 掲載対象は以下の通りである。
 - 飯塚病院で行われた学術業績
 - 当院研究業績システムに登録された学術業績
(論文については、PubMed・医中誌に施設名が飯塚病院で登録されたものを含む)
 - 著者名・発表者名の上位3人以内に、対象期間内に当院に在籍した職員がいる
-

1. 発表論文・著書

肝臓内科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-2	Kuwano A, Yada M, Kurosaka K, et al.	Risk factors for loss to follow-up after the start of direct-acting antiviral treatment for hepatitis C virus infection	JGH Open 7(2):98-104
2023-2	Inaba S, Kuwano A, Motomura K	Esophageal Perforation Associated With a Single Dose of Bisphosphonate	Gastro Hep Advances 2:621-622
2023-4	Kuwano A, Yada M, Miyazaki Y, et al.	Tumor-infiltrating CD8+ T cells as a biomarker for chemotherapy efficacy in unresectable hepatocellular carcinoma	Oncology Letters 25(6):259
2023-5	Kato N, Kudo M, Tsuchiya K, et al.	Cabozantinib in Japanese patients with advanced hepatocellular carcinoma: Final results of a multicenter phase II study	Hepatology Research 53(5):409-416
2023-5	黒坂一輝、田中紘介、高井咲弥、他	剖検により診断された高齢発症の赤芽球性プロトポルフィリン症の1例	肝臓 64(5):235-242
2023-6	Furuse J, Izumi N, Motomura K, et al.	Safety and Effectiveness of Lenvatinib in Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma in Real-World Clinical Practice: An Observational Post-Marketing Study in Japan	Drugs Real World Outcomes 10(2):195-205
2023-6	Kuwano A, Yada M, Miyazaki Y, et al.	An Imaging Feature Predicts Efficacy of Atezolizumab Plus Bevacizumab in Unresectable Hepatocellular Carcinoma	Cancer diagnosis & prognosis 3(4):468-474
2023-8	Kuwano A, Miyazaki M, Yada M, et al.	FIB-4 index and serum α -fetoprotein are useful predictors of hepatocellular carcinoma occurrence in hepatitis B patients with nucleos(t)ide analogs therapy	Experimental and therapeutic medicine 26(3):441
2023-8	Motomura K, Kuwano A, Tanaka K, et al.	Potential Predictive Biomarkers of Systemic Drug Therapy for Hepatocellular Carcinoma: Anticipated Usefulness in Clinical Practice	Cancers 15(17):4345
2023-9	栗野哲史、黒坂一輝、田中紘介、他	切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ/ベバシズマブ療法とレンバチニブ療法における腫瘍内 CD8 浸潤の治療効果に対する検討	肝胆膵 :349-352
2023-11	Nagasawa S, Kuwano A, Tanaka K, et al.	Combined Ultrasound and Computed Tomography Guidance in Radiofrequency Ablation for Hepatocellular Carcinoma Reduces Local Recurrence Rate	Cancer diagnosis & prognosis 3(6):660-666

呼吸器内科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-9	Nishizawa S, Tobino K, Murakami Y, et al.	Mortality and prognostic factors for spontaneous pneumothorax in older adults	PLoS One. 18(9):e0291233

総合診療科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-1	清田雅智	尿路結石	臨床雑誌 内科 :67-71
2023-1	Kudou M	Comment on: Differential effect of anticoagulation according to cognitive function and frailty in older patients with atrial fibrillation	Journal of the American Geriatrics Society 11111:11111
2023-2	小杉俊介	研修医の学び方 特集にあたって	レジデントノート 24 (16) :2756-2758

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-2	原田愛子、小杉俊介	医療者間のコミュニケーションを実臨床で学ぶ	レジデントノート 24 (16) :2782-2787
2023-3	井上三四郎	大腿骨近位部骨折とポリファーマシー	OSTEOPOROSIS LIAISON NURSE AS EXPERTS :6
2023-3	井上三四郎	当科におけるニチノールステーブルの小経験	整形外科と災害外科 別冊 72(1):130-140
2023-3	井上三四郎	運動器疾患との鑑別を要した神経疾患の検討：診断プロセス向上のために	整形外科と災害外科 別冊 72(2):242-246
2023-3	井上三四郎	当科で加療した神経線維腫症の2例	整形外科と災害外科 別冊 72(1):153-156
2023-4	戸高貴文	呼吸器感染症 見えないからってあきらめちゃダメだ あきらめちゃダメだ あきらめちゃダメだ・・・	レジデントノート 25 (1) :33-42
2023-4	細川 旬	切迫している感染巣不明 どんな状況にあっても原則を大切に	レジデントノート 25 (1) :82-93
2023-4	大内田良真	カテーテル関連血流感染症 考えなしの「メロペン+バンコ」はアウトです！	レジデントノート 25 (1) :59-66
2023-4	能美康彦	尿路感染症 それってホントに尿路感染症なん？	レジデントノート 25 (1) :52-58
2023-4	岩佐和樹	消化器感染症 常にアンピシリン/スルバクタムが正解じゃないってワケよ	レジデントノート 25 (1) :43-51
2023-4	山口裕崇	感染症診療の原則 切っても切れない三角関係はお好き？	レジデントノート 25 (1) :19-25
2023-4	山口裕崇	特集にあたって	レジデントノート 25 (1) :16-18
2023-5	井上三四郎	ダメージコントロール手術としての成人肘関節脱臼骨折に対する経皮的ピンニング	整形外科 75(5):445-447
2023-5	清田雅智	医学古書を紐解く 東京 GIM カンファレンス特別編より 第5回 Philology のすすめ～中島文雄『英語学とは何か』, 渡部昇一『古語俗解』, Nuck A.『Adenographia Curiosa et Uteri Foeminei Anatome Nova』～	medicina 60(6):952-953
2023-5	宍戸諒平、鶴木友都	偽痛風（CPPD 症）腎機能障害があり関節症状が持続している 67 歳男性	medicina :920-926
2023-5	柴田真志、工藤仁隆	生涯学習 ～ Clinical Question のまとめ方	レジデントノート増刊号 25 (5) :746-751
2023-6	清田雅智	医学古書を紐解く 東京 GIM カンファレンス特別編より 第6回 Sister Mary Joseph's Nodule と Hamilton Bailey ～ Bailey H.『Demonstrations of Physical Signs in Clinical Surgery』～	medicina 60 (7) :1148-1149
2023-6	Shibata M	Letter to the Editor: Moving Past SpPin and SnNout	Journal of General Internal Medicine 38:2837
2023-6	清田雅智	アスクレピオスの杖 第38回 What can I do for you ?	総合診療 33 (6) :641

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-7	清田雅智	医学古書を紐解く 東京 GIM カンファレンス特別編より 第7回 Cope's phrenic shoulder pain と Joseph Capps ~ Cope Z. 『Early diagnosis of acute abdomen』, Capps JA. 『An experimental and Clinical study of pain in the pleura, pericardium and peritoneum』 ~	medicina 60 (8) :1340-1341
2023-9	井上三四郎	急性期病院整形外科の在院死亡からみたホスピタリストシステムのインパクト—タスク・シフト/シェアとしての有用性	整形外科 74 (10) :1086-1090
2023-10	井上三四郎、井村 洋、小田浩之、他	整形外科疾患の主治医となったホスピタリストへのアンケート調査	整形外科 74 (11) :1181-1185
2023-10	井上三四郎、井村 洋、原 俊彦、他	フィックス・アンド・リレー	整形外科と災害外科 72 (4) :611-618
2023-10	清田雅智	説明・回答にまつわるエトセトラ 「治るんですか？」	medicina 60 (11) :1884
2023-10	吉田 伸	オンライン診療はなぜ反対する人がいるのですか？	medicina 60 (11) :1919-1921
2023-10	高橋啓悟、吉田 伸	どうして予約したのにこんなに待たなければいけないのですか？	medicina 60 (11) :1922-1924
2023-11	鶴木友都	入院中に生じた転倒 医師がなすべきこととは	レジデントノート 25 (12) :2159-2165
2023-11	井上三四郎、井村 洋、小田浩之、他	大腿骨近位部骨折に関するホスピタリストへのアンケート調査	整形外科 74 (12) :1287-1291
2023-11	松永 諭	日本におけるコマネジメント Case 3: 飯塚病院 Fix and Relay (FR) システムで早期手術からすみやかに引き継ぐ	Hospitalist 11 (1) :27-30
2023-11	井上三四郎	コマネジメントする内科医に知ってほしい: 整形外科手術 大工の言葉を, 大工の視点から, 大工自ら説明する	Hospitalist 11 (1) :58-67
2023-12	井上三四郎	内側に裂創を伴う高齢者足関節開放脱臼骨折に対する軟部組織治療	整形外科 74 (13) :1372-1373

連携医療・緩和ケア科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-7	柏木秀行、森田達也、橋本法修、他	腹部膨満・腹水	ようこそ緩和ケアの森 がん・非がん患者の消化器症状を診る :69-81
2023-7	中山隆弘、森田達也、柏木秀行、他	第1章 オピオイド、まずこれだけは 1. 概要と使い分け	ようこそ緩和ケアの森 オピオイドの使い方 :2-27
2023-7	柏木秀行、森田達也、大屋清文、他	死期が近づいていそうな患者をみるとき	ようこそ緩和ケアの森 死亡直前期の患者を診る :1-10
2023-7	石上雄一郎、森田達也、大屋清文、他	第3章 死亡直前期で問題になること	ようこそ緩和ケアの森 死亡直前期の患者を診る :92-143

循環器科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-1	川上将司	循環器集中治療における血行動態モニタリング	循環器内科 93(1):3-8
2023-1	本田修浩、児島啓介、古川正一郎、他	Tall p-waves in inferior leads: A Case of coexisting ectopic rhythm and atrial fibrillation arising from the superior vena cava	Pacing and Clinical Electrophysiology Online: Ahead of print
2023-1	山川 礼、川上将司、大石善丈、他	Cardiac Tamponade with Invasive Thymoma	Internal Medicine :0903-22
2023-7	北原賢一、川上将司、井上修二郎、他	Pneumopericardium due to Cardiopulmonary Resuscitation During Percutaneous Coronary Intervention in an Out-of-Hospital Cardiac Arrest Patient	Journal of Coronary Artery Disease 29:77-78

腎臓内科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-12	Fukumitsu K, Fujisaki K, Yokoi K, Ohishi Y	Valacyclovir-associated with acute kidney injury	Kidney International 104:1230
2023-12	藤崎毅一郎	心血管領域 -Dialysis therapy,2022	日本透析学会誌 56 :563-564

漢方診療科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-1	吉永 亮	プライマリ・ケアにこそ漢方！家族をみるための Family Kampo ④－柴胡桂枝乾姜湯－	プライマリ・ケア 8 (1) :24-28
2023-1	井上博喜	葛根湯医者はやぶ医者か？ ～漢方の考え方、使い方、効かせ方～	大阪府薬雑誌 74 (1) :49-56
2023-1	原田直之、吉村彰人、牧 俊允、他	抗菌薬アレルギーにより治療が困難であった胸痛を伴う細菌性肺炎に柴陷湯が奏効した1例	日本東洋医学雑誌 74 (1) :25-30
2023-1	原田直之、中尾桂子、吉永 亮、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 132] 『最近の治験・知見・事件!?!』パート II 117 COVID-19 罹患後の遷延する腰痛に五苓散末自家製剤が奏効した1症例	漢方の臨床 70 (1) :121-126
2023-2	吉永 亮	ずっと気になっていた漢方薬の基礎知識「ナースに知ってほしい漢方薬のこと」	エキスパートナーズ 39 (3) :14-16
2023-2	井上博喜	ずっと気になっていた漢方薬の基礎知識「認知症に用いられる漢方薬のはどんなものがある？」	エキスパートナーズ 39 (3) :33-36
2023-2	吉永 亮	ずっと気になっていた漢方薬の基礎知識「漢方薬はどのように効果判定したらいいの？」	エキスパートナーズ 39 (3) :21-22
2023-2	矢野博美	ずっと気になっていた漢方薬の基礎知識「漢方薬の服用の指導方法を教えてください！」	エキスパートナーズ 39 (3) :23-25
2023-2	吉永 亮、中尾桂子、原田直之、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 133] 『最近の治験・知見・事件!?!』パート II 118 典型的な真武湯証 3 症例	漢方の臨床 70 (2) :191-196

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-3	矢野博美、中尾桂子、原田直之、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 134] 『最近の治験・知見・事件!?’ パート II 119 重症 COPD の ADL と呼吸困難感が八味地黄丸合半夏厚朴湯合葶藶大棗瀉肺湯で改善した 1 例	漢方の臨床 70 (3) :303-309
2023-4	吉永 亮	プライマリ・ケアにこそ漢方! 家族をみるための Family Kampo ⑤-妊婦と漢方-	プライマリ・ケア 8 (2) :34-39
2023-4	原田直之、牧 俊允、吉永 亮、他	胸中の灼熱感と強い倦怠感に梔子乾姜湯加減が奏功した 1 例	日本東洋医学雑誌 74 (2) :139-144
2023-4	井上博喜、中尾桂子、原田直之、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 135] 『最近の治験・知見・事件!?’ パート II 120 半夏厚朴湯が無効であった咽喉頭痛異常感症と十全大補湯が無効であった白血球減少症	漢方の臨床 70 (4) :403-407
2023-5	中尾桂子、川野綾子、竹内 肇、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 136] 『最近の治験・知見・事件!?’ パート II 121 うつ病に伴う睡眠障害、倦怠感に茯苓四逆湯と梔子剤の併用が有効であった 1 例	漢方の臨床 70 (5) :515-523
2023-6	吉永 亮、中尾桂子、原田直之、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 137] 『最近の治験・知見・事件!?’ パート II 122 上部消化管術後の食欲不振の対して漢方治療が有効であった 2 症例	漢方の臨床 70 (6) :635-639
2023-7	吉永 亮	プライマリ・ケアにこそ漢方! 家族をみるための Family Kampo ⑥-妊婦の風邪と漢方-	プライマリ・ケア 8 (3) :29-33
2023-7	原田直之、中尾桂子、吉永 亮、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 138] 『最近の治験・知見・事件!?’ パート II 123 耳鳴り・聴覚過敏に桂枝加竜骨牡蛎湯加減が著効した 1 症例	漢方の臨床 70 (7) :751-756
2023-8	田原英一	漢方医学の考え方と処方の上質な活用法	カレントセラピー 8:80-84
2023-8	矢野博美、中尾桂子、原田直之、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 139] 『最近の治験・知見・事件!?’ パート II 124 わたしの師匠 栗山一八先生と一道先生	漢方の臨床 70 (8) :857-864
2023-9	田原英一、中尾桂子、原田直之、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 140] 『最近の治験・知見・事件!?’ パート II 125 消化器症状の覚書: 半夏瀉心湯、真武湯、桂枝加芍薬大黃湯、柴胡桂枝湯、黄連湯、附子瀉心湯、桃核承気湯	漢方の臨床 70 (9) :1009-1018
2023-10	吉永 亮	プライマリ・ケアにこそ漢方! 家族をみるための Family Kampo ⑦-月経困難 (10 代) の漢方治療-	プライマリ・ケア 8 (4) :33-36
2023-10	井上博喜、矢口綾子、原田直之、他	Persistent genital arousal disorder に当帰四逆加呉茱萸生姜湯が有効であった 2 例	日本東洋医学雑誌 74 (4) :338-341
2023-12	吉永 亮	救急漢方の実践 皮膚科領域における漢方活用	救急医学 47 (12) :1427-1433
2023-12	中尾桂子、竹内 肇、原田直之、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 143] 『最近の治験・知見・事件!?’ パート II 128 小脳出血による嘔気・嘔吐、めまいに五苓散料加半夏生姜が著効した 1 例	漢方の臨床 70 (12) :1419-1423

小児科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-3	岡松由記、嘉村拓朗	必携！子ども救急 子どもの急病・傷害（事故）対応マニュアル	2023年度版 福岡県小児救急医療ガイドブック 2023年度版 :1-61
2023-9	大矢崇志	小児と成人の違いを知ることで見えてくる課題について	福岡県医報 1567:8
2023-11	岡松由記	飯塚病院における小児時間外診療の新体制について紹介します	福岡県小児科医報 61:24-25

外科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-3	Yi Zhang, Yuuta Inoue, Jannatul Fardous, et al.	Prevention and Repair of Ultraviolet B-Induced Skin Damage in Hairless Mice via Transdermal Delivery of Growth Factors Immobilized in a Gel-in-Oil Nanoemulsion	ACS Omega :9239-9249
2023-3	Kinoshita S, Yamashita Y, Hayashi H, et al.	Survival impact of pancreatic resection for metastases in the pancreas: A retrospective multi-center study	Surgical Oncology 48:101942
2023-4	山下洋市、相島慎一、黒田陽介、他	特殊な組織型（臨床病理学的特徴）AFP 産生腫瘍 α -Fetoprotein-producing tumor	日本臨床 81 巻増刊号 4:311-315
2023-7	Okada KI, Kimura K, Yamashita Y, et al.	Efficacy and safety of neoadjuvant nab-paclitaxel plus gemcitabine therapy in patients with borderline resectable pancreatic cancer: A multicenter single-arm phase II study (NAC-GA trial).	Ann Gastroenterol Surg :7(6):997-1008
	Yukio Tokumitsu	Efficacy of laparoscopic liver resection for small hepatocellular carcinoma located in the posterosuperior segments: A multi-institutional study using propensity score matching by the Kyushu Study Group of Liver Surgery	Hepatology Research :
2023-10	Fumimasa Kitamura, Takashi Semba, Noriko Yasuda-Yoshihara, et al.	Cancer-associated fibroblasts reuse cancer-derived lactate to maintain a fibrotic and immunosuppressive microenvironment in pancreatic cancer.	JCI Insight :8(20):e163022
2023-11	Kudou K, Hasuda H, Tsuda Y, et al.	Prognostic significance of a novel index score based on the inflammation-based prognostic scores of patients with colorectal cancer	Journal of Gastroenterology and Hepatology :38(10):1750-1759
2023-11	Kayashima H, Itoh S, Shimokawa M, et al.	Effect of duration of adjuvant chemotherapy with S-1 (6 versus 12 months) for resected pancreatic cancer: the multicenter clinical randomized phase II postoperative adjuvant chemotherapy S-1 (PACS-1) trial.	Int J Clin Oncol :28(11):1520-1529.
2023-11	Kensuke Kudou, Tetsuya Kusumoto, Hirofumi Hasuda, et al.	Comparison of Laparoscopic and Open Emergency Surgery for Colorectal Perforation: A Retrospective Study	Journal of Laparoendoscopic & Advanced Surgical Techniques :464-470

産婦人科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-8	吉良さちの、徳永奈穂、八木光生、他	Laparoscopic Diagnosed Fallopian Tube Rupture during Expectant with Negative Urine Pregnancy Test	Addiction Research 7 (1) :1-3

整形外科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-1	藤村謙次郎、小宮山敬祐、園田和彦、他	Tensor による bone gap と圧センサーによる接触圧に関する検討	日本人工関節学会誌 :85-86
2023-3	陣林秀紀、宇都宮健、小宮山敬祐、他	後外側骨片を伴う大腿骨転子部骨折において直接的整復が術後整復位の保持に与える影響	整形外科と災害外科 別冊 :262-266

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-8	Sonoda K, Kubo Y, Komiyama K, Tetsuro Nakamura, et al.	Error of intraoperative measurement of stem anteversion is decreased by measuring in neutral hip position during total hip arthroplasty	Journal of Orthopaedic Science :1-7
2023-9	名取孝弘、小宮山敬祐、美浦辰彦、他	豪雨土砂災害における両脚の現場切断（field amputation）を回避し片脚を救肢し得た1例	整形外科と災害外科 72(1):136-138
2023-9	古谷武大、久保祐介、園田和彦、他	内科管理下における下肢切断術後死亡率の検討	整形外科と災害外科 72(4):795-797
2023-9	松本洋太、小宮山敬祐、美浦辰彦、他	小児における経肘頭脱臼骨折の1例	整形外科と災害外科 72(4):704-706

脳神経外科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-4	山田哲久	慢性硬膜下血腫の手術法は何か？文献的考察から	脳神経外科 ザ・ベーシック :396-399
2023-6	山田哲久、名取良弘	頭部外傷による心肺停止で搬送され心拍再開後に救急外来で心停止後臓器提供に至った1例	Journal of Japan Society of Neurological Emergencies & Critical Care 35(2):32-36
2023-6	山田哲久、名取良弘	救急外来で開頭血腫除去術を施行した非外傷性急性硬膜下血腫の1例	Journal of Japan Society of Neurological Emergencies & Critical Care 35(2):48-52
2023-8	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔	脳神経外科領域での治打撲一方の投与の現状分析から投与法の検討	脳神経外科と漢方 8:16-20
2023-9	山田哲久、名取良弘	新型コロナウイルス感染症流行による脳神経外科疾患の症例数の変化の検討	Neurosurgical Emergency 28(1):1-5
2023-11	山田哲久	神経救急－初期診療から集中治療までエキスパートの暗黙知に迫る－ 初期診療の基本 多発外傷の初期診療	医学書院 脳神経外科 51(6):1000-1008

リエゾン精神科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-3	濱田公一郎、猪狩圭介、椋島敬行、他	リエゾンチームにおいて作業療法士ができること－総合病院入院中の患者に対する精神科作業療法の有用性－	日本精神科病院協会雑誌 42 (3) :245-250
2023-3	Nakao T, Mitsuyasu H	Survey of psychiatric symptoms among inpatients with COVID-19 using the Diagnosis Procedure Combination data and medical records in Japan	Brain, Behavior, & Immunity - Health 29:100615
2023-12	猪狩圭介	飯塚病院の精神科診療－多職種協働による包括的アプローチ－	九州神経精神医学 :30-33

感染症科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-1	長谷川雄一、的野多加志	PROFESSIONALS 総合内科×感染症科～持続する発熱＋後腹膜多発リンパ節腫大～	J-IDEO 7(1):19-23
2023-2	Matono T, Suzuki S, Yamate R, et al.	Diagnostic and therapeutic challenges in disseminated Mycobacterium colombiense infection caused by interferon- γ neutralizing autoantibodies	Open Forum Infectious Diseases 10(2):ofad035

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-2	的野多加志	抗菌薬の始め方・切り替え方・やめ方	月刊薬事 2 月臨時増刊号 65(3):14-20
2023-2	沖中友秀、的野多加志	虫垂炎・憩室炎	月刊薬事 2 月臨時増刊号 65(3):92-98
2023-2	長崎皓光、梅田勇一、的野多加志	腎・肝機能低下患者	月刊薬事 2 月臨時増刊号 65(3):26-33
2023-3	山手亮佑、鈴木祥太郎、的野多加志	PROFESSIONALS 総合内科×感染症科～非典型的な臨床像から患者背景因子を究明～	J-IDEO 7(2):209-214
2023-3	Ohashi Y, Matono T, Suzuki S, et al.	The first case of clade I Candida auris candidemia in a patient with COVID-19 in Japan.	Journal of Infection and Chemotherapy S1341-321X(23):00079-X
2023-3	八坂謙一郎、斧沢京子、的野多加志	COVID-19 と変化する世界	日本渡航医学会誌 17(1):1-8
2023-4	沖中友秀	皮膚軟部組織感染症 その感染，表在とみるか，深部とみるか	レジデントノート :67-74
2023-4	的野多加志	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	薬剤師のための感染制御マニュアル 第5版 :393-404
2023-5	的野多加志	2 類感染症の動向と対策	救急・集中治療 35(1):39-46
2023-6	的野多加志	感染症検査の解釈とピットフォール	内科 131(6):1249-1253
2023-7	的野多加志	「フォーカス不明」の感染症の抗菌薬の要否と選択	総合診療 33(7):827-831
2023-7	長谷川雄一、王 黎亜、沖中友秀、他	低温培養を追加し診断に至った播種性皮膚 Mycobacterium chelonae 感染症の 1 例	感染症学雑誌 97(4):146-152
2023-9	Matono T, Yamate R	Dengue fever with conjunctivitis mimicking Zika virus infection	Internal Medicine 62(17):2583
2023-9	的野多加志	本邦初の Candida auris 血症	J-IDEO 7(5):708-709
2023-10	Okinaka T, Fukumitsu K, Okamura N, et al.	Minocycline-Induced Hyperpigmentation: Importance of Early Diagnosis	ID Cases 34:e01901

救急科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-3	香月洋紀、山田哲久、鮎川勝彦、他	救急科専攻医は研修プログラムのどのようなところに魅力を感じるのか？	日本救急医学会雑誌 34:77-82
2023-9	山田哲久	転倒・転落事故への対応 救急対応	転倒・転落予防実践メゾッド :264-274
2023-12	山田哲久、名取良弘	病棟避難の検討ーエア・コンディショナーの故障による救急病棟避難の経験からー	日本臨床救急医学会雑誌 26(6):752-757

集中治療科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-1	川上大裕	時系列で紐解く有益な輸液の話	時系列で紐解く有益な輸液の話 :1-192
2023-1	Okazaki T, Kawakami D, Fujitani S, et al.	Potential Interaction Between Sepsis and Acute Respiratory Distress Syndrome and Effect on the 6-Month Clinical Outcomes: A Preliminary Secondary Analysis of a Prospective Observational Study	J Intensive Care Med 38(1):60-69
2023-1	Okazaki T, Kawakami D, Fujitani S, et al	Potential Interaction Between Sepsis and Acute Respiratory Distress Syndrome and Effect on the 6-Month Clinical Outcomes: A Preliminary Secondary Analysis of a Prospective Observational Study	J Intensive Care Med :60-69
2023-3	川上大裕、建部将夫、伊藤次郎、他	下部消化管穿孔後の敗血症患者	ICU 思考のつくりかた :1-240
2023-3	鈴木祥太郎、山手亮佑、的野多加志	PROFESSIONALS 総合内科×感染症科 file:2 非典型的な臨床像から患者背景因子を究明	J-IDEO Vol.7 No.3:209-214
2023-3	Ohashi Y, Matono T, Suzuki S, et al.	The first case of clade I Candida auris candidemia in a patient with COVID-19 in Japan	J Infect Chemother 7:713-717
2023-5	大塚哲也、川上大裕	輸液の考え方	レジデントノート増刊 入院患者管理パーフェクト :66-73
2023-6	吉野俊平	DVT エコー	周術期管理に役立つ Point of Care 超音波—入門から応用まで— :74-88
2023-6	Kawakami D, Fujitani S, Koga H, et al.	Evaluation of the Impact of ABCDEF Bundle Compliance Rates on Postintensive Care Syndrome: A Secondary Analysis Study	Crit Care Med :1-10
2023-6	川上大裕	多職種による病棟回診・外来フォロー	救急医学 Vol.47 No.6 :706-712
2023-8	川上大裕	気管挿管	FCCS プロバイダーマニュアル 第4版 :405-415
2023-9	岡崎太祐、川上大裕	気道抵抗上昇	Respica シナリオで謎解き 人工呼吸患者のトラブル対応ワークブック 第21巻5号 :585-92
2023-9	岡崎太祐、川上大裕	肺プライアンス低下	Respica シナリオで謎解き 人工呼吸患者のトラブル対応ワークブック 第21巻5号 :593-7
2023-10	吉野俊平	GBS の機序とそれに対する I VI g や血漿浄化療法が有効である理由	INTENSIVIST vol. 15 No.4:738-742
2023-10	Yamada T, Minami T, Kitano Y, et al.	Development of a national point-of-care ultrasound training course for physicians in Japan: A 3-year evaluation	MedEdPublish 13:223-223
2023-11	Nakanishi N, Liu K, Kawauchi A, et al	Instruments to assess post-intensive care syndrome assesment:a scoping review and modified Delphi method study	Critical Care 27:430
2023-11	Yamada T, Minami T, Yoshino S, et al.	Diaphragm Ultrasonography: Reference Values and Influencing Factors for Thickness, Thickening Fraction, and Excursion in the Seated Position	Lung :10.1007/s00408-0

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-12	Kawakami D, Fujitani-S, Koga H, et al	Evaluation of the Impact of ABCDEF Bundle Compliance Rates on Postintensive Care Syndrome: A Secondary Analysis Study	Crit Care Med 51(12):1685-1696
2023-12	吉野俊平、土方貴道	2章. 頻度の高い症状・症候 7. 血圧低下	エビデンスと実践を重視した シーン別内科病棟頻用薬の使 い方 :237-239

中央検査部

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-1	川嶋大輔	口腔粘膜の細胞診	Medical Technology 通巻第647号(第51巻・第1 号):66-72

リハビリセンター

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-9	横手 翼、西村天利	Association of Frailty and Depressive Symptoms With the Establishment of Exercise Habits in Patients Undergoing Outpatient Cardiac Rehabilitation	Archives of Rehabilitation Research and Clinical Translation :999-999
2023-10	奥野将太、川満謙太、大西悠太郎、他	インストラクショナルデザインの手法を用いた酸塩基平衡の独学教材の開発と評価	理学療法教育 :6-13

予防医学センター

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-6	赤星和也、久保川 賢	ESD using the ClutchCutter:ESDCC	十二指腸腫瘍の内視鏡治療と マネジメント :076-081
2023-8	Akahoshi K, Osada S, Inamura K, et al.	Comparative efficacy of esomeprazole vs. rabeprazole in post-endoscopic submucosal dissection gastric ulcers : a prospective randomized trial	Gastrointestinal Tract 1:1-6

臨床研究支援室

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-10	古賀秀信、丸田秀夫、深澤恵治、他	公開データからの臨床検査技師業務の需給予測	医学検査 72(4):522-531

看護部

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-1	岡 佳子	「終末期非がん患者を支える家族ケア」 記事1：非がん患者を支える家族へのケア実践と心理的状況	エンド・オブ・ライフケア :1-3
2023-2	中島久美子、赤星和也、金城依子、他	飯塚病院内視鏡センターにおける多職種連携チーム医療による COVID - 19 感染対策の取り組み	外来看護 28:106-113
2023-5	石垣あい、松本陽子、野見山由美子、他	ICU 退室患者の看護観察計画の良質化～継続すべき観察項目と新たな観察項目追加～	日本臨床知識学会 学会誌第4巻 :17
2023-7	宮崎万友子	患者さんと家族を支えるエンド・オブ・ライフケア	患者さんと家族を支えるエン ド・オブ・ライフケア :20-25,32-37

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-8	森本秀樹	ER型救急看護の症例振り返りテンプレートシートの活用と看護実践への寄与	月刊 新医療 :34-37
2023-8	福村陽子、田中百合子	目指そう！私たちのやりたい外来看護－セル看護提供方式Rを導入して	外来看護 2023 秋号 :105-113

栄養部

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-1	田代千恵子	低栄養患者の栄養指導に注意すべき点	Nutrition Care :29-33
2023-6	田代千恵子	慢性腎不全患者の栄養指導	Nutrition Care :20-23
2023-6	田代千恵子	栄養指導を行う上で大切なこと	Nutrition Care :9-12

事務

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-6	児玉礼好	レセプト請求の質向上のための取り組み～RPA (Robotic Process Automation) 導入によるレセプト作業時間の削減～	日本医療マネジメント学会雑誌 :26-30

内視鏡センター

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2023-2	中島久美子、赤星和也、金城依子、他	飯塚病院内視鏡センターにおける多職種連携チーム医療による COVID - 19 感染対策の取り組み	外来看護 28:106-113
2023-5	Iwamuro M, Mitsunashi T, Inaba T, et al	Results of the interim analysis of a prospective, multicenter, observational study of small subepithelial lesions in the stomach.	Digestive Endoscopy Online ahead of print.:PMID: 37183338
2023-8	Akahoshi K, Akahoshi K, Shiratsuchi Y, et al	Endoscopic ultrasonography guided fine needle aspiration for duodenal subepithelial lesions showing a hypoechoic mass on endoscopic ultrasound imaging	Turkish Journal of Gastroenterology :Epub ahead of pri

2. 学会発表

内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-4-15	小杉俊介	病棟や外来でもできる速攻情報収集技	日本内科学会ことはじめ2023 東京

肝臓内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-1-13 ~ 2023-1-14	栗野哲史、黒坂一輝、田中紘介、他	切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ/ ベバシズマブ療法とレンパチニブ療法におけ る腫瘍内CD8浸潤の治療効果に対する検討	第27回日本肝がん分子標的治 療研究会
2023-1-21	高井咲弥、田中紘介、黒坂一輝、他	剖検により診断された高齢発症の赤芽球形 プロトポルフィリン症の1例	第340回日本内科学会九州地方 会
2023-2-4	田中紘介、黒坂一輝、栗野哲史、他	IVR-CT室で行う2cm以上3cm未満の肝細 胞癌に対する Monopolar 型と Multipolar 型 RFA の比較検討	第1回日本アブレーション研究会
2023-4-6 ~ 2023-4-8	黒坂一輝、栗野哲史、田中紘介、他	自己免疫性肝炎による急性肝不全の加療中 にビスフォスフォネート製剤による食道穿 孔をきたした1例	第109回日本消化器病学会総会
2023-6-14	栗野哲史、古賀勇太、矢田雅佳、他	肝腫瘍生検組織を用いたCD8浸潤による切 除不能肝細胞癌に対する全身化学療法の効 果予測	第49回日本急性肝不全研究会
2023-6-23 ~ 2023-6-24	栗野哲史、古賀勇太、田中紘介、他	造影CT/MRIによる切除不能肝細胞癌に対 するアテゾリズマブ/ベバシズマブ療法、 レンパチニブ療法の治療効果予測の検討	第28回日本肝がん分子標的治 療研究会
2023-7-27 ~ 2023-7-28	田中紘介	当院における治療困難部位肝細胞癌に対 する放射線治療と経皮的ラジオ波焼灼術の比 較検討	第59回日本肝癌研究会
2023-9-2 ~ 2023-9-3	栗野哲史	原因不明の急性肝炎の1例	School of Hepatology 2023 in Kanazawa
	長澤滋裕	コロナワクチンによる急性肝障害の1例	
2023-11-2 ~ 2023-11-3	栗野哲史、古賀勇太、田中紘介、他	造影CT/MRIによる切除不能肝細胞癌に対 するアテゾリズマブ/ベバシズマブ療法、レ ンパチニブ療法の治療効果予測の検討	第27回日本肝臓学会大会
2023-11-24 ~ 2023-11-25	栗野哲史、矢田雅佳、田中紘介、他	アテゾリズマブ・ベバシズマブ療法におけ る免疫関連有害事象 (irAE) 予測因子の検討	第122回日本消化器病学会九州 支部例会
2023-12-7 ~ 2023-12-8	田中紘介、古賀勇太、栗野哲史、他	当院における RFA 困難部位肝細胞癌に対 する放射線治療と経皮的ラジオ波焼灼術の有 用性の比較	第45回日本肝臓学会西部会
	栗野哲史、古賀勇太、田中紘介、他	画像検査による切除不能肝細胞癌に対する 全身化学療法の治療効果予測の検討	
	石橋幸恵、矢田雅佳、本村健太	当院におけるC型肝炎患者の拾い上げと患 者背景による通院中断リスクの検討	

呼吸器内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-4-28 ~ 2023-4-30	吉峯晃平、飛野和則、靄野広介	EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌に対するオシメルチニブの効果とPD-L1発現の関連性の検討	第63回日本呼吸器学会学術講演会
	前田顕子、靄野広介、井手ひろみ、他	新型コロナウイルス感染症流行時期における、フィルム・アレイシステムを用いた当院の疫学データの検討	
	靄野広介、内田和紀、村上陽亮、他	当院におけるパステラ呼吸器感染症の臨床的検討と実態調査	
	西澤早織、飛野和則、内田和紀、他	高齢者自然気胸の入院中死亡率とそのリスク因子の検討	
	坂部光邦、飛野和則、内田和紀、他	ベンラリズマブ投与中に発症した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の一例	
	川畑隆史、飛野和則、村上陽亮、他	呼吸器内科専門当直におけるコール内容の検討	
	山元隆太、飛野和則、内田和紀、他	呼吸器検体から検出されたScizophyllum communeの8症例の検討	
2023-6-29 ~ 2023-6-30	大井隆之介、飛野和則、内田和紀、他	局所麻酔下胸腔検査にて診断したMycobacterium marseillense胸膜炎の1例	第46回日本呼吸器内視鏡学会学術集会
2023-6-30 ~ 2023-7-1	吉峯晃平、飛野和則、靄野広介	当院における肺癌化学療法に伴う末梢神経障害の現状	第28回日本緩和医療学会学術大会
2023-10-27 ~ 2023-10-28	大井隆之介	気管支壁肥厚を呈したIgG4関連疾患の1例	第91回日本呼吸器学会 日本結核非結核性抗酸菌症学会 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会 九州支部秋季学術講演会
	曾我部翔大	Osimertinibによる抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(SIADH)を呈した肺腺癌の1例	
	平松由莉	肺腫瘍血栓性微小血管症による致死的な転帰を辿った原発性肺癌(大細胞癌)術後の1例	
	飛野和則	間質性肺疾患におけるクライオバイオプシーの役割	
	山元隆太	クリプトコックス胸膜炎4症例の検討	
2023-11-2 ~ 2023-11-4	靄野広介、内田和紀、村上陽亮、他	間質性肺炎合併非小細胞肺癌に対してアルブミン懸濁型パクリタキセルの再投与は有用な治療選択肢となりうる	第64回日本肺癌学会学術集会
	吉峯晃平、飛野和則、靄野広介	75歳以上EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌に対するオシメルチニブとゲフィチニブの比較検討	
	山元隆太、飛野和則、曾我部翔大、他	当院における周術期治療の実施状況の検討	
	吉峯晃平、飛野和則、靄野広介	当院における肺神経内分泌癌の薬物療法の現状	
	大田裕晃	浸潤性粘液性腺癌(Invasive mucinous adenocarcinoma; IMA) 34例の容積倍加時間の検討	

内分泌・糖尿病内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-6-1 ~ 2023-6-3	井上智彰	意識障害を契機にインスリンノーマを疑い、ジアゾキシド投与により改善した一例	第96回日本内分泌学会学術総会
2023-12-1 ~ 2023-12-2	池田純香、柴田茉祐、吉村恵美、他	悪性貧血の加療中に劇症1型糖尿病を発症し自己免疫性多内分泌腺症候群と診断した1例	第61回糖尿病学会九州地方会
	吉村恵美、池田純香、柴田茉祐、他	パセドウ病加療中に1型糖尿病を発症し自己免疫性多内分泌腺症候群3型と診断した1例	

消化器内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-3-22	濱崎慎平	PDGFRA 遺伝子変異(D842V)を認め、嚢胞状の形態を呈した胃GISTの一例	第409回筑豊消化器病研究会
2023-5-12 ~ 2023-5-13	野崎哲史、宜保淳也、末永顕彦、他	十二指腸DLBCLの治療後に乳頭構造の消失をきたし胆管閉塞を発症した一例	第115回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
	若杉晃伸、小森圭司、淀江賢太郎、他	S状結腸癌術後播種直腸浸潤による腸閉塞に対して大腸covered stentが有用であった1例	
2023-5-12 ~ 2023-5-13	内之倉弘和、淀江賢太郎、小副川 敬、他	5-ASA不耐を生じた潰瘍性大腸炎に顆粒球単球除去療法が奏功した一例	第121回日本消化器病学会九州支部例会
2023-5-25 ~ 2023-5-27	久保川 賢、長田繁樹、大崎智絵、他	80歳以上の高齢者食道静脈瘤症例に対する内視鏡的硬化療法(EIS)の有用性と安全性	第105回日本消化器内視鏡学会総会
2023-6-10	大崎智絵	内視鏡的治療のビデオクリニック	第10回九州門脈圧亢進症研究会
2023-6-16	若杉晃伸	胃の症例	GCC
2023-7-21	野崎哲史、宜保淳也	骨盤内腔まで伸展した感染性WONに対しAMSを介した外瘻tube追加が有用であった一例	第54回日本膵臓学会大会
2023-9-22 ~ 2023-9-23	久保川 賢	異所性静脈瘤の治療戦略(基調講演)	第30回日本門脈圧亢進症学会総会
	長田繁樹、大崎智絵、久保川 賢	当院における胆管空腸吻合部静脈瘤に対するcyanoacrylate系薬剤(CA)を用いた内視鏡治療	
	大崎智絵、長田繁樹、久保川 賢	巨大な胃GISTによる脾動脈閉塞に伴い左側門脈圧亢進症をきたした一例	
2023-9-22	木村弥成子	集学的治療により5年生存を得たStage IV膵がんの一例	膵がん化学療法カンファレンスin福岡
2023-9-26	糸永周一	高安静脈炎に合併した大腸炎の1例	第29回北九州IBDカンファレンス
2023-11-24 ~ 2023-11-25	若杉晃伸	化学療法が発症に関与したと推定されたCronkhite-Canada症候群の一例	第122回日本消化器病学会総会
	翁 安、小副川 敬、淀江賢太郎、他	ダブルバルーン内視鏡で原発巣を確認した多発小腸神経内分泌腫瘍の1例	
	翁 安	ダブルバルーン内視鏡で原発巣を確認した多発小腸神経内分泌腫瘍の1例	
	小副川 敬	Clutch Cutter 及びPDS縫合糸付きPGAシート・フィブリン糊併用法を用いた胃ESD後出血に対する当院の対策と現状	

血液内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-3-11	澤邊太郎、喜安純一、大山 真、他	自己免疫性血小板減少症を合併しRituximabが奏効した血管免疫芽球形T細胞リンパ腫	第13回日本血液学会九州地方会
2023-7-26	白土基明	コロナ禍における悪性リンパ腫治療	第15回北九州がん化学療法チーム医療研究会
2023-10-13 ~ 2023-10-15	大山 真、藤岡絵里子、喜安純一、他	当院におけるT細胞リンパ腫に対するモガムリズマブの有効性と安全性の評価	第85回日本血液学会学術集会
	帆足公佑、喜安純一、澤邊太郎、他	ATRA併用寛解導入療法不応で亜ヒ酸が著効したt(5;17;15)を伴う急性前骨髄球形白血病	
	澤邊太郎、喜安純一、大山 真、他	化学療法に抵抗性を示した進行期組織球肉腫の一例	

心療内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-12-9 ~ 2023-12-10	木附 康	心療内科存続への取り組み	第27回日本心療内科学会総会・学術大会
	木附 康	ロルラチニブによる薬剤惹起性うつ病の一症例	

総合診療科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-1-21	高井咲弥、田中紘介、黒坂一輝、他	剖検により診断された高齢発症の赤芽球形プロトポルフィリン症の1例	第340回九州地方会
2023-2-18 ~ 2023-2-19	清田雅智	フィジカルの原点が診断に生きる！身体所見に名を残すレジェンドたちの技とその起源	第26回日本病院総合診療医学会学術総会
	村上奈央	女性ホスピタリストの働き方、強みを考える	
	大西友紀	Incidental Diagnosisの振り返り方～ラッキー診断を研修医教育に活かそう～	
	井上三四郎	Dr BMW	
	細川 旬	若手総合医のための診断プロセスのpitfall 器質疾患と心因性疾患の鑑別	
	鶴木友都	若手総合診療医のためのIncidental diagnosisの振り返り方	
	小田浩之	日本の病院総合診療医が質改善・患者安全領域で貢献していくための方略を考える	
	清田雅智	病歴と診断	
2023-4-15	井村 洋	日本の病院総合診療医が質改善・患者安全領域で貢献していくための方略を考える	日本内科学会 ことはじめ2023 東京
	小杉俊介	病棟や外来でもできる速攻情報収集技	

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-4-28 ~ 2023-4-29	工藤仁隆	病院外来でのインフルエンザ戦略	第97回日本感染症学会学術講演会
2023-5-12 ~ 2023-5-14	吉田 伸	患者・現場・制度をつなぐ、かかりつけ医の未来とは?~コロナ禍を経たプライマリ・ケアのニューノーマル~	第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
	吉田 伸	指導医たちのポートフォリオ発表会 part3 ~ This is Portfolio ~	
	吉田 伸	病院ができる社会的処方 インターナショナル拡大版!	
	新谷あん	入院後に手術適応と診断した骨粗鬆症性椎体骨折の一例	
	柴田真志	飯塚病院総合診療科におけるEBMスタイルジャーナルクラブ7年間の軌跡	
	吉田 伸	Dr. Kaizen Project 若手家庭医による日英国際交流の新しい形	
	藤村和弥	<専攻医部会企画>”ポートフォリオ”一歩目の踏み出し方~誰でも最初の一步はある!~	
	小杉俊介	JACRA直伝!良いフィードバックの受け取り方・与え方を学ぼう!	
	川口湧水	病変部位の特定に難渋した小児の大腿骨転子部骨髄炎の一例	
	高橋啓悟	在宅医療において生活用具からの情報によってコンテクストを理解し療養場の選択という決断ができた一例	
	西泊翔太	外来における予防医学チェックリストの継続的な活用	
吉田 伸	へき地離島にも届く!ためのオンライン診療の実践		
2023-5-12 ~ 2023-5-13	藤田泰裕	フリーダイビング後に発症した浸漬性肺水腫の1例	第27回日本救急医学会九州地方会
	清田雅智	教育講演 総合診療と救急の連携	
2023-6-3 ~ 2023-6-4	井上三四郎	骨粗鬆症性骨折のマネジメント 1	第145回西日本整形・災害外科学会学術集会
	井上三四郎	整形外科の在院死亡からみたホスピタリストシステムのインパクト:タスク・シフト/シェアとしての有用性	
	井上三四郎	ガーゼはどこへ消えた?	
	井上三四郎	整形外科医と大動脈解離:5例報告	
2023-6-17 ~ 2023-6-18	赤岩 喬	総合診療医の現場で利用されているファシリテーションスキル	ファシリテーション・サミット名古屋2023

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-6-24 ~ 2023-6-25	中安一夫	第6, 7波でのCOVID-19療養者への在宅医療提供を振り返って	第5回日本在宅医療連合学会大会
	丸山淳也	ACPだけではなく！在宅医療関係者に求められる共有意思決定支援 (Shared decision making:SDM)	
2023-6-24 ~ 2023-6-25	清田雅智	グレーゾーン探偵「急性虫垂炎」	ACP (米国内科学会) 日本支部 年次総会・講演会2023
	清田雅智	Generalistが悩むような症例： poststreptococcal uveitis/Lipschutz ulcer	
	清田雅智	Virtual Doctor's Dilemma competition (コメンテーター)	
	浅田紘輔	A case of a colloid cyst presenting with headache that gets worse or better with changes in position.	
2023-6-29 ~ 2023-7-1	井上三四郎	飯塚病院式大腿骨近位部骨折手術翌日転科システム：Fix and Relay	第49回日本骨折治療学会学術集会
2023-6-29 ~ 2023-7-2	赤岩 喬	2021年度の当院における運転機能評価の概要	第60回日本リハビリテーション医学会学術集会
2023-6-30 ~ 2023-7-1	小杉俊介	WG (領域6)「教育・啓発普及・研究方法・その他」	第28回日本緩和医療学会学術大会
2023-7-2 ~ 2023-7-4	Kudou M	Added Value of ECOG-PS to qSOFA to Predict 30-day Mortality in Older Patients Suspected Infection	SIDM2023
	Ono M, Kudou M	Case Series of Three Japanese Patients with Severe Tetanus Without Skin Injuries	
2023-7-8 ~ 2023-7-8	井上三四郎	ポリファーマシー対策を行った頰椎症の1例	第42回せき損夏期セミナー
2023-7-28 ~ 2023-7-30	小杉俊介	若手以外発言禁！若手だけで語る現代の医療者教育の闇、からの光	第55回日本医学教育学会大会
	小杉俊介	指導医に対する客観的指導能力評価 (OSTE)	
	黒川智美、小杉俊介	当院における医師・看護師協同の夜間急変対応シミュレーションの取り組み	
2023-8-26 ~ 2023-8-27	工藤仁隆	若手医師と病院総合診療医像・専門医制度について議論するシンポジウム (Meet the fascinating general hospitalists!)	第27回日本病院総合診療医学会学術総会
	鶴木友都	急性期複雑症例のDecision Making ~病院総合診療医の力を活かすために~	
	小田浩之	院内急変って予防できるの！？あなたの認識が180°変わる患者安全	
	山本幸近	Beginnerのための症例報告の書き方	
2023-8-26 ~ 2023-8-30	Kosugi S	Teaching Skills Improvement Programs in Japanese Inter Medicine Residency Programs:Nationwide Survey	AMEE2023

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-9-29 ~ 2023-10-1	井上三四郎	大腿骨近位部骨折患者の入院時内服薬、特に骨粗鬆症治療薬に関する検討：地方急性期病院における2012年と2020年上半期の比較	第25回日本骨粗鬆症学会
2023-10-6 ~ 2023-10-7	山本幸近	若手医療教育者の挑戦	第86回医学教育セミナーとワークショップ in 富山大学
	小杉俊介	若手医療教育者の挑戦	
2023-10-8 ~ 2023-10-11	Unoki Y, Teraji K, Kudou M, Imura H	What is the true cause of the patient's sudden death during treatment for E.coli bacteremia?	SIDM2023
2023-10-8 ~ 2023-10-9	清田雅智	診断力スキルアップ道場 複数の病態を考えなければならない時代の内科診療：症例から学ぶ	第36回日本臨床内科医学会
2023-11-3 ~ 2023-11-5	井上三四郎	診断が一日遅延した肺血栓塞栓症：significant event analysis と M & M conference	第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会
2023-11-3	中安一夫	当院在宅医療センターにて癌終末期患者のオピオイド注射薬へスイッチングを行った事例に関する検討	日本緩和医療学会 第5回九州支部学術大会
2023-11-18	藤田泰裕、藤本裕太郎、山口裕崇	暴露歴が特定できないクリプトコックス髄膜炎の1例	第691回日本内科学会関東地方会
2023-11-28 ~ 2023-11-30	薄 竜太郎	特発性腹腔動脈解離の1例	第51回日本救急医学会総会・学術集会
2023-12-16 ~ 2023-12-17	工藤仁隆	組織にEBMをどう根付かせるか？～事例から学ぶ実践的アプローチ～	Primarily Care Research Connect 第5回年次集会
	柴田真志	組織にEBMをどう根付かせるか？～事例から学ぶ実践的アプローチ～	

膠原病リウマチ内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-3-11 ~ 2023-3-12	才木智尋、神川壮太、佐川文彬、他	MEFV 遺伝子変異を有し家族性地中海熱 (FMF) に準じる経過を呈した骨髄異形成症候群 (MDS) の1例	第65回九州リウマチ学会
2023-9-16 ~ 2023-9-17	山内雄介、才木智尋、佐川文彬、他	複数回の組織生検を経て TAFRO 症候群と診断し、治療経過中悪性リンパ腫の診断に至った一例	第66回九州リウマチ学会

連携医療・緩和ケア科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-2-18 ~ 2023-2-19	廣橋 航	がん関連病態で予後予測が変化し終末期患者のケア移行でコミュニケーションに難渋した1例	第26回日本病院総合診療医学会学術総会
2023-3-4	石上雄一郎	在宅がん患者の救急対応	第33回日本老年医学会九州地方会
	石上雄一郎	高齢者を支えるがん診療 up to date	
2023-3-10 ~ 2023-3-12	柏木秀行、古川正一郎	Next Step beyond HEPT ～心不全緩和ケアの実践知を共有する～	第87回日本循環器学会学術集会

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-5-12 ~ 2023-5-14	柏木秀行、廣橋 航、田木聡一、他	医師のためのマネジメント	第14回日本プライマリ・ケア 連合学会学術大会
2023-5-12 ~ 2023-5-14	柏木秀行	Be a patient engagement facilitator! (患者協 働ファシリテーターになろう!)	第14回日本プライマリ・ケア 連合学会学術大会
2023-6-30 ~ 2023-7-1	柏木秀行	緩和医療学会のネクストステージ~緩和医 療学会が次の5年ですべきこと~	第28回日本緩和医療学会学術 大会
	柏木秀行	心不全の緩和ケアは普及しているのか	
	柏木秀行	緩和ケア普及啓発の地域展開 -行政・拠点 病院・地域社会の取り組みを活かす-	
	柏木秀行	専門医・認定医フォーラム どう変わる? 専門医制度	
	石上雄一郎	パネルディスカッション 緩和ケア病棟で がん以外の疾患に対応できるのか	
	大竹健人	生前に本人から臓器提供の希望があり、献 眼に至った肺がん患者の一例	
	藤田晋也	仙骨部脊索腫によるトータルペインに対 し、薬物療法および多職種連携による非薬 物療法にて症状緩和が得られた一例	
2023-8-5 ~ 2023-8-6	石上雄一郎	人工呼吸患者の終末期の実際	第45回日本呼吸療法医学会学 術集会
2023-8-5	柏木秀行	総合診療/プライマリ・ケアと緩和ケアの 融合	第18回福島県緩和医療研究会
2023-9-23 ~ 2023-9-24	柏木秀行	プライマリ・ケアの未来を切り拓く~マネ ジメント教育の鍵となる議論~	第20回プライマリ・ケア連合 学会 秋季生涯教育セミナー
2023-10-6 ~ 2023-10-8	柏木秀行	HEPT Q and A ピックアップ2023及び HEPT ジョイントセッションを振り返る	第27回日本心不全学会学術集会
2023-11-9 ~ 2023-11-11	大塚友貴	Streptococcus oralis人工弁感染症心内膜炎 に対する大動脈弁再置換術後に椎間板生検 を再交渉しCandida 脊椎炎の診断に至った 一例	第93回日本感染症学会西日本 地方会学術集会
2023-11-18	柏木秀行、三好 亨、森脇陽子、他	医師の立場から考える社会資源の活用	第9回日本心臓リハビリテー ション学会 中国支部地方会

循環器科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-1-7	川上将司	心停止後昏睡の患者の治療方針、どうする?	New Year 循環器セミナー
2023-3-2 ~ 2023-3-4	川上将司	我々は臨床の現場で機械的循環補助をどの ように使うべきか-適切で安全な質の高い 管理とは	第50回日本集中治療医学会学 術集会
	桐原志保美、川上将司、井上修二郎、 他	ニコランジル投与により顕性化した右心室 心筋梗塞の一例	
	山川 礼、川上将司、酒井大樹、他	胸骨圧迫により生じた前縦隔血腫により VA-ECMOが離脱困難となった1例	

循環器科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-3-10 ~ 2023-3-12	本田修浩	A Case of Coexistence an Ectopic Rhythm and an Atrial Fibrillation Trigger from Superior Vena Cava	第87回日本循環器学会学術集会
	高原勇介	Ablation of Atrial Fibrillation to Avoid Heart Failure in Patients with ATTR Cardiac Amyloidosis	
	川上将司、Tahara Y, Noguchi T, et al.	The Appropriate Timing of First Adrenaline after Defibrillation in Out-of-Hospital Cardiac Arrest with Shockable Rhythm: JCS-ReSS group	
	児島啓介、古川正一郎、石川智一、他	Drug-induced Arrhythmias caused by anamorelin in patients with cancer cachexia	
2023-4-13 ~ 2023-4-15	川上将司、稲永慶太、井上修二郎	Tip detection 法による3D wiring で通過した経路はデバイス不通過であり tip detection 法による antegrade dissection and reentry へ切り替え成功した石灰化を伴う慢性完全閉塞性病変の一例	近畿心血管治療ジョイントライブ(KCJL)
2023-5-26 ~ 2023-5-28	眞柴貴久、古川正一郎、井上修二郎	血栓性動脈閉塞を伴う重症下肢虚血に対して血栓溶解療法と二次的な EVT が奏功した一例	Japan Endovascular Treatment Conference
2023-6-9 ~ 2023-6-10	川上将司、稲永慶太、井上修二郎	A case of a CTO with bending, successfully passed through a guidewire by 3D wiring using IVUS-guided tip detection method	CTO Club
2023-8-4 ~ 2023-8-6	北原賢一、川上将司、井上修二郎	Kounis syndrome induced by contrast media during left main coronary artery stenting after directional coronary atherectomy	第31回日本心血管インターベンション治療学会
	児島啓介、古川正一郎、石川智之、他	Acute treatment for a patient with ST-elevation myocardial infarction complicated with active bleeding from a colonic diverticulum	
	川上将司	補助循環の使い方：因循姑息ではない持続可能な思考過程を身につける	
2023-9-8 ~ 2023-9-10	小宮圭一郎、川上将司、溝上功明、他	冠動脈バイパス術を計画した院外心停止患者の急性期の神経学的予後評価に苦慮した一例	第71回日本心臓病学会学術集会
	北原賢一、川上将司、井上修二郎	左主幹部へのorbital atherectomyとステント留置後に透亮像が出現したCYP2C19遺伝子多型の一例	
2023-9-29 ~ 2023-9-30	児島啓介、井上修二郎	アナモレリン塩酸塩による薬剤誘発性不整脈の経験	第6回日本腫瘍循環器学会学術集会
2023-11-11 ~ 2023-11-12	川上将司、Tahara Y, Noguchi T, et al.	Association Between Defibrillation To Epinephrine Interval And Short-term Outcomes In Out-of-Hospital Cardiac Arrest Patients With Shockable Rhythm	Resuscitation Science Symposium
2023-11-17 ~ 2023-11-19	溝上功明、高原勇介、田中敬士、他	特発性拡張型心筋症に併発した非持続性心室頻拍に対して心内膜アプローチでのアブレーションにより心不全コントロールに成功した1例	カテーテルアブレーション関連秋季大会2023
2023-11-26	藤村遼、児島啓介、眞柴貴久、他	冠動脈塞栓を契機に入院し、急激な疣腫の増大により診断に至った感染性心内膜炎の1例	第343回日本内科学会 九州地方会
2023-12-2	北原賢一、稲永慶太、西淳一郎	高血圧性心疾患との鑑別に心筋生検が有用であったファブリー病の1例	第135回日本循環器学会九州地方会
	溝上功明、高原勇介、田中敬士、他	拡張相肥大型心筋症に併発した循環不全を伴う持続性心室頻拍に対し心外膜アブレーションにて救命した1例	
2023-12-9	川上将司	大動脈バルーンパンピングを使いこなす！循環器集中治療医の視点から	第29回近畿臨床工学会

心不全ケア科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-9-13 ~ 2023-9-15	篠田紘司、倉沢 亮、吉村 基、他	脊髄MRIにおいて長大病変を呈した視神経脊髄炎スペクトラム障害と脊髄梗塞の病変分布パターンの差異	第35回日本神経免疫学会学術集会

脳神経内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-3-25	倉沢 亮、吉村 基、進村光規、他	一側半球に局限したCryptococcus 脳髄膜炎の1例	第239回日本神経学会九州地方会
2023-5-31 ~ 2023-6-3	篠田紘司	B細胞からみた脳内炎症とその治療	第64回日本神経学会学術大会
2023-9-23	吉村 基、倉沢 亮、進村光規、他	CK高値と不随意運動を示したが末梢血塗抹標本で有棘赤血球の増加を認めなかったMcleod症候群の1例	第241回日本神経学会九州地方会
2023-12-1 ~ 2023-12-2	進村光規、倉沢 亮、吉村 基、他	市販の頭痛薬乱用により脳炎様の症状を呈したブロム中毒の一例	第51回日本頭痛学会総会

腎臓内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-3-2	藤崎毅一郎	「糖尿病性腎症重症化予防のポイント」	令和4年度 嘉徳・鞍手保健福祉環境事務所 生活習慣病重症化予防対策研修会
2023-5-13 ~ 2023-5-14	藤崎毅一郎	「そこが聞きたい、CKD 診療のポイント」	第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
2023-6-16 ~ 2023-6-18	藤崎毅一郎	透析導入疾患の変遷：末期腎不全への心腎連関の関与	第68回日本透析医学会学術集会・総会
	藤崎毅一郎	学術委員会Dialysis t herapy,Year in review2021 「心血管疾患」	
	藤崎毅一郎	保存期CKD-MBDの治療とその開始時期を探る	
	藤崎毅一郎	維持血液透析患者における鉄動態とQTcの関係	
	藤崎毅一郎	維持血液透析患者における血清Ca,P値および鉄動態とQTcの関係：日本透析医学会統計調査の横断研究	
2023-7-14 ~ 2023-7-15	牟田隆則、松本英展、竹内実芳、他	リチウム中毒に対してQTc時間を参考に治療薬を変更した1例	第45回日本中毒学会
2023-9-30 ~ 2023-10-1	福満研人、松本英展、竹内実芳、他	SMAP後、長期間埋没された7症例におけるカテーテル閉塞に関する検討	第29回日本腹膜透析医学会学術集会・総会
2023-10-7 ~ 2023-10-8	福満研人、藤崎毅一郎	ネフローゼ症候群を発症し、ダラツムマムで加療したALアミロイドーシスの1例	第53回日本腎臓学会西部学術集会
	松本英展	糖尿病罹患歴の長い患者に微小変化型ネフローゼ症候群が発症した一例	
2023-10-15	松本英展、西田明弘、竹内実芳、他	妊娠中に妊娠高血圧腎症を原因とするネフローゼ症候群を発症した症例	第14回福岡県透析医学会 学術集会・総会
2023-11-1 ~ 2023-11-6	藤崎毅一郎	Relationship Between Iron Deficiency and QTc Prolongation in Japanese Maintenance Hemodialysis Patients	The American Society of Nephrology and the Kidney Week 2023

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-11-18 ~ 2023-11-19	福満研人、牟田隆則、原田健司、 他	乾癬症例に対する上腕での内シャント造設 および動脈表在化	第27回日本透析アクセス医学 会学術集会・総会

漢方診療科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-6-16 ~ 2023-6-18	井上博喜	漢方入門セミナー「ストレスと漢方」「皮膚 疾患と漢方」「高齢者と漢方」	第73回日本東洋医学会学術総会
	矢野博美	養生法の実践～生き方を見つめ、自身への いたわりを施し、健康で幸せになるための 叡智～「和漢食について」	
	田原英一	漢方入門セミナー「漢方の基本」「漢方の診 察法」「処方のアプローチ」	
	吉永 亮	漢方入門セミナー「漢方診断学」「頭痛、肩 こり」「全身倦怠感」	
	中尾桂子	漢方入門セミナー「風邪」「腰痛・関節痛」	
	田原英一	そこに流派の壁はあるのか？～倦怠感を例 に～（座長）	
	原田直之	漢方入門セミナー「咳」「浮腫」	
	田原英一	夢持ち続け日々精進（座長）/あなたの漢方 ベストテン	
	吉永 亮	医療現場のツボを探せ（座長）	
	吉永 亮	総合診療～漢方で限界を超えていけ！～ 「大学病院総合診療科と漢方診療科での入 院漢方治療による連携～一筋縄ではいかな い症例たち～」	
	原田直之	漢方薬剤師セミナー「漢方エキス製剤の 併用について」	
	矢野博美	漢方入門セミナー「消化器症状」「婦人科」	
	中尾桂子	漢方薬剤師セミナー（座長）	
	矢野博美	漢方でさらに深める看護の魅力～教育から 実践まで～（座長）	
井上博喜	君の虎の穴は何処だ？～全国漢方医養成プ ログラム～（座長）		
2023-10-1	井上博喜	今後の漢方のあるべき姿「守」「破」、そし て「離」	第33回漢方治療研究会
	竹内 肇、井上博喜、吉良さちの、 他	切迫早産および妊娠高血圧症の治療に当帰 芍薬散を使用し症状改善を認めた1例	
2023-11-26	原田直之	半夏瀉心湯で排ガス過多が改善した一例	第48回日本東洋医学会九州支 部学術総会
	矢野博美	栗山一八先生の口訣が奏効したド・ケルバ ン腱鞘炎の一例	
	吉永 亮	COVID-19罹患後症状に対して温補治療が 奏効した1例	
	井上博喜	COVID-19感染後の多彩な症状に参蘇飲が 有効であった一例	

画像診療科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-1-27	三浦亘智、永尾英毅、鎌野宏礼、他	上大静脈ステントを留置した一例	第56回福岡IVRカンファレンス
2023-3-11	三浦亘智、飛野和則、大石善丈、他	肺癌手術後に急速進行の呼吸不全で死亡、剖検にて腫瘍塞栓性肺微小血管障害(pulmonary tumor thrombotic microangiopathy: PTM)が明らかになった1例	第23回法医画像勉強会
2023-3-24	三浦亘智、鎌野宏礼、永尾英毅、他	IVH挿入時に生じた仮性動脈瘤の塞栓	第57回福岡IVRカンファレンス
2023-5-27	植山達也、鎌野宏礼、永尾英毅、他	脳炎症状で発症した中枢神経原発ATLの一例	第65回北部九州画像診断フォーラム
2023-6-10 ~ 2023-6-11	植山達也、鎌野宏礼、永尾英毅、他	脳炎症状で発症した中枢神経原発ATLの一例	第197回日本医学放射線学会九州地方会
2023-9-23	三浦亘智	急性期脳血管障害画像診断のピットフォール	第24回法医画像勉強会

小児科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-2-16	田中祥一朗	子ども目線で考える 楽しく・安全・快適な舌下免疫療法	第344回筑豊小児科医会勉強会
2023-6-29	田中祥一朗	これからはじめる 食物アレルギーの診断とIgE検査の使い方	第346回筑豊小児科医会勉強会
2023-7-1 ~ 2023-7-2	大矢崇志、後藤裕美、山野淳子(DS)、他	トラウマインフォームドケア:TICにより母子の逆境的小児期体験が明らかになった一例	第14回日本子ども虐待医学会学術集会
2023-9-6	田中祥一朗	施設取り組みリレー紹介	第9回九州・沖縄子ども虐待医学研究会
2023-9-21	田中ゆかり	19歳まで非内分泌専門医でフォローされていたFGF関連低リン血症性くる病の男性例	第349回筑豊小児科医会勉強会
2023-11-18 ~ 2023-11-19	嘉村拓朗、岡松由記	市中病院の気管支喘息患者におけるFilm Array 呼吸器パネル検査を用いた微生物検査結果の検討	第60回日本小児アレルギー学会学術大会
2023-11-25 ~ 2023-11-26	田中祥一朗、岡上 貢、濱田直宏、他	飯塚市こども家庭センター cocosumoの目指すべき支援の姿~ 3児童死亡事例検証と提言を受けた取組を通して~	第29回日本子ども虐待防止学会学術集会
2023-12-9	山本幸近、岡松由記、田中友規、他	ドップラーエコーが診断に有用だった胆嚢捻転症の12歳男児	第523回日本小児科学会福岡地方会例会

外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-2-23 ~ 2023-2-25	工藤健介、山下洋市、古賀 聡、他	StageI胃癌におけるInflammation-based prognostic scoresの予後予測因子としての意義	第95回日本胃癌学会総会
	田尻裕匡、古賀直道、工藤健介、他	当院におけるCY1胃癌に対する治療成績の検討	
	古賀 聡、田尻裕匡、古賀直道、他	ロボット支援下胃切除導入初期の報告	
2023-3-4 ~ 2023-3-5	古川恵瑞、岡本正博、新井貴大、他	乳癌卵巣転移と卵巣明細胞癌の衝突癌の1例	第20回日本乳癌学会九州地方会

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-3-9 ~ 2023-3-10	南 祐、川下知英、権藤雄三、他	鈍的腹部外傷による遅発性十二指腸狭窄に対して保存的に改善し得た1例	第59回日本腹部救急医学会総会
	春野覚史、古賀直道、由茅隆文、他	保存的加療中に膿瘍腔内に血腫を形成し、重症化した十二指腸穿孔の1例	
	由茅隆文、春野覚史、南 祐、山下洋市	保存的治療を選択したNOMIの2例	
2023-3-10 ~ 2023-3-11	新井貴大、岡本正博、川下知英、他	腋窩神経鞘腫を乳癌腋窩リンパ節転移として手術した症例	第58回九州内分泌外科学会
2023-3-10 ~ 2023-3-11	川下知英、古賀直道	低異型度虫垂粘液性腫瘍(LAMN)切除症例におけるCT画像所見の後方視的検討	第59回九州外科学会
2023-4-27 ~ 2023-4-29	古賀直道、古賀 聡、権藤雄三、他	当院における切除可能閉塞性大腸癌に対する大腸ステント留置の短期・長期治療成績	第123回日本外科学会定期学術集会
	由茅隆文、古賀直道、権藤雄三、他	ER型救急病院における成人腸重積の検討	
	田尻裕匡、新井貴大、川下知英、他	当院における高齢者残胃癌の治療成績	
	南 祐、黒田陽介、川下知英、他	肝切除術後に対するルーチンで行うCTの必要性の検討	
	工藤健介、古賀直道、田尻裕匡、他	大腸癌の根治切除症例の予後と相関するinflammation-based prognostic scoreの探索	
2023-6-29 ~ 2023-6-30	岡本正博、船石創子、古川恵瑞	当院における乳癌周術期ドーズデンスEC療法の現状について	第31回日本乳癌学会
2023-6-29 ~ 2023-6-30	由茅隆文、古賀直道、田尻裕匡、他	ビスフォスフォネート製剤による食道潰瘍が食道穿孔・縦隔膿瘍・膿胸に進展した一例	第77回日本食道学会学術集会
	古賀直道、南 祐、田尻裕匡、他	当院における切除不能進行・再発食道癌に対するニボルマブ・イピリマブ療法の使用経験	
2023-6-30 ~ 2023-7-1	本村貴志、黒田陽介、栗原 健、他	Successful treatment for giant hepatic angiomylipoma with preoperative transcatheter arterial embolization followed by extended left lobectomy of the liver: A case report	第35回日本肝胆膵外科学会学術集会
2023-7-12 ~ 2023-7-14	古賀直道、川下知英、南 祐、他	当院における切除可能な閉塞性左側結腸癌に対する大腸ステント留置の短期・長期治療成績	第78回日本消化器外科学会総会
	田尻裕匡、南 祐、古賀直道、他	当院における小腸GIST11例の検討	
	由茅隆文、古賀直道、南 祐、他	右側結腸捻転症の治療方針に関する検討	
	工藤健介、古賀直道、田尻裕匡、他	大腸穿孔の手術症例の術後合併症及び在院死に対する危険因子の探索	
	黒田陽介、新井貴大、南 祐、他	切除可能膵癌に対する術前補助化学療法の導入	

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-7-29	南 祐、由茅隆文、新井貴大、他	蛋白漏出性胃腸症を併発した肝転移を伴う上行結腸癌に対して手術を行った一例	第260回福岡外科集談会
2023-9-9	工藤健介、梶原脩平、本村貴志、他	大腸穿孔に対する腹腔鏡手術の安全性と術後成績についての検討	第33回九州内視鏡・ロボット外科手術研究会
	梶原脩平、春野覚史、南 祐、他	効率よく手術を行うための工夫-ロボット支援下胃切除術-	
	青山諒子、梶原脩平、春野覚史、他	当院における結腸体腔内吻合-再現性が高い吻合を目指して-	
2023-9-30 ~ 2023-10-1	岡本正博、中江信明、新井貴大、他	当院におけるトリプルネガティブ乳癌に対する周術期ペムプロリズム療法について	第21回日本乳癌学会九州地方会
2023-10-19 ~ 2023-10-21	工藤健介、古賀直道、田尻裕匡、他	大腸癌の根治切除症例における予後予測因子としての新規index scoreの考案	第61回日本癌治療学会学術集会
2023-11-14 ~ 2023-11-15	中ノ子智徳、由茅隆文、中江信明、他	ビスフォスフォネート製剤による食道穿孔・縦隔膿瘍・膿胸の1例	第74回日本気管食道科学会総会
2023-11-16 ~ 2023-11-18	川下知英、姉川 剛、園田英人、他	男性の大腿ヘルニア嵌頓に対して腸管切除を伴う腹腔鏡下ヘルニア修復術 (TAPP法) を施行した1例	第85回日本臨床外科学会総会
	新井貴大、本村貴志、中江信明、他	脾腎シャント、脾静脈瘤を伴う臍体部IPMCに対して部分的脾動脈塞栓術を行い臍体尾部切除術を施行した1例	
	工藤健介、梶原脩平、本村貴志、他	大腸の救急疾患に対する腹腔鏡アプローチの現状と安全性に関する検討	
2023-12-7 ~ 2023-12-9	本村貴志	腹腔鏡下肝切除における StratafixR を用いた肝実質牽引法 (pulley maneuver)	第36回日本内視鏡外科学会総会
	由茅隆文	腹腔鏡下ハルトマン手術を施行して救命しえた、直腸-内腸骨動脈瘤瘻の一例	
	梶原脩平	腹壁癒痕ヘルニアに対する eTEP 導入から応用まで	
	春野覚史	簡便性・再現性を求めた結腸腔内吻合	
	工藤健介、梶原脩平、本村貴志、他	大腸穿孔に対する腹腔鏡手術の安全性と術後成績についての検討	

呼吸器外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-2-10 ~ 2023-2-11	武 伸行、安田 学、篠原伸二、他	重症大動脈弁狭窄症合併局所進行肺癌に対し経カテーテル大動脈弁留置術 (TAVI) 施行後に右上葉切除行った1例	第63回日本肺癌学会九州支部学術集会
2023-5-12	近石泰弘、藤田康博、篠原伸二、他	術中 Cone Beam CT および ICG 静注法を併用した胸腔鏡下右肺上葉 S1 区域切除の1例	第3回産業医科大学 Thoracic Surgical Conference
2023-6-29 ~ 2023-6-30	近石泰弘、安田 学、武 伸行、他	右気管支内過誤腫と左転移性肺腫瘍に対し2期的切除を施行した一例	第46回日本呼吸器内視鏡学会学術集会
	篠原伸二、安田 学、武 伸行、他	肺癌術後化学療法を契機に出現した肺嚢胞の一切除例	

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-7-13 ~ 2023-7-14	近石泰弘、安田 学、大崎敏弘、他	当院における高齢者肺癌に対する周術期治療の検討	第40回日本呼吸器外科学会総会
	篠原伸二、安田 学、武 伸行、他	肺癌合併肺底動脈大動脈起始症に対する術中ICGを用いた肺切除	
2023-7-27 ~ 2023-7-28	安田 学、安田 学、篠原伸二、他	胸部刺傷に対して緊急手術を施行した1例	第56回日本胸部外科学会九州地方会総会
2023-9-2	安田 学	飯塚病院施設紹介およびロボット支援手術でのトラブル症例	第17回臨床外科研究会
2023-11-16 ~ 2023-11-18	安田 学、藤田康博、篠原伸二、他	ダブルルーメンチューブ使用に伴う合併症予防の取り組み	第85回日本臨床外科学会総会
2023-11-22	田中完治、近石泰弘、篠原伸二、他	再生不良性貧血合併胸腺腫に対して拡大胸腺摘出術を施行した1例	第12回北部九州肺縦隔研究会
2023-12-7 ~ 2023-12-9	篠原伸二、近石泰弘、安田 学	当科におけるロボット支援下肺区域切除の経験	第36回日本内視鏡外科学会総会

産婦人科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-5-12 ~ 2023-5-14	松野真莉子、徳永奈穂、八木光生、他	Serous ovarian cancer after opportunistic salpingectomy A case report	第75回日本産科婦人科学会
2023-6-9 ~ 2023-6-11	西山 哲	子宮頸がん HPV 併用検診でNILM/HPV+の半年後に浸潤癌を認めた症例	第64回日本臨床細胞学会総会
2023-9-3	竹内 肇	ペルテス病既往のある思春期の月経困難症に桂枝茯苓丸が奏効した1例	第42回産婦人科漢方研究会学術集会
2023-9-14 ~ 2023-9-16	吉良さちの、徳永奈穂、八木光生、他	腹腔鏡で治療した妊娠反応陰性の異所性妊娠の症例	第63回日本産科婦人科内視鏡学会
2023-9-14 ~ 2023-9-16	西山 哲、安部直希、八木光生、他	全腹腔鏡下子宮全摘出術後に尿閉を来した症例	
2023-9-14 ~ 2023-9-16	李 理華、松野真莉子、吉良さちの、他	乳児期処女膜閉鎖症手術歴があり、今回子宮鏡下に手術を行った膈横隔膜症の一例	
2023-10-3	吉良さちの、井上博喜、矢野博美、他	切迫早産および妊娠高血圧症の治療に当帰芍薬散を使用し症状改善を認めた1例	第33回漢方治療研究会
2023-12-2 ~ 2023-12-3	藤 庸子、徳永奈穂、八木光生、他	分娩後に持続する腰痛にて診断された妊娠授乳関連骨粗鬆症の1例	第38回日本女性医学学会学術集会

整形外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-5-11 ~ 2023-5-14	園田和彦、久保祐介、小宮山敬祐、 他	術中大腿骨 stem 前捻角計測精度向上の工夫 - 股関節中間位での計測 -	第96回日本整形外科学会
2023-6-3 ~ 2023-6-4	原 俊彦、久保祐介、小宮山敬祐、 他	大腿骨転子間彎曲内反骨切り術における Patient-specific guide の有用性	第145回西日本整形・災害外科学会
2023-10-27 ~ 2023-10-28	園田和彦、小宮山敬祐、久保祐介、 他	仰臥位前外側アプローチ導入期の人工股関節 全置換術の設置精度	第50回日本股関節学会
2023-10-28	園田和彦	術前MRIで壊死範囲が不明瞭だったARO 症例	第19回股オステオトミーを語る会
2023-11-3 ~ 2023-11-4	園田和彦、久保祐介、小宮山敬祐、 他	仰臥位前外側アプローチTHAにおける透視 下カップ設置の工夫	第146回西日本整形・災害外科学会

リハビリテーション科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-6-29 ~ 2023-7-2	山下智弘	肺癌ポット支援肺葉切除術後の早期離床に ついて～胸腔鏡下肺葉切除術と比較して～	第60回日本リハビリテーション 医学会学術集会
2023-11-3 ~ 2023-11-5	市来佳奈美、瀧本絢香、川満謙太、 他	急性期脳梗塞患者における入院時の身体機能 と肺炎の関連性について～SIASは嚥下 機能予測に有用か～	第7回日本リハビリテーション 医学会秋季学術集会
	川満謙太、石川清美、山下智弘	ボツリヌス治療後の歩行速度に影響する複 数要因の検討～反復測定データにおける混 合効果モデルでの解析～	
	瀧本絢香、市来佳奈美、川満謙太、 他	急性期脳梗塞患者における退院時の嚥下障 害に影響を与える因子の検討～SIASは嚥 下障害の評価に有用か～	

脳神経外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-1-26 ~ 2023-1-27	迎 伸孝、下川能史、森岡隆人、他	Super-refractory status epilepticus に対する焦 点切除術により良好なてんかんコントロール を得られた2症例	第46回日本てんかん外科学会
2023-2-16 ~ 2023-2-17	山田哲久、名取良弘	シンポジウム：コロナ禍での脳神経外科救急 診療 当院での経験から	第28回日本脳神経外科救急学会
2023-2-18 ~ 2023-2-19	名取良弘、原 俊彦、小宮山敬祐、 他	大腿骨近位部骨折患者における特発性正常 圧水頭症の有病率(Part1)	第24回日本正常圧水頭症学会
2023-2-24 ~ 2023-2-25	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他	シンポジウム：慢性硬膜下血腫再発因子の 検討と再発予防策	第46回日本脳神経外傷学会
2023-3-16 ~ 2023-3-18	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他	出血源不明のくも膜下出血症例の検討	第52回日本脳卒中の外科学会
2023-4-15	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他	急性硬膜外血腫症例で高齢者と若年者での 予後の比較と要因の検討	第36回日本老年脳神経外科学会
2023-6-1 ~ 2023-6-2	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他	当院で経験した急性硬膜外血腫の年齢層に よる特徴の検討	第37回日本外傷学会
2023-6-24	山田哲久、名取良弘、井上大輔	頭蓋内病変と体幹病変の合併で優先度の判 断に苦慮したの1例	第37回日本神経救急学会

脳神経外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-7-15 ~ 2023-7-16	名取良弘、福村文雄	多床室と COVID-19院内感染発生の関係	第26回日本臨床脳神経外科学会
2023-8-22 ~ 2023-8-24	Natori Y	Orbital tumor surgery -anatomy and clinical application-	The 3rd International Rhoton Society Meeting
2023-9-9	要名本あゆみ	寛解導入療法後に画像上増悪を来したクリプトコックス髄膜炎の一例	第145回日本脳神経外科学会九州支部会
2023-10-7	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他	くも膜下出血でクラゾセンタン投与による肺水腫症例に漢方薬を併用した経験	第31回日本脳神経外科漢方医学会学術集会
2023-10-25 ~ 2023-10-27	名取良弘、福村文雄	COVID-19院内感染発生と患者日常生活動作の関係	第82回日本脳神経外科学会総会
	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他	慢性硬膜下血腫穿頭術後のトラネキサム酸内服で再発予防は可能か？	
2023-11-30 ~ 2023-12-2	迎 伸孝、下川能史、酒田あゆみ、他	救急の現場における脳波検査と MRI arterial spin labelling 法の活用	第53回日本臨床神経生理学会学術大会
	名取良弘	眼窩内腫瘍手術にとっての VEP モニタリング	第53回日本臨床神経生理学会学術大会

心臓血管外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-3-23 ~ 2023-3-25	橋野 朗	成人心疾患の周術期における NO 吸入の有効性についての検討	第53回日本心臓血管外科学会総会
2023-6-30 ~ 2023-7-1	内田孝之	Strategy for Value based EVAR Treatment ~ステントグラフト治療戦略を価値の点から考える~	第29回日本血管内治療学会
2023-7-27 ~ 2023-7-28	松尾彰信、内田孝之、石井数也、他	上行-下行大動脈バイパスを行った成人大動脈縮窄症	第56回日本胸部外科学会九州地方会
	笹本 晃、内田孝之、石井数也、他	三尖弁位感染性心内膜に三尖弁置換術施行した一例	
	石井数也、内田孝之、松尾彰信、他	冠動脈瘤に対して冠動脈瘤切除術を施行した2症例	
2023-9-30	石井数也、松元 崇、松尾彰信、他	ステントグラフト内血栓閉塞に対して血栓回収術施行中に外腸骨動脈を損傷した1例	第120回日本血管外科学会九州地方会
	松尾彰信、松元 崇、石井数也、他	外腸骨動脈-膝上膝窩動脈バイパスと大腿動脈結紮術を行った大腿動脈感染性動脈瘤の一例	
2023-12-1 ~ 2023-12-2	内田孝之	当院における TAVI 治療の現況 ~大動脈弁手術の変化~	第10回 Conference for Health Care

血管外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-3-23 ~ 2023-3-25	松元 崇、内田孝之、酒井大樹、他	当院での EVAR 後 late open conversion 症例の検討	第53回日本心臓血管外科学会
2023-12-22 ~ 2023-12-23	松元 崇	ステントグラフト脚閉塞から包括的高度慢性下肢虚血に至った症例への血行再建	第4回日本フットケア・足病医学会年次学術集会

皮膚科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-3-5	王 黎暉、長谷川雄一、沖中友秀、他	多彩な皮膚症状を呈し、複数回の検査で診断に至った <i>Mycobacterium chelonae</i> 感染症の1例	第404回日本皮膚科学会 福岡地方会

形成外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-12-22 ~ 2023-12-23	井野 康、中村薫乃、井上三四郎、他	持続可能なフットケア診療体制について考える	第4回日本フットケア・足病医学学会年次学術集会

泌尿器科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-7-19 ~ 2023-7-21	中島雄一、宮嶋哲匡、入江慎一郎、他	当科に受診した陰嚢緊急症の検討	第32回日本小児泌尿器科学会
2023-7-22	松岡和福、丸田紘子、福原悠一郎、他	特殊な画像所見を呈した前立腺癌の一例	第312回日本泌尿器科学会福岡地方会

眼科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-1-21	森 賢一郎	加齢黄斑変性治療のアンメットニーズ解決の鍵分子としての TNFRSF10 の可能性	第26回眼科分子生物学研究会
2023-2-4	神川文音、中間崇仁、森 賢一郎、他	眼内鉄片異物のサイズ予測に単純X線検査が有用だった4例	第180回九州大学眼科研究会
2023-9-2 ~ 2023-9-3	森 賢一郎	加齢黄斑変性の網膜下線維化に対する TNFRSF10B を介した治療検討	第25回眼創傷治癒研究会
2023-9-29	森 賢一郎	加齢黄斑変性治療のアンメットニーズ解決の鍵分子としての TNFRSF10 の可能性	第11回わかもと先進眼科医療研究会

リエゾン精神科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-6-22 ~ 2023-6-24	猪狩圭介	精神科初期研修グレードアップ! リエゾンチームを活用した研修医トレーニング	第119回日本精神神経学会学術総会
2023-7-28 ~ 2023-7-29	猪狩圭介	シンポジウム精神科研修の光と影初期研修医が精神科で学びたいのはせん妄と不眠だけ?	第55回日本医学教育学会大会
2023-10-19 ~ 2023-10-20	中山立慈、嘉陽宗臣、白玉 桜、他	ステロイド投与後に躁状態となった双極性障害の一例	第75回九州精神神経学会
2023-11-17 ~ 2023-11-18	嘉陽宗臣、猪狩圭介、白玉 桜、他	自傷他害行為を伴う終末期の患者のケアと処遇について - 緩和ケア科と精神科の連携 -	第36回日本総合病院精神医学会

麻酔科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-6-1 ~ 2023-6-3	平本琢也、濱井優輔、内藤智孝、他	全身麻酔導入時に使用するチアミラールとプロポフォールのオピオイド併用下での循環動態に及ぼす影響についての単施設後ろ向き観察研究	第70回日本麻酔科学会
2023-9-16 ~ 2023-9-17	添田浩史、濱井優輔、飯藤依里子、他	卵円孔部に嵌頓した血栓除去術後の再手術中に経食道心エコーで縫合部に血栓の再付着を指摘しえた1例	第28回日本心臓血管麻酔学会
	田村知佳子、濱井優輔、飯藤依里子、他	急性大動脈解離発症時に完全房室ブロックを新規に指摘され緊急手術開始直後に心停止となった1例	
	田平暢恵	MitraClip NT留置後の僧帽弁狭窄でクリップ留置を断念した1例	
	飯藤依里子、濱井優輔、田村知佳子、他	低侵襲心臓手術後に顔面及び上肢の著大な浮腫が判明し脱血不良による上大静脈症候群が疑われた1例	
2023-12-7 ~ 2023-12-9	星合亮尚、濱井優輔、尾崎実展	上大静脈再建後に末梢点滴の滴下不良が生じたことで再建部狭窄を指摘しえた1例	第43回日本臨床麻酔学会

感染症科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-4-28 ~ 2023-4-30	的野多加志	ICUにおける重症感染症の教訓的事例～本邦初のCandida auris血症～	第97回日本感染症学会総会・学術講演会
2023-5-16	的野多加志	これからの感染症対策～コロナ禍3年間の経験を踏まえて～	第70回福岡県公衆衛生学会
2023-8-26 ~ 2023-8-27	長谷川雄一、小田浩之、小坂鎮太郎、他	院内急変って予防できるの！？あなたの認識が180°変わる患者安全	第27回日本病院総合診療医学会学術総会
2023-11-8 ~ 2023-11-11	長谷川雄一、沖中友秀、的野多加志、他	腸管粘膜からの分離培養に成功し治療奏効した腸管スピロヘータ症の1例	第93回日本感染症学会西日本地方会学術集会

歯科口腔外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-1-20	石井広太郎	顎関節症の外科治療	第33回OFP-WEB勉強会
2023-4-20 ~ 2023-4-21	吉田涼子	当院の糖尿病教育入院患者における意識調査 ～セルフケア法、歯周病と糖尿病の関係に関する理解、定期歯科受診の有無について～	第20回日本口腔ケア学会
2023-6-23 ~ 2023-6-25	南部孝樹、石井広太郎、中松耕治、他	高齢の顎関節強直症患者に咀嚼筋腱・腱膜過形成症を併発した1例	第91回日本口腔外科学会九州支部学術集会
2023-6-25 ~ 2023-6-25	石井広太郎	飯塚病院における顎関節内視鏡手術	第3回九州・沖縄地区病院歯科口腔外科懇話会
2023-7-7 ~ 2023-7-9	石井広太郎、中松耕治、木附智子、他	初診時に顎関節症と診断した悪性外耳道炎の1例	第36回日本顎関節学会
2023-7-14	吉田涼子	リハビリテーション医学	麻生リハビリテーション大学校特別授業
2023-11-11	石井広太郎	飯塚病院における顎関節外科の現状と展望	第68回日本口腔外科学会総会

歯科口腔外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-11-16	中松耕治	MRONJから神経障害性疼痛治療まで～ 歯科における多面的アプローチ～	飯塚医師会学術講演会
2023-11-18～ 2023-11-19	中松耕治	口腔外科診療の幅を広げる OFPの世界	第28回日本口腔顔面痛学会総会
2023-11-22	石井広太郎	顎関節症患者に寄り添う歯科医師になろう	PHIJ×よろず勉強会
2023-12-2～ 2023-12-2	加久美鈴、木附智子、南部孝樹、他	口腔外科手術におけるACP(Advance Care Planning)を踏まえた医科歯科連携	第56回日本口腔科学会九州 地方部会

救急科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-3-2～ 2023-3-4	有田雄紀、片桐 欧、香月洋紀、他	グリホサートカリウム塩中毒のリスク因子 およびジルコニウムの有効性の検討	第50回日本集中治療医学会学 術集会
	山崎陽平、鈴木祥太郎、橋本匡彦、 他	III度熱中症に伴う重症ARDSに対しVV- ECMO導入し救命し得た一例	
2023-3-9～ 2023-3-11	山田哲久、名取良弘	当院でのCOVID-19クラスター対応の経験	第28回日本災害医学会総会・ 学術集会
2023-5-12～ 2023-5-13	有田雄紀、山田哲久、鮎川勝彦	神経症状を伴う腰痛で来院し、後日脊髄梗 塞の診断に至った一例	第27回日本救急医学会九州地 方会
2023-6-24～ 2023-6-25	小高聡子、澤邊太郎	Virtual Doctor's Dilemma Competition 2023	ACP(米国内科学会)日本支 部 年次総会・講演会
2023-7-1	山田哲久、名取良弘、香月洋紀、他	コロナ禍前とコロナ禍での院外心肺停止症 例の心拍再開率の比較検討	第35回日本脳死・脳蘇生学会 総会・学術集会
2023-7-27～ 2023-7-29	山田哲久、鮎川勝彦、名取良弘	救急隊との情報共有の問題点と対策	第26回日本臨床救急医学会総 会・学術集会
2023-9-2	香月洋紀、鮎川勝彦、山田哲久	重度のレボドパ誘発性ジスキネジアにより 横紋筋融解症をきたしたパーキンソン病患 者の一例	第7回J's-CAT学術集会
2023-9-16	山田哲久、名取良弘	シンポジウム：5類移行後の新型コロナウイ ルス感染症の変化	第41回福岡救急医学会
2023-11-28～ 2023-11-30	井上 聡、山田哲久	刃元による血管、気管損傷が危惧され抜去 に工夫を要したカミソリによる頸胸部刺創 の1例	第51回日本救急医学会総会・ 学術集会
	小高聡子、山田哲久	クレーン事故による下位胸髄損傷患者のメ ンタルケアに関する考察	
	香月洋紀、山田哲久、鮎川勝彦、他	AED(Automated External Defibrillator) は いつも正しいとは限らない	
	山田哲久、鮎川勝彦、香月洋紀、他	院外心肺停止症例に対する病院前での治療 介入が心拍再開に与える影響に関する検討	
2023-12-8～ 2023-12-9	山田哲久、香月洋紀、片桐 欧、他	ドクターカー症例での救急救命士特定行為 の指示要請に関して	第18回日本病院前救急診療医 学会総会・学術集会

集中治療科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-3-2 ~ 2023-3-4	桑野公輔、川上大裕、吉野俊平	蘇生後脳症の予後予測に自己心拍再開後72時間以降の頭部CTは有効か？	第50回日本集中治療医学会学術集会
	川上大裕	血行動態評価を俯瞰する	
	川上大裕	おいでやす白熱集中治療教室～心機能評価～	
	大塚哲也、堤 圭右、鈴木祥太郎、他	尿アニオンギャップ(AG)および尿浸透圧ギャップが診断に寄与したトルエン中毒の一例	
	桐原志保美、川上大裕、井上修二郎、他	ニコランジル投与により顕性化した右心室心筋梗塞の一例	
	鈴木祥太郎、大塚哲也、橋本匡彦、他	Arterial line 血栓閉塞により手指壊死に至った1例	
2023-4-14 ~ 2023-4-16	集中治療部当直医、吉野俊平	ポイントオブケア超音波講習会 下肢血管エコー	第120回日本内科学会総会・講演会
2023-4-27 ~ 2023-4-28	Kawakami D, Fujitani S	Evaluation of the impact of ABCDEF bundle compliance rates on post-intensive care syndrome	The 43rd KSCCM Annual Congress
2023-6-24 ~ 2023-6-25	川上大裕	水マニア～集中治療・循環器・腎臓の視点で考える急性期の水管理～「うまく引けない」を科学する	ACP（米国内科学会）日本支部年次総会・講演会
	吉野俊平	Doctor's Dilemma 総合内科・感染症分野出題および解説	
	川上大裕	グレーゾーン探偵～重症患者の輸液編～	
2023-7-15	吉野俊平	働き方改革を見据えて行う持続可能性の高い診療体制の整備	第7回日本集中治療医学会九州支部学術集会
2023-8-5 ~ 2023-8-6	川上大裕	肺にやさしい急性期輸液の考え方	第45回日本呼吸療法医学会学術集会

病理科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-7-12	平木由佳	394-02/皮膚（バーチャル）	第394回九州・沖縄スライドコンファランス

中央検査部

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-5-20 ~ 2023-5-21	吉田健登、川嶋大輔、宮原慶子、他	耳鼻咽喉科穿刺吸引細胞診ROSE・LBC導入効果	第72回日本医学検査学会
2023-6-9	樋口雄哉	職員力量情報を用いた教育プログラムの考案	第3回採血業務指標化システム導入施設ユーザー会
2023-7-29 ~ 2023-7-30	奥田琢巳、榊田晋作、犬丸絵美、他	CD23陰性Myeloid抗原陽性の非典型的CLLの1症例	第24回日本検査血液学会学術集会

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-9-3	飯野雄大、樋口雄哉、松浦辰也、他	LC-MS/MSを用いた薬毒物スクリーニングの有用性	第32回福岡県医学検査学会
2023-11-4 ~ 2023-11-5	上原俊貴、平口恵里香、吉田健登、他	当院での気管支鏡検査におけるROSEの現状とゲノム医療との関連	第62回日本臨床細胞学会秋期大会
	金谷直哉、川嶋大輔、吉田健登、他	スライドカンファレンス（甲状腺）高円柱状腫瘍細胞の鑑別	
2023-11-17 ~ 2023-11-18	吉田健登、上原俊貴、金谷直哉、他	耳鼻科領域の穿刺吸引細胞診における不要な穿刺の削減	第24回「医療の改善活動」全国大会 in 広島

リハビリセンター

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-3-4	横手 翼	運動習慣とその他の活動の組み合わせと身体的フレイルとの関連	第24回日本健康支援学会年次学術大会
2023-5-20 ~ 2023-5-21	木戸孝史、奥野将太、白土健吾、他	肺癌術後患者における入院中の運動耐容能改善は術後1ヶ月の運動耐容能に影響を与える	第32回福岡県理学療法士学会
2023-6-10 ~ 2023-6-11	横手 翼、西村天利、中村裕輔、他	後期回復期心血管疾患患者における運動習慣確立と再入院との関連	第20回日本予防医学会学術総会
2023-6-29 ~ 2023-7-2	川満謙太、石川清美、山下智弘	外反母趾に対するボツリヌス療法がバランス能力改善に繋がった多発性硬化症の一例	第60回日本リハビリテーション医学会
	高崎あかり、市来佳奈美、小菌秀太、他	誤嚥性肺炎により気管切開術を施行した急性期頸髄損傷の一例	
	白土健吾、奥野将太、川満謙太、他	非小細胞肺癌患者における術前悪液質が術後1ヶ月後のサルコペニアに与える影響	
	原田佑海、原田佑海、小菌秀太、他	呼吸筋麻痺により嚥下障害が遷延した皮膚筋炎の1例	
	船津絵里、原田佑海、小菌秀太	呼吸筋麻痺により嚥下障害が遷延した皮膚筋炎の1例	
2023-7-15 ~ 2023-7-16	横手 翼、西村天利、大淵雅子、他	外来心臓リハビリテーション患者におけるうつ症状およびフレイルと運動習慣確立との関連	第29回心臓リハビリテーション学会学術集会
	大西悠太郎、横手 翼、川満謙太、他	経カテーテル大動脈弁留置術前のShort physical Performance Battery と転帰の関連	
	原 拓也、横手 翼、西村天利、他	開胸術後に縦隔炎を発症したが、多職種連携により自宅退院に至った一例	
2023-9-2 ~ 2023-9-3	白土健吾	非小細胞肺癌患者における術前悪液質と術後サルコペニアとの関係	第9回日本呼吸理学療法学会学術大会
	木戸孝史、奥野将太、白土健吾、他	肺癌術後1ヶ月の術前運動耐容能獲得には入院期間中の運動耐容能改善が重要である	
2023-9-2 ~ 2023-9-3	横手 翼、西村天利	外来・臓リハビリテーション患者におけるうつ症状およびサルコペニアと運動習慣確立との関連	第2回日本老年療学会学術集会
2023-9-8 ~ 2023-9-10	横手 翼、西村天利	外来・臓リハビリテーション実施患者におけるうつ症状およびサルコペニアの組み合わせと心疾患再入院の関連	第71回日本心臓病学会学術集会

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-9-17 ~ 2023-9-18	白土健吾	抗がん剤治療を行っている非小細胞肺癌患者のエネルギー摂取量が骨格筋量及び身体機能に与える影響	第9回日本栄養嚥下理学療法学会学術大会
2023-10-6 ~ 2023-10-8	横手 翼、西村天利	外来・臓リハビリテーション通院中の心不全患者における運動習慣の特徴	第27回日本心不全学会学術集会
2023-10-26 ~ 2023-10-28	白土健吾	Effect of Preoperative Cancer Cachexia on Postoperative Sarcopenia in Patients with Non-small Cell Lung Cancer	第9回 Asian conference for frailty and sarcopenia
	Yokote T, Nishimura T, Oobuchi M, et al.	Association between frailty, sarcopenia and establishment of exercise habits in outpatient cardiac rehabilitation patients	
	中村裕輔、長溝耕平、他	The characteristics of patients with hematological malignancy complicated with sarcopenia or severe sarcopenia	
2023-11-3 ~ 2023-11-5	瀨本絢香	急性期脳梗塞患者における退院時の嚥下障害に影響を与える因子の検討～SIASは嚥下障害の評価に有用か～	第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会
	川満謙太、石川清美、山下智弘	ボツリヌス療法後の歩行速度に影響する複数要因の検討～反復測定データにおける混合効果モデルでの解析～	
2023-11-25 ~ 2023-11-26	横手 翼、西村天利、中村裕輔、他	外来心臓リハビリテーション実施患者における退院時のうつ症状と再入院との関連	九州理学療法士学術大会 2023in 熊本
	中根知尋、横手 翼、西村天利	心血管疾患入院患者における入院前の活動的趣味と退院時のフレイルとの関連	

薬剤科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-11-3 ~ 2023-11-5	長崎皓光、梅田勇一、内田守次、他	飯塚病院におけるカルバペネム系抗菌薬の使用量動向に応じたAST活動	第33回日本医療薬学会年会
	森高啓太、進 健司、梅田勇一	精神科外来における診察前薬剤師面談による薬学的支援の効果	
	進 健司、森高啓太、梅田勇一	精神科外来における支援シートを用いたベンゾジアゼピン受容体作動薬減薬の試み	

中央放射線部

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-3-15	一ノ瀬沙世	Acetazolamide 負荷脳血流検査において多職種に共通認識を与える補助具の作成方法	福岡県診療放射線技師会筑豊地区学術研修会

臨床工学部

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-3-11	平川琢也、沖永一樹、藤崎毅一郎	医師からのタスクシフト	第21回日本医療マネジメント学会 福岡支部会
2023-8-26	桑田紗也加、上村健斗、横溝伸也、他	飯塚病院高気圧酸素治療室における新型コロナウイルス蔓延期で起きた変化と現状について	第23回九州高気圧環境医学会

予防医学センター

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-9-1 ~ 2023-9-2	赤星和也、羽坂尚美、山本英彦	胃癌ドックの超音波内視鏡検査で指摘された小型腹腔動脈瘤の一例	第64回日本人間ドック学会学術大会
2023-11-2 ~ 2023-11-5	赤星和也、羽坂尚美、田村慎一、他	直視型超音波内視鏡を用いた一期的膵癌胃癌検診のアウトカムの検討	第61回日本消化器がん検診学会大会
2023-12-5 ~ 2023-12-9	Akahoshi K, Tamura S, Akahoshi K	Single endoscopic session screening for pancreatic and gastric cancer using forwardviewing echoendoscope in health checkups	The 2023rd Asian Pasific Digestive Week

診療情報管理室

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-6-8 ~ 2023-6-10	江口拓究	ファイル入力機能を活用したがん登録業務の省力化に関する報告	第32回日本がん登録協議会学術集会

臨床研究支援室

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-10-6 ~ 2023-10-8	古賀秀信	既存のデータからどのような解析ができるか	第55回日本医療検査科学会

医療安全推進室

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-11-25 ~ 2023-11-26	荒巻美鈴、福村文雄、新鹿深夏	投薬プロセスに着目した内服薬未実施エラー削減への取り組み	第18回医療の質・安全学会学術集会

看護部

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-2-18	新垣晴佳、梶原優子、野見山由美子、他	看護ナビコンテンツプロジェクトチームの活動の成果と今後の課題 ~院内レビュー後アンケート結果より~	第7回日本臨床知識学会
	佐野美和子、山本百恵	患者状態（フェーズ）移行条件を活用した転棟基準への取り組み~第7波 COVID-19陽性患者 救急病棟からの転棟~	
2023-3-11	飯島紀子、門脇昌子	「母子のための地域包括ケアシステム」の構築に向けた研修の取り組み	第21回日本医療マネジメント学会 福岡支部会
	石崎美美、川村依子、縄手香代、乗次瑞穂、沖永一樹	多職種連携による「抜針事故0」に向けての取り組み	
	荒巻美鈴、白土 恵	小児科外来で使用するパンフレットの有効活用と働きやすさにつながったカイゼン	
2023-5-11 ~ 2023-5-12	岡 佳子、岩橋淑恵、篠崎妙江、他	A病院におけるインスリン治療の有無からみた糖尿病看護外来の在り方	第66回日本糖尿病学会 年次学術集会
	岩橋淑恵、篠崎妙江、岡 佳子、他	TQM活動に向けた糖尿病看護外来の評価~傾向スコアマッチング法を用いて~	
	岡 佳子、岩橋淑恵、篠崎妙江、他	A病院におけるインスリン治療の有無からみた糖尿病看護外来のありかた	
	岩橋淑恵、岡 佳子、篠崎妙江、他	TQM活動における糖尿病看護外来の評価~傾向スコアマッチング法を用いて~	

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-6-23 ~ 2023-6-24	佐野美和子、山本百恵	外科系女性病棟での師長の人材育成の取り組み～看護師スキルリストの活用～	第25回日本医療マネジメント学会
2023-7-28 ~ 2023-7-29	富田龍馬、河村和美、村上愛果、他	急性期病院における内科一般病棟を対象とした医師・看護師連携による夜間急変シミュレーションの導入	第55回日本医学教育学会大会
2023-8-25 ~ 2023-8-26	佐藤香緒里、日置由季、倉智恵美子	セル看護提供方式における始業前残業削減に向けた2病棟の取り組み	第27回日本看護管理学会
	堤 一樹、岡 佳子、藤村賢宏、他	A病院における“なりたい私”に向けてスペシャリスト協働のキャリアデザイン支援	
	佐野美和子、野見山由美子、梶原優子	病棟師長の業務移譲のための「師長のリレーノート」作成と師長間共有の活動結果	
2023-9-8	松永知美	救命センター看護師の災害医療に対する学習意欲について	第31回福岡救急医学会
2023-9-30	日置由季、佐藤香緒里、倉智恵美子	セル看護提供方式における始業前情報収集削減に向けた2病棟の取り組み	第63回院内看護研究発表会
	岩橋淑恵、岡 佳子、井上智彰	糖尿病をもつ成人期男性のセクシュアリティの看護ケア～糖尿病教室での取り組み～	
2023-10-28 ~ 2023-10-29	木戸亜理菜、中嶋かおる、藤田起代美	A病院におけるコロナ禍による面会制限とエジンバラ産後うつ病質問票（EPDS）との関連	第19回日本周産期メンタルヘルス学会 学術集会
2023-11-8 ~ 2023-11-9	河野楓子、有働あゆみ、永芳 瞳、他	A病棟における身体拘束時間と新型コロナウイルス流行期と非流行期との関連	第54回日本看護学会学術集会
	上田紋子、姫野美佐子、岡 佳子	AYA世代の多発性骨髄腫男性患者への妊孕性温存に関する意思決定支援	
	藤村賢宏、岡 佳子、堤 一樹、他	A病院でのキャリアデザイン支援における専門看護師・認定看護師の協働	
2023-11-24 ~ 2023-11-25	吉川英里、山崎量博、木村美香、他	院内救急救命士の業務拡大に向けた取り組み～学習を促進する構成要素を用いて教育方法を振り返る～	第25回日本救急看護学会
	森本秀樹、木村美香	救命救急センター新規配属者の自己効力感向上を目指した取り組み	
	吉川英里	当院におけるRapid Response Systemの現状とアウトカムの検討	
	山崎量博、木村美香	「トリアージ検証用紙」を用いたトリアージ事後検証の有用性	
2023-12-1 ~ 2023-12-2	高橋美紀、岩橋淑恵、篠原 彩、他	糖尿病を有する血液維持透析患者へのフットケア実践の成果	第61回日本糖尿病学会 九州地方会
2023-12-15 ~ 2023-12-16	木村美香、佐野美和子、梶原優子	電子クリニカルパス看護師タスクの院内レビューへの取り組み	第8回日本臨床知識学会
	佐野美和子、新垣晴佳	患者状態を基準とした転棟・病室選択と記録への仕組みづくり	

栄養部

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-7-14	黒田小織、山崎 彩	TIME 研究所	第6465回QCサークル九州支部 チャンピオン大会

事務

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-7-27 ~ 2023-7-29	松尾純子、堀内茅加、名取良弘	入院時重症患者・家族に対する多職種心理支援及び意思決定支援 その取り組みと課題	第26回日本臨床救急医学会総会・学術集会

改善推進本部

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-11-25 ~ 2023-11-26	福村文雄	飯塚病院におけるTQM実践－方針管理を仕組み化する－	第18回医療の質・安全学会学術集会

イノベーション推進本部

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-7-21 ~ 2023-7-23	井桁洋貴	民間病院における医工連携 ～10年間の活動から見えてきたもの～	第33回日本臨床工学会

臨床心理室

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-12-10	門田隆浩	周囲の期待に応え続け不登校となった思春期男子への心理面接	第3回日本公認心理師学会学術集会

内視鏡センター

開催日	発表者名	表題名	学会名
2023-12-5 ~ 2023-12-9	Akahoshi K, Akahoshi K, Koga H	Synchronous malignancies and clinicopathologic features in patients with gastric GIST preoperatively diagnosed: a retrospective study	The 2023rd Asian Pasific Digestive Week

3. 講演

肝臓内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-3-3	栗野哲史	当院の肝癌治療における腫瘍免疫の検討	HCC Conference
2023-3-14	栗野哲史	HCV elimination 時代における肝癌診療	Hepatocellular carcinoma Web Seminar
2023-4-13	矢田雅佳	当院における核酸アナログ内服下での発癌の現状	B型肝炎オンラインセミナー
2023-5-19	矢田雅佳	C型肝炎治療と新規患者掘り起しの院内連携	The Professionals
2023-8-21	本村健太	現在の肝細胞癌治療について	直方鞍手医師会学術講演会
2023-9-7	栗野哲史	肝細胞癌における STRiDE 導入の実践	複合免疫療法の臨床応用を考える会
2023-9-19	矢田雅佳	C型肝炎治療と新規患者掘り起しの院内連携	The Professionals ~ AbbVieLive Seminar ~
2023-10-24	栗野哲史	肝細胞癌における STRiDE 導入の実践	肝細胞癌治療セミナー in 北九州
2023-11-15	本村健太	肝癌診療の現状と問題	第47回福岡県肝疾患相談支援セミナー
2023-11-30	栗野哲史	アテゾリズマブ・ベバシズマブ療法における免疫関連有害事象の検討	HCC expert meeting in immuno-oncology

呼吸器内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-2-10	井手ひろみ	当院の Mepolizumab 使用経験～在宅自己注射の活用～	GSK Severe Asthma Expert Seminar
2023-2-18	吉峯晃平	ALK 陽性肺癌治療の安全性マネジメント	Lung Cancer Seminar
2023-2-22～ 2023-2-23	飛野和則	喘息治療の最前線～実臨床から紐解く SITT の有用性～	テリルジー WEB 講演会
2023-2-27	井手ひろみ	重症喘息治療における好酸球管理の重要性と治療アプローチ	好酸球 WEB SYMPOSIUM
2023-3-17	井手ひろみ	気管支喘息治療にテリルジーを1st line で活用するか？	テリルジー WEB 講演会
2023-4-6	鶴野広介	使用経験より考えるオプジーボ+ヤーボイ±ケモ2の活かし方	NSCLC エリア Web カンファレンス in 筑豊地区
2023-4-12	吉峯晃平	肺癌診療における地域連携	筑豊呼吸器疾患連携セミナー
	鶴野広介	筑豊の間質性肺炎患者さんは今!? ～現状を踏まえ未来のことを考えていきたい～	
	前田顕子	喘息・COPD の日常診療	
2023-5-30	大井隆之介	「COPD の診療・治療～2022 ガイドライン改定ポイントを踏まえて～」	第67回呼吸器疾患研究会
	坂部光邦	「急速進行性間質性肺疾患～当院での症例を通して～」	
2023-6-7	前田顕子	飯塚病院におけるデュピクセントの使用経験	Severe Asthma Forum in Chikugo
2023-6-15	吉峯晃平	当院における ALK 陽性肺癌の診療について	Lung Cancer Webinar

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-6-21	飛野和則	「喘息治療の最前線！」～実臨床から紐解くSITTの有用性～	テリルジー 2周年記念講演会 in 飯塚
2023-6-27	飛野和則	「重症喘息治療における Mepolizumab のポジショニング」	GSK Severe Asthma Expert Web Seminar
2023-7-13	靄野広介	非小細胞肺癌の術前補助療法に関して～当院の現状を踏まえて～	筑豊地区がん免疫療法セミナー 2023
2023-7-31	飛野和則	日常診療で気をつけたい間質性肺疾患	直方鞍手医師会学術講演会
2023-8-26	飛野和則	飯塚病院におけるILD診療の工夫	第2回びまん性肺疾患セミナー
2023-9-26	飛野和則	当院におけるBenralizumab処方の実際	Severe Asthma Symposium in Kitakyusyu ～ changes in 5 years ～
2023-10-11	飛野和則	間質性肺炎診療における早期発見・早期診断に必要な多職種連携	第84回東三河呼吸器疾患研究会
2023-10-24	靄野広介	当科におけるPF-ILD診療の現状と今後の展望	飯塚ILD Web Academy
2023-11-15	飛野和則	EGPA診療における今後の課題	GSK EGPA Management Seminar in 飯塚
2023-11-21	飛野和則	COPDの治療戦略～当院での使用経験を含めて～	飯塚医師会学術講演会
2023-11-28	靄野広介	IPF+各診療科にお願いしたい事	飯塚医師会学術講演会
2023-11-29	井手ひろみ	バイオ製剤による重症喘息治療の実態	Tezespire 1st Anniversary Symposium in Fukuoka
2023-12-4	神 幸希	みんなで考える！間質性肺疾患診療について～当院の現状を含めて～	ILD Short Lecture 2023 In Kyusyu

内分泌・糖尿病内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-12-7	井上智彰	妊娠糖尿病の病態と管理	第25回実地医家のための糖尿病セミナー

消化器内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-1-27	久保川 賢	潰瘍性大腸炎について	田川薬剤師研修会
2023-2-3	小森圭司、久保川 賢	潰瘍性大腸炎に対する治療について	キッセイ薬品工業株式会社社内勉強会
2023-6-10	久保川 賢	門脈圧亢進症の治療戦略－食道・胃静脈瘤&門脈血栓症－	九州門脈圧亢進症研究会特別講演
2023-8-28	久保川 賢	胃食道逆流症(GERD) について	飯塚医師会学術講演会
2023-11-21	久保川 賢	GERDと呼吸器疾患	第68回呼吸器疾患研究会
2023-11-30	大崎智絵	当院におけるウステキヌマブの臨床的検討	北九州IBD治療連携を考える会

心療内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-4-14	木附 康	うつ病治療のゴールについて再考する	第47回筑豊精神科カンファレンス

総合診療科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-1-23	清田雅智	acute appendicitis	第16回かかりつけ医のための実践道場in飯塚
2023-1-28	清田雅智	Bruce Runyon and ascites ～なぜ腹水はLDHではなくアルブミンが優先されるのか？	白河総合診療アカデミー 特別講演
2023-2-3	清田雅智	臨床推論 第5回 各論 hyponatremia ～ Naが少ないのではなく水が多い	産業医科大学 大学院講義
2023-2-25	小杉俊介	日本におけるチーフレジデントの役割	JACRA チーフレジデントミーティング2023
2023-2-28	細川 旬	キャリア迷子の医師へ 自分らしい進路を探すためのヒントとアドバイス	Antaa Webinar
2023-3-1	清田雅智	痙攣で発症するリウマチ性疾患といえば(NPSLE)	第3回GIM×Rheumatology Seminar
2023-3-13	山口裕崇	逆再生から醸す抗菌薬治療の戦略と流儀	Asahikawa Infection Control Seminar for Young Doctors
2023-3-18	井上三四郎	大腿近位部骨折の主治医はどいつだ	北海道外傷整形外科WEB-MEETING
2023-3-22	清田雅智	Edema in GIM ～心臓、腎臓、肝臓、甲状腺が関与しない浮腫の原因	Geriatric clinical forum 2023
2023-3-23	清田雅智	hypokalemia	第17回かかりつけ医のための実践道場in飯塚
2023-4-8	大内田良真、鶴木友都	繰り返す意識消失	第107回東京GIMカンファレンス
2023-5-23	清田雅智	PPV (恐怖性姿勢めまい症), BPPV, PPVを理解する	第18回かかりつけ医のための実践道場in飯塚
2023-5-26	清田雅智	臨床推論 各論1～ acute appendicitis ～	産業医科大学 大学院講義
2023-5-27	清田雅智	症例から学医学のエッセンス potassium avnormality	適々齋塾
2023-6-2	清田雅智	今さら聞けないバイタルサイン	久留米大学大学院医学研究科 大学院特別講演
2023-6-9	清田雅智	GIM 新しい時代の担い手	横浜市立大学 学生講義
2023-6-15	山口裕崇	BACK TO THE BEST ABX PRACTICE 逆再生から醸す、抗菌薬治療の戦略と流儀	Antaa Webinar
2023-6-23	清田雅智	肺外結核	第25回感染症を考える会 in 福岡
2023-6-28	井上三四郎	当院における大腿骨近位部骨折に対する整形外科と総合診療科の連携の実際	骨粗鬆症治療連携セミナー in 飯塚
2023-6-30	清田雅智	臨床感染症 総論 各論	宮崎大学 学生講義
2023-7-1	小杉俊介	名物若手指導医が「レジデントから始める教育のtips」を伝授します！	Residents As Teachers in Hiroshima
2023-7-2	小杉俊介	キャリア座談会	JACRA×レジナビ×コネクト SPECIAL SEMINAR
2023-7-7	清田雅智	胸水	板橋中央病院 Meet the Expert
2023-7-8	清田雅智	腹水の全て	湘南鎌倉総合病院 caseカンファレンス

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-7-20	福田雄太	49歳 男性 腰痛	第63回九州総合診療セミナー
2023-7-21	大内田良真	キャリア迷子の脱出法 セルフモチベーションと自己学習	Antaa Webinar
	能美康彦	キャリア迷子の脱出法 セルフモチベーションと自己学習	
	大西崇平	キャリア迷子の脱出法 セルフモチベーションと自己学習	
	細川 旬	キャリア迷子の脱出法 セルフモチベーションと自己学習	
2023-7-27	清田雅智	fever and rash	第19回かかりつけ医のための実践道場in飯塚
2023-8-3	井上三四郎	大腿骨近位部骨折の主治医はどいつだ！	大腿骨近位部骨折ケア Seminar
2023-8-4	清田雅智	臨床推論 各論2～hypokalemia～	産業医科大学 大学院講義
2023-9-23	清田雅智	静かなる患者さんたち silent GCA,Scrofula	JAMEP 総合診療スキルアップセミナー
2023-9-28	清田雅智	referred pain	第20回かかりつけ医のための実践道場in飯塚
2023-9-29～ 2023-9-30	清田雅智	症例検討と病棟ラウンド／レクチャー／GIMカンファレンス Campylobacter.	和歌山ジェネラリストセミナー
2023-9-30	小田浩之	SimSP10周年パネルディスカッション	第8回シミュレーションスペシャリストセミナー in 京都
2023-10-2	清田雅智	Erythema nodosum	亀田総合病院 膠原病セミナー
2023-10-25	山口裕崇	30代のキャリアチェンジ スペシャリストかジェネラリストか？	Antaa Webinar
	大向功祐	30代のキャリアチェンジ スペシャリストかジェネラリストか？	
2023-10-28	清田雅智	hypokelemia ～いつも尿中排泄を意識する	白河総合診療アカデミー 特別講演
2023-11-10	清田雅智	臨床推論 各論3～thyroid function testing～	産業医科大学 大学院講義
2023-11-24	清田雅智	influenza and it's mimicker	第21回かかりつけ医のための実践道場in飯塚
2023-12-1～ 2023-12-2	清田雅智	Erythema nodosum, Extrapulmonary TB, Marchiafava-Bignami disease	第16回諏訪中央病院教育回診
2023-12-11	清田雅智	研修医に対するベッドサイドレクチャー	福岡赤十字病院 教育回診
2023-12-12	井上三四郎	「飯塚病院総合診療科における整形連携」～マケレレの気持ち～	その道のプロに聞く！！～医療・地域連携、そして働き方改革～
	鶴木友都	「飯塚病院総合診療科における整形連携」～マケレレの気持ち～	
	小杉俊介	「飯塚病院総合診療科における整形連携」～マケレレの気持ち～	
2023-12-12	小杉俊介	救急外来での総合診療科のトリアージ オンザジョブ	北九州総合病院 特別講演(実践編)
	井上三四郎	救急外来での総合診療科のトリアージ オンザジョブ	

膠原病リウマチ内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-2-3	山内雄介	関節リウマチの診断と治療	飯塚病院 関節リウマチ診療検討会
2023-2-21	内野愛弓	関節リウマチ診療の実際	福岡県病院薬剤師会筑豊支部 学術研修会
2023-3-10	内野愛弓	内科的な関節リウマチ診療 ～診療連携を中心に～	筑豊整形外科医会講演会
2023-5-19	内野愛弓	最新のEGPA治療戦略	GSK EGPA Expert Web Seminar
2023-5-23	内野愛弓	膠原病合併肺病変 ～CTD-ILDの新しい治療～	筑豊CTD-ILD WEBセミナー
2023-5-29	内野愛弓	高齢者におけるRA診療について	RA診療を考える会 in 北九州
2023-6-30	内野愛弓	患者さんの長期予後を見据えたSLEの治療戦略～当科での経験を踏まえて～	SLE Expert Web Seminar
2023-7-5	山内雄介	飯塚病院におけるRA診療の現状と取り組み	RA診療における現状と治療戦略
2023-9-2	内野愛弓	関節リウマチにおける治療選択～JAK阻害剤のトリセツ～	関節リウマチ患者さんサポートセミナー in 九州
2023-10-24	内野愛弓	CTD-ILDの診断と治療	飯塚ILD Web Academy
2023-11-8	日浦惇貴	飯塚病院における関節リウマチ診療	第7回IL-6から考えるリウマチ性疾患セミナー
2023-11-15	内野愛弓	病態から考えるEGPA診療	GSK EGPA Management Seminar in 飯塚
2023-11-28	内野愛弓	みんなで診る膠原病	筑豊3科合同カンファレンス
2023-12-15	内野愛弓	SLE治療の目標設定とベリムマブの位置づけ	SLE Expert Web Seminar

連携医療・緩和ケア科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-2-4～ 2023-2-5	田木聡一	勤務医としての専門性のひとつ、在宅専門医	在宅医へのキャリアパス 沖縄版
2023-2-20	石上雄一郎	どこまで治療をするべきか?の考え方・患者家族への話し方 救急集中治療領域の緩和ケア	Live symposium ～福島の緩和ケアを考える～
2023-2-22	柏木秀行	地域で取り組むがん疼痛緩和	緩和医療を考える会
2023-3-3～ 2023-3-4	石上雄一郎	若手教育講演9：今だから考える～ICUでの緩和ケア	第50回日本集中治療学会学術集会
2023-3-24	柏木秀行、平塚裕介	緩和ケアにおける臨床研究と論文執筆	第78回飯塚緩和医療勉強会
2023-4-8	松坂 俊	絶対に見落とせない！壊死性軟部組織感染症～その症例、軽症として帰して本当に大丈夫？～	第10回N.C.学術講演会
2023-5-24	柏木秀行	緩和ケア・人生の最終段階におけるケア②	藤田医科大学 総合診療プログラム勉強会
2023-6-6	柏木秀行	ケア移行をもう一步進めるための取り組み	東京都立病院機構 講演会
2023-6-7	柏木秀行	急性期病院における非がんの緩和ケアの実践	東京都立病院機構 講演会
2023-6-28	柏木秀行	緩和ケア・人生の最終段階におけるケア③	藤田医科大学 総合診療プログラム勉強会
2023-7-10	柏木秀行	心不全緩和ケア	第2回在宅医療介護従事者研修会
2023-7-24	柏木秀行	緩和ケアのパラダイムシフト	医学部医学科3年生 総合診療科・総合外科コース特別講演

連携医療・緩和ケア科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-7-26	柏木秀行	緩和ケア・人生の最終段階におけるケア④	藤田医科大学 総合診療プログラム勉強会
2023-7-28	松坂 俊	「全人的苦痛をぎゅっとまとめてみました」 ～人生に役に立つ？全人的苦痛の勘所～	第28回総合診療専門研修支援事業
2023-8-8	柏木秀行	コミュニケーションスキル概論	総合診療医育成プロジェクト
2023-8-9	柏木秀行	GOC -ゴールオブケア- 3 Stage Protocol の活用	総合診療医育成プロジェクト
2023-8-26	柏木秀行	緩和ケア医を育てる	第5回日本緩和医療学会 中国・ 四国支部学術大会
2023-9-22	濱崎慎平	便秘の標準治療と悪性腸閉塞	第29回総合診療専門研修支援 事業
	柏木秀行	総合診療／プライマリ・ケアと緩和ケアの融合	
2023-9-26	柏木秀行	がん疼痛の評価と非薬物療法	都立病院機構 総合診療医育 成プロジェクト ランチタイ ムウェビナー
2023-10-10	柏木秀行、渡辺克哉	高齢化社会における在宅医療と訪問栄養の実際	在宅医療Webセミナースピ ンオフ企画
2023-10-11	柏木秀行	オピオイドの使い方と実践的な工夫	都立病院機構 総合診療医育 成プロジェクト ランチタイ ムウェビナー
2023-10-20～ 2023-10-21	石上雄一郎	どこまで治療するべきか？の考え型・患者家 族への話し方	救急外来から始める緩和ケア 研修会
2023-10-24	柏木秀行	鎮痛補助薬のポイント	都立病院機構 総合診療医育 成プロジェクト ランチタイ ムウェビナー
2023-10-25	柏木秀行	緩和ケア・移行期ケアについて	牟田病院研修会
2023-11-1	柏木秀行	呼吸困難への対応	都立病院機構 総合診療医育 成プロジェクト ランチタイ ムウェビナー
2023-11-7	柏木秀行	介護保険主治医意見書の攻略方法	総合診療医育成プロジェクト
2023-11-8	柏木秀行	緩和的鎮静	総合診療医育成プロジェクト
2023-11-14	柏木秀行	予後予測	都立病院機構 総合診療医育 成プロジェクト ランチタイ ムウェビナー
2023-11-15	柏木秀行	非がん患者の症状緩和について	隠岐病院 緩和ケア研修会
	松坂 俊	病棟回診について	
2023-11-28	柏木秀行	心不全のACP ～急性期医療と地域連携～	第2回循環器チーム医療教育セ ミナー
2023-11-29	柏木秀行	看取りが近い時期の対応	都立病院機構 総合診療医育 成プロジェクト ランチタイ ムウェビナー
2023-12-1～ 2023-12-2	柏木秀行	米国医療機関から学ぶ急性期緩和ケアの取り 組みと質改善	第10回 Conference for Health Care
2023-12-5	柏木秀行	スピリチュアルペイン概論	都立病院機構 総合診療医育 成プロジェクト ランチタイ ムウェビナー
2023-12-9	柏木秀行	飯塚病院のPX活動	PX フォーラム
2023-12-12	柏木秀行	緩和ケアにおける各職種との連携	都立病院機構 総合診療医育 成プロジェクト ランチタイ ムウェビナー

循環器科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-2-2	川上将司	ECMOを駆使して患者を救命する	補助循環に関する講演会
2023-2-8	児島啓介	心不全診療における薬物治療の実際	Heart Failure Symposium ～心不全のトータルマネジメントを考える～
2023-2-9	児島啓介	心不全患者における、腎不全・貧血へのアプローチ	心腎貧血症候群を考える会
2023-2-28	大賀泰寛	心不全の治療戦略-MitraClipという選択肢-	第23回循環器UP TO DATE WEBセミナー
2023-4-21	松本洋典	治療に難渋した急性冠症候群の一例	第6回Hibiki Young Doctors Round
2023-5-26	北原賢一	臨床現場でSGLT2阻害薬を使いこなす	HF Web Symposium 2023
2023-6-2	西 淳一郎	2023ガイドライン 冠攣縮性狭心症と冠微小循環障害の診断と治療	第25回循環器UP TO DATE WEBセミナー
2023-6-22	眞柴貴久	R2Pに関する症例報告	Peripheral Closed Advisory Meeting
2023-7-27	田中敬士	最近の心房細動治療について	循環器UP TO DATE WEBセミナー
2023-8-18	稲永慶太	地域連携でAS患者を診る～薬物治療まで含めて～	田川医師会学術講演会
2023-9-5	石川智一	急性肺塞栓症から見つけるCTEPH～それぞれの立場の役割～	CTEPH discovery webinar
2023-9-22	川上将司	循環器集中治療医が考える心不全診療	心・腎・代謝関連セミナー
2023-10-5	川上将司	循環器集中治療医が考える心不全診療	循環器救急と心不全
2023-10-26	高原勇介	心房細動のアブレーション適応	循環器UP TO DATE WEBセミナー
2023-10-28	田中敬士	心房細動アブレーション～2ndセッションの戦略～	Advanced Arrhythmia Academy, AAA digest 2023
2023-11-28	川上将司	世界標準を目指す筑豊の循環器救急の話	循環器UP TO DATE WEBセミナー
2023-12-8	稲永慶太	How to 心不全診療	心不全WEB講演会

脳神経内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-2-9	篠田紘司	MSにおける抗CD20抗体B細胞療法の最新の知見	Innovative Therapeutic Strategies for MS
2023-4-11	篠田紘司	B細胞を中心とした病態から学ぶ多発性硬化症治療の最前線	MS Online Clinical Conference
2023-6-9	篠田紘司	日本人のMSにおけるテクフィデラの治療戦略を考える	International MS Meeting in kyushu
2023-6-25	篠田紘司	抗CD20抗体療法をどうMSに活かすか 何故B-cellなのか	ケシンプタ2周年記念全国講演会
2023-7-19	篠田紘司	多発性硬化症の診断と治療	第319回福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術研究会
2023-9-6	高瀬敬一郎	神経傷害性疼痛治療について	Pain Live Symposium ～疾患に伴う痛みについて考える～
2023-9-25	篠田紘司	多発性硬化症とB細胞にまつわる最新の話	MS Update 2023
2023-10-27	篠田紘司	NMOSD診療の実際とB細胞療法について	NMOSDセミナー

脳神経内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-11-12	篠田紘司	多発性硬化症に対する治療戦略の最前線－B細胞関連の最新の話題－	MS Symposium
2023-11-29	篠田紘司	米国での留学経験－MSに対するB細胞療法－	Novartis Career Advance Symposium
2023-12-8	篠田紘司	多発性硬化症に対するB細胞療法	MS Next Generation Conference
2023-12-11	高瀬敏一郎	神経傷害性疼痛治療について	痛みについて考える会 in 筑豊
2023-12-20	篠田紘司	NMOSD診療の実際とB細胞療法への期待～ユプリズナ安全性情報を含めて～	九州UPLIZNA SEMINAR

腎臓内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-2-9	藤崎毅一郎	腎臓内科から見た心腎貧血症候群 関連錠剤を上手く使用するために	心腎貧血症候群を考える会
2023-6-29	藤崎毅一郎	CKD重症化予防－糖尿病性腎臓病の進展抑制について－	糖尿病重症化予防セミナー in 飯塚
2023-8-29	藤崎毅一郎	腎性貧血治療における鉄評価の意義－CKD診療ガイドラインからの考察－	飯塚医師会学術講演会
2023-9-26	藤崎毅一郎	慢性腎臓病での病診連携について	飯塚医師会学術講演会 CKD/DKD 重症化予防セミナー in 飯塚
2023-10-10	竹内実芳	糖尿病・腎臓内科でのエンレストの活かし方	ARNI Collaboration ～糖尿病×腎臓～
2023-11-8	中俣悠亮	救急外来で緊急透析について	救急/災害医療を考える会 in 飯塚
2023-11-10	藤崎毅一郎	医学の歴史と我々の社会	目路はるか教室 慶應義塾普通部（中学生）

漢方診療科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-1-12	田原英一	雨天で悪化する頭痛には ～水解説～	第14回飯塚漢方入門カンファレンス
2023-1-12	吉永 亮	「からだの不調」と不登校～病気の理解、治療・対応のいま～子どもの「からだの不調」への気づきと対応のいま～総合討論～	福岡県立大学 公開講座 I
2023-1-14	田原英一	消化器疾患の漢方～下痢・便秘～	第354回熊本県東洋医学研修会
2023-1-18	吉永 亮	地域医療家庭医療に役立つ漢方 プライマリ漢方～海の漢方、山の漢方～	General Practice Kampoセミナー
	田原英一	地域医療家庭医療に役立つ漢方 漢方の腹診実技	
2023-1-19	田原英一	『傷寒論演習』解説 53	第265回麻生飯塚漢方診療研究会
	井上博喜、田原英一	症例から学ぶ漢方の実際	
2023-1-21	井上博喜	ストレスの漢方治療～ COVID-19関連も含めて～	福岡医師漢方研究会 1月例会
2023-1-24	井上博喜	神経症と不眠症に効く漢方	第2回暮らしの不調にクラシエ～夢中になれる漢方セミナー～
2023-1-25	田原英一	痛みの漢方治療～困ったときの漢方薬～	第36回産業医科大学漢方医学セミナー
2023-1-29	井上博喜	認知症の周辺症状に対する漢方治療～抑肝散が効かない時の次の一手～	日本東洋医学会専門医制度九州地区教育講演会
2023-1-31	吉永 亮	プライマリ・ケアに役立つ～海の漢方 山の漢方～	北海道J漢方セミナー
2023-2-2	矢野博美	食欲不振には六君子湯？～気虚解説～	第15回飯塚漢方入門カンファレンス
2023-2-5	田原英一	飯塚病院漢方診療科の Covid-19感染症症例から罹患後症状を考える	日本東洋医学会関西支部 三県合同教育講演会
2023-2-6	吉永 亮	おなかに漢方	Primary漢方セミナー
2023-2-9	吉永 亮	症例から学ぶ漢方の実際	第281回筑豊漢方研究会
	田原英一	女性と漢方	
2023-2-16	中尾桂子、田原英一	症例から学ぶ漢方の実際	第266回麻生飯塚漢方診療研究会
	田原英一	『傷寒論演習』解説 54	
2023-2-20	吉永 亮	プライマリ・ケア漢方～海の漢方、山の漢方	令和4年度筑豊ブロック日本医師会生涯教育講座
2023-2-23	田原英一	不眠の漢方治療	漢方寺子屋 九州
2023-3-2	井上博喜	心窩部がつかえて苦しい～気鬱～	第16回飯塚漢方入門カンファレンス
2023-3-4	吉永 亮	漢方医学からみた地域医療 ～海の漢方・山の漢方～	第3回日本東洋医学会 福岡・熊本・大分・宮崎・長崎 5県合同県部会
2023-3-6	井上博喜	知って安心「更年期」に効く「漢方」の話	女性の健康セミナー
2023-3-9	原田直之	症例から学ぶ漢方の実際	第282回筑豊漢方研究会
	井上博喜	高齢者と認知症	
2023-3-12	田原英一	イノベーション漢方	第32回京都漢方錬成講座例会

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-3-16	田原英一	『傷寒論演習』解説 55	第267回麻生飯塚漢方診療研究会
	矢野博美、田原英一	症例から学ぶ漢方の実際	
2023-3-27	矢野博美	女性の不調に効く漢方	第3回暮らしの不調にクラシエ～夢中になれる漢方セミナー～
2023-4-6	吉永 亮	最近 疲れやすいですー腎虚解説ー	第17回飯塚漢方入門カンファレンス
2023-4-11	田原英一	漢方治療戦略の組み立て方	第1回みらいを創るKAMPOチャンネル Specialty webinar シリーズ
2023-4-12	矢野博美	総論	第1回福岡県立大学 東洋医学概論
2023-4-19	田原英一	六病位、太陽病	第2回福岡県立大学 東洋医学概論
2023-4-20	田原英一	『傷寒論演習』解説 56	第268回麻生飯塚漢方診療研究会
	井上博喜、田原英一	症例から学ぶ漢方の実際	
2023-4-22～ 2023-4-23	井上博喜	漢方の診断法と処方運用Ⅲ（陽明病）、漢方の診断法と処方運用Ⅳ（陰証②）	筑豊漢方基礎講座2023
	田原英一	漢方医学概論、腹診・質疑応答、漢方の診断法と処方運用Ⅴ（気）、症例検討・質疑応答	
	原田直之	漢方の診断法と処方運用Ⅴ（血）	
	吉永 亮	漢方の診断法と処方運用Ⅳ（陰証①）、漢方の診断法と処方運用Ⅴ（水）	
	矢野博美	漢方の診断法と処方運用Ⅱ（少陽病）	
	中尾桂子	漢方の診断法と処方運用Ⅰ（太陽病）	
2023-4-26	矢野博美	少陽病、陽明病	第3回福岡県立大学 東洋医学概論
2023-5-10	吉永 亮	陰証	第4回福岡県立大学 東洋医学概論
2023-5-11	田原英一	お腹がゴロゴロいって下痢をします	第18回飯塚漢方入門カンファレンス
2023-5-12～ 2023-5-14	吉永 亮	「漢方・鍼灸を勉強していてよかった」ープライマリ・ケア医・総合診療医のカルテからー	第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
	吉永 亮	東洋医学（漢方・鍼灸）の疑問点にお答えします！	
2023-5-13	井上博喜	処方選択の実際 処方決定までのプロセス 腹診も含めて	漢方スキルアップセミナー
2023-5-17	中尾桂子	血の失調	第5回福岡県立大学 東洋医学概論
2023-5-18	田原英一	『傷寒論演習』解説 57	第269回麻生飯塚漢方診療研究会
	矢野博美、田原英一	症例から学ぶ漢方の実際	
2023-5-18	吉永 亮	痛みの漢方治療	第62回九州総合診療セミナー
2023-5-24	原田直之	水の失調	第6回福岡県立大学 東洋医学概論
2023-5-24	吉永 亮	めまいとむくみに効く漢方	第4回暮らしの不調にクラシエ～夢中になれる漢方セミナー～

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-5-30	田原英一	漢方診の実際から	産業医科大学医学部 医学概論Ⅲ (医学部3年)
2023-5-31	井上博喜	気の失調	第7回福岡県立大学 東洋医学概論
2023-6-1	矢野博美	嫌な夢をみて眠れない	第19回飯塚漢方入門カンファレンス
2023-6-7	田原英一	診察と診断のまとめ	第8回福岡県立大学 東洋医学概論
2023-6-8	吉永 亮	皮膚科領域の漢方治療	第283回筑豊漢方研究会
	中尾桂子	症例から学ぶ漢方の実際	
2023-7-5	吉永 亮	全身倦怠感に対する漢方治療－コロナ後遺症を中心に－	第6回九州 Web 漢方セミナー
2023-7-6	井上博喜	顔がのぼせて不安で眠れません－応用問題編③－	第20回飯塚漢方入門カンファレンス
2023-7-13	田原英一	ストレス性疾患の漢方治療	第284回筑豊漢方研究会
	原田直之	症例から学ぶ漢方の実際	
2023-7-20	田原英一	『傷寒論演習』解説 58	第270回麻生飯塚漢方診療研究会
	吉永 亮、田原英一	症例から学ぶ漢方の実際	
2023-7-26	原田直之	食欲不振と倦怠感に効く漢方	第5回暮らしの不調にクラシエ～夢中になれる漢方セミナー～
2023-8-3	吉永 亮	目が飛び出るほどの激しい咳－応用問題編④－	第21回飯塚漢方入門カンファレンス
2023-8-8	井上博喜	葛根湯医者はやぶ医者か？ ～漢方の考え方、使い方、効かせ方～	直方執手薬剤師会定例研修会
2023-8-26	吉永 亮	麻黄湯から展開する「総合診療×漢方」－基礎研究から臨床まで－	第27回日本病院総合診療医学会学術総会
2023-8-31	吉永 亮	総合診療漢方医のススメ	第42回病診連携スキルアップセミナー
2023-9-1	吉永 亮	海の漢方・山の漢方	研修医のための漢方勉強会 In オール愛媛
2023-9-6	吉永 亮	全身倦怠感の漢方治療－コロナ後遺症を中心に－	Generalist × KAMPO 特別フォーラム2023
2023-9-14	矢野博美	症例から学ぶ漢方の実際	第285回筑豊漢方研究会
2023-9-20	井上博喜	外来診療に役立つ漢方医学「耳鼻科領域」	第37回産業医科大学漢方医学セミナー
2023-9-21	井上博喜	『傷寒論演習』解説 59	第271回麻生飯塚漢方診療研究会
2023-9-22	吉永 亮	柴胡剤の使い方	漢方寺子屋 九州
2023-10-12	竹内 肇、井上博喜	症例検討	第286回筑豊漢方研究会
	井上博喜	耳鼻科領域-めまい・耳鳴りなど-	
2023-10-19	中尾桂子、井上博喜	症例から学ぶ漢方の実際	第272回麻生飯塚漢方診療研究会
	井上博喜	『傷寒論演習』解説 60	

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-10-28	吉永 亮	プライマリ・ケア漢方－海の漢方・山の漢方－	第282回広島県臨床整形外科医会 研修講演会
2023-10-30	井上博喜	呼吸器疾患に役立つ漢方～風邪・咳嗽・COVID-19関連～	八幡地区 病診連携セミナー
2023-11-8	吉永 亮	全身倦怠感に対する漢方アプローチ－COVID-19罹患後症状も含めて－	北海道J漢方セミナー 2023
2023-11-9	矢野博美	整形外科領域－痛みの漢方治療－	第287回筑豊漢方研究会
	吉永 亮、井上博喜	症例から学ぶ漢方の実際	
2023-11-10	吉永 亮	プライマリ・ケアに役立つ漢方－海の漢方・山の漢方－	諫早医師会学術講演会
2023-11-12	吉永 亮	COVID-19罹患後症状（後遺症）から学ぶ漢方アプローチ	第34回日本東洋医学会 鳥取県部会
2023-11-15	矢野博美	ストレス疾患と漢方	第119回熊本産婦人科漢方懇話会
2023-11-15	吉永 亮	外来診療に役立つ漢方医学「皮膚科領域」	第38回産業医科大学漢方医学セミナー
2023-11-16	原田直之、井上博喜	症例から学ぶ漢方の実際	第273回麻生飯塚漢方診療研究会
	井上博喜	『傷寒論演習』解説 61	
2023-11-18	吉永 亮	私の好きな漢方シリーズ「補中益気湯」	地域医療 Light up with KAMPO フォーラム
2023-11-18	吉永 亮	地域医療で学んだ漢方治療－海の漢方・山の漢方－	自治医科大学KAMPOベースキャンプ
2023-11-22	井上博喜	呼吸器疾患に役立つ漢方	第116回春日井臨床漢方の会
2023-11-30	矢野博美	冷えと女性のカラダ～東洋医学から学ぶ私の健康～	宗像市男女共同参画推進センター「ゆい」主催講座
2023-12-2	矢野博美、川野綾子、竹内 肇、他	栗山一八先生の口訣が奏効したド・ケルバン腱鞘炎の一例	第26回和漢診療学シンポジウム
	井上博喜、川野綾子、中尾桂子、他	COVID-19感染後の多彩な症状に参蘇飲が有効であった一例	
2023-12-7	吉永 亮	プライマリ・ケア漢方－海の漢方・山の漢方－	総合診療に役立つ漢方セミナー
2023-12-9	井上博喜	不定愁訴（めまい・頭痛・冷え）に有効な漢方処方使い分け	漢方スキルアップセミナー
2023-12-19	吉永 亮	柴胡剤の活用 －こじれた風邪・Long COVID・メンタルヘルス不調など－	第2回漢方医学オンラインセミナー

小児科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-1-18	大矢崇志	気になる子の見方・考え方・つなぎ方～みんなトットちゃんなの？～	嘉麻市学校保健会研修会
2023-2-21	田中祥一郎	どうする貧困？どうする虐待？虐待対応の「発・着・想」	福岡未来創造プラットフォーム生涯学習作業部会・リカレント教育講座「子どもの貧困を科学する2022」
2023-2-25	田中祥一郎	～ネグレクトに対する「発・着・想」～	令和4年度 福岡県医療従事者のための子ども虐待対応研修 BEAMS Stage2
2023-2-28	大矢崇志	小児てんかんの治療の実際	社内研修会 日本新薬株式会社
2023-3-9	田中祥一郎	児童虐待の現状	飯塚市ファミリー・サポート・センター事業
2023-3-23	岡松由記	アトピー性皮膚炎の小児患者と家族への外来での指導についてお話しします	令和5年度 大牟田地区薬剤師3月研修会
2023-5-7	田中祥一郎	パパの役割と産前産後に大切なこと	令和5年度 両親学級（飯塚市）
2023-7-5	大矢崇志	医療と教育の連携がつかなく子ども達の心と身体	第1回令和5年度福岡県高等学校養護教諭研究会筑豊支部研修会
2023-8-31	田中祥一郎	健康から考える子ども虐待	女性の支援を考えるための会特別研修会
2023-9-7	田中祥一郎	児童虐待の現状	飯塚市ファミリー・サポート・センター事業
2023-9-8	大矢崇志	トラウマって何？	第1回トラウマインフォームドケア(TIC)連続講座
2023-9-22	大矢崇志	さまざまなトラウマ：前半	第2回トラウマインフォームドケア(TIC)連続講座
2023-9-30	田中祥一郎	舌下免疫療法の円滑診療へのポイント～開業医だからできること、病院だからできること～	第4回福岡県各地区小児科医会役員合同研修会
2023-10-13	大矢崇志	さまざまなトラウマ：後半	第3回トラウマインフォームドケア(TIC)連続講座
2023-10-13	岡松由記	アレルギーマーチを考慮した乳幼児からの治療介入	北部九州アトピー性皮膚炎WEBセミナー
2023-10-16	田中祥一郎	こども支援から考えるVUCA時代のキャリアデザイン	第388回福岡大学小児科クリニカルカンファレンス
2023-10-20	田中祥一郎	保育所における食物アレルギー緊急時対応	企業主導型保育所ぽたぽた園2アレルギー講習会
2023-10-27	大矢崇志	トラウマの影響：前半	第4回トラウマインフォームドケア(TIC)連続講座
2023-11-5	田中祥一郎	産後の「ずれ」を考える～ふたりは同時に親になる～	令和5年度 両親学級（飯塚市）
2023-11-10	大矢崇志	トラウマの影響：後半	第5回トラウマインフォームドケア(TIC)連続講座
2023-11-24	大矢崇志	トラウマからの回復	第6回トラウマインフォームドケア(TIC)連続講座
2023-12-1	田中祥一郎	地域で育む子どもたちの未来～声なき声に耳を傾ける～	第2回アドボカシー飯塚講演会
2023-12-2	大矢崇志	退院後にマルチトリートメントのリスクが高く対応に苦慮したケース	第3回福岡県小児等在宅医療推進事業 事例検討会
2023-12-8	大矢崇志	医療的ケア児を育てる家族の現状と課題～教員ができること～	令和5年度医療的ケアに関する職員研修
2023-12-8	田中祥一郎	地域で考える子ども虐待と子どものウェルビーイング	令和5年度宮若市要保護児童対策地域協議会第2回実務者会議
2023-12-11	田中祥一郎	筑豊地区での虐待や要支援家庭の気づきと対応	小児救急プライマリケアカンファレンス
2023-12-25	田中祥一郎	こどもの命を守る事業構想～飯塚市における公民連携の取り組み～	事業構想プロジェクト研究

外科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-2-16	山下洋市	肝臓・肝癌と亜鉛	筑紫医師会学術講演会
2023-9-20	工藤健介	胃癌治療のトピックス	第320回福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術研究会
2023-12-2	岡本正博	当院におけるジーラスタボディーポッドの使用経験	Kyusyu Breast Cancer Symposium

呼吸器外科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-3-9	安田 学	肺がんの低侵襲手術	第106回がんチーム医療推進勉強会
2023-8-20	安田 学	当科におけるベリプラストP使用の工夫	CSL ベーリングレクチャー
2023-11-20	安田 学	当院における肺がん周術期治療	Lung Cancer Seminar in Chikuhō
2023-12-26	安田 学	呼吸器外科勉強会	病棟講義

産婦人科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-10-26	西山 哲	当院における子宮内膜症の診断・治療～術前術後の治療戦略～	北九州 Gynecology Seminar
2023-11-24	林 宗太郎	高校2年生への性教育	福岡県教育委員会性教育事業

整形外科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-9-21	浜崎晶彦	高齢者の骨粗鬆症、疼痛治療	Pain Live Symposium ～疾患に伴う痛みについて考える～
2023-9-28	浜崎晶彦	Let's go find or dig out severe osteoporosis	アステラス製薬株式会社社内研修会臨床セミナー
2023-10-26	浜崎晶彦	最新最強ほね若返り治療 Let's go find or dig out severe osteoporosis	帝人社内講演会
2023-11-16	浜崎晶彦	骨粗鬆症治療 継続の重要性高齢者の骨粗鬆症・疼痛治療	飯塚医師会学術講演会 ～医科歯科連携～

リハビリテーション科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-2-1	山下智弘	リハビリテーションにおける作業療法士 (OT) と医師の役割	麻生リハビリテーション大学校
2023-6-14	山下智弘	リハビリテーションにおける言語聴覚士 (ST) と医師の役割	麻生リハビリテーション大学校
2023-6-21	山下智弘	リハビリテーションにおける言語聴覚士 (ST) と医師の役割	麻生リハビリテーション大学校
2023-9-20	山下智弘	リハビリテーションにおける作業療法士 (OT) と医師との役割	麻生リハビリテーション大学校
2023-11-8	山下智弘	リハビリテーションにおける理学療法士 (PT) と医師の役割	麻生リハビリテーション大学校

脳神経外科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-2-24～ 2023-2-25	名取良弘	頭部の外傷性異物 ー稀なものから注意を要するものまでー	第46回日本脳神経外傷学会
2023-3-8	名取良弘	入院時重症患者対応メディエーター ーその意義と活動状況ー	第17回青森県における臓器提供に関する臓器提供施設懇話会
2023-3-9	迎 伸孝	てんかん外科手術について・抗てんかん発作薬について	若手脳神経外科医のための手術手技セミナー
2023-3-11～ 2023-3-12	名取良弘、福村文雄	医療におけるTQM ー医療界初のデミング賞受賞を中心にー	第9回日本医療安全学会
2023-3-18	名取良弘	法的脳死判定と一般的脳死診断 その違いは？	宮崎県法的脳死判定体験型セミナー
2023-4-1	名取良弘	前頭蓋底 解剖と手術アプローチ	第37回日本微小脳神経外科解剖研究会
2023-4-5	名取良弘	眼窩内腫瘍の手術	2023 Neurosurgery Conference in Fukuoka
2023-6-23	甲斐康稔	最近難渋したコイル塞栓術の1例	Kyushu Medical Center EVT Conference
2023-7-12	迎 伸孝	当院のてんかん診療について	てんかん診療の未来 ー診療連携ー
2023-9-7	迎 伸孝	外科医から見た脳卒中後てんかん治療について	超高齢化社会の脳卒中診療トータルケアセミナー
2023-9-8	迎 伸孝	脳卒中関連てんかんの診断と治療	脳卒中連携セミナー 認知症？てんかん？その症状、もしかして治療可能な硬膜動静脈瘻かもしれません
2023-11-1	井上大輔	当院での特発性正常圧水頭症の取り組み	福岡 iNPH 研究会
2023-11-11	安部啓介	飯塚病院での経験症例	第7回 Basic Seminar of neuroEndovascular therapy in Kyushu university
2023-12-6	迎 伸孝	脳卒中後てんかんと脳卒中後疼痛について	脳卒中トータルケアセミナー～疾患に伴う痛みについても考える～

心臓血管外科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-8-18	内田孝之	AS治療の選択肢と現状について	田川医師会学術講演会
2023-10-13	内田孝之	当科における大動脈弁狭窄症の治療戦略	福岡心臓外科ナイトフォーラム
2023-11-4	内田孝之	心臓弁膜症について その実際の病像と治療法の進歩について	西日本新聞市民医療講座
2023-12-15～ 2023-12-16	内田孝之	心臓大血管術後感染症の予防・診断・治療	第36回日本外科感染症学会学術集会
2023-12-22	内田孝之	当院における iNO 使用経験	iNO Webinar

血管外科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-8-31	松元 崇	動画で学ぶポケット作成Tips	CIEDs Meeting in Fukuoka Univ.

皮膚科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-2-21	井手豪俊	アトピー性皮膚炎と新しい外用薬	第344回筑豊小児科医会勉強会
2023-3-2	井手豪俊	乾癬の治療を改めて見直す	第1回福岡県皮膚科医懇話会
2023-4-6	井手豪俊	アトピー性皮膚炎治療における最新の話提供	サノフィ社内研修会
2023-5-11	井手豪俊	尋常性乾癬治療に関する最新の医学的	協和キリン株式会社社内研修会
2023-5-16	井手豪俊	帯状疱疹の病態と治療～神経障害性疼痛治療について～	飯塚医師会学術講演会
2023-5-19	井手豪俊	コレクチム軟膏の使用経験	鳥居薬品株式会社 社内研修会
2023-5-25	塩道泰子	症例紹介	サンファーマ株式会社 社内研修会
2023-5-25	井手豪俊	IL17製剤アップデート	Psoriasis WEB Conference
2023-6-24	井手豪俊	乾癬治療における最新の知見	これからの乾癬治療を考える会
2023-6-27	井手豪俊	乾癬治療について	ドボベッドフォーム Daytime webセミナー
2023-7-4	井手豪俊	～未定～	筑豊エリア皮膚科医会
2023-7-20	井手豪俊	アトピー性皮膚炎治療について	マルホ株式会社 北九州営業所社内研修会
2023-7-27	井手豪俊	乾癬治療の最新知見	Abbvie Luncheon Seminar
2023-7-28	井手豪俊	乾癬外用療法を考える	乾癬外用療法を考える会 in 筑豊
2023-8-22	井手豪俊	ミーティング	レオファーマコンサルタンシーミーティング
2023-11-28	井手豪俊	膿疱性乾癬と薬疹コンサルトのポイント	筑豊3科合同カンファレンス
2023-11-30	井手豪俊	アトピー性皮膚炎の最新情報	今考える！これからのアトピー治療の選択肢とは
2023-12-5	田中宏治	症例紹介	サンファーマ株式会社 社内研修会

眼科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-7-22	中間崇仁	TECNTS Eyhanceの臨床使用経験	TECNIS OptiBlue10周年記念セミナー in福岡
2023-7-27	中間崇仁	病診連携について	第20回眼疾患ミーティング
2023-8-1	中間崇仁	抗VEGF薬、緑内障治療薬の薬物治療について	千寿製薬株式会社 社内講演会
2023-9-15	森 賢一郎	緑内障手術について	興和株式会社 社内講習会

リエゾン精神科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-8-11～ 2023-8-12	猪狩圭介	問題解決技法	うつ病の認知療法・認知行動療法ワークショップ（厚生労働省事業）
2023-10-23	猪狩圭介	総合病院における不眠症治療	田川地区薬剤師研修会

感染症科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-1-27	的野多加志	COVID-19の現状と課題	令和4年度筑豊地域医療安全対策研修会
2023-2-4	的野多加志	慢性皮疹：36歳ネパール人女性	第8回Fukuoka ID Conference
2023-2-22	的野多加志	発熱、頭痛を訴える32歳男性	第10回症例まみれ検討会
2023-3-15	的野多加志	腸チフス・パラチフス	東南アジアの熱帯感染症
2023-4-14	的野多加志	COVID-19診療と薬物治療の考え方	COVID-19診療を考える会 in 小倉
2023-4-20	的野多加志	感染対策の基本/COVID-19への対応	第1回令和5年度感染防止対策強化研修
2023-5-11	的野多加志	感染対策の基本/COVID-19への対応	第2回令和5年度感染防止対策強化研修
2023-5-12	的野多加志	誤嚥性肺炎の診療Tips	第48回SCANIC 学術研究会
2023-6-28	的野多加志	発熱、関節痛を訴える43歳男性	第13回症例まみれ検討会
2023-7-26	的野多加志	倦怠感を訴える60歳男性	第14回症例まみれ検討会
2023-7-27	的野多加志	感染症に関する基礎知識	令和5年度感染管理担当者研修
2023-8-2	長谷川雄一	本当に知りたかったグラム染色と抗菌薬選択	民間医局コネクトセミナー
2023-8-5	的野多加志	感染症に関する基礎知識と新興感染症への対応	令和5年度新型インフルエンザ等感染症等業務に係る研修
2023-8-8	的野多加志	感染対策の落とし所とエビデンスに基づくCOVID-19治療戦略	COVID-19 Web Seminar in 福岡
2023-8-10	的野多加志	ワクチンキャッチアップに関する当科での取り組み	第348回筑豊小児科医会勉強会
2023-8-21	的野多加志	循環器・血流感染症	2023年度認定看護師教育課程「感染管理」および看護師特定行為研修
2023-8-23	的野多加志	薬剤師に必要なワクチンKnowledge	徳島県南部地区薬剤師学術講演会
2023-8-24	的野多加志	中枢神経感染症	2023年度認定看護師教育課程「感染管理」および看護師特定行為研修
2023-9-11	的野多加志	新興再興・輸入感染症	2023年度認定看護師「感染管理」
2023-9-20	的野多加志	これからのCOVID-19医療と診療体制ー地域医療との連携、施設内での感染対策ー	Giliad Remdesivir (COVID-19) M3-mega Webinar
2023-9-21	的野多加志	エビデンスに基づく COVID-19治療戦略	北九州 COVID-19セミナー
2023-9-25	的野多加志	開口障害を訴える80歳男性	第16回症例まみれ検討会
2023-9-29	的野多加志	感染対策の原則と5類移行後の COVID-19	令和5年度久留米市医療安全対策研修会
2023-10-18	的野多加志	エビデンスに基づく COVID-19治療戦略	筑豊感染症セミナー
2023-10-26	的野多加志	感染対策の基本	筑紫野太宰府消防組合消防本部 服務教養研修会
2023-11-27	的野多加志	ワクチン Overview 2023	直方鞍手医師会学術講演会
2023-11-30	的野多加志	COVID-19の治療指針と全診療科対応の整備	COVID-19 Web Seminar in 福岡

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-12-6	長谷川雄一	自分で選べるようになる！抗菌薬ことはじめ <前編>	民間医局コネクトセミナー
2023-12-14	的野多加志	COVID-19の感染対策と診療体制	COVID-19 Web Seminar in 沖縄
2023-12-20	長谷川雄一	自分で選べるようになる！抗菌薬ことはじめ <後編>	民間医局コネクトセミナー

救急科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-2-10	片桐 欧	総合診療医のための創処置	JADECOR 講演会・研修会

集中治療科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-1-9	川上大裕	ICU 頻用薬 使い方のリアル	DI Up To Date
2023-1-24	川上大裕	有益な輸液の話	聖マリアンナ医科大学講演会
2023-2-24	吉野俊平	Hospitalistのためのショック診療のTips	井上病院GIMカンファレンス
2023-4-14~ 2023-4-16	吉野俊平	ポイントオブケア超音波講習会 下肢血管エコー	第120回日本内科学会総会・講演会
2023-4-28	吉野俊平	臨床倫理の4分割を用いた意思決定支援	井上病院GIMカンファレンス
2023-5-21	吉野俊平	下肢血管エコー	CareNetTV School POCUS Online Course
2023-6-3~ 2023-6-4	川上大裕	急性期輸液のコンテキストを読み解く	第4回ひろしま救急・集中治療サマーキャンプ
	川上大裕	僕らが救うのは命だけじゃない～ICUのゴールを生存から生活へ～	
2023-6-23	吉野俊平	重症患者の予防	井上病院GIMカンファレンス
2023-8-19~ 2023-8-20	吉野俊平	腹部超音波	第18回POCUS(Point of Care Ultrasound)
2023-8-25~ 2023-8-26	川上大裕	敗血症で紐解くICUの輸液・循環管理の話	日本集中治療医学会50周年記念企画 サマーキャンプ in NISEKO
2023-9-10	川上大裕	病院運営の中で集中治療医が果たす役割	第10回Intensiveistセミナー
2023-9-26	川上大裕	重症患者での輸液選択の考え方	第10回薬剤師のための輸液WEB講演会
2023-10-26~ 2023-10-28	川上大裕	急性期の輸液力を高める有益な話	友愛医療センター講演会
2023-10-28	吉野俊平	肝不全 ACLFを中心に	井上病院GIMカンファレンス
2023-11-6	川上大裕	集中治療における意思決定支援プロセスセミナー	集中治療における意思決定支援プロセスセミナー アドバンスコース
2023-12-9~ 2023-12-10	吉野俊平	腹部超音波	第19回POCUS(Point of Care Ultrasound)
2023-12-13	川上大裕	有益な輸液の話	藤田医科大学 総合診療プログラム勉強会
2023-12-19	川上大裕	輸液・循環管理でよく迷うあれこれ	聖マリアンナ医科大学講演会
2023-12-22	吉野俊平	Virtual Dx 直感的診断法を用いた生涯学習について	井上病院GIMカンファレンス

放射線治療科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-1-20	佐々木智成	サイバーナイフ導入顛末記～導入から診療開始半年を経過して～	岐阜放射線科医学セミナー

薬剤科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-8-26	進 健司	それって本当！？ 知っておきたい睡眠薬の使い方	第68回くすりのセミナー福岡

中央放射線部

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-6-24～ 2023-6-25	山野正起	IGRTの実際と精度管理 (CyberKnife)	第9回福岡県診療放射線技師会 学術大会

臨床工学部

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-2-4	松本隼人	飯塚病院における臨床工学技士ICU専任業務の経過と展望	第5回博多メディカル 臨床工 学技士科 卒後勉強会
2023-2-28	松本隼人	TTMにおけるCEの関わり	第5回集中治療関連業務WEB セミナー

予防医学センター

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-1-13	赤星和也	超音波内視鏡検査とClutch Cutterを用いた内視鏡治療	中部徳洲会病院 院内講演会
2023-3-22	赤星和也	ミニレクチャー “飯塚病院予防医学センターにおける直視型超音波内視鏡を用いた胃癌腫瘍ドックの取り組み”	第409回筑豊消化器病研究会
2023-3-31	赤星和也	直視型超音波内視鏡を用いた胃癌腫瘍検 (任意型) の取り組み	第5回筑豊放射線技師会学術研 修会
2023-11-2～ 2023-11-5	赤星和也	”大会会長賞受賞講演” 直視型超音波内視鏡を用いた一期的膵癌腫瘍検診のアウトカムの検討	第61回日本消化器がん検診学 会大会

医療安全推進室

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-12-4	福村文雄	TQMとデミング賞～医療安全の視点から～	東海北陸厚生局 医療安全に 関するワークショップ

看護部

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-1-24～ 2023-2-28	藤岡智恵	アセスメントコース	フィジカルアセスメント～リ カバリーコース～
2023-3-11	小松加寿子	カイゼンから生まれたセル看護提供方式～私たちの働き方改革を目指して～	第21回日本医療マネジメント 学会福岡支部会
2023-5-16 ～2023-7-4	藤岡智恵	アセスメントコース	フィジカルアセスメント～リ カバリーコース～
2023-6-6～ 2023-6-13	藤岡智恵	アセスメント	看護実践II
2023-6-10～ 2023-6-11	岡 佳子	交流集会3 2022年度 スキルアップセミナー『CNSのための役割開発』-CNSラダーIIに参加して-	第10回日本CNS看護学会
2023-7-22	岡 佳子	性功能障害をもつ男性糖尿病患者への看護支援～豊かな生を目指して～	兵庫県立大学成人看護学 事例 検討会

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-9-12～ 2023-10-2	藤岡智恵	集中治療室での看護	成人看護論Ⅱ

栄養部

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-3-18	天野雅之	腸活と免疫力のつながりについて	飯塚図書館がん講演会 「一緒に学ぼう がんのこと」
2023-6-23～ 2023-6-27	浦田歩美	STさんと栄養士のかかわりについて	麻生リハビリテーション大学 校講義
2023-10-2	重松由美	病院における給食管理	九州女子大学
2023-11-20	田代千恵子	急性期の栄養管理と社会人基礎力について	九州女子大学
2023-12-5	田代千恵子	リンの食事療法について	第8回腎代替療法研究会

改善推進本部

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-11-18	福村文雄	TQMの推進のための仕組み作り～デミング賞挑戦を通して学んだこと～	第24回フォーラム「医療の改善活動」全国大会
2023-11-22	福村文雄	飯塚病院におけるTQMの推進～デミング賞挑戦を通して得たものは？～	QCサークル東海支部 2023年度経営者フォーラム

イノベーション推進本部

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-7-27	井桁洋貴	異分野融合における医療機関の役割	第4回異分野融合のはじめかた

診療支援課

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-3-2	藤崎毅一郎	糖尿病性腎症重症化予防のポイント	令和4年度生活習慣病重症化予防対策研修会
2023-11-10	藤崎毅一郎	医学の歴史と我々の社会	目路はるか教室（慶應義塾普通部（中学生））

臨床心理室

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2023-10-4	西山織江	総合病院での心理士の仕事	九州大学大学院人間環境学研究院
2023-10-6	仲吉美沙子	総合病院での心理士の仕事	筑紫学園大学大学院

〔V〕 院内研修会・勉強会

1. 院内臨床病理検討会（CPC）記録

開催日	年齢	性別	診療科	検討した診断
第210回 5月19日	60歳代	男性	循環器内科	胃癌
第211回 7月21日	80代	男性	外科	上腸間膜動脈閉塞症
第212回 10月13日	60代	男性	呼吸器内科	間質性肺炎の急性増悪
第213回 12月15日	80代	女性	連携・緩和	静脈血栓症・敗血症

2. 看護部

内 容	対 象	開催日	場 所
新人看護師研修 「リフレクション研修」	新人看護師	1月17日・1月31日	エネルギーセンター大会議室
2022年度 専門コース 「臨床指導者専門コース」	ラダーレベルⅡ以上 看護師	1月20日・1月31日 2月17日	北棟4階多目的ホール
2022年度 専門コース 第21回 「アセスメント力・スキルアップ コース～リカバリークラス～」	ラダーレベルⅡ以上 看護師	1月24日・2月28日	北棟4階多目的ホール
プリセプターフォローアップ 研修 2回目	2022年度 プリセプター	2月8日・2月9日	エネルギーセンター大会議室
介護福祉士まごころ発表会	全看護師 介護福祉士	3月14日	百年ホール
プリセプター研修	2023年度 プリセプター	3月15日・3月22日	エネルギーセンター大会議室
2022年度 若葉ナース研修プログラム ～フォローアップ研修～	2022年度 新人看護師	3月20日・3月30日	エネルギーセンター大会議室 百年ホール
2023年度新規採用者研修	2023年度 新規採用者	4月11日・4月12日	エネルギーセンター大会議室 百年ホール
新人看護師研修「安全管理」	新人看護師	4月20日・4月24日	百年ホール
新人看護師研修 「針刺し事故防止」	新人看護師	4月20日・4月24日	百年ホール
新人看護師研修「吸引研修」	新人看護師	5月～6月	各部署
新人看護師研修 「注射に関する一連のケア」 シミュレーション	新人看護師	5月8日・5月10日 5月11日	百年ホール 北棟4階多目的ホール
2023年度 専門コース 第22回 「アセスメント力・スキルアップ コース～リカバリークラス～」	ラダーレベルⅡ以上 看護師	5月16日・7月4日	エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修 「インスリン投与中の患者のケア」 実践編	新人看護師	5月25日・5月26日	北棟4階多目的ホール
新人看護師研修 「呼吸器演習 ビギナーズコース」	新人看護師	6月1日・6月6日 6月8日・6月13日 6月15日・6月20日 6月22日・6月29日 7月4日・7月6日	ラーニングセンター

内 容	対 象	開 催 日	場 所
K Y T 研修	ラダーレベル I 看護師	6月2日・6月5日 7月14日・7月21日 7月26日	北棟 4階多目的ホール
新人看護師研修 「インスリン投与中の患者のケア」 シミュレーション	新人看護師	6月5日・6月7日 6月9日・6月14日	ラーニングセンター
アセスメント研修	ラダーレベル I 看護師	6月6日・6月13日 6月20日	エネルギーセンター大会議室
新人集合教育 「若葉ナース研修プログラム」	2022年度 新人看護師	6月15日・6月22日	エネルギーセンター大会議室
看護補助者研修	介護福祉士 ナースエイド ナースアシスタント	6月19日・6月26日 7月3日・7月5日 7月12日	ラーニングセンター 看護学校3階実習室
新人看護師研修 「口腔アセスメントと口腔ケア」 講義	新人看護師	7月5日・7月25日	エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修 「摂食・嚥下障害をもつ患者の看護」 事例検討	新人看護師	7月6日・7月31日	エネルギーセンター大会議室
2022年度 リーダーナースフォローアップ研修	ラダーレベル I 看護師	7月7日・7月12日	エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修 「麻薬の取り扱い」	新人看護師	7月14日・7月19日	エネルギーセンター大会議室
2023年度 専門コース 第10回 「褥瘡ケアスキルアップコース」	ラダーレベル II 以上 看護師	7月24日・8月2日 8月21日	百年ホール ラーニングセンター
倫理研修2	ラダーレベル III 看護師	7月28日・8月10日	エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修 「フィジカルアセスメント研修」	新人看護師	8月1日・8月2日 8月3日・8月4日 8月7日・8月8日 8月9日・8月10日 8月15日・8月16日 8月17日・8月18日 8月24日・8月25日 8月28日・8月29日 8月30日・8月31日 9月7日・9月8日 9月14日・9月15日 9月19日・9月20日 9月21日・9月22日	I C U E 4 救急・H C U E 6 救急

内 容	対 象	開 催 日	場 所
プリセプターフォローアップ 研修1回目	2023年度 プリセプター	8月1日・8月3日	百年ホール
2023年度 専門コース 第13回「看護研究専門コース」	ラダーレベルⅢ以上 看護師	8月8日・8月19日 9月22日	エネルギーセンター大会議室
倫理研修1	ラダーレベルⅠ 看護師	8月18日・8月29日	エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修「褥瘡」	新人看護師	9月5日・9月6日	エネルギーセンター大会議室 百年ホール
2023年度 専門コース 第6回 「緩和ケアスキルアップコース」	ラダーレベルⅡ以上 看護師	9月7日・9月27日 10月17日	北棟4階多目的ホール
リーダーナース研修	ラダーレベルⅠ 看護師	9月13日・9月20日	エネルギーセンター大会議室
第63回院内看護研究発表会	全看護師	9月30日	百年ホール
新人看護師研修 「呼吸器演習Aコース」	新人看護師	10月10日・10月17日 10月19日・10月24日 10月31日・11月2日 11月7日・11月21日 11月28日	ラーニングセンター
2023年度 専門コース 第4回 「糖尿病看護スキルアップコース」	ラダーレベルⅡ以上 看護師	10月12日・11月2日 1月16日	エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修 「輸血の実践」シミュレーション	新人看護師	10月13日・10月16日 10月20日・10月23日 10月27日・10月30日	ラーニングセンター
リーダーシップ研修	ラダーレベルⅡ 看護師	10月17日・10月26日 11月8日	エネルギーセンター大会議室 百年ホール
セル看護提供方式®	ラダーレベルⅢ 看護師	10月25日・10月30日	百年ホール
看護補助者研修	介護福祉士 ナースエイド ナースアシスタント メッセンジャー コンシェルジュ クラーク	11月14日・11月15日	エネルギーセンター大会議室

3. 医療安全研修

1. MRM研修一覧

開催日	タイトル	講師	参加数
6月2日	2年目 KYT 研修	荒巻美鈴 (医療安全推進室)	24
6月5日	2年目 KYT 研修	荒巻美鈴 (医療安全推進室)	22
6月5日	医療安全の基本的なこと	福村文雄 (医療安全推進室)	68
7月12日	医療安全のための敗血症講義	山口裕崇 (総合診療科)	66
7月14日	2年目 KYT 研修	荒巻美鈴 (医療安全推進室)	24
7月21日	2年目 KYT 研修	荒巻美鈴 (医療安全推進室)	25
7月26日	2年目 KYT 研修	荒巻美鈴 (医療安全推進室)	15
8月1日	医療安全としての基本的なこと (伝達講習)	福村文雄 (医療安全推進室)	2
9月4日	アナフィラキシー	小田浩之 (総合診療科)	59
10月5日	アナフィラキシー (伝達講習)	小田浩之 (総合診療科)	6
11月7日	重大な医療事故に際して 知っておきたいポイント	福村文雄 (医療安全推進室)	53

2. 教育

開催月	開催回数	タイトル	参加数
10/24 10/31 11/7	3回	人事制度分析研修 (2等級以上対象)	60
5月～8月	4回	KYT エキスパート研修	18
8月～11月	4回	不具合分析エキスパート研修	16

4. 改善勉強会

No.	内 容	対 象	【開催回数】開催日	受講者 総数
1	改善基礎1	新入社員	【1回】4月10日（新入社員研修）	115名
2	改善基礎2 E K (Everyday Kaizen) をやってみよう！	1等級相当 以上	【12回】 1月11日、2月10日、5月10日、 6月12日、6月23日、7月11日、 8月7日、8月23日、9月11日、 10月23日、11月13日、12月11日	208名
3	Kaizen ワークショップ1・2	3等級相当 以上	【6回】 2月22日、5月22日、7月21日、 9月22日、11月22日、12月22日	56名
4	EK指導者研修	4等級相当 以上	【3回】 5月31日、7月4日、10月11日	25名

5. 学会を除く学術研修会・勉強会

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
肝臓内科	肝臓と代謝談話会			4日										
	研究論文抄読会	毎月2回 水曜日開催												
呼吸器内科	筑豊呼吸器疾患研究会					21日								
	北九州呼吸器懇話会						8日							
	九州臨床画像解析研究会					27日						11日		
	筑豊地区肺癌診療連携の会	コロナウイルス感染症予防の為中止												
	筑豊呼吸器RENKEIの会		15日											
	呼吸器カンファレンス・抄読会	毎週金曜日												
呼吸器腫瘍内科	オンコロジーナース研修会	コロナウイルス感染症予防の為中止												
	免疫チェックポイント阻害薬勉強会	コロナウイルス感染症予防の為中止												
	がんチーム医療推進勉強会	12日	9日	9日	13日	11日	8日	11日	延期	14日	12日	9日	14日	
	北部九州肺縦隔研究会	21日												
	筑豊地区肺癌診療連携の会	コロナウイルス感染症予防の為中止												
	外来化学療法室合同カンファレンス	11日	1日	1日	5日	24日	28日	24日		13日	18日		6日	
	肺がんカンサード(多職種)	コロナウイルス感染症予防の為中止												
	肺がんカンサード (呼吸器内科・腫瘍内科)	毎週火曜日(祝日は除く)												
内分泌・ 糖尿病内科	実地医家のための糖尿病セミナー												7日	
	病棟カンファレンス	毎週水曜日												
	甲状腺画像検討会	毎週水曜日												
消化器内科	Gut Clinical Conference			3日			16日			15日			8日	
	消化管がんCancer Board	毎週水曜日												
	勉強会	毎週金曜日												
血液内科	血液疾患を語る会			25日										
	抄読会	毎週火曜日												
総合診療科	レジデントデー	27日		1日 24日		1日 26日		10日 28日	17日					
	家庭医レジデントデー(顛田病院にて)	21日	18日	18日	15日	20日	17日	15日	19日	16日	21日	18日	16日	
	M&Mカンファレンス		15日		19日	31日		12日	16日		4日	8日	19日	
	九州総合診療セミナー	19日				18日		20日		21日		16日		
	EBMカンファレンス		14日 16日		18日 20日	30日	1日	11日 13日	15日 17日		5日	7日 9日		
	ジャーナルクラブ	18日	9日	9日	13日 27日	11日 25日	8日	13日	10日	14日	12日	9日	14日	
	シニアカンファレンス	2023年は開催なし												
	家庭医家族会議	第1・3木曜日												
	清田Dr. モーニングレクチャー	毎週金曜日												
	鶴木塾	隔週火曜日												
	清田レクチャー	隔週火曜日												

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
膠原病・ リウマチ内科	筑豊リウマチ研究会		22日				15日				12日		
	スタッフミーティング	第1水曜日											
	病棟カンファレンス	毎週月・木曜日											
	抄読会	毎週木曜日											
心療内科	14Aスキルアップミーティング	コロナウイルス感染症予防の為中止											
循環器内科	筑豊循環器懇談会	コロナウイルス感染症予防の為中止											
	循環器UPTO DATE WEBセミナー	31日	28日				2日	27日			26日	28日	
小児科	筑豊小児科医会勉強会	18日	16日	16日			29日	19日	10日	21日	26日	30日	21日
	筑豊地域小児在宅医療研修会											29日	
	筑豊子ども虐待防止講演会			15日									
	勉強会	毎週月・金曜日											
産婦人科	手術症例カンファレンス	毎週月曜日											
	放射線治療カンファレンス	毎週月曜日											
	抄読会	毎週月曜日											
	モーニングセミナー	コロナウイルス感染症予防の為中止											
	勉強会	コロナウイルス感染症予防の為中止											
腎臓内科	腎病理勉強会(WEB)		3日			15日		4日					
	DWカンファレンス	毎月第2水曜日											
	PDカンファレンス	毎月第3水曜日											
	PD連携強化プロジェクト	毎月第4金曜日											
	抄読会	毎週火曜日											
漢方診療科	麻生飯塚漢方診療研究会	19日	16日	16日	20日	18日		20日		21日	19日	16日	
	麻生飯塚生薬研究会	26日		23日	27日	25日	22日	27日		28日	26日	30日	
	筑豊漢方研究会		9日	9日			8日	13日		14日	12日	9日	
	院内医師向け漢方勉強会		14日	14日			13日	11日		12日	10日	14日	12日
	皇漢医学輪読会		2日	2日	6日	11日	29日						
	筑豊漢方基礎講座				22日 23日								
	勉強会	月～金曜日											
	漢方基礎勉強会	毎週火曜日											
泌尿器科	筑豊地区泌尿器科医抄読会	コロナウイルス感染症予防の為中止											
放射線科	肝臓内科カンファレンス	第4水曜日											
	緩和ケア科カンファレンス	第2・4月曜日											
	耳鼻咽喉科カンファレンス	毎週木曜日											
画像診療科	筑豊画像研究会						28日					8日	
病理科	病理診断室内勉強会	不定期											

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
外科	外科手技セミナー(縫合トレーニング)	25日											
	筑豊肝胆膵研究会	コロナウイルス感染症予防の為中止											
	4科合同カンファレンス	毎月 第一・第三水曜日											
	筑豊地区がん診療連携講演会	コロナウイルス感染症予防の為中止											
	筑豊地区医療連携特別講演会	コロナウイルス感染症予防の為中止											
	乳腺カンファレンス	毎週 火曜日											
	消化管術後カンファレンス	7日	4日	4日	1日	6日	3日	1日	5日	2日	7日	4日	2日
	内視鏡手術勉強会	不定期											
	消化管がんCancer Board	毎週 水曜日											
呼吸器外科	呼吸器カンファレンス	毎週 火曜日・金曜日											
	呼吸器外科勉強会	2023年12月26日(年1回)											
	Lung Cancer Seminar in Chikuho	2023年11月20日開催											
耳鼻咽喉科	耳鼻科勉強会							13日					
	症例カンファレンス	毎週月曜日・水曜日											
	耳科カンファレンス	第1・3木曜日											
脳神経内科	筑豊脳疾患研究会				19日								
	抄読会	毎週木曜日											
歯科口腔外科	新人看護師研修							5日 25日					
	外来スタッフ勉強会	月1回 火曜日											
	外来症例検討会	隔週火曜日											
	手術検討会	毎週金曜日											
心臓血管外科 血管外科	循環器UPTODATE WEBセミナー		28日				2日	27日			26日	28日	
	抄読会	毎週木曜日											
	勉強会	毎週金曜日											
整形外科	SPOセミナー	30日											
	第5回股関節教育セミナー				9日								
	骨粗鬆症講演会(院内Web)						28日						
	九州大学骨切りセミナー	26日											
	骨粗鬆症二次骨折予防Web講演会		8日										
	ジクトルテープ75mg効能追加記念WEB講演会in筑豊		15日										
	福島県立医大カダバーセミナー			23日									
	Chiari骨盤骨切り術 手術セミナー									7日	5日		
	大腿骨頭壊死患者会								16日				
	大分股関節研究会											30日	
	飯塚医師会学術講演会											15日 16日	
	Orthopedics Expert Meeting											22日	

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
整形外科	Pain Live Symposium									7日 15日 21日 26日	6日		5日
	院内スタッフ勉強会	コロナウイルス感染症予防の為中止											
	抄読会	毎週月曜日											
皮膚科	福岡県皮膚科医懇話会			2日									
	Psoriasis WEB Conference					25日							
	これからの乾癬治療を考える会						24日						
	筑豊エリア皮膚科医会							4日					
	乾癬外用療法を考える会								28日				
	皮膚科カンファレンス	毎週水曜日											
リエゾン精神科	リエゾンチーム研修会									11日 19日 25日 26日	10日 11日 17日 24日		
	患者行動制限最小化勉強会									25日			
	医師連絡会 カンファレンス	毎週（月）											
	西1F行動制限カンファレンス	毎週（月）											
	リエゾン新患カンファレンス	毎週（月・火・木）											
	リエゾンチーム・ケースカンファレンス	毎週（火・木）											
	デイケアミーティング	毎月（火）											
	西病棟連絡会	毎月（金）											
	認知症ケアチーム会議	毎月（金）											
麻酔科	術後疼痛管理チームカンファレンス		6日 17日	3日 28日	7日 14日 21日 28日	19日	9日	28日	25日	29日	27日	24日	
	麻酔科安全カンファレンス	25日	22日	22日	26日	24日	28日	24日	23日	27日	25日	29日	27日
	麻酔科ミーティング	4日 18日	1日 15日	8日 15日 29日	5日 12日 19日	10日 31日	14日	5日 12日 19日 26日	9日 30日	13日	4日	1日 29日	6日 13日
	抄読会	16日 30日	13日 27日	13日	24日	8日 22日	5日	3日 31日		11日 20日	4日 18日	20日	4日 18日
		勉強会	毎週月曜日、火曜日、金曜日										
救急科	筑豊地域救命救急研究会	25日	22日	28日	17日	30日	29日	27日	28日	29日	31日	21日	22日
	外傷カンファレンス	コロナウイルス感染症予防の為中止											
	JointERコアレクチャー	23日	27日	27日									
	多施設ジャーナルクラブ	13日		10日									
	多施設感染勉強会		1日										
	救急合同カンファレンス						20日			19日			
		症例振り返りカンファレンス	毎日（各勤務時間内）										
	救急科スタッフ会議	第2水曜日											

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
救急科	レジデントDay	第2土曜日											
	多職種合同カンファレンス	第3月曜日											
	ドクターカーカンファレンス	第3火曜日											
	中毒カンファレンス	第3金曜日											
	全体会議	第4水曜日											
	画像診療科とのカンファレンス	第4水曜日											
	ICUカンファレンス	偶数月第4月曜日											
	呼吸器内科とのカンファレンス	奇数月第3水曜日											
集中治療科	教育カンファレンス	毎日(随時)											
	集中治療科MTG	毎週金曜日											
	M&Mカンファレンス	第1・第3火曜日											
	Clinical Question	第1・第3水曜日											
	倫理カンファレンス	第2火曜日											
	ICUコアミーティング	第2木曜日											
	他職種倫理カンファレンス	第4火曜日											
	心外・ICU合同カンファレンス	第4火曜日											
	診療マニュアルプロジェクト	第4水曜日											
	救急科・ICU合同カンファレンス	偶数月第4月曜日											
感染症科	ID Fellow Conference		22日				28日		30日			29日	
	多施設合同アドバンスカンファ	26日		23日	27日	25日		27日		28日	24日		12日
	症例まみれ検討会	25日	22日		26日	31日	28日	26日	30日	25日	25日	22日	
	Clinical Microbiology Round			10日						22日			
	抄読会・輪読会	隔週金曜日											
リハビリテーション科・部	ボトックスカンファレンス	毎週水曜日											
	嚥下カンファレンス	毎週月曜日											
	多職種嚥下カンファレンス	毎週火曜日											
	臨床研究カンファレンス	第2, 4水曜日											
	心臓リハビリカンファレンス	毎週水曜日											
	整形術前カンファレンス	毎週木曜日											
薬剤部	福岡県病院薬剤師会筑豊支部 学術研修会	18日	21日	8日	24日	11日	6日	19日		20日		17日	14日
	福岡県病院薬剤師会筑豊支部 中小病院研修会		8日				22日						12日
	勉強会	毎週月曜日											
中央検査部	検査部新人発表会		7日								12日		
	メッセージ教育										26日 31日		
	急変時トレーニング							11日 ~					19日 ~
	検査技師会 臨床生理部門勉強会									8日		28日	
	検査技師会 病理細胞部門勉強会											7日	

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
中央検査部	検査技師会 臨床一般部門勉強会										20日		
	検査技師会 臨床血液部門勉強会			29日									
	検査技師会 臨床微生物部門勉強会						21日	28日		21日		30日	
	検査技師会 遺伝子・染色体部門勉強会			23日				26日					
	検査技師会 輸血細胞治療部門勉強会		28日										1日
	検査技師会 総合管理部門勉強会										5日		
	QMS勉強会				19日						10日		
学会参加 伝達講習会	不定期												
臨床工学部	人工呼吸器安全使用講習会	1回		2回	3回			20日	17日			6回	7日
	人工心肺安全研修			30日	1日								7日
	PCPS安全研修	26日											
	IABP安全研修		9日										
	Impella Smart Assist安全研修										1回		
	医療機器安全管理勉強会											1日	
	高気圧酸素治療講演会in筑豊												
高気圧酸素治療安全研修	13日								2回				
臨床心理室	初期研修医メンタルサポートプログラム							15日					
	小児科Dr-心理カンファレンス(隔月)							7日		1日		10日	
	新患カンファレンス	毎週月・金曜日											
	ケースカンファレンス	毎月第3金曜日											
栄養部	ケースカンファレンス	毎月第2火曜日											
中央放射線部	放射線部学術勉強会		6日		5日		8日 12日 14日 26日	31日		13日 21日 28日	12日 19日 23日		15日
	がんチーム医療推進勉強会												14日
	放射線安全講習会 (e-learning:Safety Plus)	2022年度 (~3月21日)											
	MRI検査の安全利用のための 研修(e-learning:Safety Plus)	2022年度 (~3月21日)											
救急救命室	救急救命士全体カンファレンス・ 勉強会		15日	17日	27日	11日	7日	12日		26日	30日		
	救急合同カンファレンス				18日		20日			19日			
	お大事にの会					23日			29日				14日
	多職種カンファレンス				17日	15日	19日	31日	22日	27日	16日	15日	20日
	ドクターカーカンファレンス	毎月第3火曜日											
	院内BLS講習	毎週月・水・金曜日											

〔VI〕 委員会活動報告

1. 医療ガス安全管理委員会

委員長 内藤智孝

副委員長 村上輝之

目 的：

医療ガス（医療に用いる酸素、医療用圧縮空気、窒素、二酸化炭素、各種麻酔ガス、吸引）設備の安全管理をはかり、患者および医療従事者の安全を確保する。

活 動 内 容：

1. 医療ガス保全点検
厚生労働省による医療ガス保全点検指針に基づく日常点検、定期点検の実施、監督
2. 医療ガス使用状況の把握
3. 必要に応じて、室内ガスの濃度測定、及び試験
4. 医療ガス取り扱いの安全講習会の主催
5. 年4回の定期会議及び報告
 - 1) 医療ガス設備工事、定期点検：アウトレット不具合2件を除き、計画通り設備工事を施行、定期点検を実施。不具合2件は、実用上問題なく不急であるが、対策を検討中。
 - 2) 委員交代：資材課委員が2回交代した。上田氏→樋口氏→木村氏
 - 3) 医療ガス安全講習会：2021年度よりeラーニング受講を開始。定期周知により受講率向上した。さらなる受講率向上を目的に2023年度より必須講習に指定した。
 - 4) 病棟のボンベ管理について：2年ぶりに臨床工学部の医療ガス器具チェックラウンドで流量計の誤差やパッキン不良が確認された。管理状況は病棟によりまちまちであり、標準化を検討。
 - 5) ハイケア北棟医療ガス設備機械室非常電源作動時の圧縮空気供給装置成分検査：最大総油量、最大一酸化炭素濃度、最大二酸化炭素濃度、露点、いずれも基準値内。
 - 6) BCPへの取り組み：大規模災害対応マニュアルの作成準備。①医療ガス使用患者の安全確保、②医療ガス供給設備の緊急点検の実施、③院内の酸素備蓄量の確認、④予想酸素使用量の把握、⑤酸素供給見込みの確認、⑥酸素の節約、⑦酸素途絶時の対応、⑧緊急時シャットオフバルブの閉止、解放。以上の項目を柱として、各部署が分担してフローを作成し、マニュアル化を目指す。

次年に向けて：

1. 全職員向けのSafety Plusを利用した医療ガス取扱安全講習会受講を促進する。
2. 院内報等を活用し、医療ガスに関する職員の啓蒙をはかる。
3. BCPへの取り組みを2023年度に引き続き継続する。大規模災害時対応マニュアルの作成を目指す。
4. 委員会メンバーの情報共有、知識拡充を目的に、院内医療ガス設備の視察、保守点検のレクチャー、学会参加、関連施設見学等を積極的に実施する。
5. 定期的に医療ガス安全管理ラウンドを行い、問題点の抽出と解決を図る。活動を通じ病院全体としての、医療ガス安全に対する意識を高める。

2. 放射線安全委員会・特定放射性同位元素防護委員会

委員長 佐々木智成

目 的：

本委員会は、「放射性同位元素等の規制に関する法律」に基づいて、当院における放射性同位元素および放射線発生装置の取扱いや管理に関する事項を定め、放射線障害の発生を防止し、あわせて公共の安全を確保することを目的としています。また、特定放射性同位元素の防護のために必要な措置を講じることで、盗取の防止を図っています。

活 動 内 容：

放射線安全委員会の活動においては、放射線発生装置や放射性同位元素の安全な取り扱い、被ばく低減についての講習会（初期教育や再教育）および放射線管理区域内で勤務される職員の個人被ばく線量管理を行っています。また産業医の協力のもと、法令に則った健康診断や過剰被ばく者への対応なども行っております。放射線業務従事者への教育訓練（再教育）は、2022年に引き続きe-learning(Safety Plus)にて行いました。

放射線管理区域内で勤務する職員の個人被ばく線量管理は、個人被ばく線量計で管理しています。毎月、測定会社より貸与されたガラスバッジを各部署対象職員に配布・回収し、測定会社に測定を依頼しています。後日、測定会社より送付された個人被ばく線量データを確認し、被ばく線量の多い職員に対しては注意を促しております。また、放射線から適切に身体を防護するために、防護板や防護メガネの使用を推進し、水晶体の被ばく線量を正確に計測するために水晶体専用被ばく線量計の導入も継続しております。

RI法の改正に伴い、放射線測定における信頼性の確保が要求されたため、運用の見直し、放射線障害予防規程の改訂を行い、原子力規制委員会へ提出を行っています。また、2月には国の認定機関による放射線使用施設の定期的な施設点検が実施されるため、準備・対応を行っていきます。

特定放射性同位元素防護委員会の活動においては、4月から12月の期間においてG 7広島サミットおよびそれに関連した会合の開催により、テロ等違法行為の対策のため警備強化を行いました。また、原子力規制委員会による立入検査より、運用の見直しおよび特定放射性同位元素防護規程の改訂を行いました。

次 年 に 向 け て：

放射線を用いた診療や治療の件数が増加するなか、当委員会活動によって放射線業務従事者が職業被ばくや医療被ばくを再認識し、且つ最新の情報を得ることにより無駄な被ばくや医療事故を無くすように努めてもらえればと考えています。院内で被ばく線量の比較的高い職員に対しては、所属先・関連診療科との協力を図りながら当該職員の被ばく状況に留意し、被ばく防護の指導や必要に応じた対応を遅滞なく行い、各診療科からの被ばく防護に関する問い合わせなどにも対応いたします。さらに院内全体の放射線に対する理解を深めるため、被ばく防護の指導をさらに強化していきます。

3. 感染管理委員会

委員長 増本陽秀
副委員長 沖中友秀

目 的：

この組織は科学的根拠に基づいた病院感染対策を推進し、MRSA、VRE などの薬剤耐性菌や HIV などのウイルスによる感染症から患者及び医療従事者を守ることを目的とする。

活 動 内 容：

○院内職員教育

ICTメンバーによる週1回の病棟回診を継続し、リンクメンバーおよび全職員対象の勉強会を以下のように実施した。

[テーマ・講師名・参加者数]

2月9日「発熱の診方～内科・外科病棟編～」

感染症科 的野医師 75名（伝達講習278名）

7月26日「防護具はみんなを守る味方」

感染管理センター 尾崎看護師 28名（伝達講習758名）

8月30日「今日は何の日？針刺し事故防止と感染予防」

医務室 大久保医師 59名（伝達講習753名）

9月19日「培養検体の適切な採取・運搬・検査依頼について」

微生物検査室 手島検査技師 20名（伝達講習603名）

9月28日「肺結核」

呼吸器内科 平松医師 56名（伝達講習543名）

11月9日「看護師・薬剤師に視点から見た抗菌薬～使用頻度ランキングTOP10～」

感染管理センター 丸谷看護師、薬剤部 長崎薬剤師 54名（伝達講習128名）

12月7日「HIV感染症の現状と血液暴露対策」

総合診療科 中村医師 46名

○病棟回診

週1回の ICT による環境ラウンドを全病棟は月1回、非侵襲性処置実施部署は2ヶ月毎、その他部署は3ヶ月毎に実施し2週間以内に各現場へ結果を報告した。

○手指衛生使用量モニタリング(アルコール消毒薬)

手指消毒剤の実使用量と病棟別・部門別手指消毒剤使用量を定期的に感染管理委員会で報告した。2021年全国中央値12.5以上の達成率は11月では93.5%（27/29部署）であった。

○抗菌薬適正使用支援チーム（AST）活動

メロペネム、ピペラシリン/タゾバクタム、セフェピム、静注キノロン系薬開始時のカルテ記載（スタンプ押印）ならびに7日以上継続例に対する感染症科医による支援を継続した。2023年1月1日から12月31日までの期間で、クリニカルパス抗菌薬適正使用確認依頼書12件をASTで審議し抗菌薬の種類と投与期間を決定した。

○感染管理地域ネットワーク施設間会議

- ・ 1月26日 「各施設からの手指消毒剤使用量提出データ比較
／ AMR対策 抗菌薬使用量調査について」(WEB) 21施設63名
- ・ 5月26日 「N95と定量フィットテスト」(WEB) 32施設94名
- ・ 9月15日 「5類移行後の保健所の対応について」(対面／WEB) 39施設97名
- ・ 11月15日 田川市立病院主催
「新型インフルエンザ等対策実地訓練」(対面／WEB) 50施設126名
- ・ 11月30日 「COVID-19患者への対応の現状」(対面／WEB) 27施設71名

[相互ラウンド]

3月 8日 福岡ゆたか中央病院ICTが当院に来院し回診を行った。

3月15日 当院ICTによる飯塚市立病院の回診を行った。

○ HIV 対策室

新規5名。42名が外来通院中であり39名が抗 HIV 薬治療中である。

次年に向けて：

全国中央値との比較を継続的に実施し、手指消毒剤使用量の少ない部署への直接観察等適宜実施を行い、目標（全国中央値以上）90%以上の維持を目指す。また、カルバペネム使用量削減に向けて職種間のタスクシフト・シェアを行い、抗菌薬適正使用支援活動を継続していく。

4. 労働安全衛生委員会

委員長 増本陽秀

目的：

[基本方針]

- 安全管理 労働災害防止体制の確立
- 健康管理 職員の心身にわたる健康管理を積極的に推進する
- 環境衛生管理 院内感染等を防ぎ、安全教育が行き届いた清潔で働きやすい職場環境をつくる
- 緊急時対応措置 訓練と教育の継続的实施と強化

活動内容：

(1) 安全管理

労働災害を防止するため、発生した事例と対策を毎月検討している。発生件数の多い針刺し・切創及び粘膜暴露事例については防止対策に重点を置き討議している。業務上災害件数は2022年と比較し、針刺し・粘膜暴露事例とも減少している。

委員会終了後、業務上災害報告事例への対策をワンポイントアドバイスとして全職員向けに配信し、注意を喚起している。

(2) 健康管理

健康診断は、完全予約制で実施している。問題点をその都度検討し、改善結果を次回の健診に反映させた。ストレスチェックを実施規程に基づき適切に実施できた。集団分析結果の説明を、2023年度、高ストレスにあたる部署の管理者を対象に行った。また、メンタルヘルス対策として、師長を対象に看護部・医務室合同研修も行った。復職支援については、より実態に合ったプログラムとなるよう、適宜、見直しを実施している。

(3) 環境衛生管理

職場におけるリスクを発見し、労働災害や健康障害を未然に防ぐための対策として、職場巡視を実施した。労災防止上の問題や整頓の不備なども指摘し、労働安全衛生委員会を通じて改善を促している。

(4) 緊急時対応措置

教育と訓練を継続して実施する。

次年に向けて：

引き続き職場の安全衛生に関する情報を周知し、危機意識や対策等を共有できるよう努めたい。針刺し損傷に加え粘膜曝露においても実態に合った対策を講じて、発生件数を減少させ発生ゼロを目指したい。健康管理体制を拡充しよりよいものにしたい。

5. 医師の負担軽減・処遇改善委員会

委員長 増本陽秀

目 的：

医師の負担軽減・処遇改善委員会は、飯塚病院に勤務する医師の業務上の負担軽減および処遇の改善を目的として活動する。

活 動 内 容：

科別の平均超過労働時間、時間外労働80時間および100時間超過者数、100時間超過者と80時間超過者を対象とした過重労働面談実施状況の調査・報告を行った。診療科の平均超過労働時間は6月（42.8時間）をピークに減少し8月は36.7時間となり、その後増加し12月は39.1時間となった。時間外労働80時間超過者数についても同様の傾向がみられた。2019年度より年次有給休暇の5日間取得が義務化され、さらに医師の働き方改革により、2024年度に向け超過勤務時間を960時間（または1,860時間）以内に抑えることが必要である。2023年は、4月以降12月現在までの超過勤務時間が医師一人あたり月平均29.5時間となっており、昨年と比較し月2.2時間減少している。年休取得は医師一人あたり平均5.8日であり、昨年と比較し0.9日減少している。100時間超過者については、面談の中で疲労状況などを評価し、勤務継続の可否を確認している。また、面談の際に聴取した意見から問題を抽出している。

次年に向けて：

働き方改革の推進が急務である中、医師の過重労働低減をさらに推進する。そのため、特に100時間を超えて長時間労働を行っている医師につき、面談等による勤務実態調査を継続し、負担軽減対策を講じる必要がある。

当委員会では過重労働に関する調査・報告のみでなく、傾向分析を実施し対策を講じる。超過勤務時間削減のため労働安全衛生委員会とも連携し、医師の負担軽減・処遇改善に資する提言を積極的に行う方針である。

6. 薬事委員会

委員長 増本陽秀

副委員長 梅田勇一

目 的：

薬事委員会は、医薬品の適正使用推進のため、医薬品の採用、削除、管理、その他薬事に関する事項について審議すること等を目的としています。

活動内容：

院長（委員長）、副院長、経営管理部長、医局長、看護部長、資材課長、薬剤長から構成され2ヶ月に1回（偶数月）に開催しています。

2023年は6回の委員会にて、新規採用79品目、採用に伴う削除76品目、また例年12月に事務局（薬剤部DI室）主導で実施している使用頻度が低い薬品の採用削除の検討にて16品目の削除を決定しました。12月現在の採用医薬品数は1910品目です。一増一減の原則の基、採用審議を行っていますが、免疫チェックポイント阻害剤などの新薬の登場で採用品目数は徐々に増加傾向であると共に、外来診療においては、非常に高額な注射薬の使用も増えてきています。

また、後発医薬品への切り替えに関しては、計15品目の切り替えが承認され、12月末現在で13品目の切り替えが終了しています。

一方で、2023年は医薬品の供給不安が非常に顕著となり、日本の医薬品の安定供給『神話』は完全に崩壊した年となりました。鎮咳薬や抗菌薬等の処方が危機的状況に陥り、採用薬のうち供給に問題が発生した医薬品は200品目を超え、実際にオーダーが止まった薬品は35品目にのびりました。

そのような中、後発医薬品の供給不安の影響で、2022年の6月から後発医薬品使用体制加算の施設基準を辞退していましたが、供給状況を鑑みながら徐々に後発医薬品への切替えも推進し、2023年12月には、後発品置換率は最低ラインの75%まで回復しました。後発医薬品使用体制加算の算定が再び可能となる見込みとなりました。

次年に向けて：

免疫チェックポイント阻害剤などの抗悪性腫瘍剤のみならず、注射薬などで1回の治療で数百万円を超えるような高額医薬品の増加は購入コストも増加していきます。外来収益と購入コストのバランスを考慮し、流通状況も鑑みながら可能な限りバイオシミラーの導入や、後発医薬品への切替えを進めていきます。また、VHJ 関連病院として、薬剤部会等の推奨（共同購入）薬について各診療科の協力を仰ぎつつ採用を検討していきます。

7. 資材委員会

委員長 増本陽秀

目 的：

院内で使用する保険医療材料、設備投資等の病院資材について採用等の審議を行い、安全性の維持、医療の質の向上、経済的適正配置を実現する。

活動内容：

1. 新規保険医療材料

試用43件の届出を受領し、仮採用7件、本採用4件を承認した。

2. 医療機器・備品を購入する設備投資の配分

2023年度予算として申請された248件（定価18,977百万円）の申請の中から、各申請部署の意見を踏まえて101件の購入について認可。また予算外購入として44件（2023年12月末現在）の購入を認可した。

3. 運用・審議方法

① 高額医療機器購入の申請および審議方法

定価50百万円以上の機器については、申請者が資材委員会でその必要性を説明する。また、投資額100百万円以上の新規又は増設申請については、経営会議において審議を行う。

② 保険医療材料の採用申請方法

試用、仮採用、本採用の3段階による申請を行う。

③ 保険医療材料の採用審議方法

仮採用申請は、申請者が資材委員会にてその必要性を説明し、本採用申請は仮採用期間中（6ヶ月間）の使用評価を報告する。また、事務局は仮採用、本採用共にコストもしくは差益について説明する。

次年に向けて：

1. VHJ共同購入品目の拡大

VHJ共同購入に関する12の部会及び委員会（医療材料部会、薬剤部会、ME部会、循環器部会 不整脈部門、循環器部会 カテーテル治療部門、整形部会、透析部会、放射線部会、放射線部技術委員会、検査部会、透析部会小委員会、薬剤評価委員会）の事業支援を継続して行い、臨床における質の向上を維持しながら医療機材を調達し、安全面及びコスト面において多くのメリットが得られるように活動を推進する。

2. 2024年度診療報酬改定を視野に入れた設備投資や診療材料購入の対策を行う。

3. 新規診療材料の採用に関する審議、医療機器の評価、調査を随時行う。

4. 医療機器の適切配置、新規医療機器購入時の機器選定を行う。

5. 医療安全・コスト削減、効率化に適合した医療材料物品の選定を行う。

8. ISO 委員会

委員長 名取良弘

副委員長 中嶋弘之

目的：

ISO9001の認証取得・更新を継続し、全病院的なQMS（品質マネジメントシステム）を構築し、内部監査員と共に医療の質の向上と安全な病院を実現すること。

活動内容：

①内部監査について

■ 内部監査員養成講座の実施

- ▶ 動画配信とし、理解度テストを実施（受講者40名）

■ 実施方法を一部変更

- ▶ 働き方改革の一環として、監査に関わる時間を削減するために下記2点を実施

① 1年間に実施する監査数を半減

② 過去の内部監査等での指摘事項について、対応状況を内部監査で確認せず、ISO委員会にて確認

- ▶ 下記2点を目的とし、監査側も被監査側同様監査の質問に回答

① 監査のイメージが湧き、監査を進めやすくするため

② 病院全体の状況を従来通り2年で把握するため（1年間の監査数を半減したことへの対応）

■ 実施状況及び結果

監査目的	日常業務が上手く機能しているか仕組みを確認する（日常管理）		
監査実施期間	8月18日～12月1日		
被監査数	16チーム（診療科・看護部：9、医療技術部門・経営管理部門・本部機能：7）		
重点改善事項	1件	改善推奨事項	15件
評価	S：AかつBの内容が文書化されている。		4チーム
	A：異常に気づいたときの手順が決められている。		10チーム
	B：日常管理の「管理項目、評価者、評価基準」の全てが設定されている。【標準】		2チーム
	C：Bの全てが設定されていない。		0チーム

②マネジメントレビュー（2023年3月9日実施）について

■ 前年のマネジメントレビューで受けた指示および2022年内部監査について報告

③文書管理について

■ 3月に全職員に対し文書の見直しを周知

■ 「文書管理・検索システム」内の常設委員会メンバー情報の自動更新については、RPA（Robotic Process Automation）の導入を試みたが、RPAを稼働させるためのデータ（ユーザーとアクセス権の関係を表すデータ）が「文書管理・検索システム」より抽出できず、RPAの導入はできなかった。

次年に向けて：

1. [内部監査]

・実施方法を変更し2年目となる。新しい監査方法の浸透状況や不具合出現の有無について確認、対応する

2. [文書管理]

・「文書管理・検索システム」内の常設委員会メンバー情報の自動更新について引き続き検討する
・病棟規約の登録促進に着手する

9. TQM 活動推進委員会

委員長 中島雄一

※TQM活動：サークルによるQC手法等を使用した改善活動

目 的：

TQM活動推進委員会は、TQM活動を病院全体の活動へ展開し、職員全員の問題解決能力を高め、快適で安全な環境で業務を行うための思考を養い、病院全体の医療の質向上を実現させ、患者サービスに貢献することを目的とする。

活 動 内 容：

- 1月13日・26日 勉強会/TQM活動の流れについて 実施（TQM活動推進分科会）
- 1月20日 エントリー締め切り 16サークルがエントリー
- 2月 9日 勉強会/背景と指標 実施（TQM活動推進事務局）
- 2月28日・3月8日 TQM活動導入研修 実施（TQM活動推進委員会・TQM活動推進分科会）
- 3月 9日 勉強会/現状把握 実施（TQM活動推進分科会）
- 3月 9日 レビュー者研修会 実施（TQM活動推進事務局）
- 4月10日 第31回TQM活動キックオフ大会 開催
- 4月17日 勉強会/要因分析 実施（TQM活動推進分科会）
- 5月15日 勉強会/対策立案・対策実施 実施（TQM活動推進分科会）
- 6月16日 勉強会/効果の確認 実施（TQM活動推進分科会）
- 7月20日 勉強会/標準化と管理の定着 実施（TQM活動推進分科会）
- 9月14日 勉強会/講評の仕方 実施（TQM活動推進委員 古賀秀信さん）
- 10月 7日 第31回TQM活動発表大会 開催（のがみプレジデントホテル）
- 11月17日・18日 第24回フォーラム医療の改善活動全国大会 in 広島 参加〔職員10名〕

次年に向けて：

2023年は、TQM活動を勤務時間内に実施することを目的とし、TQM活動デー（主に、完了報告書や発表スライド作成の為に資料する時間）を設け、活動サークルの2/3程度のサークルが使用できた。

2024年は、この活動の見直しを行い、更なる勤務時間内でのTQM活動推進を目指し、取り組んでいく。また、日科技連（日本科学技術連盟）の発表大会等へも参加しやすくなるよう、サークル活動の仕方および内容の見直しにも着手していく。

改善人材開発プログラムに即し、改善活動のリーダー育成に貢献をしていきたい。

※2023年TQM活動内容は『改善活動報告』の通り

10. クリニカルパス委員会

委員長 辻岡 寛

副委員長 梶原 優子

目 的：

医療の質の維持・向上を図るために、クリニカルパス作成・見直し及びパス使用を促進すること。

活 動 内 容：

2022年9月より、電子パス作成ツールを使って使用頻度の高い、既存の書式パスの電子化を各部署で開始している。2023年12月までに4診療科で電子パスを運用し、20診療科で32パスの電子化作業を実施している。また、電子パスの運用や電子化の作業を効率良く行うため、優先度を検討しシステム対応を行った。

2023年 主な活動

- 1) 委員会開催；11回
- 2) パスレビュー実施；新規電子パス（1件）、改定書式パス（8件）
- 3) クリニカルパス点検実施；2回（3月、9月）点検総数（1,112件）
- 4) パス担当者連絡会議開催；計5回（参加総数：115名）

【日程】6月5日、6月8日、6月28日、7月13日、7月31日

- 5) 第23回日本クリニカルパス学会学術集会参加・発表

【日程】11月10日（金）・11日（土）

【場所】さいたま市 THE MARK GRAND HOTEL さいたま新都心

【発表】婦人科腹腔鏡電子パス作成と取組み 北第七病棟：山本百恵

【参加】6名（辻岡寛、梶原優子、佐野美和子、山本百恵、白石菜月、寺岡理恵子）

- 6) パス登録状況

	電子パス	書式パス
登録総数	4パス	138パス
新規登録	0	0
改訂登録	5件	12件

- 7) 2023年入院患者パス使用率（パス使用患者数/退院数）；37.9%（2022年 39.2%）

次年に向けて：

既存の書式パスの電子化を推進し、電子パスの運用増加を図る。

11. QI 委員会

委員長 白土基明

副委員長 名取良弘

目 的：

医療の質は一般的に構造（ストラクチャー）、過程（プロセス）とアウトカム（結果・転帰）で規定される。QI委員会では、これら臨床や医療の質に関する指標（Quality Indicator、以下QI）の測定、報告および活用を基本とし、当院における医療の質を継続的に向上させ、Patient firstや患者サービスに貢献することを目的とする。

活 動 内 容：

開催回数：4回（5月、6月、8月、10月）

主な活動内容：

- ・病院指標の設定に向け指標の収集および整理を行い、幹部会にて報告
- ・医療の質可視化プロジェクトへの参加

次年に向けて：

2024年は、以下の活動を行う予定

- ・病院指標の選定および維持改善を行う体制の検討・整備
- ・各部署でのQI設定・測定・質の維持改善に関するサポート

12. 患者経験価値向上委員会

委員長 中島雄一
副委員長 柏木秀行

目 的：

患者経験価値向上委員会（以下、PX向上委員会）は、Patient eXperience（患者経験価値）（以下、PX）サーベイ等を用いて組織全体を客観的に見直し、課題の抽出と改善を行いながら、飯塚病院の継続的な医療の質向上の実現と患者サービスに貢献することを目的とする。

活 動 内 容：

月1回定例会議を開催した。

2023年の主な活動：

1. ご意見箱・ホームページからのご意見をPX向上委員会でまとめて、患者さん・ご家族からのご意見やクレームに対し事実確認を行い現場にフィードバックした。
2. 対象期間を1週間として5回実施する計画で、18歳以上で自宅退院の患者さんを対象に2022年11月よりPXサーベイを開始した。2023年3月に目標数（400件以上）に達した。アンケートの最終的な送付数は1,425件で、回収数は543件であった（回収率38%）。
3. 5月18日に委員会向け、6月19日に幹部会向けにPXサーベイ報告会を開催した。
4. リハビリ中の患者さんに、PXについての聞き取り調査を行った。
5. 統計分析に長けた委員（臨床研究支援室 副室長 古賀秀信）が、PXサーベイ2022の結果について再度分析を行った。
6. 全国病院経営9月研修会「患者経験価値（PX）向上の取り組み」に参加した。
7. 社会医療法人財団慈泉会 相澤病院IPEXT（患者経験向上チーム）との情報交換会を開催した。
8. 一般社団法人日本ペイシエント・エクスペリエンス研究会主催・第6回PXフォーラムにて、副委員長 柏木秀行医師が当院のPXに関する取り組みについて紹介した。

次年に向けて：

1. PXサーベイ2022の分析を元に、患者経験価値向上につながる活動を提案する。
2. PXやPXサーベイの結果について、院内外への広報手段を検討する。
3. PXサーベイ2024の実施計画を立てる。

13. 急変対応委員会

委員長 小田浩之

副委員長 山田哲久

目 的：

院内において予期せぬ患者状態の危機的増悪（急変）発生の削減および発生時の影響緩和を目的とする。

活 動 内 容：

審議および決定事項（毎月1回の定例会議）

（ア）分析（2023年）

1. 院内死亡 1,246件（来院時心肺停止または蘇生後 287件、看取り入院 0件、終末期<悪性腫瘍307件、脳神経71件、心臓76件、肺炎呼吸器230件、感染80件、肝不全24件、腎不全26件、心不全 0件、他145件>、その他 0件）
2. ハリーコール：57件（病棟50件、その他 7件）
3. Rapid Response System（以下、RRSと省略）稼働：47件
4. 病棟からICU入室 148件

（イ）主な決定事項

1. 小児急変症例の対応フローの表記を変更し、承認する。
2. 多目的トイレのブザー対応について総務課に相談し、マニュアル表記のブザー呼称および南病棟の壁面に設置されたブザー撤去を承認する。
3. ハリーコール・急変対応・振り返りシートを5月9日看護部ミーティングで説明する。
4. 救急カートよりキシロカインゼリーを撤去し、カテゼリーを配備する。
5. 心肺蘇生アルゴリズムの原案を作成し委員会で標準化していく。
6. 小児急変対応フローの修正案を承認する。
7. 急変対応委員会関連マニュアルを文書管理としてまとめる。
8. DATをC4FHCU、C5FHCUへ拡大することを承認する。
9. リハビリ室でのハリーコールで赤ボックス対応時は、リハビリ室より出て処置を行う事を、救急部、集中治療、総診重症チームで周知する。
10. RRS運用開始は、8月の部長会で伝達後、9月より全病棟対象でとし、2月1日より活動時間を平日日勤帯より全時間帯に拡大する。
11. 急変対応委員会関連マニュアルに関する文書管理について承認とする。
12. 院内急変対応委員会規約 規約内表記について、ERエイドを救急救命士へ変更する。
13. 喉頭鏡ブレードの代替え案について承認する。
14. 院内急変対応委員会規約改訂を承認する。
（改訂内容）（構成）の医師の科に麻酔科、看護師に救急統括マネージャーを追加
15. 24時間のRRS稼働を承認する。
16. 2024年よりレッドハリーコール時のフルPPEセットからガウンを除外、コール対象は陽性者のみとする。

次年に向けて：

- （ア）院内の急変事例を監視・測定・改善していく。
- （イ）改善計画に則って、教育・啓発を行う。
- （ウ）特にRRS起動が適切に行われるよう啓発に取り組む。

14. MRM 委員会

委員長 福村文雄

目 的：

飯塚病院で発生する不具合および院内外の情報をもとに、患者安全にかかわるシステムを監視・測定・改善していくことで、より安全な組織としていくことを目的とする。

活 動 内 容：

(ア) 審議事項（毎月1回の定例会議）

①主な決定事項

1. 離院対応マニュアルの改訂案（修正）を承認する。
2. 0.5錠処方処方の処方変更について、毎回の電話確認を不要とすることを承認する。
3. 院内暴力対応マニュアル改訂を承認する。
4. 共通の抗血栓薬中止の同意書作成について、改訂案を承認する。
5. 外来看護記録に問題点を共有できる仕組みを看護部で検討する。
6. 経鼻栄養チューブ挿入後の指示について、改訂案を承認する。
7. カリウム製剤投与に関する取扱い規定について、改訂案について承認する。
8. 静脈穿刺による神経障害疑い発生時の対応フローについて修正案を承認する。
9. 医療安全管理システム（即時報告入力システム）について、改訂案を承認する。
10. 静脈穿刺神経損傷フロー修正案について承認する。
11. 外来看護記録の改定を承認する。
12. 一般病棟におけるカリウム製剤投与に関するマニュアル改定について承認する。

②即時報告集計報告

1. 全件3,863件（医師 187件、看護師 2,931件、薬剤師 179件、放射線技師83件、検査技師 47件、療法士 44件、他の技師 241件、事務132件、その他 19件）
2. 警鐘事例 11件（手術・麻酔 5件、診療・診断・合併症 4件、検査 1件、処置 1件）
3. 転倒転落による骨折 6件

③ Patient First Prize（不具合早期発見）選出・表彰

60名を表彰（医師 7、看護師 32、薬剤師 3、検査技師 1、放射線技師 2、臨床工学技士 7、その他 8）

(イ) MRM研修（医療安全研修参照）

次年に向けて：

- (ア) 即時報告から院内の患者安全状況をモニターし、警鐘事例への再発防止対策をフォローしていく。
- (イ) 医療安全研修を計画、実施していく。

15. 透析機器安全管理委員会

委員長 藤崎毅一郎
副委員長 沖永一樹

目 的：

透析関連機器の保守管理に関する計画を策定し、それを適切に実施することにより、安全で質の高い透析治療を提供する。

活 動 内 容：

<委員会における活動>

- 透析機器および水処理装置の管理計画立案と実施。
- 透析用水・透析液の水質管理（生菌数検査・エンドトキシン活性値検査の実施）。
- その他、本委員会の目的を達成するために必要と認める活動。

<活動実績>

1. 透析センターの透析装置46台（透析装置42台・個人用透析装置4台）、RO装置1台、透析液供給装置2台、透析剤溶解装置4台に対し、定期点検、定期部品交換を実施した。
2. 病棟透析室の透析装置9台（透析用監視装置8台・個人用透析装置1台）、RO装置1台、透析液供給装置1台、透析剤溶解装置2台に対し、定期点検、定期部品交換を実施した。
3. 保守点検と同様に関連装置全台でエンドトキシン活性値の測定及び生菌数検査を行い、清浄化の確認を行った。透析用水・透析液ともに日本透析医学会が提言する「2016年度版透析液水質基準」が定める基準値内で管理することができた。
4. 透析関連機器の安全使用のための研修を9回（延べ21名）実施した。
5. 血液浄化センターに新たに個室が1室作成され、個室は3部屋となった。個室の増床に伴い、オンラインHDFも可能な個人用透析装置NCV-11を1台購入した。個室の増床により、更に多くの隔離透析が必要な患者さんの血液透析を実施できるようになった。
6. PTA患者の術前シャントフローボリューム測定を、昨年毎週火・金曜日に加えて、木曜日にも臨床工学技士が実施することとなり、毎週火・木・金曜日と日勤帯急患の術前シャントフローボリューム測定は臨床工学技士が実施することとなった。これにより医師の業務量のさらなる軽減を図ることができた。

次年に向けて：

- 透析センターおよび病棟透析室の透析関連装置の保守管理と、透析用水・透析液の清浄化に務める。
- 従事者に対する透析関連機器の安全使用のための研修を継続していく。

16. 病院食サービス委員会

委員長 井上智彰
副委員長 大西崇平

目 的：

- 1) 入院患者さんへ適正な栄養管理を行うことを目的に、治療中のさまざまな病態に応じた多食種の食事を提供する。
- 2) 病院食自体が患者さんの治療やQOL向上に効果を認めるため、治療に貢献できる質の高い食事提供や、また入院生活の精神的サポート（楽しみ）になることである。
- 3) 当委員会は、飯塚病院の食事療法全般について、医師・看護師等を含む会議において定期的検討を行うものである。

活動内容：

- 1) 毎月1回の委員会開催。定期会議の中で継続的に問題提議を行い、解決を行う。
- 2) 入院患者さんへのアンケートの実施（2回／年）
- 3) 栄養部の人員不足の対応及び業務改善の検討
 - ①管理栄養士が調理業務の携わる時間を増やし、結果病棟担当のPHS対応を10時から14時30分に制限している。
 - ②パンを個包装する事で衛生的に提供でき、更にパン皿を廃止することができ洗浄の手間を省いた。
 - ③献立や調理の工夫でこすもす食、カリウム制限食の別調理を中止し、無菌食提供の必要性を血液内科医師と相談し廃止するなど業務内容の見直しを行った。
- 4) コスト削減の対応
食材単価の高い又は使用頻度の高い食材をピックアップし、コストを抑えた代替え食材を使用した献立案を作成した。更にパンの種類の変更、流動食の適正使用に取り組んだ。
- 5) パンを提供する食形態についてアクシデント防止の為一口大のオーダーが入っている患者はオーダーができないようにした。
- 6) 食事の形態を軟菜、きざみ、五分菜、三分菜、スープ食、ミキサーを選択すると、約束食事箋で設定されている常菜の栄養成分を満たすことが難しいため、各食種には常菜のみの選択とし、軟菜からミキサー食は各食種に別途食種を設ける様に変更した。

次年に向けて：

安心・安全で、且つ満足していただけるような食事提供を可能にするために病院食のKAIZENを継続的に行う。

【現在検討中の案件】

- ・人員不足に対する業務内容の見直し及び効率化の検討
- ・クックチル導入に向けた献立の見直し
- ・コスト削減に向けた献立の見直し
- ・給食部門システムの更新

17. 情報システム委員会

委員長 清田雅智

副委員長 山田哲久

目 的：

本委員会は、情報システムを通じ、医療の質の向上、患者サービスの向上、業務の効率化、コストの削減等を図ることを目的として、活動しています。

活 動 内 容：

本委員会は、毎月開催し、情報システム・情報セキュリティに関する協議・検討や決定・承認を実施しています。

2023年の主な案件は、以下の通りです。

- システム開発・導入関連
 - ・歯科口腔外科外来予約システム変更 [1月]
 - ・患者重要プロファイル 照会システム [3月]
 - ・リハビリオーダー変更 [4月]
 - ・検体検査オーダー 済み入力機能の変更 [5月]
 - ・認知機能検査登録システム 機能変更 [6月]
 - ・外来手術センターの予約に関する機能追加 [6月]
 - ・外来化学療法室移転・拡張に伴う機能追加 [6月]
 - ・SSIサーベイランスシステム変更 [12月]
- サーバ、パソコン導入関連
 - ・シンクライアントシステム更新 [1月]
 - ・予約・受付・患者誘導システムサーバ更新 [1月]
 - ・メールシステム (Notes) バージョンアップ及びサーバ更新 [8月]
 - ・オーダーリングサーバ更新 [8月]
 - ・医事会計システム (IBARS) 更新 [10月]
 - ・Windows11導入 [10月]
- 情報セキュリティ関連
 - ・セキュリティ対策 (アンチウイルスソフト、ファイアウォール等) 実績報告 [5月、11月]
 - ・アンチウイルスソフトESETバージョンアップ [11月]
 - ・ファイアウォール バージョンアップ [7月、8月、11月、12月]
 - ・セキュリティ診断結果報告及び今後の対応 [5月]
 - ・スマートデバイス多要素認証検討 [4月]
 - ・スマートデバイスアプリケーション導入申請
 - ◆患者画像連携機能 [3月]
 - ◆医師宛メッセージ機能 [3月]
 - ◆Dr2GO：患者軸チャット、診療情報参照 [4月]
 - ◆ViTrac：セントラルモニター情報参照 [6月]
 - ・クラウドサービス利用申請
 - ◆Shiftmation：看護師勤務表の自動作成システム [2月]
 - ◆ROSA Knee System、DRIVE Case Management System：手術ロボットとその症例管理 [3月]
 - ◆box：治験に係る契約書等の共有 [6月]

次年に向けて：

電子カルテ・オーダーリングシステム等の強化（電子パス、承認機能等）、地域医療情報連携システム、スマートデバイスへのシステム導入、医療DX関連、AI関連、情報セキュリティ関連（ランサムウェア等の脅威への対策等）の検討・審議を行います。

18. 診療情報管理委員会

委員長 福村文雄

目 的：

診療録等の適切な管理・運用を行うと共に、診療支援・医学研究および教育・病院の運営など各種業務の円滑な遂行を図ることを目的とする。また、DPCコーディング委員会としてDPCコーディングに関する運用・管理を行う。

活 動 内 容：

新規書式の申請（9件中8件承認）

- ・緊急アンギオ経過記録用紙
- ・長谷川式スケール・MMSE検査用紙
- ・術後疼痛管理チーム評価表
- ・抗血栓薬中止の同意書
- ・中止薬説明書
- ・透析時運動指導等加算記録
- ・小児看護記録：外来処置
- ・【尿閉】排尿日誌と【頻尿】排尿日誌

フォルダー作成（2件中2件承認）

- ・「保健所提出書類」について
- ・自殺予防支援

報告事項（3件）

- ・量的点検結果
- ・カルテ廃棄
- ・2022年診療記録開示実績報告

DPCコーディング委員会

- ・DPC請求の基本ルール
- ・傷病名選択の注意点
- ・注射や検査等はDPC包括点数に含まれる

次年に向けて：

法律や診療報酬制度において求められる記録を点検していく。さらに記録遵守の向上を目指して、記録を容易にするために電子カルテシステムの改定を考えていきたい。

19. 研修管理委員会

委員長 井村 洋

目 的：

飯塚病院における初期及び専門医制度・後期研修制度の実施に関する統括管理を行う。

活 動 内 容：

奇数月に定例開催

【決定事項】

- 医科初期研修医 第33期17名および専攻医20名の研修修了の承認
- 歯科初期研修医 第4期1名の研修修了の承認
- 初期研修医の専門研修先選択のサポートを目的とし、1年次は2・3月、2年次は4・5月に院内他科へ見学に行ける制度を承認
- 初期研修部会の規約改定を承認
 - 部会員の構成および任期を変更

【2023年度採用状況】

●初期研修医

医科：マッチング18名（定員18名）

（採用面接受験者数：57名、中間公表1位希望人数：15名、全国病院ランキング：134位/901位）

歯科：マッチング1名（定員1名）（採用面接受験者数：3名）

●専攻医

内科プログラム	：	一次登録 16名（定員16名+自治医科大卒者枠1名）
総合診療プログラム	：	一次登録 4名 二次登録1名（定員6名）
救急科プログラム	：	一次登録 2名 二次登録2名（定員4名）
産婦人科プログラム	：	一次登録 1名 二次登録1名（定員4名）
麻酔科プログラム	：	一次登録 1名（定員2名）
小児科プログラム	：	一次登録 1名（定員2名）

20. 図書委員会

委員長 藤崎毅一郎
副委員長 小野清恒

目 的：

医学・医療の進展に伴う医療情報の増大に対して効率的な情報収集の支援を行うこと。電子情報化時代に即した蔵書管理、情報収集ツールを採用し、効率化、迅速化を進めること。

活 動 内 容：

- ・ 書面会議を含め毎月1回委員会を開催しています。
- ・ 文献複写依頼の費用負担を公費としました。文献複写依頼219件。
- ・ 購読雑誌のアンケートを実施しました。
- ・ 契約電子リソース：医中誌WEB/UpToDate/DynaMed/MEDLINE Complete/メディカルオンライン/メディカルオンラインイーブックス/医書.jpオールアクセス/Ovid Clinical & Hospital LWW Essential Collection/Full Text Finder
- ・ 外国雑誌タイトル数36（うちオンライン33）
- ・ 国内雑誌タイトル数44
- ・ 新規購読雑誌：Clinical Journal of the American Society Nephrology/
Journal of the American Society Nephrology
- ・ 購読中止雑誌：American Journal of Kidney Disease/ American Journal of Medicine/
Endoscopy/Urology/ Radiology/ Stata journal/障害者問題研究/ ISOS
- ・ 購入書籍：54冊

次 年 向 け て：

医学研究・最新医療の提供のためには、膨大な医療情報の中から、迅速で適切な情報抽出が必要となっています。特に文献情報は、電子媒体が中心となり、インターネット検索で得られる事が当たり前となっています。近年書籍・文献も冊子体から電子媒体へと変化が進み、ユーザーにとって、検索の効率化が図れる一方、出版社側は情報の一元的管理を進め、ユーザーに対しより優位な地位を得る結果となっております。最近では、複数書籍を閲覧できるパッケージなどが導入されてきたこと、コロナ禍以降図書室の密な利用が厳しくなったこと等もあり、電子書籍への移行を図るように推進してきました。また、これまで進めてきました使用頻度の低い書籍の購入の中止、電子媒体への変更も、電子書籍への移行によって随時見直しています。また、委員のメンバーを院内部署からこれまでより広く募り、院内図書の充実や利用を広く周知することにも力を入れております。今後もこのデジタル化への潮流は一層持続すると考えます。職員の皆様の学術活動の支援となりますよう活動をしていきたいと考えています。

21. クレデンシャル委員会

委員長 名取良弘
副委員長 西淳一郎

目 的：

クレデンシャル委員会は教育・研修ブロックの常設委員会として、飯塚病院勤務医師の能力向上を通じて、飯塚病院で提供される医療の水準と患者の安全を向上させることを目的に活動を実施しています。

活動としては次のように、医師の技量評価に関する検討と資格認定が主な業務です。

【プライバシー】各医師の診療行為の範囲を定める

【クレデンシャル】プライバシーを定めるにあたって資格を判断する過程

活 動 内 容：

具体的な委員会活動としましては、毎月一回、部長会後に委員会を開催しております。

開催概要としましては、

- ◆開催日時：毎月1回、部長会議終了後
- ◆委員：各科管理部長（または部長代行）
- ◆実行委員：委員長1名、副委員長1名、事務局（人事課）
- ◆定例の活動：各診療科、医師ごとに作成されたプライバシーリストの検討として、定期の見直し、修正、項目の追加、新任医師の登録などの承認を実施しています。

次年に向けて：

2023年もプライバシーリスト登録の目的や意義の周知を図り、リストの自己評価から実際の技量評価・リスト登録までの流れを説明し、早期の登録や内容の見直しを図ってきました。特に入社直後の医師の暫定的な評価・登録をできる限り早めに行った上で、3ヶ月後を目処に再評価をしていただくよう周知を図り実行をしてきました。その結果、2023年11月現在での登録件数は220件となっており、2022年度の総数である163件を大きく上回る登録状況となりました。

登録システムの新規導入も検討してはいましたが、予算的な問題もあり、一旦保留としましたが、適正な評価ができるよう評価体制の見直しを進めております。

2024年も引き続き力量評価表のさらなるブラッシュアップを実施し、新任医師についても情報の早期登録を進めてまいります。

また、各医師に対してReviewを行いPrivilegingし、本委員会でCredentialingすることで、各医師のPrivilegingを決定、見える化を行い、将来的に医師全体の評価方法の見直し、評価システムの再考や諸規程の整備につなげていきたいと考えています。

22. 手術室業務改善委員会

委員長 尾崎実展
副委員長 花村裕美

目 的：

手術室勤務者の業務拡大と資質の向上ならびに手術室運営の効率化を進める。

委員会設立の経緯：

2005年にヨーロッパ静脈経腸栄養学会(ESPEN)で公表された術後強化回復プログラム(Enhanced Recovery after Surgery:ERAS)が普及し、術後回復促進の考え方が激変した。これを受け、当院でも手術前・手術中・手術後を区切る事無く周術期として一つの単位と考え、周術期管理チームで管理する発想が生まれた。麻酔補助看護師(AAN)・手術室エイド(ORA)・手術室テクニシャン(ORT)等の認証制度を立ち上げ、効率的運用に寄与するべく本委員会が創設され、2015年から研修ブロック管轄下に院内安全ブロックから移行した。

活動内容：

1. 麻酔補助看護師(Anesthesia Assistant Nurse:AAN)制度：麻酔科医の業務の一部である麻酔維持管理を補助する資質を有する看護師をAANと呼ぶ麻酔維持管理について学んだ後に、実地指導と試験合格を経て院長より認証される。麻酔科医の指示のもとで麻酔維持管理を行い、麻酔業務を補助する。院内認定で養成を行っていたが、看護師特定行為制度が発足したため、術中麻酔管理領域パッケージ看護師特定行為研修を修了した後、麻酔維持管理の追加学習・実地指導の後にAANとして活動を行うものとした。
2. 手術室エイド(Operating Room Aide:ORA)制度：手術器械準備業務を看護師に代わってORAが行う。
3. 手術室テクニシャン(Operating Room Technician:ORT)制度：手術器械出し業務を看護師に代わってORTが行う。ステップアップ研修を受け、外科医より評価を受け認証される。
4. 2023年の主な活動
 - a) 本年度、新たに4名が術中麻酔管理領域パッケージ看護師特定行為研修を修了した。うち1名はAAN認定者ではなかったため麻酔維持管理の追加学習・実地指導の後、AANとして活動を開始し、手術室勤務AANは12名となったが1名退職で11名となった。AAN2名が特定行為研修を受けており、今年度終了時には術中麻酔管理領域パッケージ特定看護師は7名となる。AANのうち術中麻酔管理領域パッケージ特定看護師は、手技やより高度な管理を行えるためインセンティブによる差別化を図るよう病院に要望している。
 - b) ORT2名のうち1名が産休に入ったため現在1人体制となっている。ORAは1名で変わりなし。ORA・ORTの人員確保が急務と思われる、募集中であるが応募のない現状である。より魅力的な募集条件が必要と思われる。

次年に向けて：

ORA・ORTの人員確保につとめる。

AANの院内認証に代えて麻酔管理領域パッケージ看護師特定行為研修を継続する。

23. 地域医療支援病院研修委員会

委員長 岩佐紀輝

目的：

地域医療支援病院として地域医療レベルを向上させるために必要な研修会の設立・運営・管理・活動支援を行う。

活動内容：

1. 地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実施状況の把握
2. 研修会の案内、運営、参加者の把握などの実務管理

2023年に飯塚病院が主体となって開催された研修会は以下の通り。

- 総開催回数・・・39回（前年48回）
- 延べ参加者数・・・1,679名（前年1,997名）
- 院外からの参加者数・・・1,069名（前年1,260名）

	研修項目	実施回数	参加者数		
			院内	院外	合計
診療部門	小児虐待防止委員会	1	4	24	28
	筑豊救命救急研究会	12	29	317	346
	筑豊小児科医会勉強会	11	202	255	457
	筑豊地域小児在宅医療定例研修会	1	30	47	77
	飯塚病院地域医療支援病院報告会	1	46	62	108
	飯塚病院連携施設間会議	2	13	25	38
	麻生飯塚漢方診療研究会	2	10	105	115
看護部門	新人研修	2	80	89	169
医療技術部門	福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術研修会	1	31	19	50
	地域連携パス研究会	2	30	34	64
	筑豊支部病院薬剤師会	4	135	92	227
延べ総数		39回	610名	1,069名	1,679名

2023年5月以降、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に変更されたことに伴い、研修会の開催方法は、集合開催が再開し、また、集合とオンラインを組み合わせたハイブリット開催も普及してきた。集合開催は11回、ハイブリット開催は10回、オンライン開催は16回行われた。今後は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて、研修テーマに応じた対面とオンライン等の多様な研修会方法が期待される。また、今年は登録医のEメールアドレスの整備を行い、今後は、Eメールを活用した研修案内にも努めていく。

24. 倫理委員会

委員長 名取良弘

目的：

「患者の権利に関するリスボン宣言」及び「ヘルシンキ宣言」の趣旨と、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」、その他倫理審査委員会の設置について規定する法律及び関係法規・指針に基づき、飯塚病院における患者の人権の擁護を目的として、以下の事項を行う。

- 1) 医療をめぐる患者の権利や生命倫理に関する事項についての審査
- 2) 飯塚病院にて行う研究の実施の可否
- 3) 飯塚病院にて行う新規医療行為の実施・継続の可否
- 4) 研究倫理に関する院内教育

活動内容：

原則的に、毎月第3月曜日に開催されている。2023年の当委員会申請総数は154件(対前年比+6%)、臨床研究88件、学会発表58件、新規診療行為1件、適応外使用7件

部署名	申請数	部署名	申請数	部署名	申請数
呼吸器内科	27	集中治療科	4	腎臓内科	1
看護部	17	外科	3	膠原病リウマチ内科	1
救急科	11	泌尿器科	3	心臓血管外科	1
リハビリテーション部	9	呼吸器腫瘍内科	3	形成外科	1
総合診療科	8	小児科	3	呼吸器腫瘍外科	1
循環器内科	6	小児外科	3	産婦人科	1
中央検査部	6	医療安全推進室	3	連携医療・緩和ケア科	1
肝臓内科	5	整形外科	2	眼科	1
血液内科	5	脳神経外科	2	リハビリテーション科	1
薬剤部	5	歯科口腔外科	2	診療情報管理室	1
消化器内科	4	麻酔科	2	臨床研究支援室	1
感染症科	4	臨床工学部	2	院外	4
				総計	154

審査結果の内訳は承認140件、不承認2件、修正の上承認6件、条件付承認6件である。申請部署と申請数は先述の表の通りである。また、研究に係る職員に対し、研究指針等の遵守を目的に臨床研究における倫理的事項に関する研修(SafetyPlus)については590名が受講、利益相反(COI)に関する調査については189名が回答した。

次年に向けて：

引き続き飯塚病院における患者の人権の擁護を目的とし活動を行っていく

1、倫理委員会の開催

- ・月1回定例に倫理委員会を開催する
- ・案件に応じ適宜に臨時の倫理委員会を開催する

2、教育活動

- ・研究に係る職員に対し研究倫理指針等の遵守を目的に研修を行う

25. 臨床研究管理委員会

委員長 白土基明

目的：

- 飯塚病院におけるすべての臨床研究の適切な運営管理
- 臨床研究に関する教育活動

活動内容：

- 臨床研究の適切な運営管理を行った。

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に沿って適切に行われるよう、実施状況、実施計画書の変更、同意説明文書・同意書の変更、有害事象及び不具合の発生事例、関係書類の保管状況などについて審査を行った。また定期的な監査を実施した。

1. 委員会の開催

2023年7月31日 審議内容：2023年上期 迅速審査及び監査結果の報告及び審議

2023年12月19日 審議内容：2023年下期 迅速審査及び監査結果の報告及び審議

2. 迅速審査の実施

実施状況の審査：継続 100件、終了21件、

実施計画（研究計画書、同意説明文書、ホームページ掲載文書、研究責任者交代、研究分担者追加・削除、研究期間延長、対象期間延長、目標症例数）の変更の審査：191件

3. 監査の実施

監査対象の選出：介入研究または侵襲ありの研究を全研究から無作為に抽出した。2年以内に行った部署とは違う部署を選出することを原則としている。

上期：呼吸器内科（2022年7月28日）：A問題なし

下期：集中治療科（2023年12月18日）：B改善勧告（許容範囲内であるが改善を要する）

4. 重篤な有害事象に関する報告19件、安全性情報に関する報告1件について研究継続承認の報告

- 臨床研究に関する教育活動を行った。

臨床研究の倫理に関する研修（共催：倫理委員会）

研修の対象者：研究に係る職員

Safety Plus：1079名（2023年1月～2023年12月の合計）

次年に向けて：

飯塚病院におけるすべての臨床研究において、倫理指針に沿って適切に行われるよう、実施状況、実施計画書の変更、同意説明文書・同意書の変更、有害事象及び不具合の発生事例、関係書類の保管状況などについて審査を行う。また定期的な監査を実施する。

- 通常審査：年2回定期に委員会を開催し審査及び臨床研究に関する事項についての検討を行う。
また、期間に行った迅速審査及び監査の報告を受ける。
重要な案件が発生した場合には臨時で委員会を開催する。
- 迅速審査：研究計画の変更等の審査を随時行う。また実施状況について年に1回審査を行う。
- 監査：年2回、臨床研究の監査を実施する。
- 教育活動：研究者に、年1回の倫理研修の受講が徹底されるよう啓蒙活動を行う。

26. 治験審査委員会

委員長 原俊彦

副委員長 靄野広介

目 的：

審査依頼のあった治験及び製造販売後臨床試験に関し、主に患者利益を保護する観点から倫理的・科学的に妥当な計画・方法であるかを審査し、実施の可否を判断する。又、進行中の治験及び製造販売後臨床試験において、重篤な有害事象、実施計画の変更、内外から報告される有害事象についての安全性、年間の実施状況、逸脱事項等について審査し、その継続の可否を判断、承認を行う。

活動内容：

2023年は、治験の新規審査を9件行った。2022年の10件より-1件の減であった。又、当院で発生した重篤な有害事象について23件(前年比+11)、実施計画の変更について118件(前年比-2)(この内、迅速審査30件)、安全性に関する報告について192件(前年比-70)、継続(実施状況)について21件(前年比+4)の審査を行った。審査の電子化により、効率的に運営している。

その他、1治験を外部審査委員会にて審査を行っているが、治験実施に問題はない。

次年に向けて：

1. 法令(GCP)の規制下にある委員会であるため、今後も違反のないように運営にあたる。
2. 患者の権利保護の視点を徹底し、倫理的・科学的に妥当な審査が行われるよう審査の質のより一層の向上を目指す。
3. 2.の項目のために電子資料等をより分かり易いものとしていく。

27. 脳死判定委員会

委員長 高瀬敬一郎

副委員長 岡松由記

目 的：

臓器の移植に関する法律に基づき、臓器提供施設である当院において発生した「脳死とされうる状態」に該当する患者さんに対して適正な脳死判定を行うこと。ひいては、円滑な臓器提供に資すること。

活 動 内 容：

院内臓器提供コーディネーターの主催により行われている臓器提供勉強会では、医師、コーディネーター、臨床検査技師、看護師らと密接に連携をとり、積極的に参加するとともに必要に応じて講演や情報提供を行っている。この勉強会にて脳死下臓器提供机上シミュレーションを行っている。また年に1回脳死判定委員会を開催し、情報の共有に務めている。

次年に向けて：

今後も勉強会、脳死下臓器提供机上シミュレーションや、脳死患者対応セミナーなどを通じて全員が情報を常に新しく保つよう努力し、実際に「脳死とされうる状態」に該当する患者さんが発生したときに滞りなく作業が進むように環境を整えていくよう努力する。

28. 小児虐待防止委員会

委員長 田中祥一郎

背景：

当委員会は2006年2月に発足し、同年11月に常設委員会として認可された。2013年6月から児童虐待防止医療ネットワーク事業の筑豊唯一の拠点病院として、児童虐待専門コーディネーターを配置し、児童虐待対応に関する相談への助言等、児童虐待対応力向上のための教育研修を行っている。

目的：

- 院内や地域関係機関と連携し、児童虐待防止の対応強化を行う。
- 支援が必要な児童や妊婦に早期対応し、部門横断的に評価や適切な支援を行う。
- 児童虐待防止拠点病院として、虐待対応に関する相談への助言、地域の体制整備を行う。

活動報告：

- ICT活用による業務の効率化・省力化を通じて、連携・支援のさらなる充実を目指している。
- 救命救急センター内の診療において、児童虐待トリアージを継続している。トリアージされた症例はデータベース管理システムへ自動登録され、効果的な情報共有を行っている。
- 要保護児童対策地域協議会のデジタル化推進の連携に関する基本協定を締結した（飯塚市、福岡県、飯塚病院、株式会社 麻生情報システム、NECソリューションイノベータ株式会社）。
- 筑豊地区要保護児童対策地域協議会自治体間ネットワークにおいて、筑豊地区15自治体、田川市立病院、田川児童相談所と共に、地域の課題解決へ向けた取り組みを行っている。
- 福岡県児童虐待事件カンファレンス事業計画に基づき、虐待疑い事案合同カンファレンスを開催した。
- 児童相談所の依頼を受けて、対応（診察・診断書作成など）したケースが9件あった。
- 虐待報告受理件数は、のべ615件（2023年1月～12月）。詳細は下記の通り。

◆内訳（重複有り）

ネグレクト	382
身体的虐待	77
心理的虐待	115
性的虐待（性被害）	4
要支援（特定妊婦を含む）	111
除外・その他（死亡など）	47
計	736

◆報告した連携機関（重複あり）

市区町村	452
児童相談所	35
警察	10
学校	7
かかりつけ医	2
保育園・幼稚園	1

次年に向けて：

- 多職種協働・地域連携を推進し、相談しやすい体制づくりに努める。
- 地域の支援機関と連携を深め、児童虐待防止に向けた官民連携を推進する。
- 児童虐待防止に関する教育研修を企画し、地域全体の虐待防止対応能力向上を図る。
- AIやオンライン技術の導入を推進し、対応力向上や業務の効率化を目指す。

29. 患者行動制限最小化委員会

委員長 猪狩圭介

目的：

精神科病棟入院中の患者で、行動制限を受けている者に対して審議し、患者の人権擁護を目的とする。

活動内容：

■定期的な委員会の開催

毎月第1金曜日、精神保健指定医であるリエゾン精神科部長を委員長として開催。下記事項について審議し、適正かつ最小限の行動制限に改善を図る。

1. 妥当性について倫理的、法的側面と臨床的現実性とを照合しつつ検討
2. 制限範囲の縮小
3. 早期解除
4. 処遇改善
5. 年2回の研修を計画・開催
6. 委員長は審議された事項を、院長に答申

行動制限下にある患者の直近一週間における精神状態、自傷・他害のおそれ、身体合併症、アドヒアランス、認知機能について、当院独自の状態評価スケールとLOCUSを用いて多職種で評価共有している。この評価指標を用いることにより、多面的かつ客観的にリスク評価を行い、行動制限の妥当性を検討している。

■2023年の新規活動内容：

身体拘束中の肺塞栓症予防のための勉強会を実施した。精神保健福祉法の改正に伴い、スタッフによる患者虐待防止のための研修を実施し、相談体制を整備している。

次年に向けて：

精神科病棟での行動制限は精神保健福祉法に基づき、精神障害者に対して精神保健指定医の判断のもとで行われる。行動制限は、患者の人権、意思を尊重しながらも、患者の医療、安全および保護の必要性を考慮の上で慎重に行わなければいけない。今後も、過剰な行動制限が実施されていないかという点を常に評価、検討を続けながら、適切で必要最小限の行動制限を目指す。

30. 個人情報保護委員会

委員長 福村文雄

目 的：

飯塚病院における、診療等に係る個人情報の取得、保有、管理等の厳正な取扱いを図ることを目的とする。

活 動 内 容：

原則的に、月1回開催。下記事項について審議し規程に基づき対応を行う。

1. 個人情報保護法改定に伴う個人情報保護規程の改定
2. 個人情報保護に関する審議依頼への対応
3. 不具合発生に対する再発防止対策
4. 従業者の個人情報取扱いに関する教育

【主な審議】

1)審議

- ・仮名加工情報の限定利用について
- ・プライバシーゴミの廃棄について
- ・都築電気とのクラウドを利用したデータの受け渡しについて
- ・研究協力「患者体験調査」における個人情報の提出について
- ・オンライン資格確認導入に当たり、個人情報利用目的の項目追加について
- ・個人情報利用目的変更に伴う掲示物の変更について

【個人情報に関する即時報告】

- ・診療情報提供書、生命保険診断書の書類送付および、渡し間違い。

【臨時相談】

- ・診療中の動画撮影希望患者の対応および、撮影者へのお断りの対応。

次年に向けて：

1. 関連部署との連携を図り、院内における個人情報の取得、保有、管理を適切に行う。
2. 従業員の個人情報取扱いに関する教育内容を計画・実施する。

31. 呼吸管理委員会

委員長 飛野和則

副委員長 野見山由美子

目 的：

当委員会の目的は、「人工呼吸を使用する患者さんの安全確保と治療の質の向上」である。具体的にはRST（Respiratory Support Team）活動が円滑に行われるよう院内の環境整備を行うほか、RST活動が適切に行われているか、また、人工呼吸管理や合併症の発生率、合併症発生に伴う入院期間延長などについて調査する。その他、人工呼吸器治療の質向上と標準化を目指し、医師や看護師へ教育を行っている。加えて、コスト管理についても見直し、医療事故をなくすために安全な方法や器具を取り入れるよう努めている。

活 動 内 容：

1. RSTラウンド

2006年より、“気軽に相談できる体制作り”を目的として、RST看護師と臨床工学技士が月1回のRST回診を行ってきた。2010年からは、医師、理学療法士を加えた多職種のメンバーで、週1回のRST回診を行った。電子カルテ化に伴い、回診記録の確実性・簡素化を徹底し、治療計画書作成を回診時に行えるよう調整している。

2. 院内向け研修会

2023年実施実績なし

3. 院内看護師研修

6月より新人看護師を対象にビギナーズコース、10月より新人及び中途採用看護師を対象にAコースの研修を行った。

次 年 に 向 け て：

在宅人工呼吸器を携帯した患者さんの緊急入院やレスパイト目的の入院も増加が予想され、院内だけの呼吸管理には限界がある。2024年も引き続き、地域ネットワーク作りを着実に進めて行きたい。また、今後も呼吸管理に関わる新しい機器が発売される見込みであるため、知識のアップデートを継続して行う。

32. 褥瘡管理委員会

委員長 井手豪俊
副委員長 井野 康
加治屋晶子

目 的：

1. 褥瘡発生および医療関連圧迫機器創傷発生の要因分析を追求し、より効果的なケアと褥瘡予防対策に結びつけ、発生率の低減と重症事例を出さない取り組みを行う。
2. 褥瘡対策チームと連携し、褥瘡管理に関連した院内システムの再検討を行う。
3. 褥瘡管理に関する質向上のために、褥瘡研修会に参加できないスタッフも含め、総合的に教育計画を策定していく。

活 動 内 容：

1. 褥瘡管理委員会・各病棟の褥瘡リンクメンバーによるミーティングの開催
 - 褥瘡管理委員会開催日
1月26日、3月23日、4月27日、5月25日、6月22日、9月28日、10月26日、11月30日、12月28日
 - 褥瘡リンクミーティング開催日
2月15日、3月15日、4月19日、5月17日、6月21日、7月19日、9月20日、10月18日、11月18日
 - 院内で起きた事例についてディスカッションを行い、予防と対策の周知をした。
 - 褥瘡管理委員会の中で、多職種を交えて事例検討に取り組んだ。
2. 院内外の関係者に対する研修会の開催
 - 2022年度はコロナの影響で褥瘡に関する教育が思うように実施できなかった。今年度は研修会の実施という形で研修を開催した。
研修目的：「オムツ交換に関する正しい知識・技術を習得することで、褥瘡管理の質の向上につなげる」
講師：大王製紙(株) 開催日：6月21日
研修会后、大王製紙(株)とWOCNから褥瘡リンクメンバーに対して「正しいおむつの装着方法」についてのレクチャーを実施した。実施日：7月19日
その後、リンクメンバーが各部署のスタッフに対して同内容のレクチャーを実施し、病棟看護師全員の受講を確認した。
3. 褥瘡回診の開催
 - 褥瘡管理依頼書が提出された事例に対し、医師・WOCN（必要に応じて管理栄養士・薬剤師・理学療法士が介入）で褥瘡回診を行った。
4. 褥瘡予防具の管理
 - 褥瘡予防具（ウェルピー）のカウントを4回／年（6・9・12・3月）実施
 - 休日・夜間貸し出し用のエアマットの使用基準及び手順の見直しを行った。
5. 院内褥瘡患者（院外発生・院内発生）に関する動態把握（統計）
 - 毎月、院内褥瘡発生分析・医療関連機器圧迫創傷発生分析を行い、当月の重点ポイントを全病棟管理者と褥瘡リンクメンバーへ配信した。
 - WOCN・病棟褥瘡委員やコメディカルなど多職種で協働しながら予防的ケアを実施し、褥瘡発生率および重症化を更に低減させ、治癒率のアップに努めた。
 - 2011年2月以降、目標とする院内褥瘡発生率1%未満を継続中である。

次年に向けて：

1. 褥瘡発生および医療関連圧迫機器創傷発生の要因分析を追求し、より効果的なケアと褥瘡予防対策に結びつけ、発生率の低減と重症事例を出さないための活動を継続する。
2. 褥瘡ケアの質向上のため、感染対策を意識しながら教育計画を褥瘡リンクメンバーとともに策定していく。

33. 栄養管理委員会

委員長 松永 論

目 的：

1. 栄養評価・栄養管理の側面から治療をサポートする。
2. 栄養に関する薬剤・食品の選択、デバイスの新規採用や更新に関して、現状を把握するとともに問題点があれば改善に努める。
3. 病院常設委員会として、飯塚病院における栄養管理に関する事項について検討、適正化を図り、院内を指導するほか、下部組織であるNST（栄養サポートチーム）活動が円滑に行えるよう環境整備を行う。適切な活動が行えるようバックアップすることで、最終的には褥瘡・重症感染症・院内感染などのリスクを減少させ、在院日数の短縮、薬剤・材料費用の適正化、入院経済効率改善を達成する。

活動内容：

1. 多様な疾患・病態に対応できるよう、輸液製剤や栄養剤、関連機材の新たな選択や絞込みを行った。
2. これまでの「NST回診」を充実させ、週1回のNSTカンファレンスと回診を行い、個々の症例に対して個別に作成した栄養治療実施計画書に基づいた治療を実施し、栄養治療実施報告書を作成した。
3. 栄養管理委員会を定期的に開催し、上記活動内容の報告・検討を行った。
4. 栄養スクリーニングシステムの構築を行い、現在西2階病棟にてプレ運用を開始しNST介入の強化をはかっている。
5. 定期的に全職員へ「NST通信」の配信を行った。

次年に向けて：

1. 院内スタッフのNST教育に努め、栄養管理の質向上をはかる。
2. NSTリンクナースの役割を明確にし、病棟スタッフへの情報発信や教育方法を確立する。
3. 地域NSTの更なる連携を目指して、筑豊臨床栄養研究会の開催・内容の見直しを行う。
4. 学会発表を奨励・推進し、外部施設からの講演依頼や投稿依頼を積極的に引き受ける。
5. 栄養スクリーニングシステムの運用を、看護部等の関係する部署と協力して行う。

34. 輸血療法委員会

委員長 喜安純一

副委員長 濱井優輔

目的：

適正かつ安全な輸血療法の推進を目的とします。

活動内容：

【年6回の委員会の開催】

- 血液製剤及びアルブミン製剤の科別使用状況の報告
1ヶ月毎の血液製剤及びアルブミン製剤の使用量を診療科別に報告しました。また、使用量が特に多かった患者は病名や経過についても報告しました。
- 輸血管理料について
血液製剤適正使用の要件を満たした施設に輸血管理料の算定が認められ、当院は輸血管理料Ⅰの認定施設です。FFP/RBCが0.54未満かつALB/RBCが2.00未満であれば輸血適正使用加算が取得できます。2023年12月時点ではFFP/RBCが0.50、ALB/RBCが1.25と管理基準内であり、輸血製剤が適正に使用されていることが確認されました。
- 血漿分画製剤の使用状況の報告
1ヶ月毎の血漿分画製剤の使用量を製剤毎に報告しました。
- 血液製剤、血漿分画製剤の査定状況の報告
血液製剤、血漿分画製剤の査定理由を患者毎に報告しました。
- 輸血関連即時報告
輸血に関連する即時報告の内容・原因・対策について報告しました。
- 製剤の破損報告
2023年の破損金額は1,328,974円でした。これは2022年より約8万円減少しており、必要に応じた啓発活動が減少につながったと思われます。しかしながら予測困難な患者の状態変化や製剤の取扱い不備による破損が認められました。
- その他
 - 赤血球製剤の有効期限延長に関して
2023年3月15日より赤血球製剤の有効期限が「採血後21日間」から「採血後28日間」に変更となりました。これにより有効期限切れによる製剤廃棄の減少が期待されます。さらに、より多くの血液製剤を院内在庫として管理出来るようになり、緊急輸血など大量輸血にも迅速に対応出来るようになりました。

次年に向けて：

より安全で迅速な輸血療法の実施を目指して活動します。今後も血液製剤の使用・破損状況の把握や輸血に関する諸問題の討議・解決策を実行し適正かつ安全な輸血療法の推進に努めます。

35. 診療報酬適正管理委員会

委員長 清田雅智
副委員長 吉田孝一
梶原優子

目 的：

診療報酬請求業務を総括し、適正な請求を目指すことにより病院経営に貢献する。

活 動 内 容：

- * 診療報酬適正管理委員会
月に1回開催し、以下の事項について協議を施行
 - ① 減点金額の集計及び報告
 - ② 減点内容及びその傾向や対応策の検討
 - ③ 各減点内容に関しての再審査請求の決定、申請書類の検討
 - ④ 高額な請求に関して主治医を交えて症状詳記やデータ等の内容検討
 - ⑤ オレンジレポートの指定、検証
 - ⑥ ブルーレポートの指定、検証報告（解決済みの案件）
- * 部長会議での報告（月1回）
- * 部長会でのワンポイントアドバイス（月1回）
- * 医師への保険診療に対する指導・提案（随時）
- * クラークへの査定報告と査定対応策等の指導（月1回）
- * 診療報酬に関する研修の企画や実施

【各レポートの対応内容】

- オレンジレポート
（過剰な医療行為や、解釈の誤解等に基づく査定に対する、対象者個人への案件）
回収件数：9件
対象項目の内訳（処置：0件、注射：0件、投薬：6件、検査：0件、在宅1件、
画像：1件、手術：1件）
具体例：病名不備、医学的に不適當、処方月の検査（採血）の未実施
- ブルーレポート
（運用面に関係している査定問題で、システム的な解決を必要とする案件）
解決件数：0件

次年に向けて：

- ・外来検査での過剰査定の対策を引き続き進める予定。2023年10月～11月に3診療科に対して聞き取り調査を行い、12月よりFT4・TSH対策としてオーダーの見直しを各診療科に周知し、再審査キャンペーン等の対策を依頼した。2024年、審査結果等で効果の確認を行い、他項目に拡充予定。
- ・高額医薬品の注射薬の過剰請求に対する減量査定の対策立案。当院のオーダーシステム上、会計上の1日の薬剤量が実際に使用した1日の薬剤量と異なって算定されるため、投与制限のある薬剤の場合は、手修正が必要。システム的なサポートを検討。
- ・手術関連項目で、症状詳記不足による査定の対策立案。算定に至った経緯が入力者とレセプト担当者で情報共有できておらず、症状詳記添付不足により査定。症状詳記依頼のタイピングと依頼システムの見直しを検討。

36. 臨床検査適正化委員会

委員長 大石善丈
副委員長 犬丸絵美

目 的：

検体管理加算（IV）に関する施設基準の一部を満たすために設立された委員会である。院内における臨床検査を適正に運営し、監視する。具体的には各診療科が求める臨床検査を整備し、検査内容が正確かつ迅速、確実に報告される環境を整える。また他部門からの要求を協議し、ムリ・ムダ・ムラを生じさせず、検査の妥当性を確認する。

活動内容：

委員会は毎月1回開催した。飯塚病院の各委員会、各診療科の医師から提出された要望や中央検査部内から提出された要望（依頼方法の変更、新規導入、検査項目セット化、検査法の変更等）について適正であるか審議し、適切に変更・導入をおこなった。以下、主な活動内容を報告する。

- 1月：タクロリムス血中濃度測定の内導入を承認。
- 2月：提出済み検体に検査項目を追加する機能について、追加可能な項目のみ依頼可能な仕様とすることを承認。
- 3月：Yersinia 属菌の検査精度向上の観点から、エルシニア選択培地の導入を承認。
- 4月：医師・現場の負担軽減の観点から、胸水検査の提出方法の変更を承認。
- 5月：喀痰培養におけるMRSA一律検出の中止を承認。
- 6月：検査結果表示の修正案について。過去幾度となく議論した結果、現状の形となっている。却下。
HCV抗原定量の内導入に関して、検討結果報告と院内運用案を承認。
- 7月：心筋生検結果の結果表示方法の変更を承認。
- 8月：製造中止に伴う血算測定機器の更新を承認。
- 9月：製造中止に伴う微量アルブミン測定試薬の変更を承認。
- 10月：外部委託検査項目（全6項目）の新規オーダー化を承認。
- 11月：抗菌薬使用の適正化、コスト・負担軽減の観点から、血液培養日数の変更を承認。
- 12月：販売中止に伴うHTLV- I / II抗体定性検査キットの変更を承認。

（活動内容から一部抜粋）

次年に向けて：

引き続き臨床検査の適正化を図ると共に、不適切な依頼方法や無駄な検査を洗い出し、業務改善に繋げる。また委員の参加率を上げ、多くの意見をいただけるよう進行を工夫しながら臨床側のニーズも喚起し、より充実した臨床検査を目標に運営していきたい。

37. がん診療連携委員会

委員長 本村健太

目的：

「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針（厚生労働省）」に基づき、地域がん診療連携拠点病院としての体制整備の推進および飯塚病院における「がん診療」に関わる環境整備を推進する。

活動内容：

【活動①】福岡県がん診療連携協議会および専門部会への参加

会議名	開催回数	2023年開催月
がん診療連携協議会	2回	2月、10月
緩和ケア専門部会	2回	1月、8月
研修・教育専門部会	2回	1月、8月
地域連携・情報専門部会	2回	1月、7月
がん登録専門部会	1回	7月

※新型コロナウイルス感染症の関係で『Web会議』での開催（対面での開催もあり）

【活動②】委員会の開催：4回（2023年2月・5月・8月・10月）

○主な検討・確認事項

- ・福岡県がん診療連携協議会および各専門部会の報告
- ・地域がん診療連携拠点病院における要件の確認・情報共有
- ・『ふれあい市民講座』にて、がんに関する講座を定期で設定
(がん診療連携拠点病院要件に基づく)
- ・第3回 患者体験調査の協力

38. がん集学治療委員会

委員長 古賀 聡
副委員長 白土基明

目 的：

- (1) 地域がん診療連携拠点病院としての体制整備の推進
- (2) 飯塚病院のがん集学治療の構築
- (3) 飯塚病院のがん診療の向上のための方策を提言

活 動 内 容：

① 化学療法のレジメン審査

2023年 30件

② 2023年化学療法実績

	入院化学療法件数 (ハイケア 3F 入院件数)	外来化学療法件数	
		総数	加算症例のみ
2023 年	2,721	9,113	7,844
2022 年	2,659	8,421	7,091

③ 化学療法に関する診療の問題点の検討や改善策の実施

- ・ de novo B 型肝炎発生対策のための HBV マーカー実施状況のモニター
- ・ プロトコルオーダーリングシステムの見直し
- ・ 免疫関連有害事象 (irAE) 対策チーム WG による問診票の作成および外来での試行実施
- ・ がんチーム医療推進勉強会開催：11回 総参加者 443名

次年に向けて：

- ・ HBV マーカー実施状況のモニター継続
- ・ プロトコルオーダーリングシステムの再構築
- ・ 外来化学療法室の円滑な運用方法の検討・提言
- ・ 免疫関連有害事象 (irAE) 対策チームの運用開始

39. 緩和ケア委員会

委員長 柏木秀行
副委員長 中山隆弘
宮崎万友子

目 的：

1. 飯塚病院の緩和ケアの向上のための方策につき提言する。
2. 地域がん診療連携拠点病院としての緩和ケア体制の整備を推進する。
3. 緩和ケアセンター体制の促進。

活 動 内 容：

- ・委員会開催：4回（3月・6月・9月・12月 第1火曜日）※9月・12月はメール会議
- ・メンバーが、各々の部門での活動目標を明確にし、取り組みを実施した。
- ・緩和ケアチーム研修会 2023年1月26日（木）開催
- ・医師に対する「緩和ケア研修会」開催
 - ◆第16回 2023年9月2日（土）開催
 - ・受講生 28名（院内24名・院外4名）
 - ・講師 7名（外部講師1名・がん患者からの講演1名を含む）
 - ・ファシリテーター 10名
 - ・事務局 3名

その他

- メンバー交代
 - ・2023年3月より
 - 【委員】猪狩 圭介（リエゾン精神科部長）

次年に向けて：

- 2024年も引き続き、下記について活動する予定である。
1. 緩和ケアセンター設立準備
 2. 緩和ケア研修会の実施（2024年9月14日（土）開催予定）
 3. がん診療連携拠点病院として緩和ケア体制の整備の促進

〔VII〕院 内 報 告

1. 飯塚病院住民医療協議会活動報告

事務局 広報課

飯塚病院住民医療協議会（以下、協議会）は、飯塚病院が地域および地域住民の健康・医療・福祉の要請に応え、地域の基幹病院としての役割を果たすため、地域の方々と共に「病院」の提供するサービス、また、その役割などについて意見の交換を行うことを目的として、年2回の開催を行なっています。2023年は7月に「第35回協議会」、12月に「第36回協議会」を開催しました。

● 2023年7月12日「第35回協議会」

【講演】飯塚病院 歯科口腔外科 石井広太郎 先生

テーマ：顎関節症治療について

【出席者】外部8名（委員7名、オブザーバー1名）、院内11名

● 2023年12月13日「第36回協議会」

【講演】飯塚病院 呼吸器外科 安田 先生

テーマ：肺がんの治療について

【出席者】外部6名（委員名、オブザーバー1名）、院内8名

【2023年 協議会委員】（五十音順、敬称略）

氏名	団体等
浅野 洋	飯塚市自治会連合会
梶嶋陽子	筑豊助産師ネット
香月法彦	飯塚商工会議所
金子加代	ぼれぼれの会
小嶋秀幹	福岡県立大学
田熊清治	飯塚地区消防本部
竹下茂木	飯塚片島まちづくり協議会
武田祐子	学校法人 嶋田学園 愛宕幼稚園
田中憲司	飯塚市老人クラブ連合会
永井潤子	飯塚商工会議所 女性会
中村 寛	筑豊地域医療プラチナサポーター

【オブザーバー】（敬称略）

浜田直文（第35回にご出席）	西日本新聞社 筑豊総局
長田周三（第36回にご出席）	西日本新聞社 筑豊総局

2. 飯塚病院地域医療支援病院運営委員会活動報告

事務局 地域連携センター

目 的：飯塚病院が地域の医療機関の要請に適切に対応し、地域全体の医療機能の向上と効率に必要な支援を行っているかを審議する。

活動内容：今年は、4回の地域医療支援病院運営委員会を計画していた。しかし、第59回（2月）は新型コロナウイルス感染拡大の時期と重なったため、書面会議として開催した。第62回（11月）では、新型コロナウイルス感染拡大のため、2020年度以降は開催を見合わせていた第17回飯塚病院地域医療支援病院報告会を同日に開催した。108名の参加があり、久しぶりの対面での交流で、登録医師と飯塚病院スタッフが交流し、大いに盛り上がりを見せた。運営委員会では、とびうめネットの活用や飯塚病院への患者紹介の方法をまとめた『ご紹介のしおり』について意見交換が行われた。

委員会での話題提供（トピックス）

	開催月	発表者	タイトル
第59回 (書面開催)	2月		飯塚病院定例実績報告及び飯塚病院のうごき
第60回	5月	①山下洋市 外科統括部長 ②山口章 飯塚歯科医師会 会長	①飯塚病院 外科 ～現状とこれから～ ②口腔管理推進室の紹介
第61回	8月	的野多加志 感染症科部長	5類移行後のコロナウイルス感染症について
第62回 (第17回 報告会)	11月	座長：本村健太 飯塚病院 副院長 ①山下洋市 外科統括部長 ②西淳一郎 循環器内科部長	①飯塚病院 外科 ～現状とこれから～ ②進化しつづける循環器診療の今

飯塚病院地域医療支援病院運営委員会委員（24名）

（2023年12月時点）

委員長	増本陽秀	飯塚病院 院長
副委員長	西園久徳	飯塚医師会 会長
	岩佐紀輝	飯塚病院 特任副院長兼医療連携本部長
保健福祉行政関係者	小川敬一	飯塚市 市民協働部長
	伊勢真美子	嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所
	堀田 晶	嘉麻市 健康課長
	上尾雄一	飯塚地区消防本部 消防長
医療関係者	岩見元照	飯塚医師会 副会長
	田中 晃	飯塚医師会 専務理事
	肘井孝之	飯塚医師会 専務理事
	兒嶋良太	飯塚医師会 地域医療・地域包括ケア副担当理事
	山口章	飯塚歯科医師会 会長
	藤浦大介	飯塚薬剤師会 会長
学識経験者	藤尾重一郎	近畿大学産業理工学部情報学科 教授
	伊藤光彦	九州工業大学大学院情報工学研究院 教授
市民代表	井上節子	飯塚市婦人会 会長
	嶋田和彦	飯塚ロータリークラブ 会長
飯塚病院職員	井村 洋	飯塚病院 特任副院長
	名取良弘	飯塚病院 特任副院長
	福村文雄	飯塚病院 特任副院長
	中島雄一	飯塚病院 特任副院長
	本村健太	飯塚病院 副院長
	井本俊之	飯塚病院 副院長
	森山由香	飯塚病院 副院長

3. VHJ (Voluntary Hospitals of Japan) 活動報告

企画管理課 森 智之

VHJ機構は、医療の質の向上を図るため、自主的な研究活動を全国的に展開するとともに、データベースの構築・情報の提供、啓発活動を通じて保健・医療・福祉向上に寄与することを目的とする特定非営利活動法人（NPO法人）であり、2024年1月現在、38施設が加盟しています。

また、VHJ研究会は、医療の質や病院経営の質の向上を目指して研究活動を展開するとともに、会員相互の研鑽、親睦を図ることを目的とした組織で、事務局はVHJ機構に委託されています。

■ VHJ機構の事業

- DPCデータ活用事業
- 経営情報活用事業
- 臨床研修推進事業（指導医養成講座、研修・指導医交流、VHJ国内留学）
- その他（意見交換会、セミナー開催等）

今年は社会医療法人友愛会 友愛医療センター主催のもとVHJ職員交流研修会が沖縄県にて開催され、当院からも複数名のスタッフが参加し、各会員病院からの参加者と交流を深めています。

■ 第33回 VHJ研究会職員交流研修会

- ・日時：2023年11月17日（金）～18日（土）
- ・幹事病院：社会医療法人友愛会 友愛医療センター（沖縄県）
- ・会場：琉球ホテル&リゾートビーチ
- ・内容：1) 講演会
社会医療法人友愛会 概要紹介
基調講演 第1部「沖縄科学技術大学院大学（OIST）概要説明」
基調講演 第2部「記憶表象の動的性質」
- 2) VHJ設立30周年記念シンポジウム
「若手経営者が語る病院経営、VHJの未来」
- 3) 分科会（各座長：社会医療法人友愛会 友愛医療センター）
分科会①：BCP ～多様化するリスクへの備え～
参加者：総務課（田原和幸、千々岩 博）、企画管理課（岡田裕樹）
分科会②：看護管理 ～看護職の育成と定着～
参加者：看護部（森山由香、和田麻美）
分科会③：働き方改革 ～2024年4月働き方改革施行後を見据えて～
参加者：院長（増本陽秀）、人事課（松岡英道）、教育推進本部（日高幸彦）
分科会④：地域連携 ～医療DX～
参加者：地域連携センター（吉武順一、三樹初菜）、
企画管理課（森 智之、中濱有美）
分科会⑤：医療安全 ～安全文化構築の取り組み～
参加者：医療安全推進室（新鹿深夏、荒巻美鈴）

4. 改善活動報告

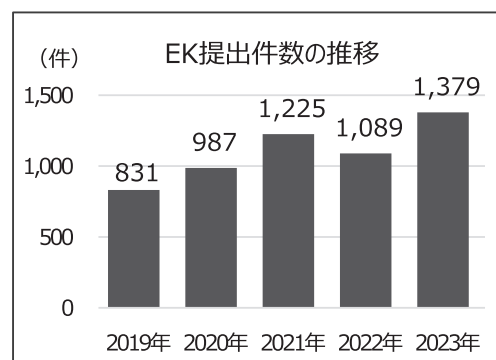
改善推進本部

1) Everyday Kaizen (EK) 活動

EK活動は、「身の回りの問題に気づき、改善できるようになる」ことを目的に、原則一人で一ヶ月以内に行う改善活動です。

2023年の報告件数は過去最高の1,379件でした。

7月には“効果の見える化”を目的に、活動報告のフォーマットに数値を入力する欄を新設しました。この欄の活用促進を盛り込んだ「EK活動のレベルアップ」をテーマに実施したEK活動推進キャンペーン（8月1日～10月31日）では、昨年のキャンペーン報告661件を上回る758件のEK活動が提出されました。



2) TQM (QCサークル) 活動

TQM活動では2023年“「日本一のまごころ病院」にふさわしい働き方改革の実現を”をメインテーマに、TQM活動推進委員会推奨テーマとして『ムダの削減』を掲げ、2月～10月まで改善活動に取り組みました。

TQM活動発表大会は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、会場内はマスク着用とし、のがみプレジデントホテルにて対面形式で開催しました。以下の通り報告します。

(1) サークル発表数：17（口頭発表16、フォローアップ報告1）

(2) 表彰サークル（部署・サークル名）

	部署名	サークル名	テーマ	受賞状況
第1会場	14B(内視鏡センター)	待ちちょ時間をなくしマッスル	患者の検査待ち時間を減らしたい	最優秀賞 ・ お客様賞
	NICU・GCU	Nっ子ふぁみりー	入院オリエンテーションの内容と方法の見直し	優秀賞
	地域包括ケア推進本部	介護ほけんの窓口	職員が仕事と家族介護の両立をできるように支援する	審査員特別賞
第2会場	薬剤部	業務の鉄人	薬剤部業務の効率化を図り、患者待ち時間を短縮する	最優秀賞 ・ お客様賞
	リハビリテーション部	リハ時間を生成せよ!! リハコンドリア!!	必要度の高い患者さんのリハビリ介入時間を確保したい	優秀賞
	中央第四病棟	カテ室の知らない世界	心臓カテーテル検査オリエンテーションの充実	審査員特別賞

(3) 参加者数：410名（会場358名、Web視聴52名）

※TQM活動発表大会の詳細は、要旨集に記載しています。

3) Kaizen ワークショップ (KW) 活動

KW活動は課題達成・リーダー育成を目的として、通常業務を離れて2日間集中的に改善を行う活動です。

部署	KW 日程	テーマ	内容
H2 救急	2月20日 21日	救急病棟 + COVID-19 病棟で可能なハイブリッド物品管理	<ul style="list-style-type: none"> ◆患者層に応じた品目・量の決定。 ◆動線を意識し、探すことなくすぐに使用できる配置へ変更。 ◆在庫確認の手間削減のため、「かんぱん方式」の発注を採用。
画像診療科	7月27日 28日	アンギオ室の物品配置 ～誰でもアンギオ準備ができる、 わかりやすい物品配置～	<ul style="list-style-type: none"> ◆準備の最短ルートを意識して物品を配置。 ◆検査中のスタッフがスムーズに移動できるスペースを確保。
東第6病棟	9月12日 13日	医療処置に活用する資材物品の5S	<ul style="list-style-type: none"> ◆衛生的かつ短い動線で処置の準備ができる環境整備。 ◆発注・補充のルール作り。
歯科衛生室	11月9日 10日	ムダをなくして、即検査！	<ul style="list-style-type: none"> ◆問診票記載・確認にかかる時間短縮のための問診票の改訂。 ◆新患患者のスムーズな検査出しを目的としたチェックリストの作成。

4) 改善ベルト制度

改善ベルト制度は、当院の改善活動をリードする職員を増やし、活動をより活発にすること、そして継続的に改善活動の指導者が育成される仕組みを作ることを目的として、2011年より開始した制度です。

2023年は、5名の方がKAIZENシルバーベルト、3名の方がKAIZEN ゴールドベルトを取得され、8月9日に表彰式を行いました。現在のKAIZENベルト保持者は、シルバーベルト95名、ゴールドベルト31名で、改善活動の指導者としての役割を担っていただいています。

5) 改善発表大会

5月25日 参加者数：91名

活動部署	テーマ	発表者
中央手術室	物品管理の時間短縮 ～シンプルに無駄をなくして楽しく物品管理～	福村周子
14B	内視鏡センターにおける薬剤管理の改善。目指すは廃棄0！！	村上幸子
H2 救急	救急病棟 + COVID-19 病棟で可能なハイブリッド物品管理	長田孝幸

5. ISO9001 品質マネジメントシステム (QMS) 活動報告

改善推進本部 高嶋麗子・米満香奈枝・兵道哲彦

2023年1月17日～19日に外部審査（サーベイランス審査）を受審し、引き続きISO9001の認証を得る事ができました。また、新任部長に対してISO活動の個別説明を実施し、内部監査では主任監査員としての役割を担っていただきました。

以下、本年の活動内容をご報告いたします。

【活動内容】

1月17日～19日	ISO 外部審査 受審【表1】
6月	新任部長へISO活動について個別説明実施【表2】
12月1日	全職員へISO外部審査（2024年分）実施について周知 ISO外部審査説明 動画配信

【表1：ISO9001外部審査報告】

審査期間	2023年1月17日～19日（サーベイランス審査）				
審査対象部署 / 委員会	19審査（35部署 / 9委員会）				
評価出来る事項	21件	観察事項	15件	不適合	0件

【表2：ISO活動個別説明】

実施日	2023年6月6日～6月27日	対象人数	新任部長6名
説明者	ISO管理責任者	説明内容	ISO概要及び活動内容（内部監査や外部審査等）等

6. イノベーション活動報告

イノベーション推進本部 井桁洋貴／増本陽秀

イノベーション推進本部（IPO）はPatient Firstの原点に立ち、「まごころ医療」の実践を目指して、医療の質向上のための医療イノベーションの推進を目的として活動している。2023年の活動およびその実績を以下に報告する。

（1）「飯塚メディコラボ」の推進

「飯塚メディコラボ」は、医療機器等の開発を目指すメーカー等の団体に医療現場の観察機会を提供し、現場ニーズに基づく開発につなげる企画として2016年10月に開始した。2023年は、前年まで新型コロナウイルス感染症の影響により延期となっていた企業1件の受入れを再開した。新規参加としては、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）に採択された九州大学の「橋渡し研究プログラム（異分野融合型研究開発推進支援事業）」補助事業から、医歯薬系以外の研究者を対象に、九州大学、九州工業大学、山口大学の3チームの受入を行った。

（2）医療デバイス開発取組みの推進

① メーカーとの共同開発等

院内スタッフから計67件のニーズおよびアイデア投稿を受け、詳細ヒアリング、アイデア検討、既存品調査、製品開発への展開検討を行った。また院内スタッフから抽出されたアイデアに基づき試作品作製を3件実施した。その他14案件につき企業との間で製品化を目指し意見交換を実施し、内7件の開発が進行中である。

② 院外での活動

8月31日に飯塚市にて開催された「医工連携フォーラム・ビジネスマッチング会in飯塚」にてニーズ発表を行った。9月20日には発表ニーズについて提案等をいただいた企業とのマッチング会に参加し意見交換を行った。また、11月1日～2日に福島県郡山市にて開催された「メディカルクリエイションふくしま」では、出展企業を訪問するブースツアーでコメンテーターを務め、12月19日に同市で行われた医療機器のコンセプト検討委員会でも委員を務めた。

（3）上記以外のイノベーション推進活動

① 院外組織との連携

イノベーション推進本部は、医療機器開発を通じた産業の活性化を目指す行政機関および他医療機関との連携強化にも取り組んでおり、飯塚市、九州工業大学、飯塚研究開発機構とともに飯塚医療イノベーション推進会議を組織し、毎月定例会議を開催し医工連携に関する意見交換を行っている。また、同会議には、九州経済産業局、福岡県、福岡県済生会飯塚嘉穂病院、飯塚市立病院、総合せき損センター、九大先端医療オープンイノベーションセンターもオブザーバー参加されており、行政機関や地域の医療機関とも協力しながら医工連携を推進している。

また、AMEDに採択された九州大学の「橋渡し研究プログラム（異分野融合型研究開発推進支援事業）」補助事業については、2022年より引き続き、事業分担者として協力を継続している。

② 応談と製品評価

企業や筑豊地域医療・福祉関連支援委員会などの公的機関の依頼を含め、2023年は36組織と意見交換を行った。また、企業等において企画、開発中の製品の評価を3件受託した。

③ 海外医療機関との交流

イノベーション推進本部では、イノベーション活動の推進と医療の質向上を目的として海外医療機関との交流を推進している。2023年は新型コロナウイルス感染症の影響が小さくなる中で、St Luke's Hospital（シンガポール）の来訪対応を行ったほか、イノベーション道場としてBrigham and Women's Hospital救急部/Home Hospital、ハーバード大学医学部 救急医学 准教授の大内 啓 先生をお招きし、「Hospital at Home and Digital Innovations in the U.S.」のタイトルでご講演いただいた。

7. 地域包括ケア推進本部活動報告

地域包括ケア推進本部 小栗和美

地域包括ケア推進本部は、主に医師会や行政が行う地域包括ケア推進(在宅医療・介護連携)に関する事業へ支援を行う「地域包括ケア事業業務」と、介護保険に関する相談・支援を行う「介護保険支援業務」を行っており、2023年の活動およびその実績を報告する。

【地域包括ケア事業業務】

(1) 医師会との連携・事業における協働推進

当本部より飯塚医師会地域包括ケア推進センターに職員を派遣。医師会内で行政からの委託を含む様々な地域包括ケア事業を実施し、飯塚医療圏の地域包括ケアシステムの構築に貢献した。行政委託の事業は以下などがある。

- ・飯塚市、嘉麻市、桂川町 在宅医療介護連携推進事業
- ・福岡県在宅医療機能強化整備事業 等

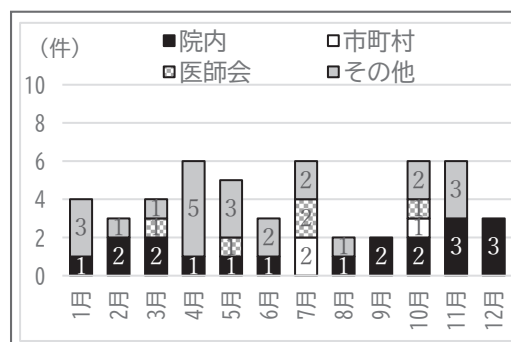
(2) 行政との連携・事業における協働推進

- ・飯塚市、嘉麻市、桂川町の介護保険地域支援事業への協力
- ・飯塚市社会福祉協議会地域権利擁護事業運営審議会
- ・地域ケア会議 等

(3) 院内外からの業務依頼

上記(1)、(2)の通り当本部は医師会や周辺地域、行政との結びつきが強い。そのため院内の各部署や外部機関から連携や調整の依頼を受けている。2023年には50件の依頼に対応した。依頼の内訳は右記の通りである。

(2022年：46件)



(4) 住民の医療への関心向上を目的とした普及啓発

地域住民の適切な医療機関受診による医療従事者の過度な負担軽減を目的とし、8月に医療機関の適正受診をテーマにした住民向け講座を開催。対面形式とWEB形式合わせて46人が参加した。アンケート結果では、対面受講者の100%が講座内容を「理解できた」、96%が「今後医療機関を受診する際に役立つと思う」と回答。地域住民の医療機関の適正受診に繋がるよう情報提供を行った。

【介護保険支援業務】

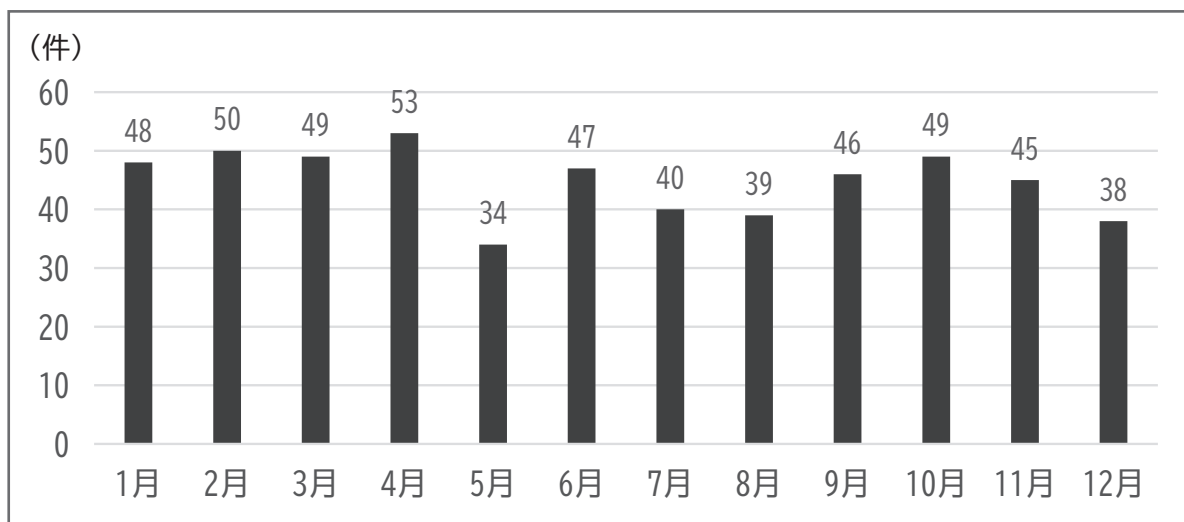
(1) 院内職員の家族の介護に関する現状調査、支援

職員が抱える家族介護の不安・負担軽減を目指し、家族介護に関する現状調査を40歳以上の職員を対象に実施。職員に、当本部は患者だけでなく職員の家族介護の相談でも利用可能だと周知し、2023年は職員からの家族介護の相談に34件対応した。

(2) 介護保険に関わる相談、申請支援

介護保険の申請作業や加入後に受けられるサービスの内容は複雑な構造となっており、患者やその家族への負担が大きい。そのため、介護保険に関する相談や申請の支援を実施している。2023年は538件の申請支援を行った。(2022年：471件)

〈2023年の申請支援件数〉

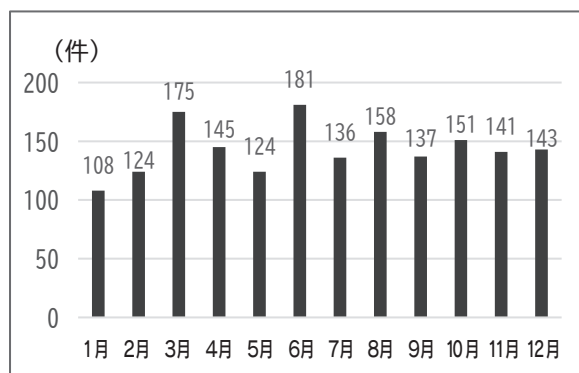


(3) ケアプラン作成

2023年は115回ケアプランを作成。(2022年：110回)

(4) 介護保険主治医意見書のチェックおよび管理

「主治医意見書」は介護保険申請や更新に必要な書類で、被保険者の主治医によって作成される。当部では当院で作成されたすべての主治医意見書の不備のチェックと受け渡しを行っている。2023年にチェックを実施した主治医意見書の件数は1723件だった。(2022年：1557件)



(5) 筑豊地区介護予防センター業務（福岡県委託）

当院は福岡県より筑豊地区介護予防支援センターとしての業務を受託しており、当本部においてリハビリテーション部と共同で以下の業務を実施。

- ・市町村や介護従事者を対象とした研修の実施
- ・フレイル予防事業
(フレイルチェックの実施、各機関への講演、普及啓発イベントへの参加)

8. 医学研究推進本部活動報告

本部長 赤星和也
事務局 松尾純子

目 的：

当院の全職員に対し、自主的な臨床研究の啓蒙と支援を行う事により、当院の臨床研究活動を活発化させ、その臨床研究成果を社会に還元し医療界の進歩に貢献すること。

活動内容：

1. 全職員に対する医学論文作成の啓蒙活動とその環境整備
2. 医学研究に対する経済的支援としての当院助成金（臨床研究助成金）の認定・授与
3. 当院で作成し掲載された全ての医学論文の審査や評価及び、その作成に貢献した執筆者と指導者の認定とその功績に対する褒賞（学術奨励賞）
4. 企業等外部からの研究委託ならびに研究寄附金等の審査と受け入れ
5. 2020年11月認定の文部科学省科学研究費補助金対象研究機関としての活動

2023年度活動内容

- 1) 月に1回、当本部メンバー構成員9名（医師4名、看護師1名、薬剤師1名、臨床検査技師1名、事務職1名、臨床心理士[事務局員]1名）による定例ミーティングを開き、当院研究助成金の認定・授与のための審査、学術奨励賞対象医学論文の認定・褒章のための審査、及びさらなる医学研究推進に向けた規約の改定やホームページの更新など環境整備を行った。
- 2) 2023年の当院学術奨励賞対象となった医学論文の総数は40編（12月末時点）で、その内訳は表1のとおりであった。国際的な医学論文の質の指標の一つである、インパクトファクター値の総和は49.6であった（グラフ1）。

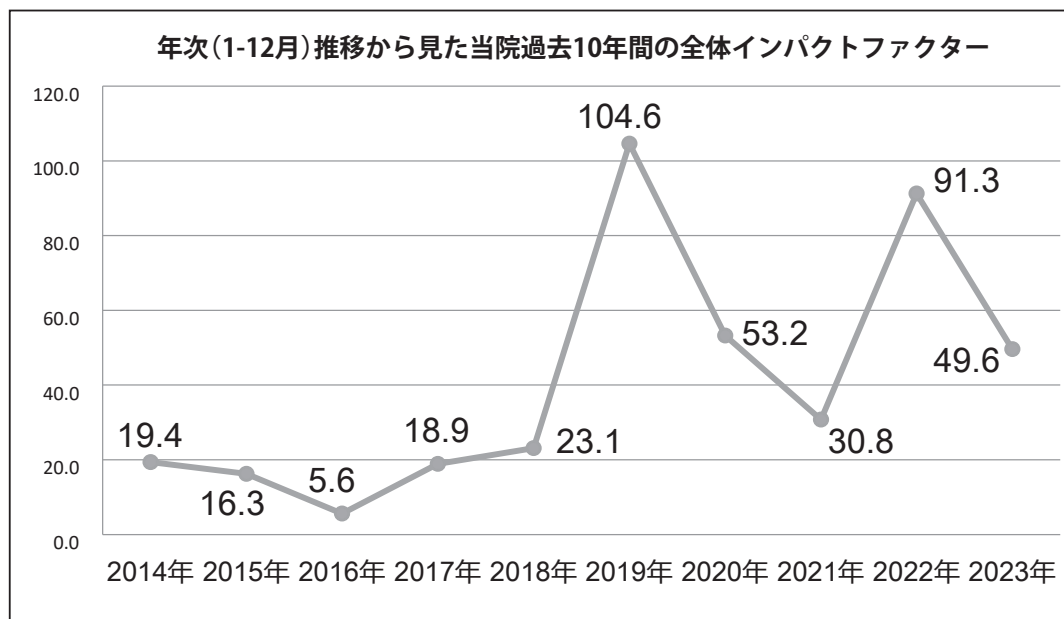
次年度に向けて：

1. 上記1)の継続
2. 医学論文数の増加、高いインパクトファクターを有する英語論文の増加を目指し、積極的に全職員に対し、医学論文作成の啓蒙活動を行っていく。

(表1) 2023年度 学術奨励賞対象医学論文の内訳(1-12月受理分)

医学論文総数 40 編	論文の種類	論文数
英文 19 編	原著	10
	短報・症例報告	9
和文 21 編	原著	11
	短報・症例報告	10

(グラフ1)



「学術奨励賞対象論文」より算出

9. 治験推進本部活動報告

本部長 井村 洋
治験管理室 荒木哲也
臨床研究支援室 古賀秀信

病気の治療法が進歩するためには、より安全で効果の高い新薬の開発が必要であったり、臨床現場において様々な研究が行われることがとても重要です。治験推進本部は治験実施の支援、管理及び臨床研究の支援について積極的に取り組んでいます。

< 治験管理室 >

- (1) 治験ごとに治験コーディネーターを配置し治験を実施する医師の支援や患者さんへの説明、検査や来院の管理を行っています。
- (2) 治験使用薬を鍵のかかる保管庫に保管し、保管環境の維持（保管温度チェック）、治験使用薬の調剤を行っています。
- (3) 治験に関する記録や治験審査委員会の承認書等を保管管理しています。
- (4) 治験の実施可能性について製薬会社より依頼された調査票の作成を行っています。
- (5) 発売後の薬剤の有効性・安全性の調査についての契約窓口となっています。

●2023年の新規治験受託実績

実施診療科	目標症例数	対象疾患名	開発相	二重盲検
膠原病リウマチ	1	全身性エリテマトーデス	Ⅲ	●
感染症科	10	COVID-19 感染	Ⅲ	●
消化器内科	1	潰瘍性大腸炎	Ⅲ	●
消化器内科	1	潰瘍性大腸炎	Ⅲ	●
呼吸器内科	1	COPD	Ⅲ	●
呼吸器内科	1	特発性肺腺維症	Ⅲ	●
呼吸器内科	1	進行性肺腺維症	Ⅲ	●

●2023年の治験実施可能性調査

109件

●2023年の製造販売後調査受託実績

特定使用成績調査 6 件 使用成績調査 3 件 副作用調査 3 件

＜臨床研究支援室＞臨床研究支援室2023年1月～12月までの実績は下記の通りです。

1) 科研費等の公的研究 及び 奨学寄附金事業 関連

＜公的研究＞ 科研費既獲得者の異動に伴って本格的に科研費の運用を開始するとともに、当院初となる科研費へ応募の支援を行いました。

- ・03/06 第3回 不正防止計画推進部署 公的研究に関する会議
- ・04/04 研究活動における不正行為への対応に関するガイドラインに基づく取組状況に係るチェックリスト提出（文部科学省 競争的研究費調整室）
- ・04/24 2022年度 経営会議報告
- ・04/25 令和5(2023)年度 科研費 公募要領 に関する院内周知（部長会）
- ・05/26 概況票提出（文部科学省 学術研究推進課）
- ・10/11 第2回 内部監査
- ・10/25 第4回 不正防止計画推進部署 公的研究に関する会議
- ・11/15 体制整備自己評価チェックリスト 提出（文部科学省 研究公正推進室）

＜奨学寄附金事業＞ 診療科が獲得した奨学寄附金の運用を支援致しました(計1件)。

2) 研究支援関連

a) 研究実務支援：実務支援155件、系統支援2件でした。

部門	相談関連	倫理審査支援関連	DM・統計関連	発表・論文に関する支援、他	合計
医師	6	12	32	12	62
看護部	3	8	10	19	40
医療技術	4	7	9	10	30
事務、その他	2	3	9	12	26
合計	15	30	60	53	158

b) 臨床研究支援による学術論文および発表に関する支援 *筆頭は除く

臨床研究支援室が支援した論文および演題発表は以下の通り（PubMed、医中誌で検索）。

＜英語論文＞（検索対象期間：2023年1月～2023年12月）

- Kawakami D, Fujitani S, Koga H, Dote H, Takita M, Takaba A, Hino M, Nakamura M, Irie H, Adachi T, Shibata M, Kataoka J, Korenaga A, Yamashita T, Okazaki T, Okumura M, Tsunemitsu T. Evaluation of the Impact of ABCDEF Bundle Compliance Rates on Postintensive Care Syndrome: A Secondary Analysis Study. Crit Care Med. 2023 Dec 1;51(12):1685-1696.
- Akahoshi K, Akahoshi K, Shiratsuchi Y, Tamura S, Uemura K, Sashihara R, Ohishi Y, Inoue K, Koga T, Koga H. Endoscopic Ultrasonography-Guided Fine-Needle Aspiration for Duodenal Subepithelial Lesions Showing a Hypoechoic Mass on Endoscopic Ultrasound Imaging. Turk J Gastroenterol. 2023 Nov;34(11):1156-1162.

＜和文論文＞

- 人工股関節置換患者に対する周術期口腔管理の有用性に関する臨床的検討, 有田英生, 本田智恵子, 河野真由美, 吉田涼子, 内田美貴, 前沙也加, 高根澤麗奈, 古賀秀信, 中松耕治, 日本口腔ケア学会雑誌第18巻2号

(2023年3月に掲載決定、2024年2月に掲載予定)

<論文内謝辞>

- 救急科専攻医は研修プログラムのどのようなところに魅力を感じるのか？救命救急センターにおけるプログラム選択に与する因子の検討, 香月洋紀 他, 日本救急医学会雑誌34巻3号 p77-82
- 後外側骨片を伴う大腿骨転子部骨折において直接的整復が術後整復位の保持に与える影響.陣林秀紀 他.整形外科と災害外科第72巻2号 p262-265

<臨床研究支援室が共同演者となった学会発表>

- 人間ドック受診者を対象とした機械学習を用いた腎機能評価予測アルゴリズムの開発, (第55回 日本医療検査科学会)
- 伸縮性テーピングが片脚起立の実施可否に及ぼす影響～予備研究として～ (第10回 日本運動器理学療法学会)
- A病棟における身体拘束時間と新型コロナウイルス流行期と非流行期との関連 (第54回 日本看護学会)

c) **Basic Skillセミナーの開催**：オープンデータを素材に、Excel、google等の無料ツールを用いたセミナーをシリーズで初開催しました。

回	開催日	参加者	内容	回	開催日	参加者	内容
第1回	2023/04/19	7	Excel	第5回	2023/07/20	5	機械学習 (Python)
第2回	2023/05/01	11	Excel	第6回	2023/11/01	8	Excel Pivot
第3回	2023/05/31	8	EZR	第7回	2023/12/07	6	BI ツール
第4回	2023/07/06	16	Excel, ChatGPT	第8回	2023/12/28	6	Google Form

d) **臨床研究に関するCRC業務** 合計25試験 (2023年1月～12月)

研究デザイン別 : 観察研究12試験、介入研究13試験

対象疾患別 : 癌関連18試験、癌以外の疾患 7 試験

e) **倫理審査支援**：QIは下表の通りです (管理値=100%)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
割合*(%)	100	-	100	-	100	100	-	100	100	100	100	-

*割合=倫理委員会事務局に提出された、作成支援を希望する当院主管臨床研究における倫理審査初回通過割合(%)

f) **教育関連**：臨床研究支援室が作成したコンテンツの受講者数は下表の通りです。

教材名	受講者数 合計人数 (名)				新バージョン 公開日	
	医師	看護師	医療技術	事務・その他		
研究倫理	1098	127	526	349	96	2023/ 7/ 1
コンプライアンス教育*)	864	69	485	252	58	2023/10/ 1

*2023年9月30日までは、コンプライアンス教育①または②の多い方の人数を用いて算出しています。

g) **利益相反 (COI)**：2023年3月より、職員の利益相反(COI)管理を開始しました。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
申告数 (件)			82	19	2	0	1	7	0	30	17	58	216

h) **臨床研究支援室が主体となって行った研究**

- 公開データからの臨床検査技師業務の需給予測, 古賀秀信, 丸田秀夫, 深澤恵治, 益田泰蔵, 佐藤正一, 根本誠一, 白石元気, 日本臨床衛生検査技師会雑誌 第72巻4号 p522-531

10. 当院における分離菌と薬剤感受性

中央検査部 微生物検査室

2023年5月、新型コロナウイルスの位置づけが2類から5類感染症に移行し、3年余り続いた国のコロナ対策は大きな節目を迎えました。限られた病院で患者を受け入れる体制から、幅広い施設で対応する体制に変わったことで、新たに患者の受け入れを始める医療機関では、院内での感染を防ぎながら、ほかの疾患の患者診療と両立していくことが課題であったことと思います。

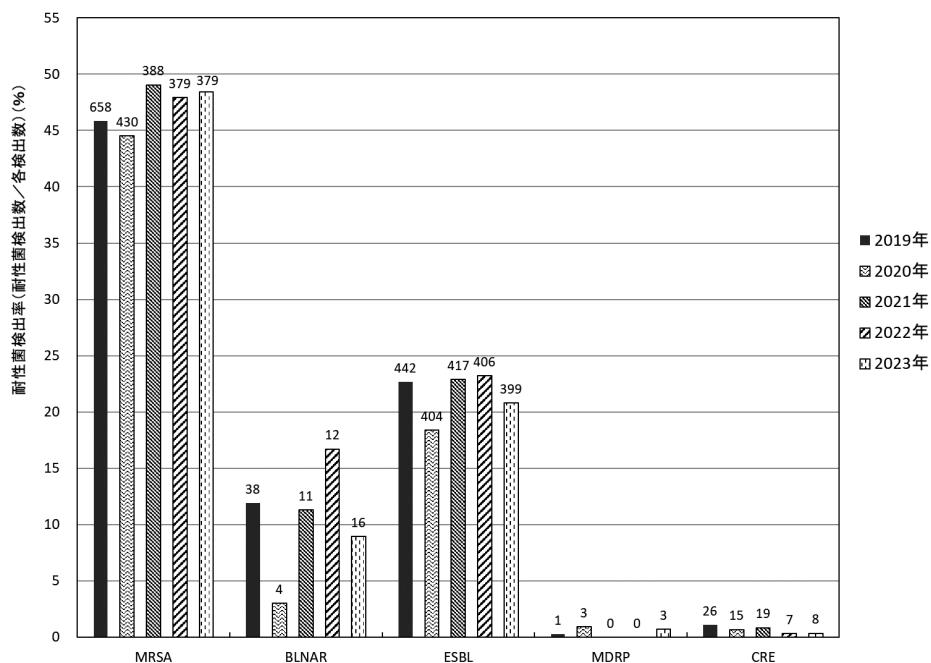
当検査室では、5類感染症に移行後もPCR検査と抗原定量検査を併用し、発熱患者だけでなく、入院前のスクリーニング検査としても活用しながら、継続的に院内感染の防止に努めて参りました。

4年にわたる新型コロナウイルス検査の経験から、PCR検査技術を今後活かすべく、その第一弾として、2023年2月にはFilmArray® 髄膜炎・脳炎パネル(バイオメリュー・ジャパン株式会社)を新規検査項目として導入致しました。24時間体制で対応し、この1年で200件を超える検査を実施しております。髄膜炎および脳炎の急性期診療における微生物学的検査の重要性は非常に高く、パネル検査により細菌・ウイルス・真菌など14種類の病原体を1時間弱で検査できることは、迅速かつ的確な抗微生物薬の治療開始に大きく貢献できたのではないかと思います。

これらの検査を開始するためには、検査室自体の精度や正確性が担保されていなければならないと、日々の精度管理が検査の根幹をなしていると考えます。昨今“不正”というワードをよく耳にしますが、当検査室においては、今後も精度管理の質を高め、病院の方針である「まごころ医療」をモットーに、患者さんにいち早く正確な検査結果をお届けできるよう、今後も変わらず尽力して参ります。

● 分離菌情報

A) 耐性菌検出率：耐性菌検出数（グラフ上部数値）／各検出数



MRSA：methicillin resistant *Staphylococcus aureus*

BLNAR：β-lactamase negative ampicillin resistant *Haemophilus influenzae*

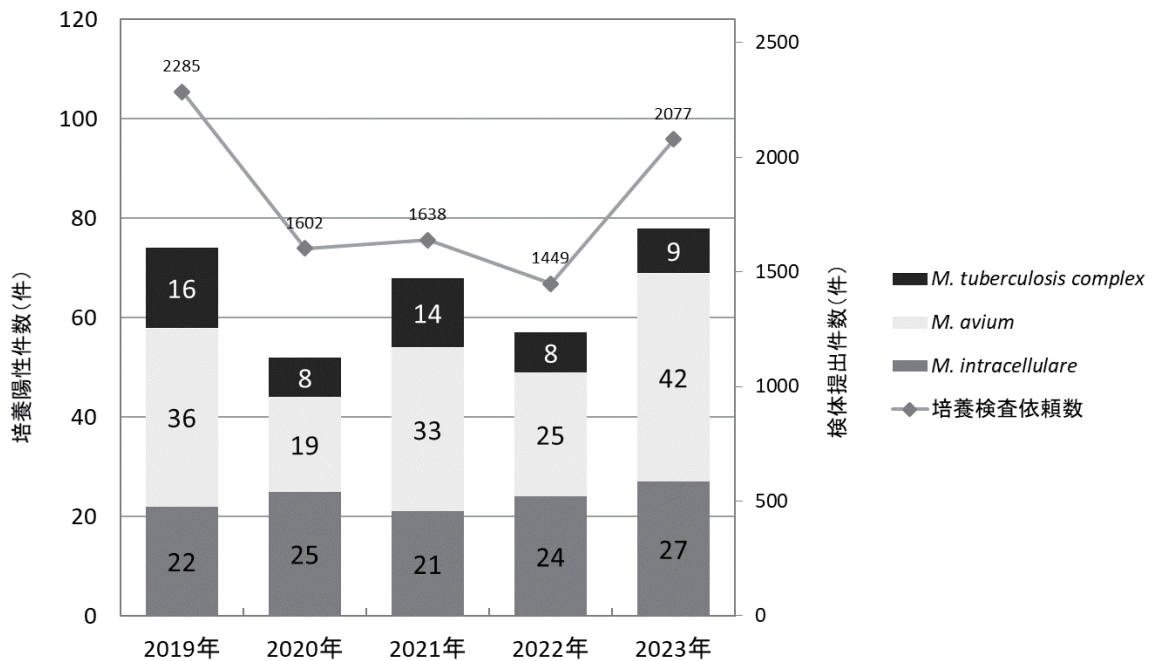
ESBL：extended spectrum β-lactamase

MDRP：multi drug resistant *Pseudomonas aeruginosa*

CRE：carbapenem resistant *Enterobacteriaceae*

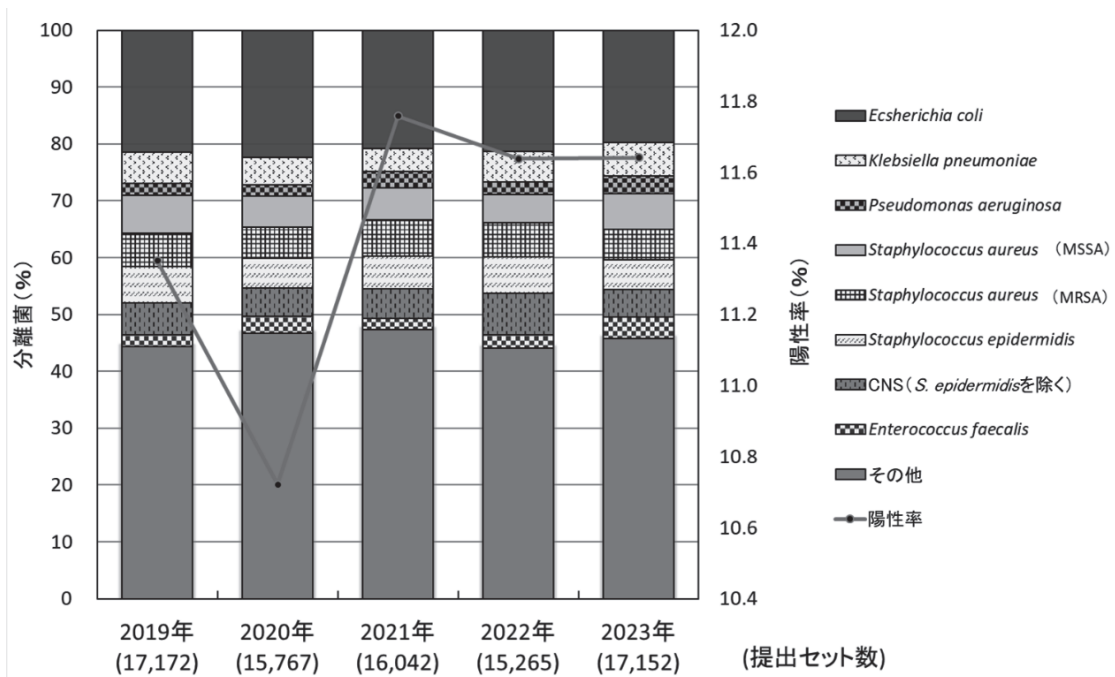
MRSA や ESBL など主要な薬剤耐性菌の検出率、検出件数は横ばいでした。また、近年増加が懸念されている CRE（カルバペネム耐性腸内細菌目）の検出数および検出率は横ばいから減少傾向でした。

B) 抗酸菌動向 (*Mycobacterium tuberculosis complex*, *M. avium*, *M. intracellulare*)



※培養方法の変遷 ~ 2019年4月：固形培養（小川培地）
2019年5月～：液体培養（Mycobacteria Growth Indicator Tube：MGIT）

C) 血液培養陽性率（陽性セット数／提出セット数）と検出菌の内訳（検出菌数／血液培養検出菌総数）



● 薬剤感受性

A) 成人 グラム陽性球菌

菌名	株数	MIPFO	S/A	OEZ	OMZ	IPM/OS	GM	EM	GLDM	MINO	LVFX	TEO	VOI	LZO	ST	REP
<i>Staphylococcus aureus</i> (MSSA)	335	100	100	100	100	100	68	69	73	99	78	100	100	100	99	99
<i>Staphylococcus aureus</i> (MRSA)	322	-	-	-	-	-	47	16	18	91	8	100	100	100	100	99
<i>Staphylococcus epidermidis</i>	111	47	47	47	47	47	57	58	71	99	41	95	100	100	80	99

菌名	株数	POD	ABPO	CTX	OTRX	OPFM	MEPM	EM	AZM	GLDM	LVFX	VOI	OP
<i>Streptococcus pyogenes</i>	17	100	100	100	100	100	100	71	71	N/R	94	100	100
<i>Streptococcus agalactiae</i>	108	100	100	100	100	100	100	67	69	N/R	55	100	85
<i>Streptococcus dysgalactiae</i>	61	100	100	100	100	100	100	80	80	N/R	97	100	100

菌名	株数	POD	ABPO	CTX	OTRX	OPFM	MEPM	EM	AZM	GLDM	LVFX	VOI	OP
<i>Streptococcus viridans group</i>	81	100	99	100	100	100	100	61	63	90	87	100	99

菌名	株数	POD	PGSM	POGum	C/A	OTXm	OTXm	OTXm	OTXm	OPFMm	MEPM	EM	AZM	GLDM	LVFX	VOI	ST	OP	REP
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	43	62	62	98	98	87	98	84	98	96	76	16	13	N/R	96	100	82	93	100

菌名	株数	POD	ABPO	EM	MINO	TEO	VOI	LVFX	LZO	REP
<i>Enterococcus faecalis</i>	330	100	100	30	38	100	100	93	99	47
<i>Enterococcus faecium</i>	141	31	33	15	41	100	100	24	99	37

B) 成人 グラム陰性桿菌

菌名	株数	ABPO	S/A	C/A	P/T	OEZ	COL	OMZ	POY-X	OTRX	OXZ	OPFM	IPM/OS	MEPM	ACT	GM	AMK	MINO	OPFX	LVFX	ST
<i>Escherichia coli</i> (全体)	1262	54	67	88	97	62	68	99	71	72	72	72	99	99	72	92	99	92	54	57	82
<i>Escherichia coli</i> (CTX陽性)	405	0	36	75	85	0	0	99	0	0	0	0	99	99	0	86	99	92	13	14	55
<i>Yersinia pneumoniae</i>	371	R	79	91	98	85	90	97	90	91	91	91	99	99	91	86	100	91	87	94	88
<i>Yersinia oxytoxa</i>	128	R	76	92	93	12	91	99	93	93	93	93	99	99	93	99	100	97	92	97	96
<i>Proteus mirabilis</i>	90	90	96	99	100	75	99	100	100	100	100	100	N/R	100	100	96	100	R	73	75	87
<i>Enterobacter cloacae complex</i>	167	R	R	R	79	R	R	R	31	56	66	91	97	97	67	99	100	94	88	91	93
<i>Enterobacter aerogenes</i>	74	R	R	R	88	R	R	R	58	65	68	97	97	97	83	100	100	97	99	99	100
<i>Enterobacter freundii complex</i>	71	R	R	R	96	R	R	R	27	77	78	100	99	99	78	97	100	99	95	97	96
<i>Enterobacter koseri</i>	55	R	81	82	95	79	81	93	79	81	81	81	100	100	79	100	100	100	81	81	98
<i>Serratia marcescens</i>	61	R	R	R	67	R	R	R	17	N/R	83	95	N/R	100	65	100	100	95	67	76	98

菌名	株数	S/A	C/A	P/T	OEZ	OTRX	OXZ	OPFM	ACT	GM	AMK	OPFX	LVFX	ST
<i>Serratia marcescens</i>	45	39	25	84	0	82	96	100	98	100	100	96	98	82

菌名	株数	POD	P/T	S/A	OXZ	OPFM	ACT	IPM/OS	MEPM	DFPM	GM	AMK	TOB	MINO	OPFX	LVFX	ST
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	400	91	93	-	94	91	84	83	92	96	88	99	99	100	90	87	-
<i>Acinetobacter baumannii complex</i>	19	80	N/R	100	95	95	-	-	100	100	100	100	90	100	90	90	95
<i>Stenotrophomonas maltophilia</i>	54	-	-	-	25	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	96	98

菌名	株数	ABPO	C/A	S/A	COL	OPFM	CTX	OTRX	OML	OPFX	LVFX	MEPM	REP	MINO	ST	OP
<i>Haemophilus influenzae</i>	86	61	89	87	83	100	100	100	89	100	100	100	N/R	100	55	99

菌名	株数	ABPO	S/A	OMZ	OTRX	IPM/OS	MEPM	GLDM
<i>Bacteroides fragilis group</i>	30	0	87	84	32	94	94	68

C) 小児

菌名	株数	MIPRO	S/A	QZ	OMZ	IPM/CS	GM	EM	CLDM	MINO	LVFX	TEIC	VCM	ZD	ST	RFP
<i>Staphylococcus aureus</i> (MSSA)	11	100	100	100	100	100	58	50	67	100	92	100	100	100	100	100
<i>Staphylococcus aureus</i> (MRSA)	9	-	-	-	-	-	56	17	17	100	0	100	100	100	100	100
<i>Staphylococcus epidermidis</i>	3	33	33	33	33	33	33	67	67	100	67	67	100	100	100	100

菌名	株数	PCD	ABPO	CTX	OTX	CFPM	MEPM	EM	AZM	CLDM	LVFX	VCM	CP
<i>Streptococcus pyogenes</i>	1	100	100	100	100	100	100	100	100	N/R	100	100	100

菌名	株数	PCD	PCDM	PCGM	C/A	OTXm	OTXcm	OTXcm	OTXcm	CFPM	MEPM	EM	AZM	CLDM	LVFX	VCM	ST	CP	RFP
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	1	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	0	0	N/R	100	100	100	100	100

菌名	株数	ABPO	S/A	C/A	P/T	QZ	COL	OMZ	OPX-P	OTX	QZ	CFPM	IPM/CS	MEPM	AZT	GM	ANK	MINO	OPX	LVFX	ST
<i>Escherichia coli</i> (全体)	35	59	73	86	100	76	76	100	81	81	81	81	100	100	81	97	100	89	59	65	86

菌名	株数	IPRO	P/T	S/A	QZ	CFPM	AZT	IPM/CS	MEPM	OPX	GM	ANK	TOB	MINO	OPX	LVFX	ST
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	6	100	100	-	100	100	100	100	100	100	83	100	100	-	100	100	-

菌名	株数	ABPO	C/A	S/A	COL	CFPM	CTX	OTX	GM	OPX	LVFX	MEPM	RFP	MINO	ST	CP
<i>Haemophilus influenzae</i>	7	57	86	71	71	100	100	100	71	100	100	100	N/R	100	57	100

【備考】

- 2023年1月1日～2023年12月31日の期間に提出された検体を集計対象とした。但し、同一患者から検出された同一菌は、初回の分離株のみを集計対象とした。また、監視培養検体より検出した菌は除外した。
- 表の数値は、対象菌株のうち「S」（感受性）を示した菌株の割合（%）を示している。
- ブレイクポイントの判定は、CLSI M100-S30 に準拠して行った。
ただし、*Aeromonas* sp. は CLSI M45-A3、*Bacteroides fragilis* group は検査委託先の判定結果を使用した。
- *Streptococcus viridans* group は無菌検体より検出した菌株のみを対象とした。
- 成人の *Escherichia coli* は、「全体」と「第3世代セフェム系抗菌薬（CTX）耐性」とで識別して記載した。
- それぞれの結果で、90%以上の感受性を認める項目の背景を で表している。
- 表記が「NR」の項目は、当検査室で実施している検査方法では報告することのできない菌と薬剤の組み合わせである。
- 「R」は、その菌種の自然耐性により必ず耐性の結果が報告される薬剤である。
- 菌株数が30に満たない菌種については、“参考値”とする。
- 次の菌種において、カッコ内の薬剤は尿路分離株で結果を報告していないため、計算対象から除外している。
MSSA、MRSA、*S. epidermidis* (EM、CLDM、MINO)
S. agalactiae (EM、AZM、CLDM、CP) *E. faecalis*、*E. faecium* (EM)
- *Streptococcus pneumoniae* については、髄膜炎以外では「nm：non meningitis」、髄膜炎では「m：meningitis」を参照のこと。

11. 研修スケジュール (2023年度)

初期研修医1年次

ローテーション開始日	2023年12月31日現在																
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
氏名	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	4	11	18	25
伊藤 駿	呼吸器内科	ER	脳神経外科	脳神経外科	産婦人科	外科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科
江藤 慎平	脳神経外科	脳神経外科	脳神経外科	脳神経外科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科
小倉畑 雄也	総合診療科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科
川崎 裕哉	脳神経外科	脳神経外科	脳神経外科	脳神経外科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科
久保田 良晴	整形外科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科
小磯 圭貴	産婦人科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科
河野 康平	外科	総合診療科	総合診療科	総合診療科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科
郡 日菜子	外科	総合診療科	総合診療科	総合診療科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科
坂本 百合子	産婦人科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科
田島 知宙	総合診療科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科
西村 映実里	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科
塗木 海斗	ER	脳神経外科	脳神経外科	脳神経外科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科
牧野 佐和子	小児科	整形外科	整形外科	整形外科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科
村中 瑞穂	呼吸器内科	ER	ER	ER	ER	ER	ER	ER	ER	ER	ER	ER	ER	ER	ER	ER	ER
米野 正哉	麻酔科	小児科	小児科	小児科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科
山崎 翔太郎	ER	脳神経外科	脳神経外科	脳神経外科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科
山達 桃子	整形外科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科
渡邊 安未	小児科	整形外科	整形外科	整形外科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科
加久 美鈴																	

初期研修医2年次

ローテーション開始日	2023年12月31日現在																								
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月													
氏名	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	4	11	18	25								
秋葉 美里	漢方診療科	精神	DM	地域	地域	地域	地域	地域	地域	地域	地域	地域	地域	地域	地域	地域	地域								
青山 諒子	DM	地域	肝臓内科	休	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科								
飯藤 依里子	小児科	産婦人科	感染症科	ER	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科								
石原 健人	精神	DM	地域	消化器内科	消化器内科	消化器内科	消化器内科	消化器内科	消化器内科	消化器内科	消化器内科	消化器内科	消化器内科	消化器内科	消化器内科	消化器内科	消化器内科								
内田 壮平	腎臓内科	DM	麻酔科	地域	外科	外科	外科	外科	外科	外科	外科	外科	外科	外科	外科	外科	外科								
宇野 大樹	連携・緩和	腹部エコー	ER	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科								
太田 直宏	地域	肝臓内科	画像診療科	腹部エコー	休	ER	ER	ER	ER	ER	ER	ER	ER	ER	ER	ER	ER								
木原 沙也加	膠原病・リウマチ科	漢方診療科	連携・緩和	ER	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休								
佐藤 晃	心臓血管外科	循環器内科	循環器内科	産婦人科	集中治療科	集中治療科	集中治療科	集中治療科	集中治療科	集中治療科	集中治療科	集中治療科	集中治療科	集中治療科	集中治療科	集中治療科	集中治療科								
佐藤 ひかる	ER	消化器内科	腎臓内科	腎臓内科	小児科	腹部エコー	循環器内科	心エコー	地域	地域	地域	地域	地域	地域	地域	地域	地域								
柴山 道登	集中治療科	血液内科	休	感染症科	循環器内科	DM	地域	地域	地域	地域	地域	地域	地域	地域	地域	地域	地域								
末次 駿一	ER	休	泌尿器科	泌尿器科	精神	DM	地域	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科								
竹井 雅人	循環器内科	ER	ER	心臓血管外科	休	感染症科	集中治療科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科								
谷川 裕美	循環器内科	休	腎臓内科	画像診療科	DM	地域	外科	皮膚科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科								
田村 知佳子	循環器内科	休	肝臓内科	精神	地域	ER	腹部エコー	集中治療科	地域	地域	地域	地域	地域	地域	地域	地域	地域								
星台 亮尚	集中治療科	麻酔科	精神	DM	地域	総合診療科	画像診療科	休	ER	ER	ER	ER	ER	ER	ER	ER	ER								
和田 くる実	肝臓内科	集中治療科	循環器内科	循環器内科	休	麻酔科	DM	地域	集中治療科	集中治療科	集中治療科	集中治療科	集中治療科	集中治療科	集中治療科	集中治療科	集中治療科								

12. 研修医募集の記録

2023 年

大学名	受験者数	採用者数	クリニカルクラークシップ		見学	
			受入(実人数)	うち採用者数	受入(延べ人数)	うち採用者数
北海道大学	1	0	0	0	2	0
旭川医科大学	1	0	0	0	1	0
山形大学	1	1	0	0	1	1
東北大学	1	0	0	0	1	0
新潟大学	1	0	0	0	2	0
金沢医科大学	0	0	0	0	3	0
群馬大学	1	0	0	0	0	0
埼玉医科大学	0	0	0	0	1	0
自治医科大学	0	0	0	0	3	0
東京大学	1	1	0	0	1	1
東邦大学	1	1	0	0	1	1
名古屋大学	1	0	0	0	0	0
藤田医科大学	0	0	0	0	2	0
山梨大学	0	0	0	0	1	0
岐阜大学	2	0	0	0	3	0
滋賀医科大学	0	0	0	0	1	0
奈良県立医科大学	1	0	0	0	1	0
京都府立医科大学	0	0	0	0	1	0
京都大学	0	0	0	0	1	0
近畿大学	0	0	0	0	1	0
大阪大学	1	0	2	0	1	0
大阪医科薬科大学	0	0	0	0	1	0
島根大学	0	0	0	0	4	0
岡山大学	1	0	0	0	6	0
川崎医科大学	0	0	0	0	1	0
広島大学	2	0	0	0	17	0
山口大学	3	2	0	0	11	2
徳島大学	0	0	0	0	3	0
高知大学	0	0	0	0	1	0
九州大学	18	5	14	1	31	4
福岡大学	2	2	1	1	6	1
久留米大学	2	1	0	0	7	0

大 学 名	受験者数	採用者数	クリニカルクラークシップ		見学	
			受入(実人数)	うち採用者数	受入(延べ人数)	うち採用者数
産業医科大学	2	1	2	0	12	1
大分大学	2	0	5	0	5	0
佐賀大学	4	1	0	0	17	1
熊本大学	1	1	0	0	27	0
長崎大学	3	2	0	0	17	2
宮崎大学	1	0	4	0	5	0
鹿児島大学	0	0	0	0	7	0
琉球大学	3	0	0	0	13	0
ハンガリー国立 デブレツェン大学	0	0	1	0	0	0
合計	57	18	29	2	219	14

13. ファシリティ本部活動報告

本部長 名取良弘
事務局 森 智之

■**発足の経緯**：「Patient Firstを追求し、選ばれる高度急性期・急性期病院」を念頭に、施設・設備の将来に向けての計画を立案・推進する部門として2020年4月に発足。

■**目的**：施設・設備の将来に向けての計画を立案・推進

■**2023年活動内容**：

1. 新棟の機能、既存棟に残す機能に関する必要なスペースやファンクションの整理
2. 新棟における増収機能の検討
3. 将来的なエネルギー供給方式の検討

■**2024年の活動**：

1. 新棟建設における投資回収計画の検討
2. 関係部署においての設計要件の検討
3. 基本設計時期の検討

以上

〔Ⅷ〕 医師部門および主要職員名簿

1. 医師名簿

(2023年12月31日現在)

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
	増本陽秀	九州大学	S55	1980	院長 兼イノベーション改善運営会議議長 兼イノベーション推進本部長 兼地域包括ケア推進会議議長 兼卒後教育評議会議長 兼救命救急評議会議長 兼 TQM 推進会議議長 兼高気圧酸素治療室長
	井村 洋	藤田学園保健衛生大学 (大学院)	S56 (S63)	1981 (1988)	特任副院長 兼総合診療科部長 兼教育推進本部長 兼地域包括ケア推進会議副議長 兼地域包括ケア推進本部長 兼統括事業本部治験推進本部長 兼臨床研究支援室室長 兼外来フィールド長 兼卒後教育評議会副議長 兼救命救急評議会議員 兼 TQM 推進会議議員 並北第八病棟医長
	名取良弘	九州大学	S60	1985	特任副院長 兼脳神経外科部長 兼救命救急フィールド長 兼救命救急センター長 兼予防医学本部長補佐 兼経営戦略会議議長 兼ファシリティ本部長 兼救命救急評議会副議長 兼東第六病棟医長 兼 TQM 推進会議議員 兼手術評議会議員 兼医学研究推進本部(学術研究員)
	福村文雄	九州大学	S60	1985	特任副院長 兼医療安全推進本部長 兼医療安全推進室長 兼改善推進本部顧問 兼情報本部長 兼診療情報管理室長 兼 TQM 推進会議副議長 兼診療支援フィールド長 兼日本一のまごころ病院実現諮問会議議長 兼イノベーション改善運営会議議員

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
	中島雄一	福岡大学	H1	1989	特任副院長 兼改善推進本部長 兼手術フィールド長 兼外科入院フィールド長 兼手術評議会議長 兼救命救急評議会議員 兼イノベーション改善運営会議議員 兼 TQM 推進会議議員
	本村健太	九州大学(大学院)	H3 (H11)	1991 (1999)	副院長 兼肝臓内科部長 兼内科入院フィールド長 兼予防医学本部長 兼 TQM 推進会議議員 兼救命救急評議会議員
	田中二郎	鹿児島大学	S44	1969	名誉院長(顧問) 兼救命救急センター特別顧問 兼卒後教育評議会議員
	中島 格	九州大学	S48	1973	顧問
	大田俊行	山口大学	S49	1974	顧問兼膠原病センター長 兼中央検査部技術・教育・研究指導室長
	安藤廣美	九州大学	S52	1977	特任副院長(国際交流担当)
	山本英彦	熊本大学(大学院)	S53 (S57)	1978 (1982)	特任副院長(渉外担当) 兼予防医学本部予防医学センター顧問
	鮎川勝彦	九州大学	S56	1981	特任副院長集中治療科担当 (地域医療サポーター養成講座・救急 病床適用判定医・救急救命士育成担当)
	江口冬樹	福岡大学(大学院)	S58 (H4)	1983 (1992)	特任副院長(渉外担当)
	赤星和也	鹿児島大学	S61	1986	特任副院長 兼予防医学本部予防医学センター顧問 (内視鏡担当) 兼医学研究推進本部長 兼医学研究推進本部(学術研究員)
肝臓内科 (5名)	本村健太	九州大学(大学院)	H3 (H11)	1991 (1999)	副院長 兼肝臓内科部長 兼内科入院フィールド長 兼予防医学本部長 兼 TQM 推進会議議員 兼救命救急評議会議員
	矢田雅佳	九州大学(大学院)	H11 (H15)	1999 (2003)	肝臓内科診療部長 兼南 3A 病棟医長
	田中紘介	産業医科大学 (九大大学院)	H16 (H27)	2004 (2015)	診療部長
	栗野哲史	山口大学 (九大大学院)	H20 (R2)	2008 (2020)	診療部長
	古賀勇太	九州大学	R3	2021	専攻医

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
消化器内科 (14名)	久保川 賢	九州大学	H6	1994	消化器内科部長 兼内視鏡センター長 兼東第四病棟医長
	宜保淳也	九州大学	H11	1999	診療部長
	淀江賢太郎	九州大学	H15	2003	診療部長
	小副川 敬	北里大学	H17	2005	診療部長
	小森圭司	熊本大学 (九大大学院)	H18 (R1)	2006 (2019)	診療部長
	長田繁樹	和歌山県立医科大学	H19	2007	診療部長
	兼子容子	滋賀医科大学	H22	2010	医師
	野崎哲史	福岡大学	H23	2011	医長
	松林江里子	広島大学	H25	2013	医長
	糸永周一	九州大学	H26	2014	医長代理
	大崎智絵	久留米大学	H28	2016	医長代理
	木村弥成子	久留米大学	H28	2016	医長代理
	内之倉弘和	大分大学	H29	2017	医長代理
	吉武千香子	大分大学	H30	2018	医長代理
呼吸器腫瘍内科 (1名)	靄野広介	佐賀大学	H19	2007	呼吸器腫瘍内科部長 兼外来化学療法室長
呼吸器内科 (13名)	飛野和則	熊本大学 (順天堂大学大学院)	H13 (H23)	2001 (2011)	呼吸器内科部長 兼呼吸器病センター長 兼がん集学治療センター副センター長 兼南 3B 病棟医長 兼医学研究推進本部(学術研究員)
	花香未奈子	産業医科大学	H17	2005	診療部長
	井手ひろみ	帝京大学	H19	2007	診療部長
	神 幸希	東北大学	H23	2011	医長
	西澤早織	熊本大学	H24	2012	医長
	吉峯晃平	近畿大学	H24	2012	医長
	前田顕子	熊本大学	H24	2012	医長
	大井隆之介	長崎大学	H26	2014	医長代理
	山元隆太	宮崎大学	H26	2014	医長代理
	坂部光邦	三重大学	H29	2017	医長代理
	平松由莉	九州大学	H30	2018	医長代理
	大田裕晃	山口大学	H30	2018	医長代理
	川畑隆史	長崎大学	H30	2018	医長代理
内分泌・糖尿病内科 (5名)	井上智彰	産業医科大学 (九大大学院)	H17 (H25)	2005 (2013)	内分泌・糖尿病内科部長
	嶋田伸吾	山口大学	H20	2008	診療部長
	吉村恵美	佐賀大学	H27	2015	医長代理
	柴田茉祐	産業医科大学	H28	2016	医長代理
	池田純香	佐賀大学	R2	2020	専攻医

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
血液内科 (7名)	白土基明	九州大学	H5	1993	血液内科部長 兼がん集学治療センター長 兼 TQM 推進会議議員
	油布祐二	九州大学	S59	1984	血液内科特任顧問
	喜安純一	九州大学	H14	2002	診療部長
	藤岡絵里子	九州大学(大学院)	H15 (H23)	2003 (2011)	医師
	津田麻理子	九州大学 (九州大学大学院)	H23 (R4)	2011 (2022)	医長
	帆足公佑	久留米大学	H26	2014	医長代理
	大山 真	山口大学	H27	2015	医長代理
心療内科 (1名)	木附 康	九州大学	H15	2003	心療内科部長
総合診療科 (32名)	井村 洋	藤田学園保健衛生大学 (大学院)	S56 (S63)	1981 (1988)	特任副院長 兼総合診療科部長 兼教育推進本部長 兼地域包括ケア推進会議副議長 兼地域包括ケア推進本部長 兼統括事業本部治験推進本部長 兼臨床研究支援室室長 兼外来フィールド長 兼卒後教育評議会副議長 兼救命救急評議会議員 兼 TQM 推進会議議員 並北第八病棟医長
	中村権一	熊本大学	H3	1991	総合診療科特任診療部長
	清田雅智	長崎大学	H7	1995	診療部長
	小田浩之	鹿児島大学	H8	1996	総合診療科診療部長 兼医療安全推進室リスクマネージャー 兼教育推進本部ラーニングセンター長 兼西二階病棟医長 兼 TQM 推進会議議員
	吉野俊平	長崎大学	H11	1999	集中治療科部長 兼救命救急センター副センター長 兼総合診療科主幹 兼 ICU 室長 兼救命救急評議会議員
	井上三四郎	鹿児島大学	H11	1999	診療部長
	松永 諭	琉球大学	H15	2003	診療部長
	赤岩 喬	大分大学	H16	2004	診療部長
	江本 賢	金沢大学	H18	2006	診療部長
	吉田 伸	名古屋市立大学	H18	2006	診療部長
	中安一夫	自治医科大学	H20	2008	診療部長
	桑野公輔	東海大学	H22	2010	集中治療科医長 兼総合診療科医長
	戸高貴文	島根大学	H23	2011	医長
	工藤仁隆	福岡大学	H24	2012	医長
	小杉俊介	熊本大学	H24	2012	総合診療科医長 兼東第五病棟副医長 兼 E5 準救急室長
	山口裕崇	九州大学	H24	2012	総合診療科医長 兼 E4 救急・HCU 副室長

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
総合診療科 (32名)	丸山淳也	長崎大学	H24	2012	医長
	鷓木友都	大阪大学	H25	2013	医長
	安田雄一	鳥取大学	H26	2014	医長代理
	山口瑠美	山口大学	H26	2014	医師
	北野峻介	長崎大学	H27	2015	医長代理
	薄 竜太郎	福島県立医科大学	H27	2015	医長代理
	宍戸諒平	札幌医科大学	H28	2016	医長代理
	小野正詩	香川大学	H28	2016	医長代理
	大西崇平	島根大学	H28	2016	医長代理
	黒川智美	福岡大学	H28	2016	医長代理
	桑原宏輔	久留米大学	H28	2016	医長代理
	大向功祐	札幌医科大学	H28	2016	医長代理
	細川 旬	福岡大学	H29	2017	医長代理
	柴田真志	広島大学	H29	2017	医長代理
	能美康彦	琉球大学	H30	2018	医長代理
	大内田良真	長崎大学	H30	2018	医長代理
感染症科 (2名)	沖中友秀	熊本大学	H27	2015	感染症科部長代行 兼感染管理センター長代行
	長谷川雄一	旭川医科大学	H27	2015	医長代理
膠原病・リウマチ内科 (4名)	内野愛弓	長崎大学	H13	2001	膠原病・リウマチ内科部長
	山内雄介	九州大学	H26	2014	医長代理
	日浦惇貴	九州大学	H27	2015	医長代理
	才木智尋	九州大学	H30	2018	医長代理
連携医療・緩和ケア科 (12名)	柏木秀行	筑波大学	H19	2007	連携医療・緩和ケア科部長 兼地域包括ケア推進本部副本部長 兼中央第六病棟医長
	松坂 俊	旭川大学	H19	2007	診療部長
	松本弥一郎	近畿大学	H23	2011	医長
	古川龍太郎	北海道大学 (大学院)	H23 (R4)	2011 (2022)	医長
	石上雄一郎	滋賀医科大学	H24	2012	医長
	中山隆弘	山梨大学	H26	2014	医長代理
	高橋佑輔	新潟大学	H28	2016	医長代理
	濱崎慎平	久留米大学	H28	2016	医長代理
	瀧崎蓉史	旭川医科大学	H29	2017	医長代理
	松本 学	長崎大学	H29	2017	医長代理
	大塚友貴	長崎大学	H29	2017	医長代理
	山端裕貴	弘前大学	H28	2016	医長代理
循環器内科 (10名)	西 淳一郎	九州大学 (九州大学大学院)	H12 (H21)	2000 (2009)	循環器内科部長 兼心不全ケア科部長
	稲永慶太	九州大学	H14	2002	循環器内科診療部長 兼 E4 救急・HCU 室長
	田中敬士	北海道大学	H16	2004	診療部長
	川上将司	大分大学 (熊大大学院)	H18 (H29)	2006 (2017)	診療部長
	高原勇介	九州大学	H19	2007	診療部長
	大賀泰寛	長崎大学 (九大大学院)	H20 (H28)	2008 (2016)	診療部長
	児島啓介	九州大学	H28	2016	医長代理
	眞柴貴久	久留米大学	H29	2017	医長代理
	溝上功明	九州大学	H30	2018	医長代理
	生田 拓	広島大学	H29	2017	医長代理

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
心臓血管外科 (3名)	内田孝之	九州大学	H1	1989	特任循環器病センター長 兼心臓血管外科部長 兼ハイブリッド手術センター長 兼臨床工学部長 兼医学研究推進本部 兼手術評議会議員 兼中央第五病棟医長 兼 C5HCU 室長
	松尾彰信	佐賀大学	H30	2018	医長代理
	石井数也	九州大学	R3	2021	専攻医
血管外科 (1名)	松元 崇	九州大学	H6	1994	血管外科部長
泌尿器科 (4名)	入江慎一郎	福岡大学(大学院)	H6 (H13)	1994 (2001)	泌尿器科部長 兼結石破碎室長 兼東第五病棟医長
	宮嶋哲匡	福岡大学(大学院)	H8 (H15)	1996 (2003)	診療部長
	丸田紘子	福岡大学	H26	2015	医長代理
	松岡和福	福岡大学	H29	2017	医長代理
外科 (9名)	山下洋市	九州大学(大学院)	H8 (H14)	1996 (2002)	外科統括部長 兼東第七病棟医長 兼東第八病棟医長 兼 E7HCU 室長 兼医学研究推進本部(学術研究員) 兼 TQM 推進会議議員
	黒田陽介	九州大学(大学院)	H13 (H19)	2001 (2007)	診療部長
	由茅隆文	筑波大学 (九大大学院)	H16 (H27)	2004 (2015)	診療部長
	中ノ子智徳	鹿児島大学 (九州大学大学院)	H16 (H26)	2004 (2014)	診療部長
	本村貴志	九州大学(大学院)	H18 (H24)	2006 (2012)	診療部長
	工藤健介	九州大学(大学院)	H20 (H29)	2008 (2017)	診療部長 兼医学研究推進本部(学術研究員)
	梶原脩平	佐賀大学 (佐賀大学大学院)	H23 (R3)	2011 (2021)	医長
	春野覚史	大分大学	H31	2019	専攻医
	池田俊司	九州大学	H31	2019	専攻医
消化管・内視鏡外科 (1名)	古賀 聡	佐賀医科大学	H8	1996	消化管・内視鏡外科部長
乳腺外科 (1名)	岡本正博	九州大学(大学院)	H8 (H14)	1996 (2002)	乳腺外科部長
呼吸器外科 (3名)	安田 学	産業医科大学 (大学院)	H7 (H14)	1995 (2002)	呼吸器外科部長
	篠原伸二	産業医科大学	H21	2009	医長
	田中完治	産業医科大学	H30	2018	医長代理
呼吸器腫瘍外科 (1名)	近石泰弘	産業医科大学	H16	2004	呼吸器腫瘍外科部長
小児外科 (1名)	竜田恭介	長崎大学	H13	2001	小児外科部長

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
腎臓内科 (9名)	藤崎毅一郎	鳥取大学	H11	1999	腎臓内科部長 兼腎センター長 兼血液浄化センター長 兼南 2A 病棟医長 兼入院透析室長 兼 TQM 推進会議議員
	中下さつき	福岡大学	H16	2004	診療部長
	牟田隆則	久留米大学	H24	2012	医長
	中俣悠亮	久留米大学	H26	2014	医長代理
	福満研人	川崎医科大学	H26	2014	医長代理
	竹内実芳	九州大学	H28	2016	医長代理
	松本英展	熊本大学	H29	2017	医長代理
	西田明弘	九州大学	H30	2018	医長代理
	山田彩乃	奈良県立医科大学	H28	2016	医長代理
小児科 (13名)	岡松由記	福岡大学	H12	2000	小児科部長 兼北第五病棟医長
	神田 洋	久留米大学	H8	1996	小児科診療部長 兼総合周産期母子医療センター長 兼総合周産期母子医療センター 新生児部門管理部長 並新生児室長
	大矢崇志	大分医科大学	H10	1998	診療部長
	坂口万里江	山口大学	H2	1990	診療部長
	田中祥一朗	久留米大学	H16	2004	診療部長
	田中ゆかり	久留米大学	H21	2009	医師
	齊木玲央	千葉大学	H21	2009	医長代理
	荒木潤一郎	佐賀大学	H22	2010	医長
	嘉村拓朗	徳島大学	H26	2014	医長代理
	吉田愛梨	琉球大学	H29	2017	医長代理
	松行圭吾	久留米大学	H29	2017	医長代理
	山木勇人	熊本大学	R2	2020	専攻医
	笹栗 誠	久留米大学	R2	2020	専攻医
耳鼻咽喉科 (3名)	深堀光緒子	福岡大学	H18	2006	耳鼻咽喉科部長
	伊東智樹	久留米大学	H29	2017	医長代理
	糸山 慧	長崎大学	R2	2020	専攻医
眼科 (5名)	中間崇仁	九州大学(大学院)	H20 (H28)	2008 (2016)	眼科部長
	森 賢一郎	愛媛大学 (九大大学院)	H26 (R4)	2014 (2022)	医長代理
	奥平景子	産業医科大学	H31	2019	専攻医
	橋本直樹		H30	2018	医長代理
	山川良太	九州大学	R3	2021	専攻医

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
整形外科 (10名)	原俊彦	熊本大学	H3	1991	整形外科部長 兼中央第三病棟医長
	浜崎晶彦	長崎大学	H5	1993	診療部長
	美浦辰彦	九州大学	H13	2001	診療部長
	藤村謙次郎	山形大学 (九大大学院)	H16 (H25)	2004 (2013)	診療部長
	園田和彦	九州大学(大学院)	H20 (H29)	2008 (2017)	診療部長
	小宮山敬祐	長崎大学 (九大大学院)	H20 (H31)	2008 (2019)	診療部長
	久保祐介	九州大学(大学院)	H20 (H30)	2008 (2018)	診療部長
	北拓海	九州大学	H30	2018	医長代理
	駒井傑	佐賀大学	R2	2020	専攻医
	中野暖基	九州大学	R3	2021	専攻医
麻酔科 (5名)	尾崎実展	宮崎医科大学	H1	1989	麻酔科部長兼手術センター長 兼中央手術室・中央材料室医長 並手術評議会議員
	田平暢恵	九州大学	H12	2000	診療部長
	内藤智孝	九州大学	H16	2004	診療部長
	大野幸	鹿児島大学 (鹿児島大学大学院)	H19 (H24)	2007 (2012)	診療部長
	濱井優輔	京都大学	H23	2011	医長
脳神経外科 (6名)	名取良弘	九州大学	S60	1985	特任副院長 兼脳神経外科部長 兼救命救急フィールド長 兼救命救急センター長 兼予防医学本部長補佐 兼経営戦略会議議長 兼ファシリティ本部長 兼救命救急評議会副議長 兼東第六病棟医長 兼TQM推進会議議員 兼手術評議会議員 兼医学研究推進本部(学術研究員)
	甲斐康稔	広島大学 (九州大学大学院)	H11 (H19)	1999 (2007)	診療部長
	井上大輔	九州大学(大学院)	H15 (H25)	2003 (2013)	診療部長
	迎伸孝	九州大学(大学院)	H18 (H29)	2006 (2017)	診療部長
	安部啓介	九州大学	H29	2017	医長代理
	要名本あゆみ	九州大学	H31	2019	専攻医
脳神経内科 (6名)	高瀬敬一郎	長崎大学 (九大大学院)	H10 (H20)	1998 (2008)	神経内科部長 兼脳卒中センター長 並南1A病棟医長
	園田啓太	九州大学	H17	2005	診療部長
	篠田紘司	九州大学(大学院)	H19 (H27)	2007 (2015)	診療部長
	進村光規	熊本大学	H20	2008	診療部長
	吉村基	鹿児島大学 (九大大学院)	H24 (R4)	2012 (2022)	医長
	倉沢亮	九州大学	H31	2019	専攻医

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
病理科 (5名)	大石善丈	九州大学(大学院)	H9 (H16)	1997 (2004)	病理科部長 兼検査部長
	平木由佳	九州大学	H20	2008	診療部長
	宮崎佳子	九州大学	H30	2018	医長代理
	増本陽介	九州大学	R3	2021	専攻医
	久保山雄介	九州大学	H28	2016	医長代理
皮膚科 (4名)	井手豪俊	熊本大学	H24	2012	皮膚科部長代行
	塩道泰子	熊本大学	H28	2016	医長代理
	永井貴子	宮崎大学	H28	2016	医長代理
	田中宏治	久留米大学	R2	2020	専攻医
形成外科 (2名)	井野 康	久留米大学	H11	1999	形成外科部長
	中村薫乃	鹿児島大学	H28	2016	医長代理
リエゾン精神科 (5名)	猪狩圭介	長崎大学 (九大大学院)	H16 (H29)	2004 (2017)	リエゾン精神科部長 兼心身合併症センター長 兼デイケアセンター長 兼西一階病棟医長 兼西三階病棟医長
	白玉 桜	群馬大学	H29	2017	医長代理
	嘉陽宗臣	九州大学	H29	2017	医長代理
	中山立慈	千葉大学	R2	2020	専攻医
	牧 亨	大阪医科大学	H28	2016	医長代理
産婦人科 (10名)	辻岡 寛	福岡大学(大学院)	H4 (H11)	1992 (1999)	産婦人科部長 兼北第七病棟医長 兼医学研究推進本部(学術研究員)
	後藤麻木	福岡大学(大学院)	H10 (H26)	1998 (2014)	産婦人科診療部長 兼総合周産期母子医療センター 産科部門管理部長 並北第六病棟医長
	西山 哲	自治医科大学	H16	2004	診療部長
	藤 庸子	長崎大学	H17	2005	診療部長
	李 理華	山口大学(大学院)	H17 (H24)	2005 (2012)	診療部長
	小田美穂	久留米大学	H26	2014	医師
	竹内 肇	旭川医科大学	H26	2014	医長代理
	林 宗太郎	北里大学	H28	2016	医長代理
	吉良さちの	三重大学	H29	2017	医長代理
	松野真莉子	産業医科大学	H30	2018	医長代理
放射線科 (1名)	佐々木智成	九州大学(大学院)	H4 (H12)	1992 (2000)	放射線科統括部長 兼放射線治療科主任部長 兼医学研究推進本部(学術研究員)
画像診療科 (6名)	三浦亘智	宮崎医科大学	H6	1994	画像診療科部長 兼 PET センター長
	鳥井芳邦	九州大学	S57	1982	診療部長
	永尾英毅	九州大学	H14	2002	診療部長
	鎌野宏礼	山口大学 (九大大学院)	H15 (H25)	2003 (2013)	診療部長
	植山達也	琉球大学	H29	2017	医長代理
	石井 椋	九州大学	R3	2021	専攻医
放射線治療科 (1名)	佐々木智成	九州大学(大学院)	H4 (H12)	1992 (2000)	放射線科統括部長 兼放射線治療科主任部長

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
歯科口腔外科 (5名)	中松耕治	九州大学(大学院)	S60 (H1)	1985 (1989)	歯科口腔外科特任顧問
	石井広太郎	九州大学(大学院)	H15 (H19)	2003 (2007)	歯科口腔外科部長
	木附智子	九州歯科大学 (九州大学大学院)	H22 (H28)	2010 (2016)	医長
	南部孝樹	九州大学	R4	2022	後期研修医
	加久美鈴	九州大学	R5	2023	研修医
漢方診療科 (5名)	井上博喜	鹿児島大学 (富山大学大学院)	H13 (H23)	2001 (2011)	漢方診療科部長
	矢野博美	佐賀医科大学	H6	1994	漢方診療科診療部長 兼予防医学本部予防医学センター長
	吉永 亮	自治医科大学	H16	2004	漢方診療科診療部長 兼医学研究推進本部誌
	中尾桂子	愛媛大学	H20	2008	診療部長
	原田直之	群馬大学	H21	2009	医長
救急科 (6名)	山田哲久	広島大学	H15	2003	救急科部長 兼救命救急センター副センター長 兼 H2 救急室長 兼救命救急評議会議員 兼医学研究推進本部(学術研究員)
	井上 聡	広島大学	H23	2011	医長
	香月洋紀	長崎大学	H26	2014	医長代理
	片桐 欧	帝京大学	H26	2014	医長代理
	川合喬之	愛媛大学	H27	2015	医長代理
	有吉 慧	信州大学	H29	2017	医長代理
集中治療科 (8名)	吉野俊平	長崎大学	H11	1999	集中治療科部長 兼救命救急センター副センター長 兼総合診療科主幹 兼 ICU 室長 兼救命救急評議会議員
	江本 賢	金沢大学	H18	2006	集中治療科診療部長 兼総合診療科診療部長
	川上大裕	大分大学	H21	2009	医長
	桑野公輔	東海大学	H22	2010	集中治療科医長 兼総合診療科医長
	鈴木祥太郎	愛知医科大学	H26	2014	医長代理
	林 碧	宮崎大学	H30	2018	医長代理
	岡崎太祐	東北大学	H30	2018	医長代理
	井上洋平	九州大学	H28	2016	医長代理
リハビリテーション科 (1名)	山下智弘	産業医科大学	H6	1994	リハビリテーション科部長代行
予防医学センター (1名)	矢野博美	佐賀医科大学	H6	1994	漢方診療科診療部長 兼予防医学本部予防医学センター長
内科 (4名)	青野美桜	愛媛大学	R3	2021	専攻医
	松岡友樹	島根大学	H31	2019	専攻医
	馬場晶子	広島大学	R2	2020	専攻医
	神山治木	琉球大学	R2	2020	専攻医
内科(内分泌・糖尿病 病内科)コース(2名)	北岡 優	長崎大学	R3	2021	専攻医
	美和兼太郎	熊本大学	R3	2021	専攻医

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
内科(呼吸器内科) コース(4名)	曾我部翔大	広島大学	R3	2021	専攻医
	齋藤 紫	岩手医科大学	H31	2019	専攻医
	内田和紀	山口大学	H31	2019	専攻医
	村上陽亮	佐賀大学	H31	2019	専攻医
内科(消化器内科) コース(2名)	若杉晃伸	宮崎大学	H30	2018	専攻医
	翁 安	九州大学	R3	2021	専攻医
内科(連携医療・緩和 ケア科)コース(2名)	小栗知也	長崎大学	R3	2021	専攻医
	豊島孝幸	札幌医科大学	H31	2019	専攻医
内科(総合診療科) コース(18名)	池田政勝	川崎医科大学	H29	2017	専攻医
	浅田紘輔	大阪大学	H31	2019	専攻医
	藤田泰裕	鹿児島大学	H31	2019	専攻医
	福田雄太	長崎大学	H31	2019	専攻医
	笠井雅大	福岡大学	H31	2019	専攻医
	加藤夕貴	岐阜大学	R2	2020	専攻医
	中尾賢一	岐阜大学	R2	2020	専攻医
	白神佳奈	長崎大学	R3	2021	専攻医
	木村浩史	福井大学	R3	2021	専攻医
	宮本翔太	山口大学	H29	2017	専攻医
	東 将希	佐賀大学	R2	2020	専攻医
	大関佳奈	福島県立医科大学	R2	2020	専攻医
	藤村 遼	福岡大学	R3	2021	専攻医
	山下大裕	山口大学	R3	2021	専攻医
	光廣直貴	鹿児島大学	H31	2019	専攻医
	高井咲弥	九州大学	R2	2020	専攻医
中野公介	藤田医科大学	R2	2020	専攻医	
	伊藤有沙	Peninsula College of Medicine and Dentistry (英国)	H26	2014	専攻医
内科(循環器内科) コース(6名)	北原賢一	長崎大学	H31	2019	専攻医
	小宮圭一郎	佐賀大学	H31	2019	専攻医
	田淵拓也	九州大学	H31	2019	専攻医
	北出 希	琉球大学	R3	2021	専攻医
	佐藤 祐	広島大学	R3	2021	専攻医
縄田英吾	九州大学	R2	2020	専攻医	
内科(血液内科) コース(1名)	澤邊太郎	神戸大学	R2	2020	専攻医
内科(腎臓内科) コース(1名)	岡村のぞみ	九州大学	R2	2020	専攻医
内科(漢方診療科) コース(1名)	田口泰透	琉球大学	R3	2021	専攻医
小児科コース (1名)	田中友規	関西医科大学	H30	2018	専攻医
外科コース (2名)	川下知英	名古屋大学	R2	2020	専攻医
	中江信明	奈良大学	H30	2018	専攻医
麻酔科コース (2名)	添田亜友	佐賀大学	R2	2020	専攻医
	添田浩史	佐賀大学	R2	2020	専攻医

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
救急科コース (9名)	有田雄紀	大分大学	H31	2019	専攻医
	山崎陽平	九州大学	H31	2019	専攻医
	小高聡子	東京大学	H31	2019	専攻医
	館 祐香里	富山大学	R2	2020	専攻医
	岩佐和樹	大分大学	H28	2016	専攻医
	金銅大祐	京都大学	R3	2021	専攻医
	谷 昌憲	岩手医科大学	R3	2021	専攻医
	新元貴久	産業医科大学	H31	2019	専攻医
	宮里実幸	旭川医科大学	H31	2019	専攻医
産婦人科コース (3名)	笹野奈穂	長崎大学	R3	2021	専攻医
	八木光生	長崎大学	R3	2021	専攻医
	安部直希	琉球大学	H31	2019	専攻医
総合診療コース (18名)	大坪寛央	熊本大学	H27	2015	専攻医
	井上友美	長崎大学	H28	2016	専攻医
	橋本彦太郎	長崎大学	H28	2016	専攻医
	光山由祐	久留米大学	H29	2017	専攻医
	寺司佳代	大分大学	H30	2018	専攻医
	渡邊航大	九州大学	H30	2018	専攻医
	矢野恒太	久留米大学	H31	2019	専攻医
	高橋啓悟	岩手医科大学	H31	2019	専攻医
	新谷あん	香川大学	H31	2019	専攻医
	藤村和弥	福岡大学	H31	2019	専攻医
	溝口朋実	熊本大学	H31	2019	専攻医
	西泊翔太	福岡大学	H31	2019	専攻医
	川口湧水	熊本大学	R2	2020	専攻医
	武 貞輝	久留米大学	R3	2021	専攻医
	山本幸近	長崎大学	R2	2020	専攻医
	二宮辰光	久留米大学	R3	2021	専攻医
	土田紗愛	新潟大学	R3	2021	専攻医
	大谷 昂	鹿児島大学	R3	2021	専攻医
研修医 (35名)	秋葉美里	鹿児島大学	R4	2022	研修医
	青山諒子	大阪医科薬科大学	R4	2022	研修医
	石原健人	福岡大学	R4	2022	研修医
	内田壮平	自治医科大学	R4	2022	研修医
	宇野大樹	山形大学	R4	2022	研修医
	太田宜宏	九州大学	R4	2022	研修医
	飯藤依里子	久留米大学	R4	2022	研修医
	木原沙也加	近畿大学	R4	2022	研修医
	笹本 晃	帝京大学	R4	2022	研修医
	佐藤ひかる	長崎大学	R4	2022	研修医
	柴山道登	三重大学	R4	2022	研修医
	末次駿一	岡山大学	R4	2022	研修医
	竹井雅人	長崎大学	R4	2022	研修医
	谷川裕美	山口大学	R4	2022	研修医
	田村知佳子	大分大学	R4	2022	研修医
	星合亮尚	慶應義塾大学	R4	2022	研修医
	和田くる実	福岡大学	R4	2022	研修医
伊藤 駿	琉球大学	R5	2023	研修医	

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
研修医 (35名)	江藤慎平	広島大学	R5	2023	研修医
	小倉畑雄也	熊本大学	R5	2023	研修医
	川崎裕哉	大分大学	R5	2023	研修医
	久保田良晴	九州大学	R5	2023	研修医
	小磯圭貴	九州大学	R5	2023	研修医
	河野康平	徳島大学	R5	2023	研修医
	郡日菜子	熊本大学	R5	2023	研修医
	坂本百合子	群馬大学	R5	2023	研修医
	田島知宙	久留米大学	R5	2023	研修医
	西村映実里	高知大学	R5	2023	研修医
	塗木海斗	九州大学	R5	2023	研修医
	牧野佐和子	獨協医科大学	R5	2023	研修医
	村中瑞旗	熊本大学	R5	2023	研修医
	米野正識	九州大学	R5	2023	研修医
	山崎翔太郎	福岡大学	R5	2023	研修医
	山邊桃子	長崎大学	R5	2023	研修医
	渡邊安未	鹿児島大学	R5	2023	研修医
産業医	大久保直紀	産業医科大学 (大学院)	H24 (R4)	2012 (2022)	産業医

2. 看護師長・主任名簿

所 属		職 名	氏 名	所 属		職 名	氏 名
看護部		副院長兼看護部長	森山由香	南病棟	南 3A 病棟	看護師長	姫野美佐子
		看護管理師長	倉智恵美子			看護主任	吉田千絵
		看護管理師長	梶原優子		南 3B 病棟	看護管理師長 兼病棟看護師長	和田麻美
北第八病棟	看護師長	日置由季	看護主任				月俣千鶴
	看護主任代行	櫻井喜代	看護主任				濱田美智子
北第七病棟	看護師長	小原智恵子	南 2A 病棟		看護師長	小松加寿子	
	看護主任	山本百恵		看護主任	浦田 遥		
北第六病棟	看護師長	中山和子	南 1A 病棟	看護師長	西本美香		
	看護主任	藤田起代美		看護主任	片岡賀美		
北第五病棟	看護師長	立川 翠	西三階病棟	看護師長	秀島陽子		
	看護主任	中尾里美		看護主任	満園真紀子		
北第五病棟 (NICU・GCU)	看護師長(兼)	立川 翠	西二階病棟	看護師長	仲 祐司		
	看護主任	長崎佳代		看護主任	吉田佳代		
東第八病棟	看護師長	加治屋晶子	西一階病棟	看護師長	溝田智美		
	看護主任	田中美香		看護主任	浦田吉広		
	東第七病棟	看護師長	石飛一枝	血液浄化センター	看護師長	乗次瑞穂	
看護主任		白土加代	がん集学治療センター		看護師長	佐藤香緒里	
看護主任		高木理恵			看護主任	木森由紀子	
東第六病棟	看護主任	辰島里美	外来化学療法室	看護師長(兼)	佐藤香緒里		
	看護師長	佐野美和子		看護主任	横溝千登勢		
	看護主任	藤井美保	H2 救急	看護管理師長 兼病棟看護師長	長田孝幸		
看護主任	新垣晴佳	看護主任		大塚真由			
東第五病棟	看護管理師長 兼病棟看護師長	久保佳子	救命救急センター	救急統括マネージャー	渡邊恵里子		
	看護主任	松岡知美		看護師長	野見山由美子		
	看護主任	中村教代	看護主任	山寄量博			
東第四病棟	看護師長	梅野陽香	14A	看護主任	福村陽子		
	看護主任	有働あゆみ	14B	看護師長	中島久美子		
E4 救急・HCU	看護師長	小畑亜紀子		看護主任	吉田嘉子		
	看護主任	矢津田あざみ	13A	看護主任	飯島紀子		
中央手術室	看護師長	花村裕美	13B	看護主任	高口則子		
	看護主任	矢野知代		看護主任	田中百合子		
	看護主任	兼頭直樹	11A・11B 兼 12A・12B	フロアマネージャー	渡辺由香利		
	看護主任	成松 慧	12A	看護師長	森田理真子		
ICU	看護師長	坂本雅美	12B	看護主任	金森恵美		
	看護主任	藤岡智恵	11B	看護主任	宮西博子		
	看護主任	石垣あい	画像診療科	看護師長	野島 薫		
中央第六病棟	看護師長	細川智美	放射線治療科	マネージャー(兼)	渡邊恵里子		
	看護主任	舛田能生子		看護主任	松山純子		
	看護主任	宮崎万友子	漢方診療科	看護主任	辻 直美		
中央第五病棟	看護師長	木村美香	リエゾン精神科	看護主任	吉村麻紀子		
	看護主任	重藤綾子	小児科	看護師長	竹中久美		
	看護主任	日野久美子	眼科	看護主任	中原梨恵		
中央第四病棟	看護師長	田中あづさ	耳鼻咽喉科	看護主任	谷川由佳		
	看護主任	花田千穂	看護部調査	特定行為推進担当	マネージャー	百瀬栄美子	
中央第三病棟	看護主任	堤 瑞穂		看護師長	看護師長	許斐綾子	
	看護師長	小島 薫	看護主任	看護師長	上川重昭		
	看護主任	長谷川千絵					

3. 医療技術部門役職者名簿

所 属	職 名	氏 名	
副院長	医療技術部門長	井本俊之	
薬剤部	薬剤長	梅田勇一	
	副薬剤長 (京都病院出向)	林 勝次	
	副薬剤長	進 健司	
	副薬剤長	神野貴子	
	主任	中嶋弘之	
	主任	秋吉菜穂	
	主任	富永麻衣子	
	主任	秀島里沙	
	主任	松永尚子	
	主任	小田怜史	
	主任	小田有紀	
	中央検査部	技師長	犬丸絵美
		副技師長	川野和彦
主任		井上佳奈子	
主任		森 俊明	
主任		藤上祐子	
主任		浦園真司	
主任		川嶋大輔	
主任		吉田真紀	
中央放射線部	技師長	宮原信一郎	
	副技師長	萩尾清文	
	副技師長	満園耕治	
	主任	西谷芳徳	
	主任	梶嶋哲雄	
	主任	白石 隆	
	主任	井下田栄吉	
	主任	太田黒大明	
	主任	鳥江功二	
	主任代行	中村浩太	
	リハビリテーション部	技師長	甲斐田幸輝
		副技師長	山崎哲弘
		副技師長	宮本隆寿
副技師長		井上智博	
主任		阿比留はるか	
主任		石川清美	
主任		西村天利	
主任		安藤幸助	
主任		坂口裕美	
主任		田中雅也	
主任		井上浩子	
主任		栗田芳宏	
主任		大坪 翔	
臨床工学部	技師長	小田和也	
	副技師長	村上輝之	
	副技師長(兼)	井桁洋貴	
	主任	清水重光	
	主任	沖永一樹	
	主任	金城依子	
	主任	黒瀬 努	
	主任	松岡翔平	
	主任	伊藤明広	
	栄養部	マネージャー(兼)	小野清恒
技師長		重松由美	
副技師長		田代千恵子	
主任		岸川芙貴子	
主任		高田圭子	
主任		椿 さとみ	
主任		黒田将介	
医療福祉室		副技師長 (兼地域連携センター副センター長 兼がん相談支援センター長)	浦川雅広
	主任	樋口愛紀子	
	主任	住吉まゆみ	
	主任	原田恵実	
	主任	竹下明子	
	主任	原田恵実	
臨床心理室	主任	竹下明子	
歯科衛生室	副技師長	本田智恵子	
	主任代行	河野真由美	
救急救命室	室長	木下了丞	
	副室長	小峠博樹	
	主任	大峯将幹	

4. 経営管理部門等役職者名簿

所 属	職 名	氏 名
特任副院長（兼医療連携本部長）		岩佐紀輝
経営管理部長		池 賢二郎
経営管理部特任副部長（兼）		藤野泰典
経営管理部特任副部長（兼）		木下了丞
経営管理部マネージャー		皆川栄治
企画管理課	課長	森 智之
	課長代理	仲吉 翔
	DX 推進室長	倉重貴彰
広報課	課長	都留和宏
	課長代理	内田静香
医事課	課長	吉田孝一
	課長代理	原田智史
	主任	竹下直美
	主任	今津好美
	主任	中尾麻美
	主任	細川留理子
	主任	小栗沙織
	主任(東病棟担当)	石松孝子
	主任	吉田香代
人事課	課長	古谷秀文
	マネージャー	松岡英道
	課長代理	中村良江
	課長代理 (医務室担当)	古賀明弘
総務課	救命救急センター事務長	木下了丞
	課長（兼）	小野清恒
	課長代理	田原和幸
経理課	課長	吉武成美
資材課	課長（兼）	藤野泰典
	課長代理	細川忠行
	課長代理	柏木浩志
診療支援課	課長	阿部弘子
	主任	辻口大輔
情報システム室	室長	城野政博
診療情報管理室	室長（兼）	福村文雄
	サブマネージャー	光武和寿
	主任	松田加奈子
施設環境サービス課	課長	兼実孝志
治験管理室	副室長	荒木哲也
臨床研究支援室	室長（兼）	井村 洋
	副室長	古賀秀信
改善推進本部	マネージャー	立石奈々
	サブマネージャー	寺岡理恵子
	サブマネージャー	兵道哲彦
医療連携本部 地域連携センター	センター長	田村美恵
	師長（兼）	長岡由起
	主任	財津恵美
	主任	山中良子
	主任	西岡順子
予防医学センター	マネージャー	秋永理恵
	主任	草本君子
地域包括ケア推進本部	マネージャー	小栗和美
	主任	幸野亜希子
イノベーション推進本部	マネージャー(兼)	井桁洋貴
工房・知財管理室	室長（兼）	井桁洋貴
教育推進本部	マネージャー	日高幸彦
	主任	江里口杏平
北第七病棟	主任クラーク	勝木奈穂
中央材料室	室長	小田和也

5. 主要委員会

①常設委員会

ブロック名称	ブロック長	委員会名称	委員長	副委員長	委員数*
業務安全	増本陽秀	医療ガス安全管理委員会	内藤智孝	村上輝之	4名
		放射線安全委員会・特定 放射性同位元素防護委員会	佐々木智成	宮原信一郎	9名
		感染管理委員会	増本陽秀	沖中友秀	13名
		労働安全衛生委員会	増本陽秀	—	39名
		医師の負担軽減・処遇改善委員会	増本陽秀	—	39名
物品購入	増本陽秀	薬事委員会	増本陽秀	梅田勇一	7名
		資材委員会	増本陽秀	—	11名
医療の質のモニター	中島雄一	ISO委員会	名取良弘	中嶋弘之	25名
		TQM活動推進委員会	中島雄一	—	16名
		クリニカルパス委員会	辻岡 寛	梶原優子	20名
		QI委員会	白土基明	名取良弘	9名
		患者経験価値向上委員会	中島雄一	柏木秀行	11名
医療の安全管理	福村文雄	急変対応委員会	小田浩之	山田哲久	18名
		MRM委員会	福村文雄	—	19名
		透析機器安全管理委員会	藤崎毅一郎	沖永一樹	5名
		病院食サービス委員会	井上智彰	大西崇平	5名
情報管理	福村文雄	情報システム委員会	清田雅智	山田哲久	15名
		診療情報管理委員会	福村文雄	—	13名
教育・研修	井村 洋	研修管理委員会	井村 洋	—	40名
		図書委員会	藤崎毅一郎	小野清恒	8名
		クレデンシャル委員会	名取良弘	—	40名
		手術室業務改善委員会	尾崎実展	花村裕美	12名
		特定行為管理委員会	名取良弘	—	11名
		地域医療支援研修委員会	岩佐紀輝	—	5名
倫理	名取良弘	倫理委員会	名取良弘	—	17名
		臨床研究管理委員会	白土基明	—	13名
		治験審査委員会	原 俊彦	靄野広介	12名
		脳死判定委員会	高瀬敬一郎	岡松由記	8名
		小児虐待防止委員会	田中祥一朗	—	23名
		患者行動制限最小化委員会	猪狩圭介	—	3名
		個人情報保護委員会	福村文雄	—	8名
診療の適正化	本村健太	呼吸管理委員会	飛野和則	野見山由美子	21名
		褥瘡管理委員会	井手豪俊	井野 康 加治屋晶子	14名
		栄養管理委員会	松永 諭	—	11名
		輸血療法委員会	喜安純一	濱井優輔	12名
		診療報酬適正管理委員会	清田雅智	梶原優子	10名
		臨床検査適正化委員会	大石善丈	犬丸絵美	12名
がん診療	本村健太	がん診療連携委員会	本村健太	—	12名
		がん集学治療委員会	古賀 聡	白土基明	14名
		緩和ケア委員会	柏木秀行	中山隆弘 宮崎万友子	10名

*委員数：委員長、副委員長を除く数（事務局含む）

②看護部常設委員会

委員会名称	委員長	所属	委員数
業務改善委員会 (セル看護委員会)	小松加寿子	南 2A 病棟看護師長	29 名
看護手順・基準委員会	立川 翠	北第五病棟看護師長 兼北第五病棟 (NICU・GCU) 看護師長	31 名
教育委員会	乗次瑞穂	血液浄化センター看護師長	34 名
臨床指導者委員会	姫野美佐子	南 3A 病棟看護師長	35 名
看護研究委員会	田中あづさ	中央第四病棟看護師長	8 名
看護記録委員会	梶原優子	看護管理師長	10 名

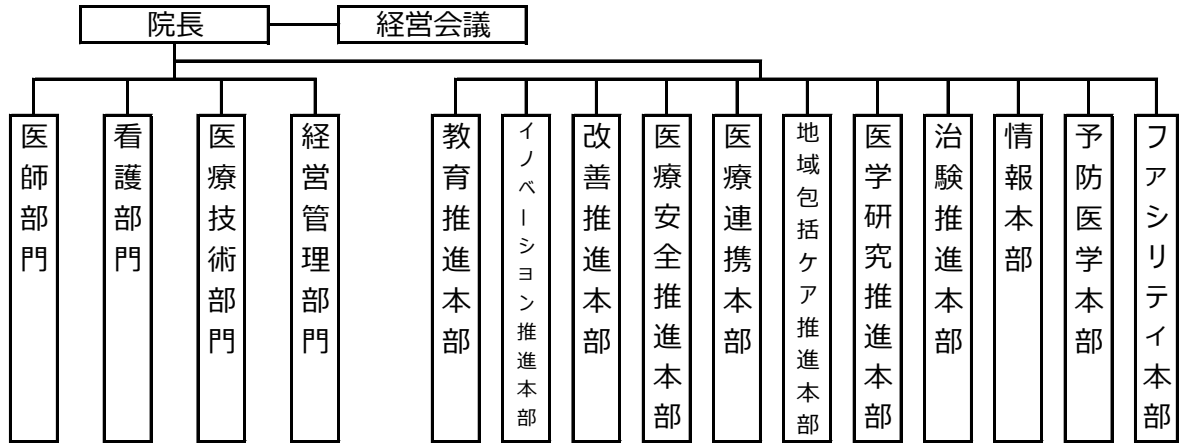
2023年12月31日現在

〔Ⅸ〕 飯塚病院概況 他

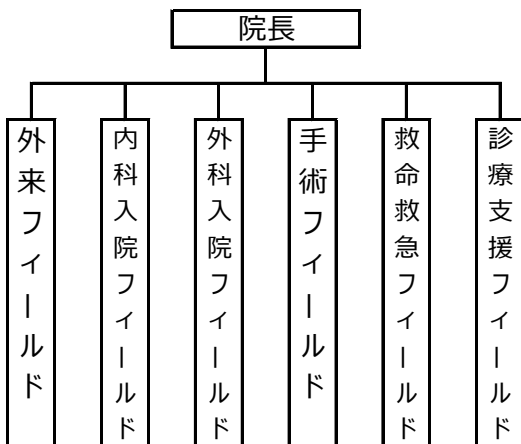
1. 飯塚病院組織図

飯塚病院 組織図

部門・本部



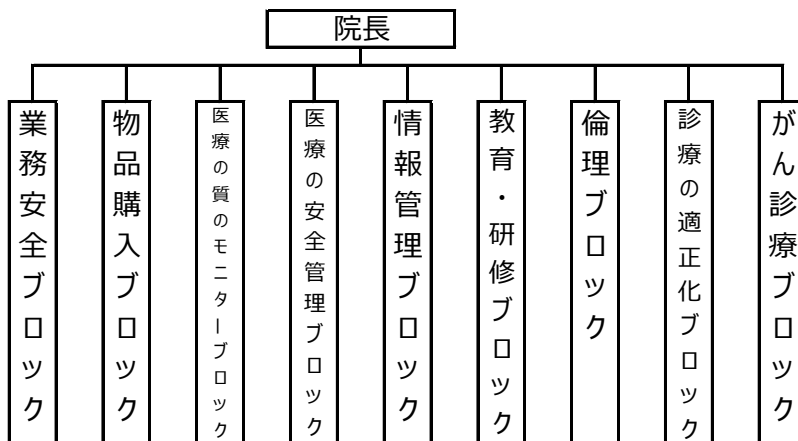
診療フィールド



院長直轄の会議体

住民医療協議会
地域医療支援病院運営委員会
幹部会
日本一のまごころ病院実現諮問会議
経営戦略会議
フィールド長会議
卒後教育評議会
救命救急評議会
手術評議会
イノベーション改善運営会議
地域包括ケア推進会議
TQM推進会議
医療事故対策会議

常設委員会



部門

診療現場の生産性、診療の質を担保する上で必要な人材やその他の資源を管理し、将来の方向性、指針などをとりまとめ実行する組織体

医師部門

総合診療科
循環器内科
心不全ケア科
呼吸器内科
呼吸器腫瘍内科
消化器内科
肝臓内科
膠原病・リウマチ内科
腎臓内科
内分泌・糖尿病内科
血液内科
脳神経内科
小児科
リエゾン精神科
心療内科
漢方診療科
外科
消化管・内視鏡外科
乳腺外科
呼吸器外科
呼吸器腫瘍外科
心臓血管外科
血管外科
小児外科
産婦人科
整形外科
脳神経外科
眼科
耳鼻咽喉科
泌尿器科
皮膚科
形成外科
麻酔科
歯科口腔外科
救急科
集中治療科
放射線科
画像診療科
放射線治療科
連携医療・緩和ケア科
感染症科
リハビリテーション科
病理科

看護部門

看護部

医療技術部門

薬剤部
中央検査部
技術・教育・研究指導室
中央放射線部
栄養部
リハビリテーション部
臨床工学部
医療福祉室
歯科衛生室
臨床心理室
救急救命室

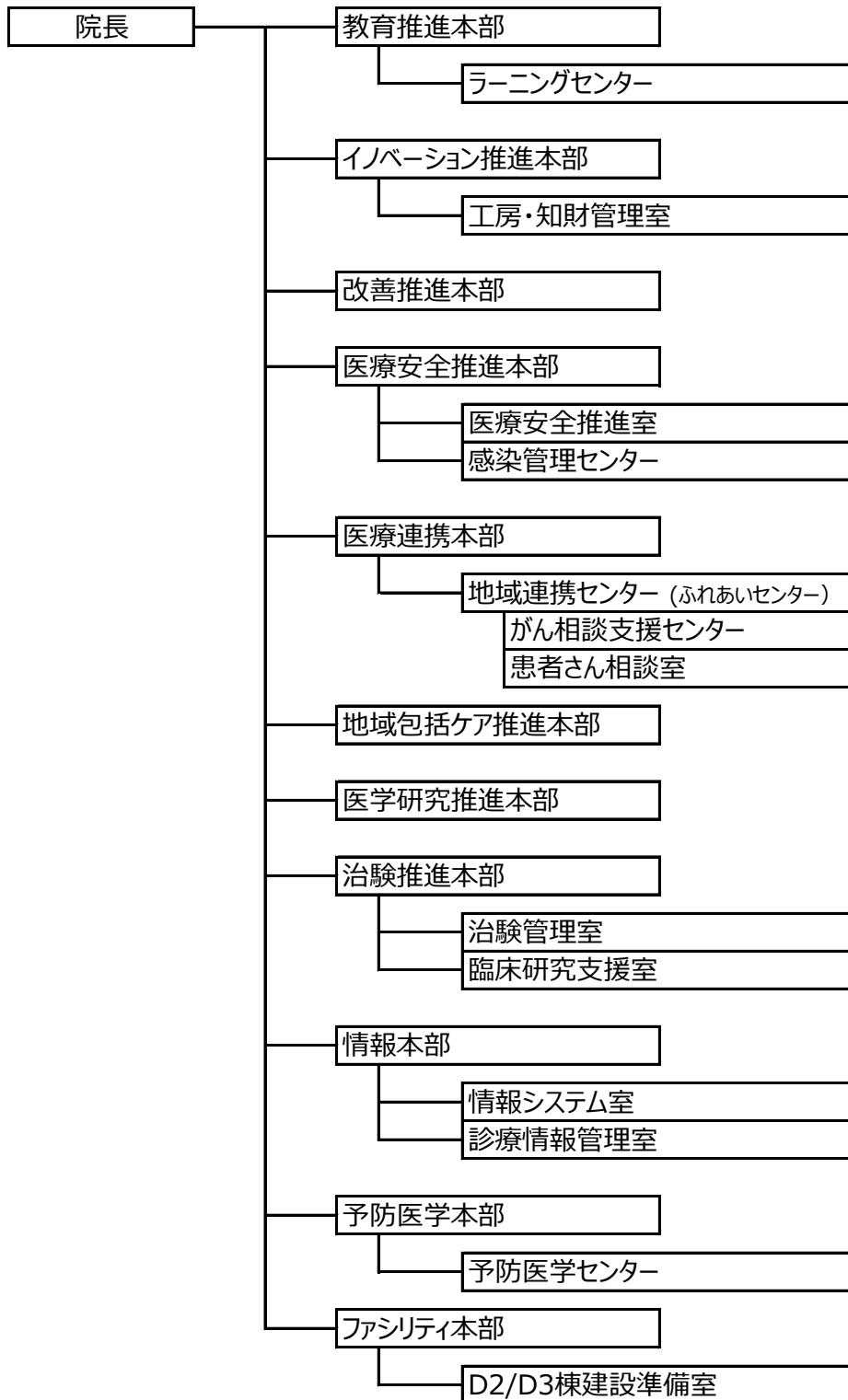
経営管理部門

経営管理部

企画管理課
DX推進室
広報課
医事課
人事課
医務室
総務課
警備室
電話交換室
図書室
経理課
施設・環境サービス課
資材課
診療支援課

本部

院長特命の課題・分野において方針をとりまとめ、部門横断的にマネジメントを行う部署



診療フィールド

診療現場において適正な医療が提供できるよう各診療科・現場内でコミュニケーションを密にとり、現場内の問題を解決していく場

外来フィールド

11A	総合受付 (トリアージセンター)
11B	総合診療科 感染症科
11D	会計
11E	PET・核医学センター
12A	肝臓内科
	膠原病・リウマチ内科 (膠原病・リウマチセンター)
	内分泌・糖尿病内科
	血液内科
	整形外科
12B	腎臓内科
13A	産婦人科
	泌尿器科
	皮膚科
	形成外科
13B	脳神経内科
	外科
	呼吸器外科
	脳神経外科
	麻酔科
連携医療・緩和ケア科	
14A	循環器内科
	呼吸器内科
	消化器内科
	心療内科
	心臓血管外科
	血管外科
14B	内視鏡センター
31	放射線治療科
34	血液浄化センター
50	リハビリテーション科
51C	画像診療科
52A	眼科
52B	耳鼻咽喉科
52D	小児科
	小児外科
52E	歯科口腔外科
52F	漢方診療科 (東洋医学センター)
61	デイケアセンター
71	リエゾン精神科

内科入院フィールド

中央第六病棟
中央第四病棟
C4HCU
南3A病棟
南3B病棟
南2A病棟
入院透析室
南1A病棟
東第四病棟
H3F (がん集学治療センター)
外来化学療法室
西三階病棟 (心身合併症センター)
西二階病棟
西一階病棟
北第八病棟
北第五病棟
NICU・GCU

外科入院フィールド

中央第五病棟
C5HCU
中央第三病棟
東第八病棟
東第七病棟
E7HCU
東第六病棟
東第五病棟
北第七病棟
北第六病棟・MFICU

手術フィールド

手術センター
外来手術センター
ハイブリッド手術センター
中央手術室
中央材料室
病理科

救命救急フィールド

救命救急センター
救急外来
ICU
H2救急
E4救急
E5準救急
E6救急
E4HCU
高気圧酸素治療室
救急救命室

診療支援フィールド

薬剤部
中央検査部
中央放射線部
栄養部
リハビリテーション部
臨床工学部
医療福祉室
歯科衛生室
臨床心理室

● 機能的センター群

総合周産期母子医療センター
循環器病センター
呼吸器病センター
脳卒中センター
腎センター

常設委員会

法的及び社会的責任を果たすために設置され、病院経営や運営に直結し、期限を定めず定期的な開催を行う会議体

業務安全ブロック	<ul style="list-style-type: none"> 医療ガス安全管理委員会 放射線安全委員会・特定放射性同位元素防護委員会 感染管理委員会 労働安全衛生委員会 医師の負担軽減・処遇改善委員会
物品購入ブロック	<ul style="list-style-type: none"> 薬事委員会 資材委員会
医療の質のモニターブロック	<ul style="list-style-type: none"> ISO委員会 TQM活動推進委員会 クリニカルパス委員会 QI委員会 患者経験価値向上委員会
医療の安全管理ブロック	<ul style="list-style-type: none"> 急変対応委員会 MRM委員会 透析機器安全管理委員会 病院食サービス委員会
情報管理ブロック	<ul style="list-style-type: none"> 情報システム委員会 診療情報管理委員会
教育・研修ブロック	<ul style="list-style-type: none"> 研修管理委員会 図書委員会 クレデンシャル委員会 手術室業務改善委員会 地域医療支援病院研修委員会 特定行為管理委員会
倫理ブロック	<ul style="list-style-type: none"> 倫理委員会 臨床研究管理委員会 治験審査委員会 脳死判定委員会 小児虐待防止委員会 患者行動制限最小化委員会 個人情報保護委員会
診療の適正化ブロック	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸管理委員会 褥瘡管理委員会 栄養管理委員会 輸血療法委員会 診療報酬適正管理委員会 臨床検査適正化委員会
がん診療ブロック	<ul style="list-style-type: none"> がん診療連携委員会 がん集学治療委員会 緩和ケア委員会

2. 概 要

(2023年12月現在)

名 称：飯塚病院
開 設：大正7年(1918年)8月
開 設 者：株式会社麻生 代表取締役社長 麻生 巖
所 在 地：福岡県飯塚市芳雄町3番83号
病 院 区 分：地域医療支援病院
院 長：増本陽秀
名 誉 院 長：田中二郎
副 院 長：本村健太、森山由香、井本俊之
特 任 副 院 長：安藤廣美、山本英彦、鮎川勝彦、井村 洋、江口冬樹、赤星和也、名取良弘、
福村文雄、中島雄一、岩佐紀輝

許 可 病 床 数：1,048床(一般978床、精神70床)

敷 地 面 積：46,272.26㎡

延 床 面 積：71,429.87㎡

職 員 数：

医 師	365名
看 護 師	1,049名
医 療 技 術 者	581名
事 務 そ の 他	436名
計	2,431名

病 棟 数：北棟7病棟、東棟10病棟、ハイケア棟2病棟、中央棟6病棟、南棟4病棟、
西棟3病棟、計32病棟

診 療 科 目：43科

肝臓内科 消化器内科 呼吸器内科 呼吸器腫瘍内科 内分泌・糖尿病内科
血液内科 心療内科 総合診療科 膠原病・リウマチ内科 連携医療・緩和ケア科
循環器内科 心不全ケア科 心臓血管外科 血管外科 泌尿器科 外科
消化管・内視鏡外科 乳腺外科 呼吸器外科 呼吸器腫瘍外科 小児外科
腎臓内科 小児科 耳鼻咽喉科 眼科 整形外科 麻酔科 脳神経外科
脳神経内科 病理科 皮膚科 形成外科 リエゾン精神科 産婦人科 画像診療科
放射線科 放射線治療科 歯科口腔外科 漢方診療科 感染症科 救急科
集中治療科 リハビリテーション科

施設基準届出状況

1) 基本診療料

地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科外来診療環境体制加算
歯科診療特別対応連携加算
情報通信機器を用いた診療に係る基準
一般病棟入院基本料（急性期一般入院基本料1）
精神病棟入院基本料（15対1）
重度認知症加算（精神入院）
障害者施設等入院基本料（10対1）
看護補助体制充実加算（障害入院）
夜間看護体制加算（障害入院）
急性期充実体制加算
精神科充実体制加算
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算1
医師事務作業補助体制加算1（15対1）
急性期看護補助体制加算（25対1）看護補助者5割以上
夜間100対1急性期看護補助体制加算
看護補助体制充実加算
看護職員夜間配置加算（12対1）
特殊疾患入院施設管理加算
看護配置加算
看護補助加算1
看護補助体制充実加算
療養環境加算
重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算2
緩和ケア診療加算
精神科身体合併症管理加算
精神科リエゾンチーム加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算1
医療安全対策地域連携加算
感染対策向上加算1
指導強化加算
患者サポート体制充実加算
重症患者初期支援充実加算
報告書管理体制加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算
ハイリスク分娩管理加算
呼吸ケアチーム加算
術後疼痛管理チーム加算
病棟薬剤業務実施加算1
データ提出加算2
入退院支援加算1及び加算3
地域連携診療計画加算
入院時支援加算
総合機能評価加算
認知症ケア加算1
せん妄ハイリスク患者ケア加算
精神疾患診療体制加算
地域医療体制確保加算
地域歯科診療支援病院入院加算
救命救急入院料1
精神疾患診断治療初回加算

救急体制充実加算2
小児加算
特定集中治療室管理料2
算定日数上限に関する施設基準
小児加算
早期離床・リハビリテーション加算
重症患者対応体制強化加算
ハイケアユニット入院医療管理料1
新生児特定集中治療室管理料2
新生児治療回復室入院医療管理料
小児入院医療管理料2
緩和ケア病棟入院料1
短期滞在手術等基本料1
短期滞在手術等基本料2
看護職員処遇改善評価料

2) 特掲診療料

歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
ウイルス疾患指導料
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導料イ
がん患者指導料ロ
がん患者指導料ハ
がん患者指導料ニ
外来緩和ケア管理料
糖尿病透析予防指導管理料
乳腺炎重症化予防・ケア指導料
婦人科特定疾患治療管理料
腎代替療法指導管理料
二次性骨折予防継続管理料1
二次性骨折予防継続管理料3
下肢創傷処置管理料
地域連携小児夜間・休日診療料2
地域連携夜間・休日診療料
院内トリアージ実施料
外来放射線照射診療料
外来腫瘍化学療法診療料1
開放型病院共同指導料
がん治療連携計画策定料
肝炎インターフェロン治療計画料
ハイリスク妊産婦連携指導料1
ハイリスク妊産婦連携指導料2
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料1
医療機器安全管理料2
医療機器安全管理料（歯科）
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
在宅療養後方支援病院
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定

持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）	処置の休日加算 1（歯科点数表第 2 章第 8 部処置の通則の 6 に規定する処置の休日加算 1）
遺伝学的検査	処置の時間外加算 1（歯科点数表第 2 章第 8 部処置の通則の 6 に規定する処置の時間外加算 1）
骨髓微小残存病変量測定	処置の深夜加算 1（歯科点数表第 2 章第 8 部処置の通則の 6 に規定する処置の深夜加算 1）
B R C A 1 / 2 遺伝子検査	硬膜外自家血注入
先天性代謝異常症検査	人工腎臓
HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	導入期加算 2 及び腎代替療法実績加算
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
検体検査管理加算（IV）	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
国際標準検査管理加算	難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対する LDL アフェレシス療法
遺伝カウンセリング加算	根管内異物除去（手術用顕微鏡加算）
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	CAD/CAM 冠
胎児心エコー法	皮膚移植術（死体）
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る）
ヘッドアップティルト試験	緊急整復固定加算及び緊急挿入加算
長期継続頭蓋内脳波検査	骨移植術（軟骨移植術を含む）（自家培養軟骨移植術に限る）
脳波検査判断料 1	内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
神経学的検査	脳刺激装置埋込術（頭蓋内電極植込術を含む）及び脳刺激装置交換術
ロービジョン検査判断料	緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
コンタクトレンズ検査料 1	緑内障手術（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
小児食物アレルギー負荷試験	緑内障手術流出路再建術（眼内法）
C T 透視下気管支鏡検査加算	緑内障手術濾過胞再建術（needle 法）
精密触覚機能検査	網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いるもの）
経気管支凍結生検法	網膜再建術
画像診断管理加算 2	経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
ポジトロン断層撮影	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む）
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
CT 撮影及び MRI 撮影	顎関節人工関節全置換術（歯科）
冠動脈 CT 撮影加算	乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネルリンパ節生検（併用）（乳がんセンチネルリンパ節加算 1）
血流予備量比コンピューター断層撮影	乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検（単独）（乳がんセンチネルリンパ節加算 2）
外傷全身 CT 加算	乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検（単独）（センチネルリンパ節生検（単独））
心臓 MRI 撮影加算	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
乳房 MRI 撮影加算	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
全身 MRI 撮影加算	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
外来化学療法加算 1	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合）
無菌製剤処理料	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は 1 肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
心大血管疾患リハビリテーション料（I）	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術気管支形成を伴う肺切除
脳血管疾患等リハビリテーション料（I）	食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、陰腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
運動器リハビリテーション料（I）	経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
呼吸器リハビリテーション料（I）	
がん患者リハビリテーション料	
歯科口腔リハビリテーション料 2	
救急患者精神科継続支援料	
認知療法・認知行動療法 1	
精神科作業療法	
精神科ショート・ケア「小規模なもの」	
精神科デイ・ケア「小規模なもの」	
抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る）	
医療保護入院等診療料	
処置の休日加算 1（医科点数表第 2 章第 9 部処置の通則の 5 に規定する処置の休日加算 1）	
処置の時間外加算 1（医科点数表第 2 章第 9 部処置の通則の 5 に規定する処置の時間外加算 1）	
処置の深夜加算 1（医科点数表第 2 章第 9 部処置の通則の 5 に規定する処置の深夜加算 1）	

胸腔鏡下弁形成術
胸腔鏡下弁置換術
経カテーテル大動脈弁置換術
経皮的僧帽弁クリップ術
不整脈手術 左心耳閉鎖術胸腔鏡下によるもの
経皮的中隔心筋焼灼術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 (リードレスペースメーカー)
両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合) 及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合) 及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの) 及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの 又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細 動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心 筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込 型除細動器交換術(心筋電極の場合)
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経 静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植 込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
経皮的大動脈遮断術
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
ダメージコントロール手術
腹腔鏡下胃切除術 (単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
腹腔鏡下胃切除術 (悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
腹腔鏡下噴門側胃切除術 (単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
腹腔鏡下噴門側胃切除術 (悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
腹腔鏡下胃全摘術 (単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
腹腔鏡下胃全摘術 (悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除 (葉以上)を伴うものに限る。)
体外衝撃波胆石破碎術
腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
内視鏡的小腸ポリープ切除術
腹腔鏡下直腸切除・切断術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)

腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
体外式膜型人工肺管理料
手術の休日加算1(医科点数表第2章第10部手術 の通則の12に規定する手術の休日加算1)
手術の時間外加算1(医科点数表第2章第10部手 術の通則の12に規定する手術の時間外加算1)
手術の深夜加算1(医科点数表第2章第10部手術 の通則の12に規定する手術の深夜加算1)
手術の休日加算1(歯科点数表第2章第9部手術 の通則の9に規定する手術の休日加算1)
手術の時間外加算1(歯科点数表第2章第9部手 術の通則の9に規定する手術の時間外加算1)
手術の深夜加算1(歯科点数表第2章第9部手術 の通則の9に規定する手術の深夜加算1)
胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡 下胃瘻造設術を含む。)(医科点数表第2章第10部 手術の通則の16に規定する手術)
周術期栄養管理実施加算
輸血管管理料I
輸血適正使用加算
自己生体組織接着剤作成術
自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
人工肛門・人工膀胱造設前処置加算
胃瘻造設時嚥下機能評価加算
歯周組織再生誘導手術
広範囲顎骨支持型装置埋入手術
歯根端切除手術(歯科用3次元エックス線断層撮 影装置及び手術用顕微鏡を用いた場合)
麻酔管理料(I)
麻酔管理料(II)
放射線治療専任加算
外来放射線治療加算
高エネルギー放射線治療
1回線量増加加算
画像誘導放射線治療加算(IGRT)
体外照射呼吸性移動対策加算
定位放射線治療
定位放射線治療呼吸性移動対策加算
保険医療機関間の連携による病理診断
病理診断管理加算2
悪性腫瘍病理組織標本加算
クラウン・ブリッジ維持管理料

3) 入院時食事療養

入院時食事療養(I)

3. 各学会の認定状況一覧

日本小児科学会 研修施設	日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設
日本皮膚科学会 研修施設	浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委 員会 実施施設
日本精神神経学会 研修施設	日本消化器内視鏡学会 指導施設
日本外科学会 修練施設	日本消化管学会 胃腸科指導施設
日本整形外科学会 研修施設	日本カプセル内視鏡学会 指導施設
日本産科婦人科学会 指導施設	日本脳卒中学会 研修教育病院
日本眼科学会 研修施設	経カテーテル的大動脈弁置換術関連学会協議 会 実施施設
日本耳鼻咽喉科学会 研修施設	日本脈管学会 研修指定施設
日本泌尿器学会 拠点教育施設	関連 10 学会構成日本ステントグラフト実施基 準管理委員会
日本脳神経外科学会 専門研修プログラム 連携施設	腹部ステントグラフト実施施設
日本医学放射線学会 放射線科専門医総合修練機関	下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の 実施基準による実施施設
日本麻酔科学会 認定病院	日本低侵襲心臓手術学会
日本病理学会 研修認定施設 B	日本透析医学会 認定施設
日本消化器病学会 認定施設	日本臨床細胞学会 認定施設
日本循環器学会 研修施設	日本臨床細胞学会 教育研修施設
日本呼吸器学会 認定施設	心臓血管麻酔学会 基幹施設
日本血液学会 専門研修認定施設	日本総合病院精神医学会
日本神経学会 教育施設	一般病院連携精神医学専門医特定研修施設認定
日本腎臓学会 研修施設	日本総合病院精神医学会
日本肝臓学会 認定施設	一般病院連携精神医学専門医研修施設認定
日本糖尿病学会 認定教育施設 I	日本膵臓学会認定指導施設
日本内分泌学会 内分泌代謝科認定教育施設	日本病院総合診療医学会 認定施設
日本リウマチ学会 教育施設	日本放射線腫瘍学会 認定施設
日本アレルギー学会 教育研修施設	インペラ補助循環用ポンプカテーテル実施施設
日本感染症学会 認定研修施設	関連 10 学会構成日本ステントグラフト実施基 準管理委員会
日本消化器外科学会 修練施設	胸部ステントグラフト実施施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構 基幹施設	トランスサイレチン型アミロイドーシスに対 するビンダケル導入施設
日本小児外科学会 教育関連施設	生殖医療専門医制度研修連携施設
呼吸器外科専門医合同委員会 専門研修基幹施設	日本門脈圧亢進症学会技術認定教育施設
日本周産期・新生児医学会 基幹研修施設 (新生児)	日本脳卒中学会 一次脳卒中センター認定
日本周産期・新生児医学会 暫定認定施設 (母体・胎児)	日本核医学会専門医教育病院
日本婦人科腫瘍学会 指定修練施設	日本顎関節学会 研修機関施設
日本手の外科学会 手の外科研修施設	日本小児科学会 研修支援施設
日本集中治療医学会 研修施設	日本女性医学会専門医制度認定研修施設
日本臨床腫瘍学会 研修施設	日本医学放射線学会 画像診断管理認証施設
日本 IVR 学会 修練施設	日本循環器学会 経皮的僧帽弁接合不全修復シ ステム実施施設
日本東洋医学会 研修施設	日本急性血液浄化学会 認定施設
日本緩和医療学会 認定研修施設	日本口腔外科学会 認定研修施設
日本外傷学会 研修施設	日本胃癌学会 認定施設 B
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会 エキスパンダー実施施設	
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会 インプラント実施施設	
日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 A	
日本乳癌学会 認定施設	
日本がん治療医認定医機構 認定研修施設	
日本腹部救急医学会 認定施設	
日本呼吸器内視鏡学会 認定施設	
日本呼吸療法医学会 専門医研修施設	
日本産科婦人科内視鏡学会 認定研修施設	
日本心血管インターベンション治療学会 研修施設	

4. 私たちの理念・方針

「麻生グループ」詳細は「ASO GROUP VISION BOOK」を参照

Vision（未来像）	安心をカタチに生きがいをデザインする ASO グループ
Mission（使命）	社会システムの変革に貢献する
医療事業拡大の方針	麻生グループが病院経営の事業を拡大する方針について（略）

「飯塚病院」

開設の精神	郡民のために良医を招き、治療投薬の万全を図らんとする
経営理念	WE DELIVER THE BEST ～まごころ医療、まごころサービス それが私たちの目標です～
目指す病院像	日本一のまごころ病院
院長基本方針 (2015.02)	<ul style="list-style-type: none"> ○社会人としての良識に従い各自の責任を全うすること ○患者中心で質の高い最適医療を実践すること ○医の倫理と良心に従い患者の権利の擁護とプライバシーの保護に努めること ○医療の質の向上と安全管理に努めること ○進取の気に溢れるチーム医療を実践すること ○臨床研修病院として国際水準の教育指導を行うこと ○地域基幹病院として救急医療および先進医療に力を注ぐこと ○保健・医療・福祉・介護機関との緊密な連携を図ること ○地域と地球の環境に配慮すること ○健全経営を基盤とすること
2018-2025 年度 飯塚病院 中長期計画	<p>【病院の 2025 年度ビジョン（あるべき姿）】 Patient First を追求し、選ばれる高度急性期・急性期病院</p> <p>【視点ごとの 2025 年度ビジョン（あるべき姿）】</p> <ul style="list-style-type: none"> A) 救命救急医療：命を救う要（かなめ）として、筑豊に最も進んだ救急医療を提供する病院 B) 専門医療：トップレベルの専門医療により、筑豊の高度急性期・急性期医療を担う病院 C) 質と安全：全職員が医療の質と安全の向上・改善に取り組み続ける病院 D) 患者経験価値：患者・家族が、全てのプロセスにおいて、「ここに来て良かった」と思える病院 E) 地域連携：地域の医療機関から信頼され、ともに発展する病院 F) 人材力：志のあるスタッフが集い、やりがいを持って成長でき、「ここで働きたい、働けて良かった」と思える病院 G) 健全経営：全職員が厳しくなる外部環境への危機感を共有し、経営に参画する病院

編集後記

本年度は編集上の変更は特になかったのですが、これまでの歩みを振り返ってみたい。2007年に年報委員会が解散したことに伴い、当時の田中院長より年報の編集アドバイザーに指名された。8年後の2015年に増本院長が就任された時にも継続指示があり、一人でその任にあたってきた。気づいたら早いもので既に17年経過していた。2009年の編集後記には、Owen Barfieldの『歴史とは虹のようなものである』という言葉を用い10年後に期待を寄せる内容を書いた。当時は意図していなかったのだが、2019年の編集後記で、飯塚病院創立100周年という高みを記載することとなり、聖書の「求めよさらば与えられん」という言葉を噛み締めることとなった。

しかし、2019年12月からはコロナの世界的な流行が始まり、多くの患者さんにとっては、外来の制限、入院の面会制限など patient first の実践から離れなければならない結果になっていた。救急の受け入れできず他の医療圏に送られた患者さんや、面会制限のため臨終に遭えなかった患者さんの家族の話などを、当院でも耳にするようになった。そうしているうちに、ワクチンの普及と罹患後の生存数の増加があり、世界的に死亡数が激減するようになり、herd immunity を意識できる時期がきた。当院でも、COVID-19受診者の大半は軽症化しており、当初のようなECMO導入の騒ぎは嘘のようになった。結果として2023年にはコロナは感染症法の2類から5類に分類されるようになった。本来の病院機能に戻るべき方向性に舵を切ることが可能になってきている現状があることを意味する。

この間、2022年9月に麻生会長と共に Harvard の MGB に iHub という組織を見学にゆき、米国の医療のデジタル化の進歩を目の当たりにした。日本でも医療DX(digital Transformation)の時代が来ることを確信した。

明治に岩倉使節団として海外視察を行った明治の元勳は、欧州の工業化と近代化が国富と国力を作ったことを悟り、江戸の文化は世界的にみても進んでいるところはあっても太刀打ちできないことに気づいた。農業を振興するといった旧態然とした考えでは世界には勝てないという危機感から、強引なまでの近代化にこだわり、日清日露戦争を通じて国際社会の五大国にも駆け上がっていった。その過程で、西郷隆盛と大久保利通は対照的な生き方をしていた。元の境遇は同じ薩摩藩の郷中の出身で明治政府の中樞に君臨したが、西郷が征韓論で下野して文農を振興する生き様を良しとする考えを持ったが、一方の大久保は近代化を進めるのを良しとした点で大きな違いがあった。これは実際に欧米の現状を見た影響が分岐になったのではと、渡部昇一氏は「歴史に学ぶリーダーシップ」で語っている。

DXの推進が、飯塚病院の発展の鍵になったと10年後には言えるか。その頃には既に定年になっている私としては、将来の編集後記がどう書かれるかが気になるところである。

「世話敷と云わぬが能きなり」佐藤一斎 重職心得箇条

清田雅智

飯塚病院年報 第36号

2024年7月発行

編集発行：飯塚病院

〒820-8505 福岡県飯塚市芳雄町3番83号

T E L (0948) 22-3800 (代表)

F A X (0948) 29-5744 (代表)

印刷：フジキ印刷株式会社

〒820-0053 福岡県飯塚市伊岐須490-15

T E L (0948) 29-3177

F A X (0948) 24-5234